
uCosminexus Message Service for ebXML システム構築・運用ガイド

解説・手引・文法・操作書

3020-3-J32-20

マニュアルの購入方法

このマニュアル，および関連するマニュアルをご購入の際は，
巻末の「ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内」をご参
照ください。

HITACHI

対象製品

P-2441-8M14 uCosminexus Message Service for ebXML 01-01 (適用 OS : Windows 2000 , Windows Server 2003)

P-9W41-8M14 uCosminexus Message Service for ebXML 01-02(適用 OS:Red Hat Enterprise Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T) , Red Hat Enterprise Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T))

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Java 及びすべての Java 関連の商標及びロゴは、米国及びその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

JDK は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標若しくは商標です。

RSA は、RSA Security Inc. の登録商標です。

SOAP (Simple Object Access Protocol) は、分散ネットワーク環境において XML ベースの情報を交換するための通信プロトコルの名称です。

UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

発行

2005 年 6 月 (第 1 版) 3020-3-J32

2007 年 10 月 (第 3 版) 3020-3-J32-20

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2005,2007, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容(3020-3-J32-20)uCosminexus Message Service for ebXML 01-02(Red Hat Enterprise Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T), Red Hat Enterprise Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)), uCosminexus Message Service for ebXML 01-01 (Windows 2000 , Windows Server 2003)

追加・変更内容	変更箇所
適用 OS として UNIX をサポートしました。	2.1.1 , 2.2.1 , 3.1 , 3.3.3 , 3.4 , 3.4.2 , 3.5.1 , 3.6.2 , 3.6.3 , 3.6.6 , 3.6.7 , 3.7.2 , 3.7.4 , 3.7.6 , 3.7.8 , 3.7.9 , 3.7.11 , 3.8.1 , 3.8.2 , 3.9.5 , 3.10.6 , 4.1 , 4.2 , 4.3 , 6.2.1 , 7.3 , 7.4 , 7.5 , 7.6 , 7.7 , 7.8 , 7.9 , 8.2.1 , 8.2.2 , 9.1.1 , 9.3 , 9.4 , 10.1.1 , 付録 C , 付録 D , 付録 E.1 , 付録 E.2 , 付録 E.3
MSH 実行環境定義ファイルのキーに、「文字コード種別 ENCODING」, および「文字エンコーディング ENCODELANG」を追加しました。	7.4
UOC インターフェースの Payload インターフェースに, getInputStream メソッド, および length メソッドを追加しました。	8.3 , 8.7
次のメッセージを追加しました。 • KDEB11023-E	10.13
次のメッセージの対処を変更しました。 • KDEB13023-E	10.15
次のメッセージを追加しました。 • KDEB18001-E • KDEB18002-E • KDEB18003-E • KDEB18999-E	10.19

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

第 3 版では第 2 版の目次構成を変更しました。第 2 版との対応は次のようになっています。

第 2 版	第 3 版
1.4.1 ビジネスメッセージの高信頼配信	1.4.1 ビジネスメッセージの高信頼配信
	2.3.1 QoS レベルの設定方法
1.4.3 メッセージ交換定義ファイルの生成	3.7.12 メッセージ交換定義ファイルの生成
2.2.1 uCosminexus Message Service for ebXML のシステムに必要なサーバ	2.2.1 uCosminexus Message Service for ebXML のシステムに必要なサーバ
	2.2.2 サーバのマシン構成
3.4 DABroker Library の環境設定	3.4.1 DABroker Library の環境設定 (Windows の場合)
3.4.1 PATH 環境変数の設定	
3.4.2 DABroker Library の動作環境設定	

第 2 版	第 3 版
5.1 ビジネスメッセージの送信	5.2 ビジネスメッセージの送信
5.2 ビジネスメッセージの受信	5.3 ビジネスメッセージの受信
5.2.1 受信したペイロードの格納方法	1.4.3 受信したペイロードの処理
	3.7.4(3) 格納されるペイロードのファイル名
	3.7.4(4) ビジネスメッセージ別ディレクトリの名称
5.2.2 受信したペイロードの格納に必要なディレクトリ	3.7.4(1) 受信したペイロードの格納に必要なディレクトリ
5.2.3 受信メッセージ格納ディレクトリの構成	3.7.4(2) 受信メッセージ格納ディレクトリの構成
5.2.4 ファイル出力エラーディレクトリの構成	3.7.4(1) 受信したペイロードの格納に必要なディレクトリ
5.3 永続化メッセージの削除	5.4 永続化メッセージの削除
5.4 運用支援 GUI でのビジネスメッセージの照会	5.5 運用支援 GUI でのビジネスメッセージの照会
5.5 障害対策	6.1 障害が発生したときの手順
5.5.1 障害の種類と対策	6.4 主な障害とその対策
5.5.2 ログ・トレース情報の取得	6.2 ログ・トレース情報の取得方法
5.5.3 トレースの出力形式	6.3 トレースの出力形式
6. 定義ファイル	7. 定義ファイル
7. UOC リファレンス	8. UOC リファレンス
8. コマンドリファレンス	9. コマンドリファレンス
8. コマンドリファレンスの MSHSendMessage	5.2.1 ビジネスメッセージ送信情報の設定
	9.3 コマンドリファレンスの MSHSendMessage
9. メッセージ	10. メッセージ

変更内容 (3020-3-J32-10) uCosminexus Message Service for ebXML 01-01

追加・変更内容

uCosminexus Application Server の環境設定方法の説明を変更しました。

はじめに

このマニュアルは、uCosminexus Message Service for ebXML の概要、および uCosminexus Message Service for ebXML を使用するシステムの構築・運用方法を説明したものです。

対象読者

uCosminexus Message Service for ebXML を使用するシステムを構築・運用するシステム管理者を対象としています。

なお、次に示す知識をお持ちであることを前提とします。

- Windows, または UNIX でのシステム管理に関する知識
- J2EE および uCosminexus Application Server に関する知識
- HiRDB を使用したデータベースの構築・運用に関する知識
- ebXML の標準仕様に関する知識
- XML に関する知識

JP1 と連携させる場合は、次の知識もお持ちであることを前提とします。

- JP1 を使用したシステムの運用・管理に関する知識

UOC を作成する場合は、次の知識もお持ちであることを前提とします。

- Java によるプログラム開発に関する知識

セキュリティ通信を適用する場合は、次の知識もお持ちであることを前提とします。

- セキュリティ通信に関する知識

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章 uCosminexus Message Service for ebXML の概要

uCosminexus Message Service for ebXML による電子商取引の概要、ebXML 仕様での ebMS 仕様の位置づけ、および uCosminexus Message Service for ebXML の特長・機能について説明しています。

第 2 章 システム構築の準備

インストールするソフトウェア、uCosminexus Message Service for ebXML を使用したシステム構成、および CPA ファイル作成の準備について説明しています。

第 3 章 システムの構築

uCosminexus Message Service for ebXML のディレクトリ構成、および uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを構築する手順について説明しています。

第 4 章 起動と停止

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを起動・停止する方法について説明しています。

はじめに

第 5 章 システムの運用

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを運用するに当たって必要な操作の流れ、および操作方法について説明しています。

第 6 章 障害対策

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムに障害が発生した場合の対策について説明しています。

第 7 章 定義ファイル

uCosminexus Message Service for ebXML を使用するために必要な定義ファイルの設定内容を、リファレンス形式で説明しています。

第 8 章 UOC リファレンス

ユーザーが任意で作成する UOC のインターフェースを、リファレンス形式で説明しています。

第 9 章 コマンドリファレンス

uCosminexus Message Service for ebXML のコマンドをリファレンス形式で説明しています。

第 10 章 メッセージ

uCosminexus Message Service for ebXML が出力するメッセージを説明しています。

付録 A ebMS 仕様のサポート範囲

uCosminexus Message Service for ebXML における ebMS 仕様のサポート範囲について説明しています。

付録 B CPA ファイル作成時の制限事項

CPA ファイル作成時の制限事項について説明しています。

付録 C 定義ファイルのスキーマ

uCosminexus Message Service for ebXML の定義ファイルの XML スキーマについて説明しています。

付録 D SQL サンプル

データベースのテーブルを作成するために使用する SQL サンプルについて説明しています。

付録 E uCosminexus Message Service for ebXML が発行する JP1 イベント一覧

JP1 と uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを連携させる場合に、uCosminexus Message Service for ebXML が発行する JP1 イベントについて説明しています。

付録 F 用語解説

このマニュアルで使用している用語の意味について説明しています。

関連マニュアル

Cosminexus Version 7 を使用する場合にお読みください。

- Cosminexus 概説 (3020-3-M01)
- Cosminexus 機能解説 (3020-3-M03)

- Cosminexus システム設計ガイド (3020-3-M04)
- Cosminexus 簡易構築・運用ガイド (3020-3-M05)
- Cosminexus システム構築ガイド (3020-3-M06)
- Cosminexus システム運用ガイド (3020-3-M07)
- Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド (3020-3-M08)
- Cosminexus 運用管理操作ガイド (3020-3-M09)
- Cosminexus リファレンス コマンド編 (3020-3-M10)
- Cosminexus リファレンス 定義編 (3020-3-M11)
- Cosminexus メッセージ 1 KDJE 編 (3020-3-M12)
- Cosminexus メッセージ 2 KDSS / KEOS / KFCB 編 (3020-3-M13)
- Cosminexus メッセージ 3 KFCT / KFDB / KFDJ 編 (3020-3-M14)
- Hitachi Web Server (3020-3-M15)
- Cosminexus メッセージ 1 KAWS / KDAL / KDJE 編 (3020-3-M20)
- Cosminexus メッセージ 2 KEOS / KEUC / KFCB 編 (3020-3-M21)
- Cosminexus メッセージ 3 KFCT / KFDB / KFDJ 編 (3020-3-M22)
- Cosminexus アプリケーション開発ガイド (3020-3-M41)
- Cosminexus リファレンス API 編 (3020-3-M42)

Cosminexus Version 6 を使用する場合にお読みください。

- Cosminexus Version 6 解説 (3020-3-E51)
- Cosminexus Version 6 システム設計ガイド (3020-3-E52)
- Cosminexus Version 6 システム構築ガイド (Windows(R) 用) (3020-3-E53)
- Cosminexus Version 6 システム運用ガイド (Windows(R) 用) (3020-3-E54)
- Cosminexus Version 6 アプリケーション開発ガイド (3020-3-E55)
- Cosminexus Version 6 リファレンス (Windows(R) 用) (3020-3-E56)
- Cosminexus Version 6 メッセージ (3020-3-E57)
- Cosminexus Version 6 運用管理操作ガイド (3020-3-E58)
- Cosminexus Version 6 アプリケーション設定操作ガイド (3020-3-E59)
- Cosminexus Version 6 簡易構築・運用ガイド (3020-3-J31)

スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 を使用する場合にお読みください。

- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 解説 (UNIX(R) 用) (3000-6-351)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (UNIX(R) 用) (3000-6-352)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム定義 (UNIX(R) 用) (3000-6-353)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム運用ガイド (UNIX(R) 用) (3000-6-354)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 コマンドリファレンス (UNIX(R) 用)

はじめに

(3000-6-355)

- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 解説 (Windows(R) 用)(3020-6-351)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)(3020-6-352)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム定義 (Windows(R) 用) (3020-6-353)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム運用ガイド (Windows(R) 用) (3020-6-354)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 コマンドリファレンス (Windows(R) 用) (3020-6-355)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド (3020-6-356)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 SQL リファレンス (3020-6-357)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 メッセージ (3020-6-358)

スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 を使用する場合にお読みください。

- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 解説 (UNIX(R) 用)(3000-6-271)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム導入・設計ガイド (UNIX(R) 用)(3000-6-272)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム定義 (UNIX(R) 用) (3000-6-273)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム運用ガイド (UNIX(R) 用) (3000-6-274)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 コマンドリファレンス (UNIX(R) 用) (3000-6-275)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 UAP 開発ガイド (UNIX(R)/Windows(R) 用) (3000-6-276)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 SQL リファレンス (UNIX(R)/Windows(R) 用) (3000-6-277)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 メッセージ (UNIX(R)/Windows(R) 用) (3000-6-278)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 解説 (Windows(R) 用)(3020-6-271)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)(3020-6-272)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム定義 (Windows(R) 用) (3020-6-273)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム運用ガイド (Windows(R) 用) (3020-6-274)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 コマンドリファレンス (Windows(R) 用) (3020-6-275)

- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 UAP 開発ガイド (Windows(R) 用)
(3020-6-276)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 SQL リファレンス (Windows(R) 用)
(3020-6-277)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 メッセージ (Windows(R) 用)
(3020-6-278)

運用管理ソフトウェア JP1 Version 8 を使用する場合にお読みください。

- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド
(3020-3-K01)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager リファレンス (3020-3-K02)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager 機能拡張 (3020-3-K03)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・
運用ガイド (3020-3-K04)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス
(3020-3-K05)
- JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド (3020-3-K06)
- JP1 Version 8 JP1/Base メッセージ (3020-3-K07)
- JP1 Version 8 JP1/Base 機能拡張 (3020-3-K08)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Rule Operation システム構築・運用ガイド
(3020-3-K10)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Rule Operation GUI リファレンス
(3020-3-K11)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 解説 (3020-3-K21)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド (3020-3-K22)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド (3020-3-K23)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド (3020-3-K24)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 コマンドリファレンス
(3020-3-K25)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 連携ガイド (3020-3-K27)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 メッセージ (3020-3-K28)

運用管理ソフトウェア JP1 Version 7i を使用する場合にお読みください。

- JP1 Version 7i JP1/Integrated Manager - Console システム構築・運用ガイド (3020-3-F01)
- JP1 Version 7i JP1/Integrated Manager - Console リファレンス (3020-3-F02)
- JP1 Version 7i JP1/Integrated Manager - Console 機能拡張編 (3020-3-F03)
- JP1 Version 7i JP1/Base (3020-3-F04)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 解説 (3020-3-F06)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド (3020-3-F07)

はじめに

- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド(3020-3-F08)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド (3020-3-F09)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 コマンドリファレンス (3020-3-F10)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 関数 (3020-3-F11)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 連携ガイド (3020-3-F12)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 メッセージ (3020-3-F13)
- JP1 Version 7i JP1/Integrated Manager - Central Information Master システム構築・運用ガイド (3020-3-F21)
- JP1 Version 7i JP1/Integrated Manager - Central Information Master リファレンス (3020-3-F22)

なお、このマニュアルでは、次のマニュアルについて、対象 OS およびバージョン番号を省略して表記しています。マニュアルの正式名称とこのマニュアルでの表記を次の表に示します。

このマニュアルでの表記	正式名称
Cosminexus システム構築ガイド	Cosminexus システム構築ガイド
	Cosminexus Version 6 システム構築ガイド (Windows(R) 用)
Cosminexus システム運用ガイド	Cosminexus システム運用ガイド
	Cosminexus Version 6 システム運用ガイド (Windows(R) 用)
Cosminexus リファレンス コマンド編	Cosminexus リファレンス コマンド編
	Cosminexus Version 6 リファレンス (Windows(R) 用)
Cosminexus リファレンス 定義編	Cosminexus リファレンス 定義編
	Cosminexus Version 6 リファレンス (Windows(R) 用)
Cosminexus メッセージ	Cosminexus メッセージ 1 KAWS / KDAL / KDJE 編
	Cosminexus メッセージ 1 KDJE 編
	Cosminexus メッセージ 2 KDSS / KEOS / KFCB 編
	Cosminexus メッセージ 2 KEOS / KEUC / KFCB 編
	Cosminexus メッセージ 3 KFCT / KFDB / KFDJ 編
	Cosminexus Version 6 メッセージ
Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド	Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド
	Cosminexus Version 6 アプリケーション設定操作ガイド
HiRDB システム導入・設計ガイド	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (UNIX(R) 用)
	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)

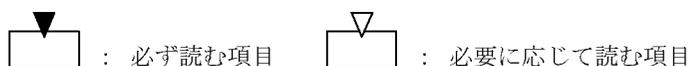
このマニュアルでの表記	正式名称
	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム導入・設計ガイド (UNIX(R) 用)
	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)
HiRDB システム運用ガイド	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム運用ガイド (UNIX(R) 用)
	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム運用ガイド (Windows(R) 用)
	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム運用ガイド (UNIX(R) 用)
	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム運用ガイド (Windows(R) 用)
HiRDB コマンドリファレンス	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 コマンドリファレンス (UNIX(R) 用)
	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 コマンドリファレンス (Windows(R) 用)
	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 コマンドリファレンス (UNIX(R) 用)
	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 コマンドリファレンス (Windows(R) 用)
HiRDB メッセージ	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 メッセージ
	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 メッセージ (UNIX(R)/Windows(R) 用)
	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 メッセージ (Windows(R) 用)

読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択して読めます。使用目的別に、次の流れに従ってお読みいただくことをお勧めします。



(凡例)



このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称を省略して表記しています。製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を次に示します。

このマニュアルでの表記		製品の正式名称
HiRDB	HiRDB/Single Server	HiRDB/Single Server Version 7 , HiRDB/Single Server Version 8
	HiRDB/Parallel Server	HiRDB/Parallel Server Version 7 , HiRDB/Parallel Server Version 8
	HiRDB/Run Time	HiRDB/Run Time Version 7 , HiRDB/Run Time Version 8
Internet Explorer		Microsoft(R) Internet Explorer(R)
JP1/AJS2		JP1/Automatic Job Management System 2
JP1/IM		JP1/Integrated Management - Central Information Master , JP1/Integrated Management - Manager , JP1/Integrated Manager - Central Console , JP1/Integrated Manager - Central Scope , JP1/Integrated Manager - View
Microsoft IIS		Microsoft(R) Internet Information Services
uCosminexus Application Server		uCosminexus Application Server Enterprise , uCosminexus Application Server Standard , uCosminexus Service Platform
uCosminexus Developer		uCosminexus Developer Light , uCosminexus Developer Professional , uCosminexus Developer Standard , uCosminexus Service Architect
UNIX	Linux	Red Hat Enterprise Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T) , Red Hat Enterprise Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)
Windows	Windows 2000	Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System , Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System
	Windows Server 2003	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition , Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition

このマニュアルでは、Cosminexus の機能を省略して表記しています。機能の正式名称と、このマニュアルでの表記を次に示します。

このマニュアルでの表記	機能の正式名称
CTM	Cosminexus Component Transaction Monitor
DABroker Library	Cosminexus DABroker Library
PRF	Cosminexus Performance Tracer

このマニュアルでは、Java 関連用語を省略して表記しています。Java 関連用語の正式名称と、

はじめに

このマニュアルでの表記を次に示します。

このマニュアルでの表記	Java 関連用語の正式名称
EJB	Enterprise JavaBeans™
J2EE	Java™ 2 Platform, Enterprise Edition
Java	Java™
JDBC	JDBC™
JDK	Java™ Development Kit
JSP	JavaServer Pages™
Servlet またはサーブレット	Java™ Servlet

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
AP	<u>A</u> pplication <u>P</u> rogram
API	<u>A</u> pplication <u>P</u> rogramming <u>I</u> nterface
BLOB	<u>B</u> inary <u>L</u> arge <u>O</u> bject
BPSS	<u>B</u> usiness <u>P</u> rocess <u>S</u> pecification <u>S</u> chema
CA	<u>C</u> ertificate <u>A</u> uthority
CC	<u>C</u> ore <u>C</u> omponent
CPA	<u>C</u> ollaboration <u>P</u> rotocol <u>A</u> greement
CPP	<u>C</u> ollaboration <u>P</u> rotocol <u>P</u> rofile
CPPA	<u>C</u> ollaboration <u>P</u> rotocol <u>P</u> rofile and <u>A</u> greement
CSV	<u>C</u> omma <u>S</u> eparated <u>V</u> alue
DB	<u>D</u> atab <u>a</u> se
DBMS	<u>D</u> atab <u>a</u> se <u>M</u> anagement <u>S</u> ystem
DMZ	<u>D</u> e <u>M</u> ilitarized <u>Z</u> one
ebMS	<u>e</u> bXML <u>M</u> essage <u>S</u> ervice
ebXML	<u>E</u> lectronic <u>B</u> usiness using <u>e</u> Xtensible <u>M</u> arkup <u>L</u> anguage
EDI	<u>E</u> lectronic <u>D</u> ata <u>I</u> nterchange
GUI	<u>G</u> raphical <u>U</u> ser <u>I</u> nterface
HTTP	<u>H</u> yper <u>T</u> ext <u>T</u> ransfer <u>P</u> rotocol
HTTPS	<u>H</u> yper <u>T</u> ext <u>T</u> ransfer <u>P</u> rotocol <u>S</u> ecurity
I/O	<u>I</u> nput/ <u>O</u> utput
IP	<u>I</u> nternet <u>P</u> rotocol

英略語	英字での表記
JDBC	<u>J</u> ava <u>D</u> atabase <u>C</u> onnectivity
MIME	<u>M</u> ultipurpose <u>I</u> nternet <u>M</u> ail <u>E</u> xtension
MS	<u>M</u> essage <u>S</u> ervice
MSH	<u>M</u> essage <u>S</u> ervice <u>H</u> andler
OASIS	<u>O</u> rganization for the <u>A</u> dvancement of <u>S</u> tructured <u>I</u> nformation <u>S</u> tandards
OS	<u>O</u> perating <u>S</u> ystem
QoS	<u>Q</u> uality of <u>S</u> ervice
R&R	<u>R</u> egistry & <u>R</u> epository
RMI	<u>R</u> emote <u>M</u> ethod <u>I</u> nvocation
SMTP	<u>S</u> imple <u>M</u> ail <u>T</u> ransfer <u>P</u> rotocol
SOAP	<u>S</u> imple <u>O</u> bject <u>A</u> ccess <u>P</u> rotocol
SQL	<u>S</u> tructured <u>Q</u> uery <u>L</u> anguage
SSL	<u>S</u> ecure <u>S</u> ockets <u>L</u> ayer
SwA	<u>S</u> OAP Messages with <u>A</u> ttachments
TCP/IP	<u>T</u> ransmission <u>C</u> ontrol <u>P</u> rotocol/ <u>I</u> nternet <u>P</u> rotocol
TLS	<u>T</u> ransport <u>L</u> ayer <u>S</u> ecurity
UN/ CEFACT	<u>U</u> nited <u>N</u> ations <u>C</u> entre for Trade <u>F</u> acilitation and Electronic Business
UOC	<u>U</u> ser <u>O</u> wn <u>C</u> oding
URI	<u>U</u> niversal <u>R</u> esource <u>I</u> dentifier
URL	<u>U</u> niform <u>R</u> esource <u>L</u> ocator
UTC	<u>U</u> niversal <u>T</u> ime <u>C</u> oordinated
UTF	<u>U</u> CS <u>T</u> ransformation <u>F</u> ormat
XML	<u>e</u> Xtensible Markup Language

適用 OS の違いによる機能相違点の表記

このマニュアルは、Windows および UNIX に適用します。OS によって記述を書き分ける場合、次に示す表記を使用して、それぞれの説明に OS 名を明記しています。

このマニュアルでの表記	意味
Windows の場合	Windows に該当する表記です。
UNIX の場合	UNIX に該当する表記です。

製品名と ebXML 仕様の用語との使い分け

このマニュアルでは、説明する内容に応じて、製品名である "uCosminexus Message Service

はじめに

for ebXML" と ebXML 仕様の用語である "MSH" とを使い分けています。二つの用語のこのマニュアルでの使い分け方を、次に示します。

uCosminexus Message Service for ebXML

ユーザー側の MSH を指します。

MSH

相手パーティの MSH を指します。ebXML 仕様に基づいた取引において、相手パーティが uCosminexus Message Service for ebXML を MSH として使用する必要はないためです。また、ebXML 仕様の説明部分では、送信側・受信側の両方を MSH と呼んでいます。

このマニュアルの図中で使用している記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

● 端末



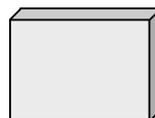
● 入出力の動作



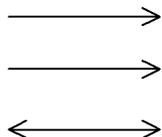
● サーバ



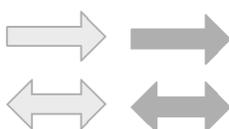
● プログラム



● 制御の流れ



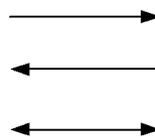
● データの流れ



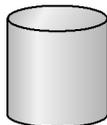
● 作業の流れ



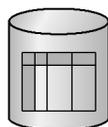
● その他の流れ



● ペイロード
・取引データ



● データベース
サーバ



● 証明書・
定義ファイル



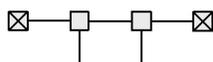
● ビジネスメッセージ



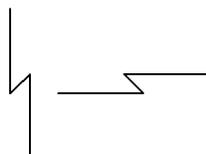
● ネットワーク



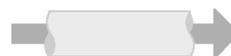
● バス型の LAN



● 通信回線



● 暗号化通信



このマニュアルで使用している記号

！ 注意事項

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを構築するときに注意する必要がある事項、および考慮してほしい事項について説明しています。

このマニュアルの GUI の説明で使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用して GUI を説明しています。

記号	意味
[]	画面の名称および画面に表示されている項目を表します。
「 」	入力値、可変値、またはメッセージなどを表します。

このマニュアルのコマンドの説明で使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用してコマンドの文法を説明しています。

記号	意味
 ストローク	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し、「または」を意味します。 (例) A B A または B を指定することを示します。
{ } 波括弧	この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを示します。項目が横に並べて記号 で区切られている場合は、どれか一つを選択します。 (例) { A B C } A, B または C のどれかを指定することを示します。
[] 角括弧	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。複数の項目が横に並べて記述されている場合には、すべてを省略するか、記号 { } と同じくどれか一つを選択します。 (例 1) [A] 「何も指定しない」が「A を指定する」ことを示します。 (例 2) [B C] 「何も指定しない」が「B または C を指定する」ことを示します。
<u> </u> 下線 (アンダーライン)	括弧で囲まれている複数条件のうち 1 項目に対して使用され、括弧内をすべて省略したときシステムがとる標準値を示します。 (例) [-s { A B C }] は「-s オプションに A, B, C のどれも指定しなかった場合、システムは C が指定されたときと同じ処理をする」ことを示します。
< > 山括弧	この記号で囲まれている項目は、該当する要素を指定することを示します。 (例) < プロパティ > プロパティを記述します。
... ピリオド	この記号の直前に示す記号を繰り返し、複数個指定できることを示します。 (例) < プロパティ > ... プロパティは複数個、繰り返して指定できます。

常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

鍵（かぎ） 個所（かしよ） 桁（けた） 必須（ひっす） 閉塞（へいそく）

KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト、 $1,024^2$ バイト、 $1,024^3$ バイト、 $1,024^4$ バイトです。

目次

1	uCosminexus Message Service for ebXML の概要	1
1.1	uCosminexus Message Service for ebXML での電子商取引の概要	2
1.2	uCosminexus Message Service for ebXML の ebXML 仕様での位置づけ	4
1.3	uCosminexus Message Service for ebXML の特長	6
1.4	uCosminexus Message Service for ebXML の機能	7
1.4.1	ビジネスメッセージの高信頼配信	8
1.4.2	ビジネスメッセージの永続化管理	10
1.4.3	受信したペイロードの処理	11
1.4.4	ビジネスメッセージ情報の通知	12
1.4.5	セキュリティ通信	13
2	システム構築の準備	17
2.1	ソフトウェアのインストール	18
2.1.1	前提ソフトウェア	18
2.1.2	関連ソフトウェア	18
2.2	システム構成の検討	19
2.2.1	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムに必要なサーバ	19
2.2.2	サーバのマシン構成	20
2.2.3	システム構成例	20
2.3	CPA ファイル作成の準備	23
2.3.1	QoS レベルの設定方法	23
3	システムの構築	25
3.1	ディレクトリ構成	26
3.2	システム構築の手順	27
3.3	HiRDB の環境設定	31
3.3.1	容量の見積もり	31
3.3.2	ユーザー用 RD エリアの生成	32
3.3.3	テーブルの作成	34
3.4	JDBC ドライバの環境設定	36
3.4.1	DABroker Library の環境設定 (Windows の場合)	36
3.4.2	HiRDB Type4 JDBC Driver の環境設定 (UNIX の場合)	37

3.5	Hitachi Web Server の環境設定	38
3.5.1	Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) の設定	38
3.5.2	SSL に関する設定	39
3.5.3	動作確認	39
3.6	uCosminexus Application Server の環境設定	40
3.6.1	J2EE サーバのセットアップ	40
3.6.2	uCosminexus Application Server の定義ファイルの編集	40
3.6.3	HiRDB のクライアント環境変数の設定	44
3.6.4	J2EE サーバの起動	46
3.6.5	DB Connector の環境設定 (Windows の場合)	47
3.6.6	DB Connector の環境設定 (UNIX の場合)	49
3.6.7	J2EE アプリケーションのデプロイ	51
3.6.8	EJB スタブファイルのダウンロード	55
3.6.9	J2EE サーバの停止	55
3.7	uCosminexus Message Service for ebXML の環境設定	56
3.7.1	実行環境参照定義ファイルの作成	58
3.7.2	MSH 実行環境定義ファイルの作成	58
3.7.3	MSH 実行環境定義チェックコマンドの実行	58
3.7.4	送信結果 / 受信定義ファイルの作成	59
3.7.5	送信結果 / 受信定義チェックコマンドの実行	63
3.7.6	管理者情報登録ファイルの作成	64
3.7.7	管理者情報登録コマンドの実行	64
3.7.8	MIME コンテントタイプマッピングファイルの作成	64
3.7.9	送信情報ファイルの作成	65
3.7.10	セキュリティ環境の構築	65
3.7.11	CPA 拡張定義ファイルの作成	65
3.7.12	メッセージ交換定義ファイルの生成	66
3.8	セキュリティ環境の構築 (HTTP ベーシック認証)	68
3.8.1	パスワードファイルの作成 (HTTP ベーシック認証)	69
3.8.2	Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) の設定 (HTTP ベーシック認証)	69
3.8.3	CPA 拡張定義ファイルの作成 (HTTP ベーシック認証)	70
3.8.4	CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの生成 (HTTP ベーシック認証)	70
3.9	セキュリティ環境の構築 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))	72
3.9.1	サーバ証明書・秘密鍵の生成の準備	73
3.9.2	秘密鍵の生成 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))	74
3.9.3	サーバ証明書の生成	74

3.9.4	パスワードファイルの作成 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))	75
3.9.5	Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) の設定 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))	75
3.9.6	CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの生成 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))	77
3.10	セキュリティ環境の構築 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))	81
3.10.1	暗号化通信 (SSL サーバ認証) の環境構築	82
3.10.2	クライアント証明書・秘密鍵の生成の準備	82
3.10.3	クライアント証明書・秘密鍵の生成	84
3.10.4	MSH 実行環境定義ファイルの設定 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))	85
3.10.5	Hitachi Web Server への認証局証明書の取り込み (暗号化通信 (SSL クライアント認証))	85
3.10.6	Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) の設定 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))	85
3.10.7	CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの生成 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))	87
3.11	セキュリティ環境の構築 (XML 電子署名)	93
3.11.1	XML 電子署名用証明書・秘密鍵の生成の準備	94
3.11.2	XML 電子署名用証明書・秘密鍵の生成	95
3.11.3	MSH 実行環境定義ファイルの設定 (XML 電子署名)	96
3.11.4	CPA 拡張定義ファイルの作成 (XML 電子署名)	97
3.11.5	CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの生成 (XML 電子署名)	97

4 起動と停止 105

4.1	uCosminexus Message Service for ebXML システムの起動	106
4.2	uCosminexus Message Service for ebXML システムの停止	108
4.3	uCosminexus Message Service for ebXML の再起動	110

5 システムの運用 113

5.1	システム運用の流れ	114
5.2	ビジネスメッセージの送信	115
5.2.1	ビジネスメッセージ送信情報の設定	115
5.2.2	ビジネスメッセージ送信コマンドの実行	116
5.3	ビジネスメッセージの受信	118
5.4	永続化メッセージの削除	120
5.5	運用支援 GUI でのビジネスメッセージの照会	121
5.5.1	運用支援 GUI の画面遷移	121

5.5.2	運用支援 GUI の起動，ログイン，およびログアウト	123
5.5.3	運用支援 GUI に表示されるビジネスメッセージの状態	123
5.5.4	送信メッセージの照会	126
5.5.5	受信メッセージの照会	134

6

障害対策 141

6.1	障害が発生した時の手順	142
6.2	ログ・トレース情報の取得方法	143
6.2.1	uCosminexus Message Service for ebXML のログ・トレース	143
6.2.2	前提プログラムのログ	144
6.3	トレースの出力形式	145
6.4	主な障害とその対策	147
6.4.1	ビジネスメッセージが一時停止状態になった場合の対処	148

7

定義ファイル 151

7.1	定義ファイル一覧	152
7.2	定義ファイルの形式	153
7.2.1	定義ファイルの基本構成	153
7.2.2	定義ファイルの記述形式	154
7.3	実行環境参照定義ファイル (mshenvrefs.xml)	155
7.4	MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)	158
7.5	送信結果 / 受信定義ファイル (rcvdef.xml)	169
7.6	送信情報ファイル	175
7.7	CPA 拡張定義ファイル	178
7.8	MIME コンテントタイプマッピングファイル (mime.types)	183
7.9	管理者情報登録ファイル	185

8

UOC リファレンス 187

8.1	uCosminexus Message Service for ebXML が UOC に渡すビジネスメッセージの情報	188
8.2	UOC の実装	191
8.2.1	UOC の実装手順	191
8.2.2	UOC 実装クラスの例	193
8.3	インターフェース一覧	195

8.4	CallBackInterface インターフェース	196
8.5	MessagingStatus インターフェース	198
8.6	MessageProperty インターフェース	200
8.7	Payload インターフェース	206

9

	コマンドリファレンス	211
9.1	コマンドの記述形式	212
9.1.1	コマンドの説明で使用する見出し	212
9.1.2	コマンドの記述形式に関する注意事項	213
9.2	コマンド一覧	214
9.3	システム構築・運用コマンド	217
9.4	セキュリティ環境構築・運用コマンド	238

10

	メッセージ	253
10.1	メッセージの概要	255
10.1.1	メッセージの出力先	255
10.1.2	メッセージの記述形式	255
10.2	KDEB00001 ~ KDEB01000 のメッセージ	257
10.3	KDEB01001 ~ KDEB02000 のメッセージ	267
10.4	KDEB02001 ~ KDEB03000 のメッセージ	311
10.5	KDEB03001 ~ KDEB04000 のメッセージ	345
10.6	KDEB04001 ~ KDEB05000 のメッセージ	354
10.7	KDEB05001 ~ KDEB06000 のメッセージ	357
10.8	KDEB06001 ~ KDEB07000 のメッセージ	369
10.9	KDEB07001 ~ KDEB08000 のメッセージ	380
10.10	KDEB08001 ~ KDEB09000 のメッセージ	387
10.11	KDEB09001 ~ KDEB10000 のメッセージ	392
10.12	KDEB10001 ~ KDEB11000 のメッセージ	394
10.13	KDEB11001 ~ KDEB12000 のメッセージ	398
10.14	KDEB12001 ~ KDEB13000 のメッセージ	402
10.15	KDEB13001 ~ KDEB14000 のメッセージ	409
10.16	KDEB14001 ~ KDEB15000 のメッセージ	419
10.17	KDEB15001 ~ KDEB16000 のメッセージ	425
10.18	KDEB17001 ~ KDEB18000 のメッセージ	428

付録 437

付録 A	ebMS 仕様のサポート範囲	438
付録 B	CPA ファイル作成時の制限事項	440
付録 B.1	CPA ファイルの各項目と uCosminexus Message Service for ebXML での規約	440
付録 B.2	uCosminexus Message Service for ebXML が使用しない CPA ファイルの項目	443
付録 C	定義ファイルのスキーマ	446
付録 C.1	実行環境参照定義ファイル, および MSH 実行環境定義ファイルで使用する XML スキーマ	446
付録 C.2	送信結果 / 受信定義ファイル, および送信情報ファイルで使用する XML スキーマ	447
付録 C.3	CPA 拡張定義ファイルで使用する XML スキーマ	448
付録 D	SQL サンプル	450
付録 D.1	MshMessaging.sql (ビジネスメッセージの情報格納テーブル)	450
付録 D.2	MshMsgArchive.sql (ビジネスメッセージの実体格納テーブル)	451
付録 D.3	MshSendTimer.sql (送信タイマーの情報格納テーブル)	452
付録 D.4	MshNotifyApTimer.sql (AP 通知タイマーの情報格納テーブル)	452
付録 D.5	MshAdmin.sql (システム管理者の情報格納テーブル)	453
付録 E	uCosminexus Message Service for ebXML が発行する JP1 イベント一覧	454
付録 E.1	送信結果 (成功) イベントの詳細	454
付録 E.2	送信結果 (失敗) イベントの詳細	456
付録 E.3	受信イベントの詳細	459
付録 F	用語解説	462

索引 467

目次

図 1-1	uCosminexus Message Service for ebXML を使用した電子商取引	2
図 1-2	ebXML (CPPA 仕様・ebMS 仕様) の概要	5
図 1-3	uCosminexus Message Service for ebXML の機能	7
図 1-4	高信頼配信でのビジネスメッセージおよび MSH シグナルの送受信の流れ	8
図 1-5	高信頼配信をしない場合のビジネスメッセージの送受信の流れ	10
図 1-6	HTTP ベーシック認証の概要	13
図 1-7	暗号化通信 (SSL サーバ認証) の概要	14
図 1-8	暗号化通信 (SSL クライアント認証) の概要	14
図 1-9	XML 電子署名の概要	15
図 2-1	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムに必要なサーバ	19
図 2-2	システム構成例 (ebXML サーバとデータベースサーバが同一マシン構成の場合)	21
図 2-3	システム構成例 (ebXML サーバを複数構築する場合)	22
図 3-1	ディレクトリ構成	26
図 3-2	uCosminexus Message Service for ebXML のシステム構築手順	28
図 3-3	uCosminexus Message Service for ebXML の環境設定の手順	57
図 3-4	メッセージ交換定義ファイル生成の概要	66
図 3-5	セキュリティ環境の構築手順 (HTTP ベーシック認証)	68
図 3-6	セキュリティ環境の構築手順 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))	72
図 3-7	セキュリティ環境の構築手順 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))	81
図 3-8	セキュリティ環境の構築手順 (XML 電子署名)	93
図 5-1	システム運用の流れ	114
図 5-2	ビジネスメッセージ送信時の処理の流れ (高信頼配信をする場合)	116
図 5-3	ビジネスメッセージ受信時の処理の流れ (高信頼配信をする場合)	118
図 5-4	運用支援 GUI の画面遷移	122
図 5-5	送信メッセージの状態遷移	124
図 5-6	受信メッセージの状態遷移	126
図 5-7	送信メッセージの検索画面	127
図 5-8	送信メッセージの一覧表示画面	129
図 5-9	送信メッセージの詳細表示画面	131
図 5-10	受信メッセージの検索画面	134
図 5-11	受信メッセージの一覧表示画面	136
図 5-12	受信メッセージの詳細表示画面	138
図 6-1	uCosminexus Message Service for ebXML が出力するトレースの出力形式	145

図 7-1	定義ファイルの基本構成	153
図 7-2	定義ファイルに使用できない文字一覧	154

表目次

表 2-1	CPA ファイルでの QoS レベルの設定方法	23
表 3-1	レコード件数の見積もり式	32
表 3-2	uCosminexus Message Service for ebXML が使用するユーザー用 RD エリア	32
表 3-3	ユーザー用 RD エリアのセグメント数の見積もり (テーブル情報)	33
表 3-4	ユーザー用 RD エリアのセグメント数の見積もり情報 (インデクス情報)	34
表 3-5	OS ごとに使用する JDBC ドライバと参照先	36
表 3-6	DB Connector のプロパティの定義内容	48
表 3-7	DB Connector のプロパティの定義内容	50
表 3-8	CPA ファイルへの定義項目 (HTTP ベーシック認証)	71
表 3-9	サーバ証明書および秘密鍵の生成に必要な項目	73
表 3-10	サーバ証明書に記述するサブジェクト名の設定項目	74
表 3-11	Hitachi Web Server の定義ファイル (httpspd.conf) への設定項目 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))	76
表 3-12	CPA ファイルへの定義項目 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))	78
表 3-13	クライアント証明書および秘密鍵の生成に必要な項目	82
表 3-14	クライアント証明書に記述するサブジェクト名の設定項目	83
表 3-15	Hitachi Web Server の定義ファイルへの設定項目 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))	86
表 3-16	CPA ファイルへの定義項目 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))	88
表 3-17	XML 電子署名用証明書および秘密鍵の生成に必要な項目	94
表 3-18	XML 電子署名用証明書に記述するサブジェクト名の設定項目	95
表 3-19	CPA ファイルへの定義項目 (XML 電子署名)	97
表 5-1	送信メッセージの状態	124
表 5-2	受信メッセージの状態	126
表 6-1	トレースの出力項目	145
表 6-2	主な障害の種類とユーザーの対策	147
表 7-1	uCosminexus Message Service for ebXML の定義ファイル一覧	152
表 7-2	定義ファイルを構成する要素	153
表 7-3	置換する必要がある文字一覧	154
表 7-4	実行環境参照定義ファイルのキー要素一覧	155
表 7-5	MSH 実行環境定義ファイルのキー要素一覧	159
表 7-6	送信結果 / 受信定義ファイルのキー要素一覧	170
表 7-7	サービス名マッピングの記述形式	173

表 7-8	アクション名マッピングの記述形式	173
表 7-9	送信情報ファイルのキー要素一覧	175
表 7-10	CPA 拡張定義ファイルの記述形式	178
表 8-1	uCosminexus Message Service for ebXML が UOC に渡すビジネスメッセージ情報	188
表 8-2	UOC インターフェース一覧	195
表 8-3	メッセージ送信結果コードとメッセージ送信結果情報の定数	198
表 9-1	uCosminexus Message Service for ebXML のコマンド一覧	214
表 9-2	クライアント証明書・XML 電子署名用証明書の形式	241
表 9-3	証明書発行コマンド実行後に入力するサブジェクト名	243
表 9-4	証明書一覧表示コマンド実行時に出力される証明書の情報	249
表 10-1	データベースのエラーコードと HIRDB のメッセージ ID との関係	256
表 A-1	uCosminexus Message Service for ebXML のサポート範囲	438
表 B-1	CPA ファイルの各項目と uCosminexus Message Service for ebXML での規約	440
表 B-2	uCosminexus Message Service for ebXML が使用しない CPA ファイルの項目	443
表 D-1	作成するテーブルと SQL サンプルファイル名の対応	450
表 E-1	送信結果 (成功) イベントの詳細 (イベント ID : 00001EF1)	454
表 E-2	送信結果 (失敗) イベントの詳細 (イベント ID : 00001EF2)	456
表 E-3	受信イベントの詳細 (イベント ID : 00001EF3)	459

1

uCosminexus Message Service for ebXML の概要

この章では，uCosminexus Message Service for ebXML による電子商取引の概要，ebXML 標準仕様での位置づけ，特長，および機能について説明します。

-
- 1.1 uCosminexus Message Service for ebXML での電子商取引の概要
 - 1.2 uCosminexus Message Service for ebXML の ebXML 仕様での位置づけ
 - 1.3 uCosminexus Message Service for ebXML の特長
 - 1.4 uCosminexus Message Service for ebXML の機能
-

1.1 uCosminexus Message Service for ebXML での電子商取引の概要

uCosminexus Message Service for ebXML は、ebXML の MS 仕様（以降、ebMS 仕様と呼びます）に準拠して、複数企業間での電子商取引を実現するプログラムです。企業間で電子商取引をするに当たって、次のような事柄が要望として挙げられます。

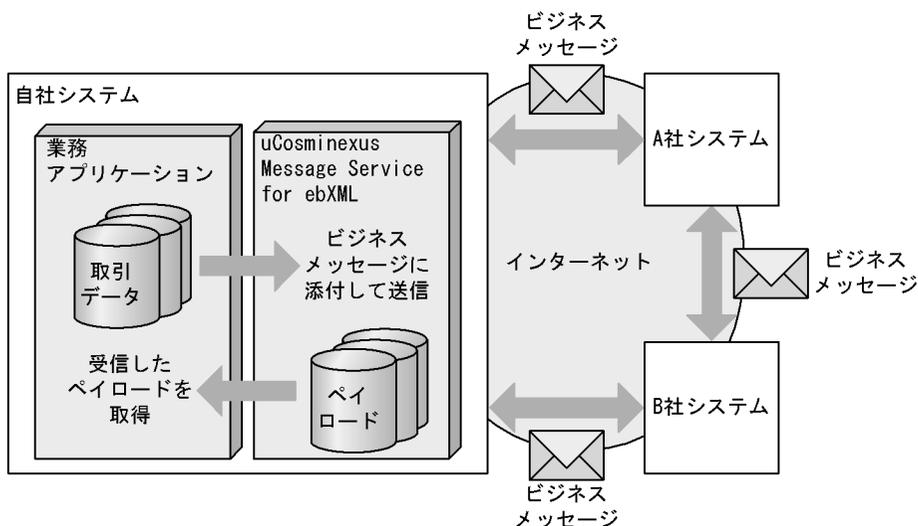
- 異業種間での取引や国際取引をするに当たって、各企業とはん用的なデータの交換手順を取り決めたい。
- ブロードバンド通信によって、効率的に取引データを交換したい。
- 安全で信頼性が高い電子商取引を実現したい。

uCosminexus Message Service for ebXML は、こうした要望に対応し、国際規格である ebMS 仕様に準拠した XML 形式でのデータ通信に対応するために、ビジネスメッセージの送受信に特化したさまざまな機能を提供しています。

ビジネスメッセージとは、ebMS 仕様に準拠したシステムを適用した企業間で交換される XML 形式のデータのことで、実際の取引データは、uCosminexus Message Service for ebXML がペイロードとしてビジネスメッセージに添付し、相手企業のシステムに送信します。

uCosminexus Message Service for ebXML を使用した電子商取引の概要を、次の図に示します。

図 1-1 uCosminexus Message Service for ebXML を使用した電子商取引



この図では、uCosminexus Message Service for ebXML を適用した自社システムと、ebMS 仕様に準拠したプログラムを適用した A 社・B 社のシステムとで、ビジネスメッ

セージを交換することを想定しています。

自社システムからビジネスメッセージを送信する場合、uCosminexus Message Service for ebXML はビジネスメッセージを生成し、インターネットを介して配信します。このとき、自社業務アプリケーションが作成した取引データは、ビジネスメッセージにペイロードとして添付されます。A 社・B 社のシステムでは、uCosminexus Message Service for ebXML が配信したビジネスメッセージを受信します。

同様に、uCosminexus Message Service for ebXML は A 社・B 社から配信されたビジネスメッセージを受信できます。uCosminexus Message Service for ebXML は受信したビジネスメッセージに添付されたペイロードを取引データとして取得します。取得した取引データは、業務アプリケーションが処理します。

1.2 uCosminexus Message Service for ebXML の ebXML 仕様での位置づけ

ebXML は、XML の技術を用いて EDI を標準化するために策定された仕様で、大きく分けて次の五つの仕様から成っています。

R&R

電子商取引をするために必要な情報をインターネット上で登録・検索・取得する方法についての仕様です。

BPSS

企業間で行われる電子商取引の手順を決定するためのモデル・仕様です。

CC

業務をモデル化するための枠組みを規定している仕様です。

CPPA

ビジネスメッセージの送受信に関する取引情報や手段など、取引企業間の合意事項についての仕様です。CPPA 仕様に基づいて作成されるのは次の文書です。それぞれ XML 形式で記述されます。

- CPP ファイル

取引する各企業が作成するそれぞれの取引情報や手段を記載した文書です。

- CPA ファイル

企業ごとの CPP ファイルを基に、取引企業間で合意した内容を記載した文書です。

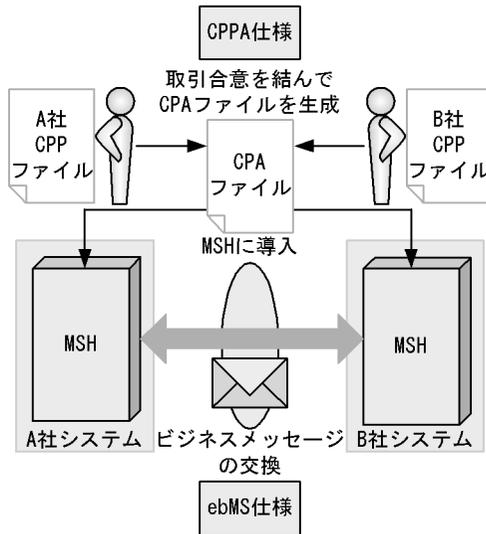
MS

ebXML で交換されるビジネスメッセージの形式や交換手順についての仕様です。このマニュアルでは ebXML の MS 仕様のことを、ebMS 仕様と呼びます。

uCosminexus Message Service for ebXML は、ebXML を構成する五つの仕様のうち ebMS 仕様に準拠しています。uCosminexus Message Service for ebXML は、ebMS 仕様が定めた交換規約に基づき、CPA ファイルを使用してビジネスメッセージの交換をするプログラムです。ebXML 仕様では、このプログラムを MSH (Message Service Handler) と呼びます。

MSH がビジネスメッセージを配信する仕組みに深く関連している CPPA 仕様および ebMS 仕様の概要を、次の図に示します。

図 1-2 ebXML (CPPA 仕様・ebMS 仕様) の概要



この図では、A社とB社が取引でビジネスメッセージを交換すると想定しています。

まず、各社が取引に関する情報や手段を記載した CPP ファイルを作成します。作成された二つの CPP ファイルを基に、二社間の取引合意を結び、合意内容を CPA ファイルに記載します。CPA ファイルは、各社のシステムにある MSH に導入されます。

実際のビジネスメッセージの交換は、CPA ファイルが導入された MSH が、ebMS 仕様に基づいて行います。

1.3 uCosminexus Message Service for ebXML の特長

uCosminexus Message Service for ebXML には、次のような特長があります。

大容量データのブロードバンド通信

通信プロトコルに HTTP または HTTPS を使用し、インターネットを介して電子商取引をします。ブロードバンドを利用した、大容量データの通信ができます。

ビジネスメッセージの自動再送および多重配信防止

ビジネスメッセージの高信頼配信機能をサポートしています。高信頼配信機能を使用すると、ビジネスメッセージを正確に、一度だけ配信できます。

uCosminexus Message Service for ebXML と業務アプリケーションとの連携支援

JP1 と連携するか、または UOC を作成することで、uCosminexus Message Service for ebXML と業務アプリケーション間で連携したシステムの運用を支援します。

安全性が高いデータ通信

インターネット通信をするときに欠かせない、高度なセキュリティをサポートします。SSL 暗号化通信や XML 電子署名などによって、盗聴や成り済ましの防止や、改ざんの検出をします。

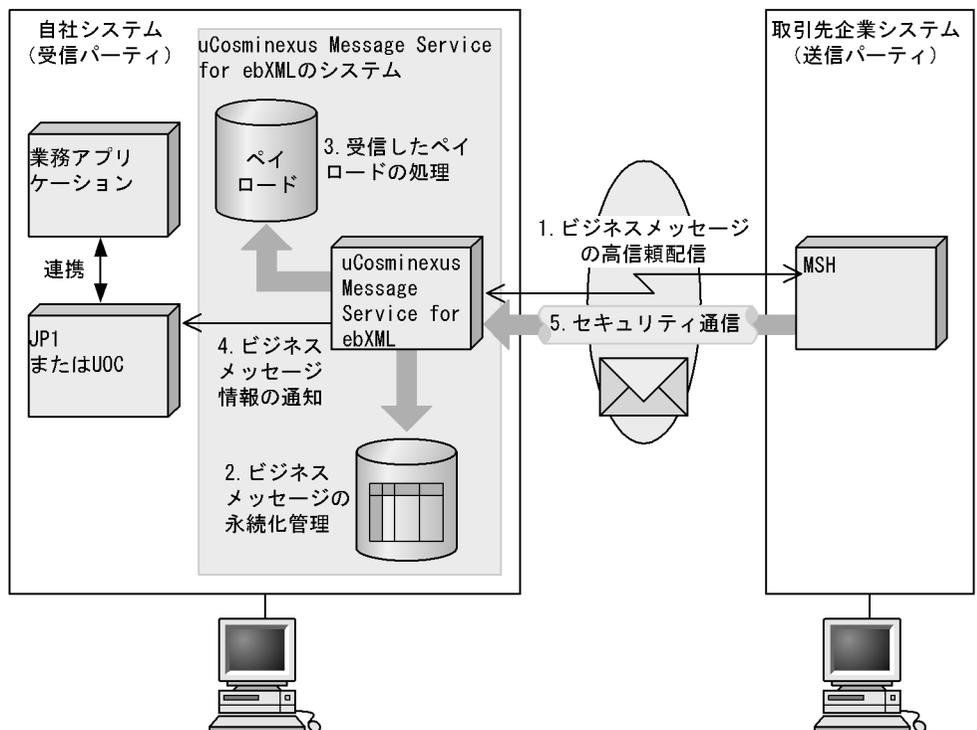
1.4 uCosminexus Message Service for ebXML の機能

uCosminexus Message Service for ebXML が提供する主な機能は、次に挙げるとおりです。

1. ビジネスメッセージの高信頼配信
2. ビジネスメッセージの永続化管理
3. 受信したペイロードの処理
4. ビジネスメッセージ情報の通知
5. セキュリティ通信

ebMS 仕様に準拠した電子商取引システムの中で、uCosminexus Message Service for ebXML が提供する機能は次の図に示す役割を持っています。

図 1-3 uCosminexus Message Service for ebXML の機能



uCosminexus Message Service for ebXML は、ebMS 仕様に準拠した機能、および製品独自の機能を提供しています。ebMS 仕様に対して、uCosminexus Message Service for ebXML がサポートしている機能の範囲については「付録 A ebMS 仕様のサポート範囲」を参照してください。

1.4.1 ビジネスメッセージの高信頼配信

電子商取引では、送信したビジネスメッセージが途中で紛失したり、同じビジネスメッセージを重複して受信したりすると、業務上大きな問題になるおそれがあります。こうした通信上のミスを防止するために、uCosminexus Message Service for ebXML は、ビジネスメッセージの高信頼配信をサポートしています。

uCosminexus Message Service for ebXML では、受信側の MSH が送信する MSH シグナルによって、ビジネスメッセージが正しく、重複しないで配信されているかどうかを管理しています。ビジネスメッセージと MSH シグナルを合わせて ebXML メッセージと呼びます。

ebMS 仕様では、どのくらい確実な配信ができるかの度合いによって高信頼配信のレベルを規定しています。高信頼配信のレベルを、QoS レベルといいます。QoS レベルは、CPA ファイルの設定で決定します。ここでは、uCosminexus Message Service for ebXML がサポートしている QoS レベルについて説明します。

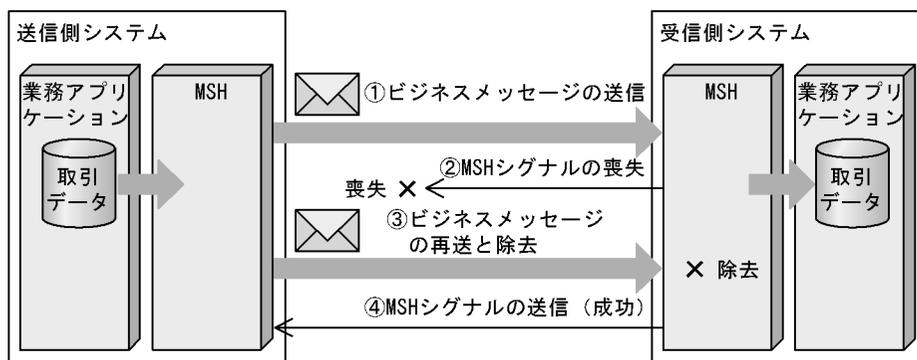
CPA ファイルでの QoS レベルの設定方法については、「2.3.1 QoS レベルの設定方法」を参照してください。

(1) Once and Only Once (推奨)

Once and Only Once は、ビジネスメッセージを正確に、重複しないで配信することを保証する QoS レベルです。ビジネスメッセージの受信失敗時は、送信側の MSH が送信メッセージを再送します。ビジネスメッセージの重複受信時は、受信側の MSH が重複したビジネスメッセージを除去します。

高信頼配信の QoS レベルに Once and Only Once を選んだ場合の、ビジネスメッセージおよび MSH シグナルの送受信の流れを、次の図に示します。

図 1-4 高信頼配信でのビジネスメッセージおよび MSH シグナルの送受信の流れ



1. ビジネスメッセージの送信

送信側の MSH がビジネスメッセージの送信に成功すると、受信側の MSH は MSH シグナルを送信側の MSH に送信します。そのあと受信側の MSH は、受信メッセー

ジを業務アプリケーションに配信します。

2. MSH シグナルの喪失

受信側の MSH が送信した MSH シグナルが配信中に喪失すると、送信側の MSH では送信メッセージの送信結果を確認できません。

3. ビジネスメッセージの再送と除去

一定期間 MSH シグナルを受信できなかった送信側の MSH は、ビジネスメッセージを再送します。

受信側の MSH は、受信メッセージが重複配信されていないかどうかを ID から判断し、重複配信と判断した場合は該当ビジネスメッセージを削除します。

4. MSH シグナルの送信（成功）

送信側の MSH は、MSH シグナルによってビジネスメッセージの配信に成功したかどうかを判断します。

MSH シグナルには、次の 2 種類があります。

- Acknowledgment メッセージ
配信に成功したときに送信されます。
- Error メッセージ
配信に失敗したときに送信されます。

QoS レベルが Once and Only Once の場合、送信したビジネスメッセージと MSH シグナルを HTTP の別コネクション（非同期型）にするか、または同一コネクション（同期型）にするかを、CPA ファイルで指定できます。

（2）At Least Once

Once and Only Once がビジネスメッセージの再送および重複除去を保証するレベルなのに対して、At Least Once では、再送だけを保証します。uCosminexus Message Service for ebXML では、QoS レベルが At Least Once の場合もビジネスメッセージの重複除去をしますが、完全に重複除去できるという保証はしていません。

QoS レベルを At Least Once にするには、CPA ファイル（MessagingCharacteristics 要素）の ackRequested 属性の値を "always" に、duplicateElimination 属性の値を "never" に設定します。

QoS レベルが At Least Once の場合、送信したビジネスメッセージと MSH シグナルを HTTP の別コネクション（非同期型）にするか、または同一コネクション（同期型）にするかを、CPA ファイルで指定できます。

（3）Best Effort

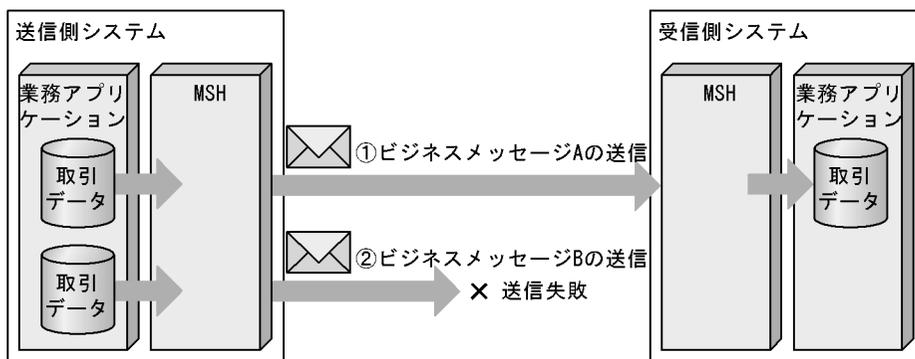
Best Effort は、ビジネスメッセージの高信頼配信をしません。ビジネスメッセージ受信時に MSH シグナルを送らないため、送信側の MSH は、送信したビジネスメッセージが正確に相手に配信できたかどうかを判断できません。

高信頼配信の QoS レベルに Best Effort を選んだ場合の、ビジネスメッセージの送受信

1. uCosminexus Message Service for ebXML の概要

の流れを、次の図に示します。

図 1-5 高信頼配信をしない場合のビジネスメッセージの送受信の流れ



1. ビジネスメッセージ A の送信

送信側の MSH がビジネスメッセージの送信に成功すると、受信メッセージは受信側の MSH を経て業務アプリケーションに配信されます。

ただし、送信側の MSH で送信メッセージを配信できたかどうかは確認できません。

2. ビジネスメッセージ B の送信

送信側の MSH がビジネスメッセージの送信に失敗しても、送信側の MSH で送信メッセージを配信できたかどうかは確認できません。

1.4.2 ビジネスメッセージの永続化管理

uCosminexus Message Service for ebXML では、データベースを使用してビジネスメッセージを永続化して管理しています。

(1) 永続化メッセージの格納

uCosminexus Message Service for ebXML は、送受信したビジネスメッセージを永続化メッセージとしてデータベースに格納し、ビジネスメッセージの高信頼配信を実現するために使用します。格納した永続化メッセージは、次の用途で使用します。

ビジネスメッセージの再送

送信側の uCosminexus Message Service for ebXML が送信失敗と判断したビジネスメッセージを再送します。ビジネスメッセージの再送は、uCosminexus Message Service for ebXML 内のタイマー監視によって制御されています。

タイマー監視とは

ビジネスメッセージが確実に送受信されているかどうかを監視する機能です。送信に失敗した場合に、ビジネスメッセージを再送するタイミングを決定します。

重複受信の確認

uCosminexus Message Service for ebXML は、データベースに格納されている永続化

メッセージと受信したビジネスメッセージとを照合して、重複受信にならないかどうかを確認します。

QoS レベルが Best Effort の場合も、永続化メッセージはデータベースに格納されます。ただし、高信頼配信をサポートしていないのでビジネスメッセージの再送や重複受信の確認はしません。

(2) 永続化メッセージの照会

ユーザーは、データベースに格納された永続化メッセージの情報を、ビジネスメッセージの送受信履歴として照会できます。ビジネスメッセージの配信が完了したことを確認したいときや、送受信時に発生した障害の要因を調査するときに活用してください。

送受信履歴の照会は、uCosminexus Message Service for ebXML が提供する運用支援 GUI から行ってください。運用支援 GUI の説明や操作方法については、「5.5 運用支援 GUI でのビジネスメッセージの照会」を参照してください。

1.4.3 受信したペイロードの処理

uCosminexus Message Service for ebXML は、受信したビジネスメッセージのペイロードを受信メッセージ格納ディレクトリに格納するか、または格納しないでメモリに展開します。

ここでは、uCosminexus Message Service for ebXML が受信したビジネスメッセージのペイロードをどのように処理するかについて説明します。

(1) 受信メッセージ格納ディレクトリに格納する場合

ユーザーは、受信メッセージ格納ディレクトリを業務に適した構成に設定できます。ディレクトリ構成には、単一ディレクトリ構成と階層ディレクトリ構成があります。

(a) 単一ディレクトリ構成で格納

受信メッセージ格納ディレクトリに、直接ペイロードを格納する方法です。受信メッセージ格納ディレクトリの下に、ビジネスメッセージ別ディレクトリを作成することもできます。

(b) 階層ディレクトリ構成で格納

受信メッセージ格納ディレクトリを階層に分けて格納する方法です。各階層の下に、さらにビジネスメッセージ別ディレクトリを作成することもできます。

CPA ファイルに記載するサービスやアクションの種類ごとにペイロードを分けて格納できるため、uCosminexus Message Service for ebXML のシステムで多様な取引内容を扱う場合に有効な方法です。

(2) メモリに展開する場合

ペイロードをディレクトリに格納しないで、メモリを介して受け渡す方法です。

1. uCosminexus Message Service for ebXML の概要

この方法は、uCosminexus Message Service for ebXML が提供する UOC インターフェースを基に、ユーザーが UOC を作成した場合に選択できます。uCosminexus Message Service for ebXML は、UOC 呼び出し時のパラメタにペイロードを設定して、メモリに展開します。

「1.4.4 ビジネスメッセージ情報の通知」で説明するビジネスメッセージ情報の通知方法をして UOC を使用する場合は、この方法を選択できます。JP1 のイベント送信を使用する場合は選択できません。

1.4.4 ビジネスメッセージ情報の通知

uCosminexus Message Service for ebXML はユーザーに、ビジネスメッセージの送信結果、および受信メッセージの情報を即時に通知する機能を提供しています。この機能によって、例えば次の通知を受けられます。

ビジネスメッセージの送信に成功したかどうかの通知

ビジネスメッセージを受信したことの通知

相手パーティの情報の通知

受信したペイロードの格納先（受信メッセージ格納ディレクトリのフルパス）の通知

ビジネスメッセージ情報の通知機能を使用すると、通知されたビジネスメッセージの情報を基に、uCosminexus Message Service for ebXML のシステムと業務アプリケーションとを連携させたシステムの運用もできます。

ビジネスメッセージの送受信を通知するための機能には、次の種類があります。ユーザーは必要に応じてどちらかを選択して使用します。

JP1 イベント通知

UOC

(1) JP1 イベント通知

システムの管理・運用に JP1 を使用する場合、uCosminexus Message Service for ebXML は JP1 に、送受信したビジネスメッセージの情報を JP1 イベントとして通知します。JP1 イベント通知機能を使用すると、送受信したビジネスメッセージの情報を即時に確認できます。

JP1 を使用したシステムの管理・運用の詳細については、JP1 のマニュアルを参照してください。また、uCosminexus Message Service for ebXML が発行する JP1 イベントの詳細については、「付録 E uCosminexus Message Service for ebXML が発行する JP1 イベント一覧」を参照してください。

(2) UOC

ユーザーは、uCosminexus Message Service for ebXML が提供する UOC (User Own Coding) 用インターフェースを使用したプログラムによって、送受信したビジネスメッセージの情報をメモリで取得できます。取得した情報を、UOC 内で自由に使用できるため、より柔軟性の高いシステム連携を実現できます。

uCosminexus Message Service for ebXML が提供する UOC 用インターフェースの詳細については、「8. UOC リファレンス」を参照してください。

1.4.5 セキュリティ通信

uCosminexus Message Service for ebXML は、次に示す種類のセキュリティ通信をサポートしています。

HTTP ベーシック認証

暗号化通信 (SSL サーバ認証)

暗号化通信 (SSL クライアント認証)

XML 電子署名

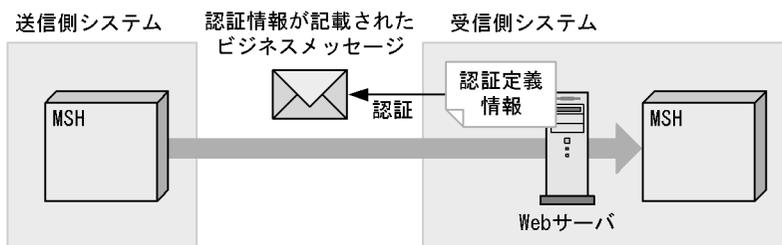
ここでは、uCosminexus Message Service for ebXML を適用したシステムでの各セキュリティ通信の概要について、簡易な方式から順に説明します。また、最後に XML 電子署名について説明します。必要に応じてお読みください。

(1) HTTP ベーシック認証

HTTP ベーシック認証は、HTTP プロトコルが持つユーザー認証方式の中で最も簡易な方式です。通信システムに適用させることは容易ですが、認証に使用するユーザー ID およびパスワードを平文で送受信するため、セキュリティは弱い弱です。

HTTP ベーシック認証の概要を、次の図に示します。

図 1-6 HTTP ベーシック認証の概要



HTTP ベーシック認証では、送信側の MSH がビジネスメッセージの HTTP ヘッダに記載したユーザー名およびパスワードと、受信側の Web サーバで定義されているユーザー

1. uCosminexus Message Service for ebXML の概要

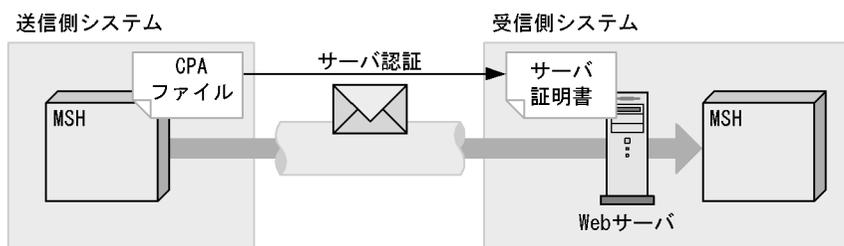
名およびパスワードとを照合し、認証します。

(2) 暗号化通信 (SSL サーバ認証)

暗号化通信は、プロトコルとして SSL (または TLS) を使用します。証明書と公開鍵暗号技術に基づいて暗号化された通信をするので、通信路の機密性を確保して盗聴を防止します。

暗号化通信 (SSL サーバ認証) の概要を、次の図に示します。

図 1-7 暗号化通信 (SSL サーバ認証) の概要



暗号化通信 (SSL サーバ認証) では、受信側の Web サーバが提示したサーバ証明書を、送信側の MSH が CPA ファイルに記載されたサーバ証明書と照合し、認証します。

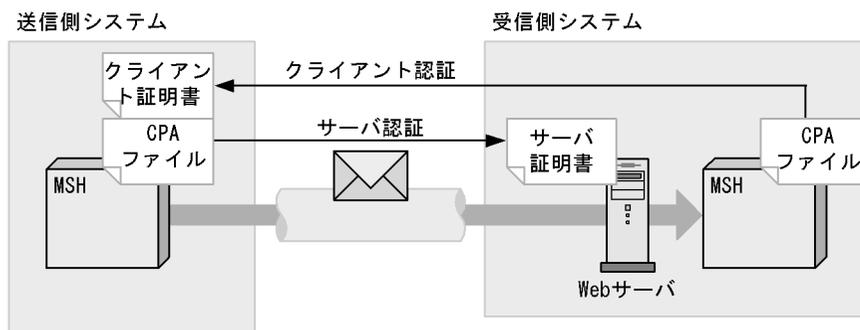
(3) 暗号化通信 (SSL クライアント認証)

暗号化通信 (SSL クライアント認証) は、暗号化通信 (SSL サーバ認証) に加えて受信側の MSH もクライアント証明書による認証をします。暗号化通信 (SSL クライアント認証) を適用すると、送信側、受信側の双方向で認証ができるため安全性が増します。また、クライアント証明書で認証することで、成り済ましも防止します。

暗号化通信 (SSL クライアント認証) をする場合は、必ず暗号化通信 (SSL サーバ認証) も設定してください。

暗号化通信 (SSL クライアント認証) の概要を、次の図に示します。

図 1-8 暗号化通信 (SSL クライアント認証) の概要



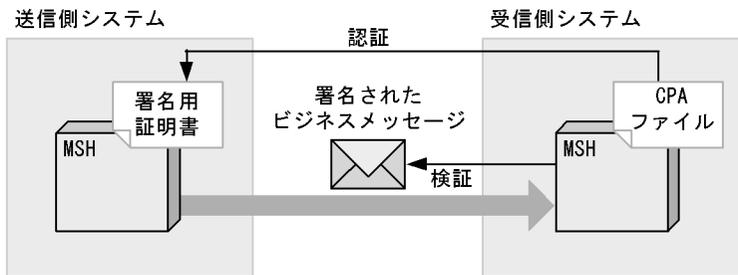
暗号化通信（SSL クライアント認証）では、送信側の MSH が提示したクライアント証明書、受信側の MSH が CPA ファイルに記載されたクライアント証明書と照合し、認証します。

（4）XML 電子署名

XML 電子署名は、データそのものに XML 形式の署名を付けて送受信します。HTTP ベーシック認証や暗号化通信だけでは解決できない、データの改ざんの検出や否認の防止を実現します。

XML 電子署名の概要を、次に示します。

図 1-9 XML 電子署名の概要



XML 電子署名では、受信側の MSH がビジネスメッセージに添付された署名情報を検証し、同時に、送信側の MSH が提示した電子署名用証明書と CPA ファイルに記載された電子署名用証明書とを照合し、認証します。

2

システム構築の準備

この章では、uCosminexus Message Service for ebXML のシステムに必要なソフトウェア、uCosminexus Message Service for ebXML のシステム構成の検討、および CPA ファイル作成の準備について説明します。ユーザーは、実際に uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを構築する前に、ここで説明するシステム構築の準備を済ませておいてください。

2.1 ソフトウェアのインストール

2.2 システム構成の検討

2.3 CPA ファイル作成の準備

2.1 ソフトウェアのインストール

uCosminexus Message Service for ebXML が動作するためにインストールしておく必要があるソフトウェアを示します。

2.1.1 前提ソフトウェア

次のソフトウェアは必須です。

OS

Windows または UNIX

Java 基盤となるソフトウェア

uCosminexus Application Server

データベースとなるソフトウェア

HiRDB

2.1.2 関連ソフトウェア

次のソフトウェアは、運用に応じて選択して使用してください。JP1 イベント通知機能も UOC も適用しない運用の場合は、使用する必要はありません。

JP1 イベント通知機能を適用する場合

- JP1/Base

JP1 イベント通知機能を適用する場合、必須です。

- JP1/IM または JP1/AJS2

運用に応じて選択して使用してください。併用もできます。

UOC を適用する場合

uCosminexus Developer

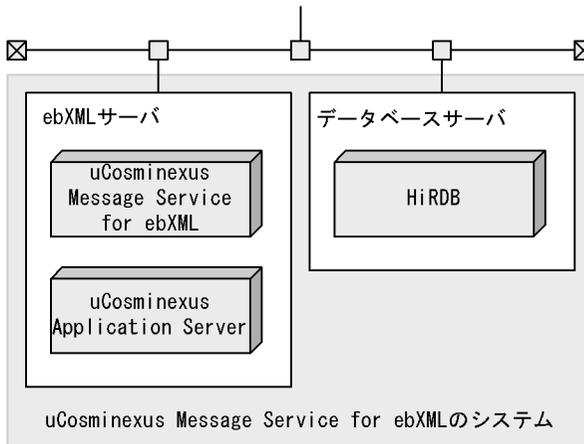
2.2 システム構成の検討

uCosminexus Message Service for ebXML のシステム構成を検討するときに必要な情報について説明します。

2.2.1 uCosminexus Message Service for ebXML のシステムに必要なサーバ

uCosminexus Message Service for ebXML を導入したシステムを稼働させるためには、次に示すサーバが必要です。

図 2-1 uCosminexus Message Service for ebXML のシステムに必要なサーバ



このマニュアルでは、ebXMLサーバとデータベースサーバをまとめて uCosminexus Message Service for ebXML のシステムと呼びます。

(1) ebXMLサーバ

uCosminexus Message Service for ebXML が実際に動作するサーバです。次のソフトウェアをインストールして使用します。

uCosminexus Message Service for ebXML

uCosminexus Message Service for ebXML の前提ソフトウェア

「2.1.1 前提ソフトウェア」で示したソフトウェアのうち、OS および uCosminexus Application Server をインストールして使用します。

(2) データベースサーバ

uCosminexus Message Service for ebXML がビジネスメッセージを送受信するときに必要な情報を保存するサーバです。次のソフトウェアをインストールして使用します。

2. システム構築の準備

uCosminexus Message Service for ebXML の前提ソフトウェア

「2.1.1 前提ソフトウェア」で示したソフトウェアのうち、HiRDB をインストールして使用します。

2.2.2 サーバのマシン構成

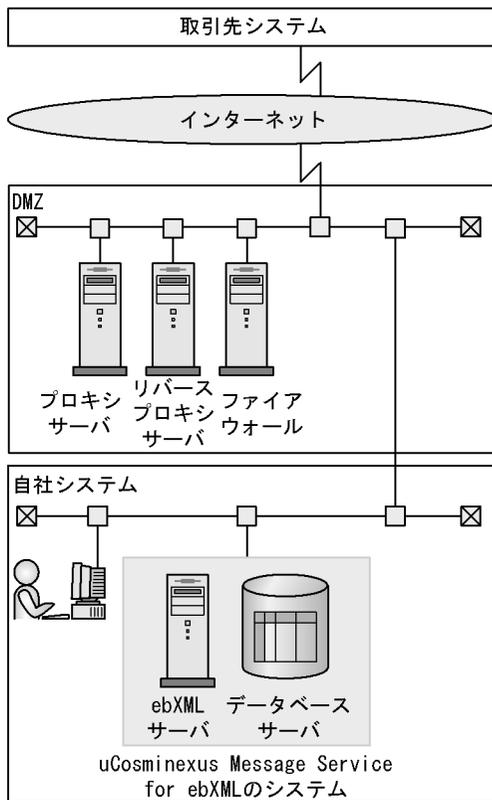
uCosminexus Message Service for ebXML のシステムは、ebXML サーバとデータベースサーバとを同一マシン構成にすることも、別マシン構成にすることもできます。データベースサーバのディスク容量を見積り、構築するデータベースサーバに対してトランザクション量が多くマシンの負荷が高くなる場合は、ebXML サーバとデータベースサーバを別マシン構成にしたシステムを構築することを推奨します。

データベースサーバの容量の見積もり方法については、「3.3.1 容量の見積もり」を参照してください。

2.2.3 システム構成例

ebXML サーバとデータベースサーバを同一マシン構成にした場合の、uCosminexus Message Service for ebXML のシステム構成例を、次に示します。

図 2-2 システム構成例 (ebXML サーバとデータベースサーバが同一マシン構成の場合)



なお，図中にある DMZ は，社内イントラネットをインターネットと接続させる場合に構築する，一般的なシステムです。DMZ の構成は，社内のシステム運用に基づいて決定してください。

また，uCosminexus Message Service for ebXML のシステム内で，ebXML サーバを複数構築し，1 台のデータベースサーバと対応させることもできます。複数の ebXML サーバを使用して負荷分散環境を構築すると，次のメリットがあります。

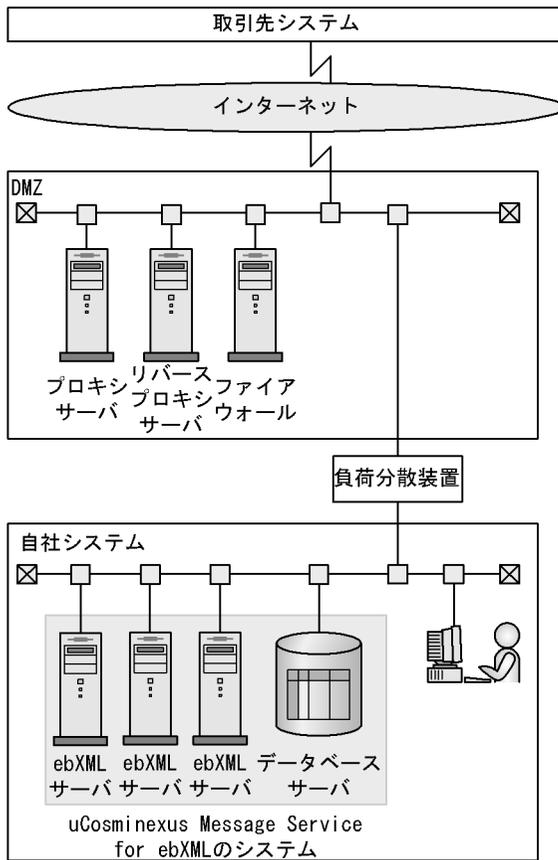
- 障害時にシステム全体が動作しなくなることを防止します。
- 構築した ebXML サーバと同じ台数分だけ uCosminexus Message Service for ebXML が稼働する MSH 実行環境を構築できるため，システムの負荷を軽減できます。

1 台の ebXML サーバ内では，複数の MSH 実行環境を構築できません。

一つのシステムで ebXML サーバを 3 台，データベースサーバを 1 台構築する場合のシステム構成例を，次に示します。

2. システム構築の準備

図 2-3 システム構成例 (ebXML サーバを複数構築する場合)



2.3 CPA ファイル作成の準備

ebXML 仕様では、企業間で取引内容について合意した内容を CPA ファイルに記述しておく必要があります。

CPA ファイルに記述する内容は、uCosminexus Message Service for ebXML のシステム構築時に必要となるため、システム構築前に決定しておくことを推奨します。CPA ファイルに記述する項目の詳細については、CPPA の仕様書を参照してください。

なお、uCosminexus Message Service for ebXML では、CPA ファイルに記述する内容について制限事項があります。CPA ファイルは制限事項を守って作成してください。制限事項の詳細については、「付録 B CPA ファイル作成時の制限事項」を参照してください。

2.3.1 QoS レベルの設定方法

uCosminexus Message Service for ebXML が提供するビジネスメッセージの高信頼配信機能を使用するためには、CPA ファイルの MessagingCharacteristics 要素に QoS レベルを設定しておく必要があります。

CPA ファイルでの QoS レベルの設定方法を、次の表に示します。

表 2-1 CPA ファイルでの QoS レベルの設定方法

項番	要素	属性	Once and Only Once の場合	At Least Once の場合	Best Effort の場合
1	PartyInfo	-	-	-	-
2	DeliveryChannel	-	-	-	-
3	MessagingCharacteristics	-	-	-	-
4	-	ackRequested	always	always	never
5	-	duplicateElimination	always	never	never
6	-	syncReplyMode	<ul style="list-style-type: none"> 同期型の場合 mshSignalsOnly 非同期型の場合 none 	<ul style="list-style-type: none"> 同期型の場合 mshSignalsOnly 非同期型の場合 none 	none

(凡例) - : なし

3

システムの構築

この章では、uCosminexus Message Service for ebXML のディレクトリ構成，および必要なシステムの構築手順について説明します。

-
- 3.1 ディレクトリ構成

 - 3.2 システム構築の手順

 - 3.3 HIRDB の環境設定

 - 3.4 JDBC ドライバの環境設定

 - 3.5 Hitachi Web Server の環境設定

 - 3.6 uCosminexus Application Server の環境設定

 - 3.7 uCosminexus Message Service for ebXML の環境設定

 - 3.8 セキュリティ環境の構築 (HTTP ベーシック認証)

 - 3.9 セキュリティ環境の構築 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))

 - 3.10 セキュリティ環境の構築 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))

 - 3.11 セキュリティ環境の構築 (XML 電子署名)
-

3.1 ディレクトリ構成

ここでは、uCosminexus Message Service for ebXML が動作するディレクトリ構成について説明します。uCosminexus Message Service for ebXML のインストールディレクトリを次に示します。

- Windows の場合

ユーザーは、uCosminexus Message Service for ebXML のインストールディレクトリを任意で設定できます。インストールディレクトリのデフォルトを次に示します。

C:\Program Files\Hitachi\ebxml\msh

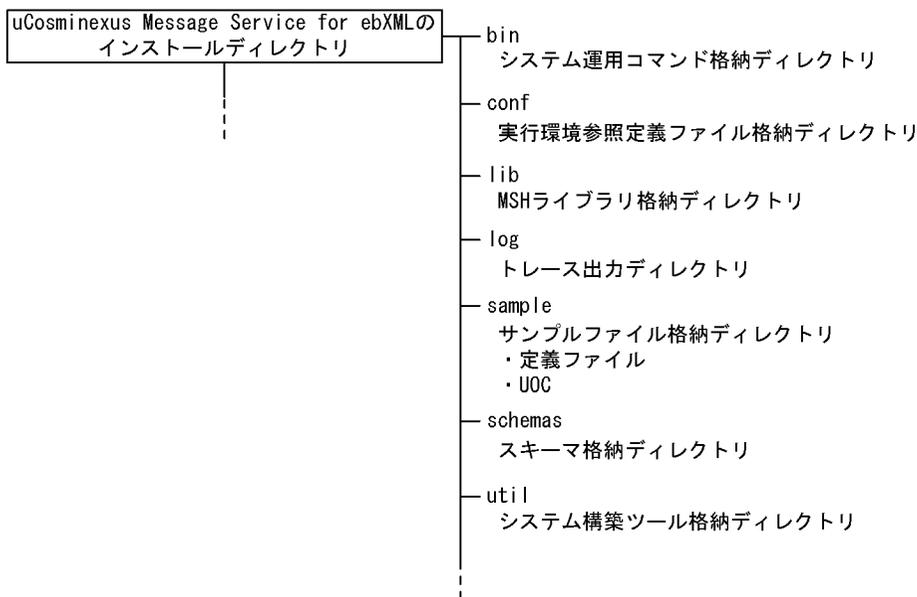
- UNIX の場合

uCosminexus Message Service for ebXML のインストールディレクトリを次に示します。

/opt/ebxml/msh

uCosminexus Message Service for ebXML のディレクトリ構成を、次に示します。

図 3-1 ディレクトリ構成



ここで説明するディレクトリ以外のディレクトリは、uCosminexus Message Service for ebXML が使用するディレクトリです。ユーザーは uCosminexus Message Service for ebXML が使用するディレクトリを編集したり、削除したりしないでください。

3.2 システム構築の手順

uCosminexus Message Service for ebXML のシステム構築手順について説明します。この章では、uCosminexus Message Service for ebXML の各前提ソフトウェアについては、uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを構築するときに追加・変更が必要な項目だけを説明しています。uCosminexus Message Service for ebXML の各前提ソフトウェアの構築手順や構築方法についての詳細は、各関連マニュアルを参照してください。また、システム構築で設定する定義ファイルの詳細については「7. 定義ファイル」を、使用するコマンドの詳細については「9. コマンドリファレンス」を、それぞれ参照してください。

uCosminexus Message Service for ebXML をインストール後、動作確認ができるようになるまでの uCosminexus Message Service for ebXML のシステム構築手順を、次に示します。

3. システムの構築

図 3-2 uCosminexus Message Service for ebXML のシステム構築手順



1. uCosminexus Message Service for ebXML のインストール
uCosminexus Message Service for ebXML をインストールします。
2. HiRDB の環境設定
ビジネスメッセージを格納するデータベースを構築します。「3.3 HiRDB の環境設定」を参照してください。

3. JDBC ドライバの環境設定

uCosminexus Application Server と HiRDB とを連携させるための設定をします。

「3.4 JDBC ドライバの環境設定」を参照してください。

4. Hitachi Web Server の環境設定

uCosminexus Message Service for ebXML で使用する Web サーバの設定をします。

「3.5 Hitachi Web Server の環境設定」を参照してください。

5. UOC の作成

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを、JP1 によって管理・運用しない場合、ユーザーはビジネスメッセージの情報を参照するために、uCosminexus Message Service for ebXML が提供する UOC 用インターフェースを使用して UOC を作成し、利用できます。UOC の作成は任意です。

UOC 用インターフェースの詳細については、「8. UOC リファレンス」を参照してください。

6. uCosminexus Application Server の環境設定

Java 基盤となるアプリケーションサーバを構築します。「3.6 uCosminexus Application Server の環境設定」を参照してください。

7. uCosminexus Message Service for ebXML の環境設定

uCosminexus Message Service for ebXML の定義ファイルを作成します。「3.7 uCosminexus Message Service for ebXML の環境設定」を参照してください。

8. セキュリティ環境の構築

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムにセキュリティ環境を構築します。セキュリティ環境の構築は任意です。

適用するセキュリティ環境に応じて、次の中から必要な項目を参照してください。

- HTTP ベーシック認証

「3.8 セキュリティ環境の構築 (HTTP ベーシック認証)」を参照してください。

- 暗号化通信 (SSL サーバ認証)

「3.9 セキュリティ環境の構築 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))」を参照してください。

- 暗号化通信 (SSL クライアント認証)

「3.10 セキュリティ環境の構築 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))」を参照してください。

- XML 電子署名

「3.11 セキュリティ環境の構築 (XML 電子署名)」を参照してください。

9. CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの作成

CPA ファイルは、取引企業とあらかじめ記載内容を決定しておく必要があります。

CPA ファイルの作成方法については、ebXML の CPPA 仕様書を参照してください。

CPA ファイルの作成に当たって、uCosminexus Message Service for ebXML では制限事項があります。「付録 B CPA ファイル作成時の制限事項」を参照してください。

3. システムの構築

作成した CPA ファイルからメッセージ交換定義ファイルを生成する方法については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHDeployMsgDef を参照してください。

10. JP1 の環境設定

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを、JP1 によって管理・運用する場合、JP1 の環境設定をします。JP1 の環境設定は任意です。

なお、uCosminexus Message Service for ebXML に特化した設定手順はありません。JP1 のマニュアルを参照して、環境設定をしてください。

11. uCosminexus Message Service for ebXML のシステムの動作確認

uCosminexus Message Service for ebXML のシステム構築が完了したら、構築したシステムが正しく動作するかどうかを確認するために、システムを起動させてビジネスメッセージを送受信したあと、システムを停止させます。uCosminexus Message Service for ebXML のシステムの起動と停止については「4.1 uCosminexus Message Service for ebXML システムの起動」および「4.2 uCosminexus Message Service for ebXML システムの停止」を参照してください。ビジネスメッセージの送受信については、「5.2 ビジネスメッセージの送信」および「5.3 ビジネスメッセージの受信」を参照してください。

3.3 HiRDB の環境設定

uCosminexus Message Service for ebXML で送受信したビジネスメッセージを、永続化メッセージとして格納するデータベースを構築します。

ここでは、構築前で見積もり時に必要な情報、および HiRDB に作成するテーブルの作成方法について説明します。ここで説明する以外の HiRDB の環境設定については、マニュアル「HiRDB システム導入・設計ガイド」を参照してください。

また、HiRDB の環境設定をするときに使用する値と、「3.7 uCosminexus Message Service for ebXML の環境設定」で作成する MSH 実行環境定義ファイルに指定する値とを合わせる必要がある個所があります。MSH 実行環境定義ファイルの詳細については、「7.4 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)」を参照してください。

3.3.1 容量の見積もり

HiRDB のディスク容量の見積もりについて説明します。

(1) データベース接続数

HiRDB のシステム定義 (pd_max_users オペランド) に設定する、データベースへの最大同時接続数を見積もります。最大同時接続数は、実際の同時接続数よりも余裕を持たせる必要があるため、次の式のとおりに見積もってください。

(uCosminexus Message Service for ebXML でビジネスメッセージを同時に送信・受信処理する数) + 5

(2) レコード件数

作成する各テーブルの最大レコード件数を見積もります。レコード件数を見積もるために、次の値を見積もる必要があります。

送信・受信メッセージの蓄積数

各テーブルに蓄積される送信メッセージおよび受信メッセージの数です。見積もるときは、システムの運用に応じて次の点を考慮してください。

- トランザクション量
- ビジネスメッセージの永続期限
- 永続化メッセージ削除コマンドの実行タイミング

ビジネスメッセージの分割比率

分割比率とは、送受信されるビジネスメッセージが平均で何分割されるかを表す比率です。

ビジネスメッセージは送受信のとき、MSH 実行環境定義ファイル (PERSIST コンテナの MESSAGE_ARCHIVE_DIVISION_SIZE キー) に指定したサイズで分割されます。分割されない場合の比率を 1 として分割比率を見積もります。例えば、平

3. システムの構築

均で 1.3 分割されるならば分割比率は 1.3 になります。

送信・受信メッセージの蓄積数，およびビジネスメッセージの分割比率を見積もったら，それらを基に作成する各テーブルの最大レコード件数を見積もります。作成する各テーブルの最大レコード件数の求め方を，次に示します。

表 3-1 レコード件数の見積もり式

項番	テーブル名	用途	テーブルの最大レコード件数	
			高信頼配信をする場合 ¹	高信頼配信をしない場合 ²
1	MshMessaging	ビジネスメッセージの情報を格納	(送信メッセージの蓄積数) + (受信メッセージの蓄積数)	
2	MshMsgArchive	ビジネスメッセージの実体を格納	((送信メッセージの蓄積数) + (受信メッセージの蓄積数)) × (分割比率) × 2	((送信メッセージの蓄積数) + (受信メッセージの蓄積数)) × (分割比率)
3	MshSendTimer	送信タイマーの情報を格納	(送信メッセージの蓄積数) + (受信メッセージの蓄積数)	(送信メッセージの蓄積数)
4	MshNotifyApTimer	AP 通知タイマーの情報を格納	(送信メッセージの蓄積数) + (受信メッセージの蓄積数)	
5	MshAdmin	システム管理者の情報を格納	システム管理者の数	

注 1 QoS レベルに Once and Only Once または At Least Once を選択する場合です。

注 2 QoS レベルに Best Effort を選択する場合です。

3.3.2 ユーザー用 RD エリアの生成

HiRDB のユーザー用 RD エリアの生成について説明します。

uCosminexus Message Service for ebXML が使用するユーザー用 RD エリアは，次に示すとおりです。

表 3-2 uCosminexus Message Service for ebXML が使用するユーザー用 RD エリア

項番	ユーザー用 RD エリア名	用途
1	RDMSGTBL	MshMessaging テーブル用 RD エリア
2	RDACVTBL	MshMsgArchive テーブル用 RD エリア
3	RDSTMTBL	MshSendTimer テーブル用 RD エリア
4	RDNTMTBL	MshNotifyApTimer テーブル用 RD エリア
5	RDADMTBL	MshAdmin テーブル用 RD エリア

項番	ユーザー用 RD エリア名	用途
6	RDMSGIDX	MshMessaging テーブルのインデクス用 RD エリア 1
7	RDMSGIDX2	MshMessaging テーブルのインデクス用 RD エリア 2
8	RDMSGIDX3	MshMessaging テーブルのインデクス用 RD エリア 3
9	RDACVIDX	MshMsgArchive テーブルのインデクス用 RD エリア
10	RDSTMIDX	MshSendTimer テーブルのインデクス用 RD エリア 1
11	RDSTMIDX2	MshSendTimer テーブルのインデクス用 RD エリア 2
12	RDNTMIDX	MshNotifyApTimer テーブルのインデクス用 RD エリア 1
13	RDNTMIDX2	MshNotifyApTimer テーブルのインデクス用 RD エリア 2
14	RDADMIDX	MshAdmin テーブルのインデクス用 RD エリア
15	RDACVLOB	MshMsgArchive テーブルの BLOB 用 RD エリア
16	RDSTMLOB	MshSendTimer テーブルの BLOB 用 RD エリア
17	RDNTMLOB	MshNotifyApTimer テーブルの BLOB 用 RD エリア

(1) ユーザー用 RD エリアのセグメント数

実際にユーザー用 RD エリアを生成する前に、各ユーザー用 RD エリアのセグメント数を見積もる必要があります。セグメント数の見積もりに必要な情報を、次に示します。

テーブルに関する情報

ユーザー用 RD エリアのセグメント数の見積もりに必要な、テーブルに関する情報を次に示します。

表 3-3 ユーザー用 RD エリアのセグメント数の見積もり (テーブル情報)

項番	ユーザー用 RD エリア名	対応するテーブル名	列数	レコード長 (バイト)
1	RDMSGTBL	MshMessaging	40	8,390
2	RDACVTBL	MshMsgArchive	4	397
3	RDSTMTBL	MshSendTimer	6	113
4	RDNTMTBL	MshNotifyApTimer	6	113
5	RDADMTBL	MshAdmin	2	42

インデクスに関する情報

ユーザー用 RD エリアのセグメント数の見積もりに必要な、インデクスに関する情報を次に示します。

3. システムの構築

表 3-4 ユーザー用 RD エリアのセグメント数の見積もり情報（インデクス情報）

項番	ユーザー用 RD エリア名	対応するインデクス名	種別	列数	キー長（バイト）
1	RDMSGIDX	-	U	1	63
2	RDMSGIDX2	MSHSTATUSIDX	U	2	384
3	RDMSGIDX3	MSHREFERENCEIDX	D	4	540
4	RDACVIDX	MSHARCHIVEIDX	U	3	388
5	RDSTMIDX	-	U	1	63
6	RDSTMIDX2	MSHSENDTIMERIDX	D	1	24
7	RDNTMIDX	-	U	1	63
8	RDNTMIDX2	MSHNOTIFYAPTIMERIDX	D	1	24
9	RDADMIDX	-	U	1	21

（凡例）

U：インデクス名は重複しません。

D：インデクス名は重複します。

注 HiRDB がインデクス名を自動で生成します。

3.3.3 テーブルの作成

uCosminexus Message Service for ebXML は、HiRDB のテーブルを作成するための SQL サンプルを提供しています。テーブル作成時、次のディレクトリに格納されている SQL サンプルを編集して使用します。なお、SQL サンプルの記述内容については、「付録 D SQL サンプル」を参照してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXMLインストールディレクトリ  
>%sample%db%sql
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/sample/db/sql
```

SQL サンプルで編集する必要がある箇所を、次に示します。

テーブル名

MshMsgArchive

編集箇所

"ユーザー指定値" に、MSH 実行環境定義ファイル（PERSIST コンテナの MESSAGE_ARCHIVE_DIVISION_SIZE キー）に設定した、送受信メッセージの分割サイズを BLOB として指定します。指定値の単位は KB、MB、GB で、実行環境定義ファイル内では単位記号をそれぞれ「K」、「M」、「G」と表記します。

分割サイズを 1MB に指定した場合の指定例を次に示します。

```
CREATE TABLE MshMsgArchive (  
    MsDefId      MVARCHAR (127) NOT NULL,  
    MsgId        MVARCHAR (255) NOT NULL,  
    SerialNum    INTEGER NOT NULL,  
    Archive      BLOB(1024K) IN RDACVLOB NOT NULL  
) IN RDACVTBL;
```

この指定例で指定した "1024K" は、代わりに "1M" とも指定できます。

3.4 JDBC ドライバの環境設定

uCosminexus Message Service for ebXML と HiRDB とを連携させるために使用する JDBC ドライバに必要な環境設定について説明します。ここで説明する以外の JDBC ドライバの環境設定については、マニュアル「Cosminexus システム構築ガイド」を参照してください。

なお、使用する JDBC ドライバは OS ごとに異なります。使用する JDBC ドライバとそれぞれの参照先を次の表に示します。

表 3-5 OS ごとに使用する JDBC ドライバと参照先

OS	使用する JDBC ドライバ	参照先
Windows	DABroker Library	3.4.1
UNIX	HiRDB Type4 JDBC Driver	3.4.2

また、JDBC ドライバの環境設定をするときに使用する値と、MSH 実行環境定義ファイルに指定する値とを合わせる必要がある個所があります。MSH 実行環境定義ファイルの詳細については、「7.4 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)」を参照してください。

3.4.1 DABroker Library の環境設定 (Windows の場合)

Windows の場合に使用する、DABroker Library の環境設定の方法について説明します。

(1) PATH 環境変数の設定

PATH 環境変数に次の行を追加してください。

```
<Cosminexusのインストールディレクトリ>%DAB¥lib
```

(2) DABroker Library の動作環境の設定

[DABroker 動作環境設定] ダイアログを表示させて、次の設定をしてください。

- [リモートアクセス設定] タブを選択する。
- HiRDB の BLOB 型データ受取バッファサイズに、MSH 実行環境定義ファイル (PERSIST コンテナの MESSAGE_ARCHIVE_DIVISION_SIZE キー) に指定するサイズと同じ値を指定する。

! 注意事項

[DABroker 動作環境設定] ダイアログで指定する HiRDB の BLOB 型データ受取バッファサイズの単位はバイトですが、MSH 実行環境定義ファイル (PERSIST コンテナの MESSAGE_ARCHIVE_DIVISION_SIZE キー) の単位は KB です。

例えば MSH 実行環境定義ファイル (PERSIST コンテナの MESSAGE_ARCHIVE_DIVISION_SIZE キー) に指定したサイズが 1,024KB の場合は、値に $1024 \times 1024=1048576$ を指定してください。

3. [DABroker 動作環境設定] ダイアログでの必要事項の設定が終わったら、[OK] ボタンをクリックしてダイアログを閉じる。

3.4.2 HiRDB Type4 JDBC Driver の環境設定 (UNIX の場合)

UNIX の場合に使用する、HiRDB Type4 JDBC Driver の環境設定の方法について説明します。

CLASSPATH 環境変数に次の行を追加してください。

HiRDB/Single Server を使用する場合

```
/opt/HiRDB_S/client/lib/pdjdbc2.jar
```

HiRDB/Parallel Server を使用する場合

```
/opt/HiRDB_P/client/lib/pdjdbc2.jar
```

HiRDB/Run Time を使用する場合

```
/opt/HiRDB/client/lib/pdjdbc2.jar
```

3.5 Hitachi Web Server の環境設定

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムの Web サーバである、Hitachi Web Server の環境設定をします。ここで説明する以外の Hitachi Web Server の環境設定については、マニュアル「Cosminexus システム構築ガイド」を参照してください。

3.5.1 Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) の設定

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムで Hitachi Web Server を使用するためには、Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) を編集する必要があります。Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) は、次のディレクトリに格納されています。

- Windows の場合
 <Cosminexusのインストールディレクトリ>\¥httpsd¥conf
- UNIX の場合
 /opt/hitachi/httpsd/conf

(1) リダイレクタの設定

リダイレクタの設定をします。Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) のいちばん下に、次の行を追加してください。

- Windows の場合

```
Include "<Cosminexusのインストールディレクトリ>/CC/web/redirector/mod_jk.conf"
```

- UNIX の場合

```
Include /opt/Cosminexus/CC/web/redirector/mod_jk.conf
```

(2) 受信メッセージのリクエストボディに関する制限設定

受信メッセージのリクエストボディに関する制限設定をします。

uCosminexus Message Service for ebXML では、MSH 実行環境定義ファイルで通信するペイロードの上限数およびサイズを設定しています。ただし受信時は、uCosminexus Message Service for ebXML の不要な受信処理を減らすために、Hitachi Web Server 側でもリクエストボディの制限設定をすることを強く推奨します。

Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) 内の任意の場所に、受信メッセージのリクエストボディの制限値を次の説明に従って設定してください。

対象ディレクティブ

LimitRequestBody

設定内容

"LimitRequestBody" のあとに 0 ~ 2147483647 の値を指定します。指定する値の単位はバイトです。デフォルト値は 0 です。値を 0 にしたままの場合、受信メッセージのリクエストボディが制限されません。リクエストボディの制限値の設定例を次に示します。

```
LimitRequestBody 10547200
```

3.5.2 SSL に関する設定

暗号化通信 (SSL サーバ認証) をする場合、サーバ証明書に関する Hitachi Web Server の環境設定が必要です。SSL に関する設定の詳細については、「3.9 セキュリティ環境の構築 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))」を参照してください。

3.5.3 動作確認

Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) の編集を終えたら、必ず Hitachi Web Server の起動確認、およびブラウザからの Hitachi Web Server へのアクセス確認をしてください。

暗号化通信 (SSL サーバ認証) をしている場合は、HTTPS プロトコルでのアクセス確認をしてください。

3.6 uCosminexus Application Server の環境設定

ここでは、uCosminexus Message Service for ebXML が使用する J2EE サーバを新しくセットアップし、必要な環境設定をする方法について説明します。uCosminexus Application Server の環境設定は、ここで説明する手順のとおりに行ってください。

uCosminexus Application Server の環境設定の詳細については、マニュアル「Cosminexus システム構築ガイド」を参照してください。

！ 注意事項

uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションをインストールした J2EE サーバ環境には、uCosminexus Message Service for ebXML 以外のアプリケーションを構築しないでください。uCosminexus Application Server 上でほかの J2EE アプリケーションを作成する場合は、uCosminexus Message Service for ebXML のサーバ名称（デフォルトは "ebxml"）以外の名称を使用し、異なる J2EE サーバ環境で作成してください。

なお、uCosminexus Application Server の環境設定で使用する J2EE サーバのコマンドの引数には、サーバ名称として必ずデフォルトの "ebxml" を指定してください。ただし、運用上 "ebxml" をサーバ名称に指定できない場合は、任意の名称を指定します。この場合、次に示す定義ファイルおよびコマンドに、指定したサーバ名称を設定する必要があります。

- MSH 実行環境定義ファイル（END_POINT コンテナの MESSAGE_SERVICE キー）
- MSH 実行環境定義ファイル（MSH_SEND_TIMER コンテナおよび MSH_NOTIFYAP_TIMER コンテナの DESTINATION_NAME キー）
- J2EE サーバ & MSH アプリケーション起動コマンド
- J2EE サーバ & MSH アプリケーション停止コマンド

3.6.1 J2EE サーバのセットアップ

uCosminexus Application Server の J2EE サーバのセットアップコマンド（cjsetup）を実行して、J2EE サーバをセットアップします。引数に指定するサーバ名称には、"ebxml" を指定してください。

3.6.2 uCosminexus Application Server の定義ファイルの編集

uCosminexus Application Server の定義ファイルのうち、編集する必要があるものについて説明します。

ここでの説明はすべて、J2EE サーバに指定したサーバ名称が "ebxml" であることを前提にしています。J2EE サーバに指定したサーバ名称が "ebxml" でない場合、格納場所を示すディレクトリの末尾にある "ebxml" を、指定したサーバ名称に置き換えてください。

(1) ユーザープロパティファイル

ファイル名

usrconf.properties

格納場所

- Windows の場合

<Cosminexus のインストールディレクトリ >¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥ebxml

- UNIX の場合

/opt/Cosminexus/CC/server/usrconf/ejb/ebxml

編集内容

ファイルのいちばん下に次の行を追加してください。Windows の場合、"/" を "¥¥" に置き換えた形式でも追加できます。

- Windows の場合

```
ejbserver.jta.TransactionManager.defaultTimeout=1800
ebxml.install.dirpath=<uCosminexus Message Service for ebXMLインストールディレクトリ>
```

- UNIX の場合

```
ejbserver.jta.TransactionManager.defaultTimeout=1800
ebxml.install.dirpath=/opt/ebxml/msh
```

また、uCosminexus Application Server Enterprise 07-00 以降を使用していて、かつ CTM の機能を使用しない場合、ファイルの内容を次のとおり編集してください。

```
# CTM settings
#ejbserver.ctm.enabled=true
ejbserver.ctm.enabled=false
#ejbserver.ctm.CTMDomain=
#ejbserver.ctm.CTMID=
```

! 注意事項

Windows の場合、uCosminexus Message Service for ebXML インストールディレクトリ名に 2 バイト文字が含まれるときは、Cosminexus 付属の JDK の native2ascii コマンドで変換後の値を入れる必要があります。

【例】

uCosminexus Message Service for ebXML インストールディレクトリが "C:¥ebXML ディレクトリ" の場合、ユーザープロパティファイルには次の行を追加します。

3. システムの構築

```
ebxml.install.dirpath=C:/ebXML\u30c7\u30a3\u30ec\u30af\u30c8\u30ea
```

(2) J2EE サーバ用オプション定義ファイル

ファイル名

usrconf.cfg

格納場所

- Windows の場合
<Cosminexus のインストールディレクトリ>\¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥ebxml
- UNIX の場合
/opt/Cosminexus/CC/server/usrconf/ejb/ebxml

編集内容

- Windows の場合
ファイルのいちばん下に次の行を追加してください。

```
add.class.path=<program files>\hitachi\HNTRLib2¥classes¥hntrlibMj.jar
```

- UNIX の場合
ファイルのいちばん下に次の行を追加してください。

```
add.class.path=/opt/hitachi/HNTRLib2/classes/hntrlibMj64.jar
```

また、次の内容を編集してください。
HiRDB/Single Server を使用する場合

```
add.class.path=/opt/HiRDB_S/client/lib/pdjdbc2.jar
```

HiRDB/Parallel Server を使用する場合

```
add.class.path=/opt/HiRDB_P/client/lib/pdjdbc2.jar
```

HiRDB/Run Time を使用する場合

```
add.class.path=/opt/HiRDB/client/lib/pdjdbc2.jar
```

(3) セキュリティポリシーファイル

ファイル名

server.policy

格納場所

- Windows の場合
<Cosminexus のインストールディレクトリ>\¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥ebxml

- UNIX の場合

/opt/Cosminexus/CC/server/usrconf/ejb/ebxml

編集内容

ファイルに記述されている内容のうち、JSP/Servlet のクラスファイル、およびクラスファイル全体についての内容を次のとおりに修正してください。

```
//
// Grant permissions to JSP/Servlet
//
grant codeBase "file:${ejbserver.http.root}/web/${ejbserver.serverName}/-" {
    permission java.lang.RuntimePermission "loadLibrary.*";
    permission java.lang.RuntimePermission "queuePrintJob";
    permission java.net.SocketPermission "*", "connect";
    permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>", "read, write,
delete";
    permission java.util.PropertyPermission "*", "read";
};

//
// Grant minimal permissions to everything else:
//     EJBs
//     client implementation classes
grant {
    permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>", "read, write, delete,
execute";
    permission java.util.PropertyPermission "*", "read";
    permission java.lang.RuntimePermission "queuePrintJob";
    permission java.net.SocketPermission "*", "connect";
};
```

(4) Hitachi Web Server 用リダイレクタ動作定義ファイル

ファイル名

mod_jk.conf

格納場所

- Windows の場合
<Cosminexus のインストールディレクトリ>%CC%web¥redirector
- UNIX の場合
<opt/Cosminexus/CC/web/redirector

編集内容

ファイルのいちばん下に次の行を追加してください。

```
JkMount /ebxml/* worker1
```

(5) 保護区リストファイル

uCosminexus Application Server で次の機能を使用する場合に設定します。

- 業務アプリケーションの実行時間監視
- 業務アプリケーションの強制停止
- 業務アプリケーションのリデプロイ

3. システムの構築

ファイル名

criticalList.cfg

格納場所

- Windows の場合
<Cosminexus のインストールディレクトリ>¥CC¥server¥usrconf
- UNIX の場合
/opt/Cosminexus/CC/server/usrconf

編集内容

ファイルのいちばん下に次の行を追加してください。

```
jp.co.hitachi.soft.ebxml.common.trace.*  
jp.co.hitachi.soft.ebxml.msh.core.msgdef.MessagingDefinitionManager  
jp.co.hitachi.soft.ebxml.msh.core.security.signature.XMLDSignature
```

3.6.3 HiRDB のクライアント環境変数の設定

HiRDB のクライアント環境変数の設定をします。

なお、HiRDB のクライアント環境変数の設定をするときに使用する値と、MSH 実行環境定義ファイルに指定する値とを合わせる必要がある個所があります。MSH 実行環境定義ファイルの詳細については、「7.4 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)」を参照してください。

(1) Windows の場合

HiRDB クライアント環境変数登録ツールを起動して HiRDB のクライアント環境変数の設定をします。次に示す項目を、追加登録してください。

グループ名称

MSHGRP を指定します。

PDCLTPATH

SQL トレースファイルを出力する場合にだけ、HiRDB の SQL トレースファイル、およびエラーログファイルの格納先ディレクトリを指定します。

SQL トレースファイルは、通常は出力する必要がありません。そのため、通常は PDCLTPATH の指定も必要ありません。

なお、SQL トレースファイルを出力する場合、PDSQLTRACE で SQL トレースファイルのサイズも指定してください。

PDHOST

HiRDB がインストールされているマシンのホスト名を指定します。ホスト名は任意ですが、localhost として設定しないでください。

PDUSER 設定

- ユーザ ID

- データベースに接続するユーザーのユーザー ID を指定します。
- パスワード
データベースに接続するユーザーのパスワードを指定します。

PDNAMEPORT

HiRDB のポート番号を指定します。

PDSQLTRACE

SQL トレースファイルを出力する場合にだけ、出力する SQL トレースファイルのサイズを指定します。SQL トレースファイルのサイズは、0 または 4096 ~ 2000000000 (バイト) の範囲で指定します。0 を指定した場合、OS で出力できるファイルサイズの最大値が設定されます。指定しない場合は、SQL トレースファイルは出力されません。
なお、SQL トレースファイルを出力する場合は、PDCLTPATH も指定してください。

PDSWAITTIME

0 を指定します。

PDCWAITTIME

1800 を指定します。

PDSWATCHTIME

0 を指定します。

そのほかの環境変数

次に示す環境変数を、追加指定してください。

PDIPC

MEMORY を指定します。

PDRECVMEMSIZE

次の計算式で求めた値を指定します。

<MSH実行環境定義ファイル (PERSIST コンテナの MESSAGE_ARCHIVE_DIVISION_SIZE キー) に指定した値> + 64

(2) UNIX の場合

uCosminexus Message Service for ebXML が提供するクライアント環境変数ファイルのサンプルファイル (/opt/ebxml/msh/sample/db/conf/HiRDB.ini) を、HiRDB インストールディレクトリの任意の場所 (/HiRDB/Client/HiRDB.ini など) に Cosminexus の実行ユーザーが参照できる権限でコピーしたあと、次の項目を編集してください。

PDCLTPATH

SQL トレースファイルを出力する場合にだけ、HiRDB の SQL トレースファイル、およびエラーログファイルの格納先ディレクトリを指定します。

3. システムの構築

SQL トレースファイルは、通常は出力する必要がありません。そのため、通常は PDCLTPATH の指定も必要ありません。

なお、SQL トレースファイルを出力する場合、PDSQLTRACE で SQL トレースファイルのサイズも指定してください。

PDHOST

HiRDB がインストールされているマシンのホスト名を指定します。ホスト名は任意ですが、localhost として設定しないでください。

PDUSER

データベースに接続するユーザーのユーザー ID とパスワードを指定します。

PDNAMEPORT

HiRDB のポート番号を指定します。

PDSQLTRACE

SQL トレースファイルを出力する場合にだけ、出力する SQL トレースファイルのサイズを指定します。SQL トレースファイルのサイズは、0 または 4096 ~ 2000000000 (バイト) の範囲で指定します。0 を指定した場合、OS で出力できるファイルサイズの最大値が設定されます。指定しない場合は、SQL トレースファイルは出力されません。

なお、SQL トレースファイルを出力する場合は、PDCLTPATH も指定してください。

PDSWAITTIME

0 を指定します。

PDCWAITTIME

1800 を指定します。

PDSWATCHTIME

0 を指定します。

PDIPC

MEMORY を指定します。

PDRECVMEMSIZE

次の計算式で求めた値を指定します。

<MSH実行環境定義ファイル (PERSIST コンテナの MESSAGE_ARCHIVE_DIVISION_SIZE キー) に指定した値> + 64

3.6.4 J2EE サーバの起動

このあとの構築をするために、J2EE サーバを起動します。ここで示す Cosminexus のコマンドについては、マニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」を参照してください。

Cosminexus の J2EE サーバ起動コマンド (cjstartsv) を実行し、J2EE サーバを起動します。引数に指定するサーバ名称には、"ebxml" を指定してください。

3.6.5 DB Connector の環境設定 (Windows の場合)

リソースアダプタである DB Connector の環境設定方法について説明します。DB Connector の設定は、Cosminexus のサーバ管理コマンドを使用します。サーバ管理コマンドの操作方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。コマンドの詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」を参照してください。属性ファイルの詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」を参照してください。

また、DB Connector の環境設定をするときに使用する値と、MSH 実行環境定義ファイルに指定する値とを合わせる必要がある個所があります。MSH 実行環境定義ファイルの詳細については、「7.4 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)」を参照してください。

(1) DB Connector のインポート

uCosminexus Application Server に DB Connector をインポートします。リソースのインポートコマンド (cjimportres) を実行し、次のファイルをインポートしてください。引数に指定するサーバ名称には、"ebxml" を指定してください。

```
<Cosminexus のインストールディレクトリ
>¥CC¥DBConnector¥DBConnector_DABJ_CP.rar
```

(2) DB Connector のプロパティ定義

DB Connector のプロパティ定義の手順を次に示します。コマンドの引数に指定するサーバ名称には、"ebxml" を指定してください。

1. インポートした DB Connector の表示名を確認します。
DB Connector をインポートすると、DB Connector の表示名 (resname) が自動的に設定されます。リソースの一覧表示コマンド (cjlistres) を実行し、DB Connector の表示名を確認してください。
2. DB Connector の属性ファイル (Connector 属性ファイル) を取得します。
DB Connector のプロパティを定義するために、リソースの属性取得コマンド (cjgetresprop) を実行し、DB Connector の Connector 属性ファイルを取得してください。
3. Connector 属性ファイルを編集し、DB Connector のプロパティを定義します。
取得した Connector 属性ファイルをテキストエディタで編集し、プロパティを定義してください。
uCosminexus Message Service for ebXML を使用する場合に設定する項目を次の表に

3. システムの構築

示します。ほかの項目については、設定不要です。

表 3-6 DB Connector のプロパティの定義内容

項番	項目	対応する Connector 属性 ファイルのタグ	設定内容
1	DB Connector の名称	<display-name> タグ	プロパティの値として、 "MSHDB" を指定します。
2	DABroker Library との接続 種別	<config-property> タグの networkProtocol	プロパティの値として、"lib" を 指定します。
3	接続するデータベース種別	<config-property> タグの databaseName	プロパティの値として、 "HIRDB" を指定します。
4	接続するデータベースに必要な 接続付加情報	<config-property> タグの description	プロパティの値として、 "@DABENVGRP=MSHGRP" を 指定します。
5	Cosminexus DABroker Library からの受信データの バッファ長	<config-property> タグの bufSize	プロパティの値として、MSH 実行 環境定義 (PERSIST コンテナ の MESSAGE_ARCHIVE_DIVISIO N_SIZE キー) に指定したサイズ に、1 を足した値を指定します。 例えば、MSH 実行環境定義 (PERSIST コンテナの MESSAGE_ARCHIVE_DIVISIO N_SIZE キー) に指定した値が 1024 であれば、1025 を指定しま す。
6	コネクションプールにプール するコネクションの最大値	<property> タグの MaxPoolSize	プロパティの値として、「3.3.1(1) データベース接続数」で見積 もった、データベースへの最大接 続数を指定します。
7	コネクションプールにプール するコネクションの最小値	<property> タグの MinPoolSize	プロパティの値として、「3.3.1(1) データベース接続数」で見積 もった、データベースへの最大接 続数から 5 を引いた値を指定しま す。
8	データベースに接続するユー ザーのユーザー ID	<property> タグの User	プロパティの値として、「3.6.3 HiRDB のクライアント環境変数 の設定」の PDUSER 設定で指定 したユーザー ID を指定します。
9	データベースに接続するユー ザーのパスワード	<property> タグの Password	プロパティの値として、「3.6.3 HiRDB のクライアント環境変数 の設定」の PDUSER 設定で指定 したパスワードを指定します。

4. Connector 属性ファイルに定義したプロパティを、DB Connector に設定します。
リソースの属性設定コマンド (cjsresprop) を実行し、Connector 属性ファイルに
定義したプロパティを DB Connector に反映させてください。

(3) DB Connector の J2EE サーバへのデプロイ

登録・設定した DB Connector を、J2EE サーバへデプロイします。コマンドの引数に指定するサーバ名称には、"ebxml" を指定してください。

1. DB Connector をデプロイします。
リソースアダプタのデプロイコマンド (cjdeployrar) を実行し、DB Connector を J2EE サーバにデプロイしてください。
2. DB Connector の接続テストを実施します。
リソースの接続テストコマンド (cjtestres) を実行し、接続テストを実施してください。
3. DB Connector を開始します。
リソースアダプタの開始コマンド (cjstartrar) を実行し、DB Connector を正しく開始できるか確認してください。

3.6.6 DB Connector の環境設定 (UNIX の場合)

リソースアダプタである DB Connector の UNIX の場合の環境設定方法について説明します。DB Connector の設定は、Cosminexus のサーバ管理コマンドを使用します。サーバ管理コマンドの操作方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。コマンドの詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」を参照してください。属性ファイルの詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」を参照してください。

(1) DB Connector のインポート

uCosminexus Application Server に DB Connector をインポートします。リソースのインポートコマンド (cjimportres) を実行し、次のファイルをインポートしてください。コマンドの引数に指定するサーバ名称には、"ebxml" を指定してください。

```
/opt/Cosminexus/CC/DBConnector/DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar
```

(2) DB Connector のプロパティ定義

DB Connector のプロパティ定義の手順を次に示します。コマンドの引数に指定するサーバ名称には、"ebxml" を指定してください。

1. インポートした DB Connector の表示名を確認します。
DB Connector をインポートすると、DB Connector の表示名 (resname) が自動的に設定されます。リソースの一覧表示コマンド (cjlistres) を実行し、DB Connector の表示名を確認してください。
2. DB Connector の属性ファイル (Connector 属性ファイル) を取得します。
DB Connector のプロパティを定義するために、リソースの属性取得コマンド

3. システムの構築

(cjgetresprop) を実行し、DB Connector の Connector 属性ファイルを取得してください。

- Connector 属性ファイルを編集し、DB Connector のプロパティを定義します。
取得した Connector 属性ファイルをテキストエディタで編集し、プロパティを定義してください。
uCosminexus Message Service for ebXML を使用する場合に設定する項目を次の表に示します。ほかの項目については、設定不要です。

表 3-7 DB Connector のプロパティの定義内容

項番	項目	対応する Connector 属性ファイルのタグ	設定内容
1	DB Connector の名称	<display-name> タグ	プロパティの値として、"MSHDB" を指定します。
2	接続するデータベースに必要な接続付加情報	<config-property> タグの description	プロパティの値として、クライアント環境変数ファイルのパスを指定します。クライアント環境変数ファイルについては、「3.6.3(2) UNIX の場合」を参照してください。
3	LONGVARBINARY のデータベースアクセス方法	<config-property> タグの LONGVARBINARY_Access	プロパティの値として、"LOCATOR" を指定します。
4	コネクションプールにプールするコネクションの最大値	<property> タグの MaxPoolSize	プロパティの値として、「3.3.1(1) データベース接続数」で見積もった、データベースへの最大接続数を指定します。
5	コネクションプールにプールするコネクションの最小値	<property> タグの MinPoolSize	プロパティの値として、「3.3.1(1) データベース接続数」で見積もった、データベースへの最大接続数から 5 を引いた値を指定します。
6	データベースに接続するユーザーのユーザー ID	<property> タグの User	プロパティの値として、「3.6.3 HiRDB のクライアント環境変数の設定」の PDUSER 設定で指定したユーザー ID を指定します。
7	データベースに接続するユーザーのパスワード	<property> タグの Password	プロパティの値として、「3.6.3 HiRDB のクライアント環境変数の設定」の PDUSER 設定で指定したパスワードを指定します。

- Connector 属性ファイルに定義したプロパティを、DB Connector に設定します。
リソースの属性設定コマンド (cjsetresprop) を実行し、Connector 属性ファイルに定義したプロパティを DB Connector に反映させてください。

(3) DB Connector の J2EE サーバへのデプロイ

登録・設定した DB Connector を、J2EE サーバへデプロイします。以下のコマンドの引数に指定するサーバ名称には、"ebxml" を指定してください。

1. DB Connector をデプロイします。
リソースアダプタのデプロイコマンド (cjdeployrar) を実行し、DB Connector を J2EE サーバにデプロイしてください。
2. DB Connector の接続テストを実施します。
リソースの接続テストコマンド (cjtestres) を実行し、接続テストを実施してください。
3. DB Connector を開始します。
リソースアダプタの開始コマンド (cjstartrar) を実行し、DB Connector を正しく開始できるか確認してください。

3.6.7 J2EE アプリケーションのデプロイ

uCosminexus Message Service for ebXML が提供する J2EE アプリケーションのデプロイについて説明します。アプリケーションのデプロイは、Cosminexus のサーバ管理コマンドを使用して行います。サーバ管理コマンドの操作方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。属性ファイルの詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」を参照してください。

! 注意事項

UOC を使用してビジネスメッセージの情報を通知する場合、UOC 実装クラスをあらかじめ uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーション (hebxmlmshapp.ear) に追加しておいてください。UOC の実装手順の詳細については、「8.2 UOC の実装」を参照してください。

また、すでにデプロイしたアプリケーションに UOC 実装クラスを追加登録する場合、デプロイしたアプリケーションをサーバ管理コマンドで削除してから再デプロイする必要があります。次の手順で再デプロイしてください。

1. uCosminexus Message Service for ebXML システムを停止する。
uCosminexus Message Service for ebXML システムの停止方法については、「4.2 uCosminexus Message Service for ebXML システムの停止」を参照してください。
2. J2EE サーバを起動する。
J2EE サーバの起動方法については、「3.6.4 J2EE サーバの起動」を参照してください。
3. デプロイしたアプリケーションを停止する。
J2EE アプリケーション停止コマンド (cjstopapp) を使用します。
なお、引数に指定するサーバ名称には、"ebxml" を指定し、J2EE アプリケーション名には、"MSH" と "MSHgui" をそれぞれ指定してください。
4. デプロイしたアプリケーションを削除する。
J2EE アプリケーション削除コマンド (cjdeleteapp) を使用します。
なお、引数に指定するサーバ名称には、"ebxml" を指定し、J2EE アプリケーション名には、"MSH" と "MSHgui" をそれぞれ指定してください。
5. UOC 実装クラスを追加登録したアプリケーションを再デプロイする。
この項から「3.6.9 J2EE サーバの停止」までで説明する手順を行ってください。
6. uCosminexus Message Service for ebXML システムを起動する。
uCosminexus Message Service for ebXML システムの起動方法については、「4.1 uCosminexus Message Service for ebXML システムの起動」を参照してください。

(1) アプリケーションのインポート

J2EE アプリケーションのインポートコマンド (cjimportapp) を実行し、uCosminexus Application Server に uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションをインポートしてください。なお、引数に指定するサーバ名称には、"ebxml" を指定してください。

インポートするアプリケーションは、次の場所にあります。

- Windows の場合
`<uCosminexus Message Service for ebXMLインストールディレクトリ>\lib`
- UNIX の場合
`/opt/ebxml/msh/lib`

インポートするアプリケーションを、次に示します。

- hebxmlmshapp.ear

ビジネスメッセージの送受信に関するアプリケーション（ビジネスメッセージ送受信アプリケーション）です。

J2EE アプリケーション名は、"MSH" です。

- hebxmlmshgui.ear

運用支援 GUI に関するアプリケーション（状況照会アプリケーション）です。

J2EE アプリケーション名は、"MSHgui" です。

（２）アプリケーションとリソースアダプタの関連づけ

インポートしたアプリケーションそれぞれを、DB Connector のリソースアダプタに関連づけます。リソースアダプタの関連づけの手順を次に示します。

1. 各アプリケーションの属性ファイルを取得します。

各アプリケーションのプロパティを定義するために、アプリケーションの属性取得コマンド（cjgetappprop）を実行して、属性ファイル（Session Bean 属性ファイル、および WAR 属性ファイル）を取得してください。ここでは、Windows の場合の実行例を示します。なお、"-c" 以外の引数は変更しないでください。

- メッセージサービスの Session Bean 属性ファイル

属性ファイルを "C:¥prop¥MessageService_Prop.xml" に出力する場合の実行例を次に示します。

```
cjgetappprop ebxml -name MSH -type ejb -resname MessageService/
MessageService -c C:¥prop¥MessageService_Prop.xml
```

- 送信タイマー受付の Session Bean 属性ファイル

属性ファイルを "C:¥prop¥SendTimerAdapterEJB_Prop.xml" に出力する場合の実行例を次に示します。

```
cjgetappprop ebxml -name MSH -type ejb -resname MessageService/
SendTimerAdapterEJB -c C:¥prop¥SendTimerAdapterEJB_Prop.xml
```

- AP 通知タイマー受付の Session Bean 属性ファイル

属性ファイルを "C:¥prop¥NotifyApTimerAdapterEJB_Prop.xml" に出力する場合の実行例を次に示します。

```
cjgetappprop ebxml -name MSH -type ejb -resname MessageService/
NotifyApTimerAdapterEJB -c
C:¥prop¥NotifyApTimerAdapterEJB_Prop.xml
```

- ビジネスメッセージ受信の WAR 属性ファイル

属性ファイルを "C:¥prop¥MSH-Receive_Prop.xml" に出力する場合の実行例を次に示します。

```
cjgetappprop ebxml -name MSH -type war -resname MSH-Receive -c
C:¥prop¥MSH-Receive_Prop.xml
```

- 運用支援 GUI の WAR 属性ファイル

属性ファイルを "C:¥prop¥MSHgui_Prop.xml" に出力する場合の実行例を次に示します。

```
cjgetappprop ebxml -name MSHgui -type war -resname MSHgui -c
```

3. システムの構築

C:¥prop¥MSHgui_Prop.xml

2. 属性ファイルを編集し、プロパティを定義します。

取得した Session Bean 属性ファイル, および WAR 属性ファイルをテキストエディタで編集し, プロパティを定義してください。

<resource-ref> タグ下の <linked-to> タグに, 「3.6.5(2) DB Connector のプロパティ定義」で指定した DB Connector の名称を指定します。

DB Connector の名称に "MSHDB" を指定した場合の指定例を示します。

```
<resource-ref>
  <description xml:lang="en"></description>
  <res-ref-name>jdbc/mshdb</res-ref-name>
  <res-type>javax.sql.DataSource</res-type>
  <res-auth>Container</res-auth>
  <res-sharing-scope></res-sharing-scope>
  <linked-to>MSHDB</linked-to>
</resource-ref>
```

なお, uCosminexus Message Service for ebXML では, ビジネスメッセージ送受信アプリケーションと状況照会アプリケーションで, 同じリソースアダプタを使用します。

3. 属性ファイルに定義したプロパティを, アプリケーションに設定します。

アプリケーションの属性設定コマンド (cjsetappprop) を実行して, 属性ファイルに定義したプロパティを各アプリケーションに反映させてください。ここでは, Windows の場合の実行例を示します。なお, "-c" 以外の引数は変更しないでください。

• メッセージサービスの Session Bean 属性ファイル

属性ファイルとして, "C:¥prop¥MessageService_Prop.xml" から入力する場合の実行例を次に示します。

```
cjsetappprop ebxml -name MSH -type ejb -resname MessageService/
MessageService -c C:¥prop¥MessageService_Prop.xml
```

• 送信タイマー受付の Session Bean 属性ファイル

属性ファイルとして, "C:¥prop¥SendTimerAdapterEJB_Prop.xml" から入力する場合の実行例を次に示します。

```
cjsetappprop ebxml -name MSH -type ejb -resname MessageService/
SendTimerAdapterEJB -c C:¥prop¥SendTimerAdapterEJB_Prop.xml
```

• AP 通知タイマー受付の Session Bean 属性ファイル

属性ファイルとして, "C:¥prop¥NotifyApTimerAdapterEJB_Prop.xml" から入力する場合の実行例を次に示します。

```
cjsetappprop ebxml -name MSH -type ejb -resname MessageService/
NotifyApTimerAdapterEJB -c
C:¥prop¥NotifyApTimerAdapterEJB_Prop.xml
```

• ビジネスメッセージ受信の WAR 属性ファイル

属性ファイルとして, "C:¥prop¥MSH-Receive_Prop.xml" から入力する場合の実行例を次に示します。

```

cjsetappprop ebxml -name MSH -type war -resname MSH-Receive -c
C:¥prop¥MSH-Receive_Prop.xml

```

- 運用支援 GUI の WAR 属性ファイル
属性ファイルとして, "C:¥prop¥MSHgui_Prop.xml" から入力する場合の実行例を次に示します。

```

cjsetappprop ebxml -name MSHgui -type war -resname MSHgui -c
C:¥prop¥MSHgui_Prop.xml

```

(3) アプリケーションのデプロイと開始

J2EE アプリケーションの開始コマンド (cjstartapp) を実行し, インポートしたアプリケーションそれぞれが正しく開始できるか確認してください。なお, 引数に指定するサーバ名称には, "ebxml" を指定し, J2EE アプリケーション名には, "MSH" と "MSHgui" をそれぞれ指定してください。

3.6.8 EJB スタブファイルのダウンロード

「3.6.7 J2EE アプリケーションのデプロイ」までの設定がすべて完了したら, uCosminexus Message Service for ebXML の EJB スタブダウンロードコマンドを実行し, EJB に対するスタブファイルを取得します。EJB スタブダウンロードコマンドの詳細については, 「9.3 システム構築・運用コマンド」の StubDownload を参照してください。

3.6.9 J2EE サーバの停止

uCosminexus Application Server の設定が完了したら, uCosminexus Message Service for ebXML の環境設定をする前に J2EE サーバを停止してください。

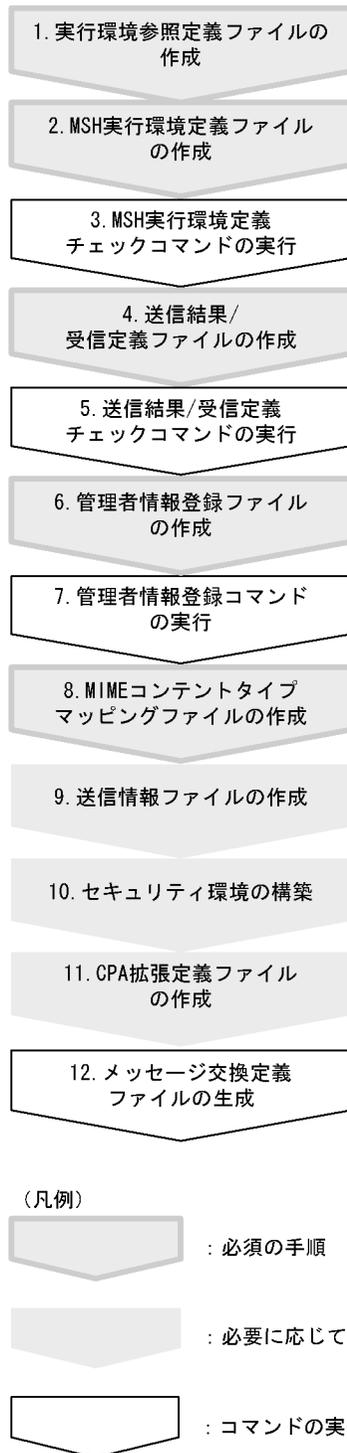
J2EE サーバ停止コマンド (cjstopsv コマンド) を実行し, J2EE サーバを停止します。引数に指定するサーバ名称には, "ebxml" を指定してください。

3.7 uCosminexus Message Service for ebXML の環境設定

uCosminexus Message Service for ebXML の環境設定での定義ファイルの作成方法，およびコマンドの実行タイミングについて説明します。uCosminexus Message Service for ebXML の定義ファイルの詳細については「7. 定義ファイル」を，uCosminexus Message Service for ebXML のコマンドの詳細については「9. コマンドリファレンス」を参照してください。

次の手順で uCosminexus Message Service for ebXML の環境設定をしてください。

図 3-3 uCosminexus Message Service for ebXML の環境設定の手順



3.7.1 実行環境参照定義ファイルの作成

実行環境参照定義ファイルを作成して、uCosminexus Message Service for ebXML が稼働する MSH 実行環境が構築されるディレクトリを定義します。

実行環境参照定義ファイルで MSH 実行環境のディレクトリを定義する前に、実際に指定するディレクトリを作成しておいてください。

また、実行環境参照定義ファイルでは、uCosminexus Message Service for ebXML のシステムが出力する共通トレースの情報について定義できます。トレース情報の定義は任意です。

MSH 実行環境参照定義ファイルの詳細については、「7.3 実行環境参照定義ファイル (mshenvrefs.xml)」を参照してください。

3.7.2 MSH 実行環境定義ファイルの作成

MSH 実行環境定義ファイルとは、MSH 実行環境について定義をするファイルです。MSH 実行環境定義ファイルを作成して、uCosminexus Message Service for ebXML の動作にかかわる主な定義をします。

次のサンプルファイルを、定義ファイルの格納ディレクトリにコピーして編集してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXMLのインストールディレクトリ  
>¥sample¥conf¥mshenv.xml
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/sample/conf/mshenv.xml
```

MSH 実行環境定義ファイルの詳細については、「7.4 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)」を参照してください。

3.7.3 MSH 実行環境定義チェックコマンドの実行

MSH 実行環境定義チェックコマンドを実行して、実行環境参照定義ファイル、および MSH 実行環境定義ファイルで定義した内容に誤りがないかどうかを確認します。

コマンドを実行して定義内容に関するエラーが出力された場合は、定義した内容を見直して修正してください。そして、エラーが出力されなくなるまで繰り返し実行してください。

MSH 実行環境定義チェックコマンドの詳細については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHCheckConfig を参照してください。

3.7.4 送信結果 / 受信定義ファイルの作成

送信結果 / 受信定義ファイルとは、JP1 または UOC でビジネスメッセージ情報の通知を受けるための定義、および受信したペイロードを出力・格納するための定義をするファイルです。送信結果 / 受信定義ファイルを作成して、ビジネスメッセージの送信結果の通知方法や、受信時の uCosminexus Message Service for ebXML の動作を定義します。

次のサンプルファイルを定義ファイルの格納ディレクトリにコピーして編集してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXMLのインストールディレクトリ
>%sample%\conf\rcvdef.xml
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/sample/conf/rcvdef.xml
```

送信結果 / 受信定義ファイルの詳細については、「7.5 送信結果 / 受信定義ファイル (rcvdef.xml)」を参照してください。

ここでは、次に挙げる項目について説明します。

- 受信メッセージ格納ディレクトリの構成
ペイロードを受信メッセージ格納ディレクトリに格納する場合、ユーザーはどのようなディレクトリ構成にするかを決めておく必要があります。
- 受信メッセージ格納ディレクトリに格納されるペイロードのファイル名、およびビジネスメッセージ別ディレクトリの名称
各名称は、uCosminexus Message Service for ebXML が受信時に決定します。

(1) 受信したペイロードの格納に必要なディレクトリ

受信したペイロードの格納に必要なディレクトリを、次に示します。

受信メッセージ格納ディレクトリ

受信したペイロードを格納するディレクトリです。ユーザーは、受信メッセージ格納ディレクトリ下を単一ディレクトリ構成、および階層ディレクトリ構成のどちらにするかを選択できます。単一ディレクトリ構成、および階層ディレクトリ構成の詳細については「3.7.4(2) 受信メッセージ格納ディレクトリの構成」を参照してください。

ファイル出力エラーディレクトリ

受信メッセージ格納ディレクトリにペイロードが格納されなかった場合にペイロードが格納されるディレクトリです。単一ディレクトリ構成、階層ディレクトリ構成のどちらに設定しても、ビジネスメッセージ別のディレクトリにペイロードが格納されません。

ペイロードがファイル出力エラーディレクトリに格納されるのは、次のときです。

- 同じファイル名を持つペイロードファイルがすでに受信メッセージ格納ディレクトリ下にあるとき
- 受信メッセージ格納ディレクトリが、システム管理者に対するアクセス権限を持た

3. システムの構築

ないとき

アクセス権限の状態によっては、受信メッセージが一時停止状態となり、ファイル出力エラーディレクトリに格納されない場合があります。

これらのディレクトリ名やディレクトリの位置は、ユーザーが任意に決めることができます。ユーザーが指定しなかった場合、ディレクトリ構成は次のとおりになります。

MSH 実行環境ディレクトリ

RecvMessage (受信メッセージ格納ディレクトリ)

- 受信したペイロード
- 受信したペイロード

FailedMessage (ファイル出力エラーディレクトリ)

- ビジネスメッセージ別ディレクトリ
 - 受信したペイロード
- ビジネスメッセージ別ディレクトリ
 - 受信したペイロード

(2) 受信メッセージ格納ディレクトリの構成

受信メッセージ格納ディレクトリの構成には、単一ディレクトリ構成と階層ディレクトリ構成の二種類があります。ユーザーはオプション設定を組み合わせることで、ご使用のシステムに最適なディレクトリ構成を設定できます。

(a) 単一ディレクトリ構成

受信メッセージ格納ディレクトリの直下にペイロードを格納する方法です。単一ディレクトリ構成にできるのは、次の条件を満たす場合です。

- 受信したビジネスメッセージのペイロードにファイル名が指定されている。
- 受信したビジネスメッセージ間でファイル名が重複しない。

この条件を満たさない場合、受信メッセージ格納ディレクトリの下にビジネスメッセージ別ディレクトリを作成することで、単一階層ディレクトリにできます。

単一ディレクトリ構成の場合の、受信メッセージ格納ディレクトリの構成例を次に示します。

- ビジネスメッセージ別ディレクトリを作成しない場合

受信メッセージ格納ディレクトリ

受信したペイロード
受信したペイロード
受信したペイロード

- ビジネスメッセージ別ディレクトリを作成する場合

```

受信メッセージ格納ディレクトリ
  ビジネスメッセージ別ディレクトリ
    - 受信したペイロード
    - 受信したペイロード
  ビジネスメッセージ別ディレクトリ
    - 受信したペイロード
    - 受信したペイロード

```

(b) 階層ディレクトリ構成

CPA ファイルに記載されているサービス・アクション名と受信メッセージ格納ディレクトリの名称をマッピングして、各ディレクトリにペイロードを振り分けて格納する方法です。階層ディレクトリの下に、さらにビジネスメッセージ別ディレクトリを作成する構成にもできます。

階層ディレクトリ構成の場合の、受信メッセージ格納ディレクトリの構成例を次に示します。

- サービス名別のディレクトリを作成する構成例

```

受信メッセージ格納ディレクトリ
  Order ( サービス名別ディレクトリ )
  Service

```

この例では、CPA ファイルで "発注" と定義されたサービスと、"Order" というディレクトリとを対応づけています。"発注" というサービスが定義されたペイロードは、Order ディレクトリに格納されます。

サービス名別ディレクトリと対応づけられていないサービス名（この例では "発注" 以外のサービス名）が定義されたペイロードを受信した場合、uCosminexus Message Service for ebXML は "Service" というディレクトリを新規作成して格納ディレクトリとします。"Service" ディレクトリの名称は、ユーザーが任意に指定できます。

- アクション名別のディレクトリを作成する構成例

```

受信メッセージ格納ディレクトリ
  PurchaseOrderRequest ( アクション名別ディレクトリ )
  PurchaseOrderConfirmation ( アクション名別ディレクトリ )
  Action

```

この例では、CPA ファイルで "発注見積もり" と定義されたアクションと "PurchaseOrderRequest" というディレクトリを、"発注確定" と定義されたアクションと "PurchaseOrderConfirmation" というディレクトリを対応づけています。"発注見積もり" というアクションが定義されたペイロードは、PurchaseOrderRequest ディレクトリに格納されます。"発注確定" というアクションが定義されたペイロードは、PurchaseOrderConfirmation ディレクトリに格納されます。

アクション名別ディレクトリと対応づけられていないアクション名（この例では

3. システムの構築

"urchaseOrderRequest""PurchaseOrderConfirmation" 以外のアクション名) が定義されたペイロードを受信した場合、uCosminexus Message Service for ebXML は "Action" というディレクトリを新規作成して格納ディレクトリとします。"Action" ディレクトリの名称はユーザーが任意に指定できます。

- サービス名別ディレクトリの下にアクション名別ディレクトリを作成する構成例

```
受信メッセージ格納ディレクトリ
Order ( サービス名別ディレクトリ )
  PurchaseOrderRequest ( アクション名別ディレクトリ )
  PurchaseOrderConfirmation ( アクション名別ディレクトリ )
  Action
Service
  PurchaseOrderRequest ( アクション名別ディレクトリ )
  PurchaseOrderConfirmation ( アクション名別ディレクトリ )
  Action
```

この例では、前述のサービス名別ディレクトリを作成した構成と、アクション名別ディレクトリを作成した構成とを組み合わせています。

"発注" というサービスおよび "発注見積もり" というアクションが定義されたペイロードは、Order ディレクトリ下の PurchaseOrderRequest ディレクトリに格納されます。"発注" というサービスおよび "発注確定" というアクションが定義されたペイロードは、Order ディレクトリ下の PurchaseOrderConfirmation ディレクトリに格納されます。

また、"発注" というサービスが定義され、"発注見積もり" や "発注確定" 以外のアクションが定義されたペイロードは、Order ディレクトリ下の Action ディレクトリに格納されます。逆に、"発注" 以外のサービスが定義され、"発注見積もり" というアクションが定義されたペイロードは、Service ディレクトリ下の PurchaseOrderRequest ディレクトリに格納されます。

- サービスとアクションを組み合わせディレクトリを作成し、その下にさらにビジネスメッセージ別ディレクトリを作成する構成例

```
受信メッセージ格納ディレクトリ
Order ( サービス名別ディレクトリ )
  PurchaseOrderRequest ( アクション名別ディレクトリ )
    ビジネスメッセージ別ディレクトリ
    ビジネスメッセージ別ディレクトリ
  PurchaseOrderConfirmation ( アクション名別ディレクトリ )
    ビジネスメッセージ別ディレクトリ
    ビジネスメッセージ別ディレクトリ
  Action
Service
  PurchaseOrderRequest ( アクション名別ディレクトリ )
  PurchaseOrderConfirmation ( アクション名別ディレクトリ )
  Action
```

この例では、サービスとアクションを組み合わせディレクトリの下にビジネスメッセージ別ディレクトリを作成していますが、サービス名別ディレクトリだけ、または

アクション名別ディレクトリだけの構成の場合も同様に、ビジネスメッセージ別ディレクトリを作成できます。

(3) 格納されるペイロードのファイル名

ビジネスメッセージ送信時に指定されたファイル名が付けられます。次に示す場合は、uCosminexus Message Service for ebXML によって、適切なファイル名に変更されません。

同一ファイル名のペイロードを複数受信した場合

受信したペイロードのうち、重複しているファイル名の末尾に、ペイロード内の通番として「-XXX」が付けられます。XXX には 001 から 999 までの数字が入ります。例えば、あるビジネスメッセージで payload1.txt というファイルを二つ受信した場合、ファイル名は、payload1.txt-001 および payload1.txt-002 になります。

ファイル名に uCosminexus Message Service for ebXML で使用できない文字が使用されている場合

ファイル名に「¥」、「/」、「:」、「<」、「>」、「|」、「"」、「*」、「?」が使用されている場合、これらの文字は「_」に変換されます。

uCosminexus Message Service for ebXML で使用できない文字を含むファイル名のペイロードをファイル出力エラーとしたい場合は、送信結果 / 受信定義ファイル (RECV_MESSAGE コンテナの FILE_OUT_FORCE キー) の設定をします。

ビジネスメッセージ送信時にファイル名が指定されなかった場合

Payload_[n] というファイル名で格納されます。n は、同一ビジネスメッセージ内でのペイロードに付けられる通番で、1 から順に増えていきます。

(4) ビジネスメッセージ別ディレクトリの名称

uCosminexus Message Service for ebXML によって生成される、永続化メッセージのメッセージングコンテキスト識別子が付けられます。

3.7.5 送信結果 / 受信定義チェックコマンドの実行

送信結果 / 受信定義チェックコマンドを実行して、送信結果 / 受信定義ファイルの定義内容に誤りがないかどうかを確認します。

コマンドを実行して定義内容に関するエラーが出力された場合は、定義した内容を見直して修正してください。そして、エラーが出力されなくなるまで繰り返し実行してください。

送信結果 / 受信定義チェックコマンドの詳細については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHCheckRcvDef を参照してください。

3.7.6 管理者情報登録ファイルの作成

管理者情報登録ファイルを作成して、運用支援 GUI でビジネスメッセージ情報を照会できるユーザーを指定します。

必要に応じて、次のサンプルファイルを定義ファイルの格納ディレクトリにコピーして編集してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXMLのインストールディレクトリ  
>%sample%\conf%\userinfo.csv
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/sample/conf/userinfo.csv
```

管理者情報登録ファイルの詳細については、「7.9 管理者情報登録ファイル」を参照してください。

3.7.7 管理者情報登録コマンドの実行

管理者情報登録コマンドを実行して、作成した管理者情報登録ファイルのユーザー情報を、データベースに登録します。

管理者情報登録コマンドの詳細については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHRegisterUser を参照してください。

3.7.8 MIME コンテントタイプマッピングファイルの作成

MIME コンテントタイプマッピングファイルとは、送信メッセージに添付するペイロードの拡張子と、送信時に使用する MIME のコンテントタイプをマッピングさせるファイルです。MIME コンテントタイプマッピングファイルを作成して、送信するペイロードファイルの拡張子と MIME コンテントタイプとのマッピングをします。

次のサンプルファイルを定義ファイルの格納ディレクトリにコピーしてください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXMLのインストールディレクトリ  
>%sample%\conf%\mime.types
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/sample/conf/mime.types
```

マッピングするコンテントタイプを追加する場合だけ、サンプルファイルを編集します。

MIME コンテントタイプマッピングファイルの詳細については、「7.8 MIME コンテントタイプマッピングファイル (mime.types)」を参照してください。

3.7.9 送信情報ファイルの作成

送信情報ファイルとは、ビジネスメッセージの送信に必要な情報を設定するファイルです。ビジネスメッセージ送信コマンドの引数として送信情報ファイルを指定する場合に作成してください。ビジネスメッセージ送信コマンドの引数に、直接送信に必要な情報を設定する場合は、送信情報ファイルの作成は不要です。

必要に応じて、次のサンプルファイルを定義ファイルの格納ディレクトリにコピーして編集してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXMLのインストールディレクトリ
>%sample%conf%sendinfo.xml
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/sample/conf/sendinfo.xml
```

送信情報ファイルの詳細については、「7.6 送信情報ファイル」を参照してください。また、ビジネスメッセージの送信に必要な情報の設定方法の種類については、「5.2.1 ビジネスメッセージ送信情報の設定」を参照してください。

3.7.10 セキュリティ環境の構築

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムにセキュリティ通信を適用する場合、CPA ファイルや CPA 拡張定義ファイルにセキュリティ通信に関する情報を記載する必要があります。メッセージ交換定義ファイルを生成する前に、CPA ファイルや CPA 拡張定義ファイルにセキュリティ通信に関する情報を記載してください。

セキュリティ環境の構築については、適用するセキュリティ通信の種類に応じて「3.8 セキュリティ環境の構築 (HTTP ベーシック認証)」、「3.9 セキュリティ環境の構築 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))」、「3.10 セキュリティ環境の構築 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))」または「3.11 セキュリティ環境の構築 (XML 電子署名)」を参照してください。

3.7.11 CPA 拡張定義ファイルの作成

CPA 拡張定義ファイルを作成して、ビジネスメッセージの送受信に必要な情報のうち、CPA ファイルに不足している次の情報を定義します。

XML 電子署名に関する情報

ビジネスメッセージの永続期限

HTTP ベーシック認証に関する情報

HTTP コネクションのタイムアウト時間

必要に応じて、次のサンプルファイルを定義ファイルの格納ディレクトリにコピーして

3. システムの構築

編集してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXMLのインストールディレクトリ  
>¥sample¥conf¥cpa_extend.xml
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/sample/conf/cpa_extend.xml
```

CPA 拡張定義ファイルの作成は任意ですが、HTTP ベーシック認証および XML 電子署名を適用する場合は、作成は必須です。セキュリティ環境の構築については、HTTP ベーシック認証は「3.8 セキュリティ環境の構築 (HTTP ベーシック認証)」を、XML 電子署名は「3.11 セキュリティ環境の構築 (XML 電子署名)」を参照してください。

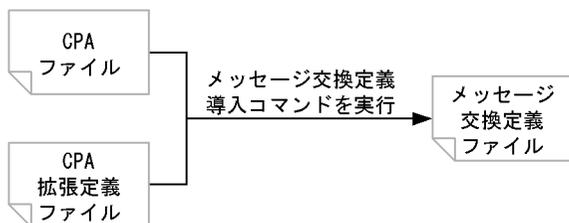
CPA 拡張定義ファイルの詳細については、「7.7 CPA 拡張定義ファイル」を参照してください。

3.7.12 メッセージ交換定義ファイルの生成

uCosminexus Message Service for ebXML がビジネスメッセージの高信頼配信やセキュリティ通信を実現するためには、CPA ファイルだけでは情報に過不足があり、ビジネスメッセージを送受信できません。そこでユーザーがメッセージ交換定義導入コマンドを実行して、CPA ファイルからメッセージ交換定義ファイルを生成します。uCosminexus Message Service for ebXML は、メッセージ交換定義ファイルを基にビジネスメッセージを送受信します。

メッセージ交換定義ファイル生成の概要を、次の図に示します。

図 3-4 メッセージ交換定義ファイル生成の概要



CPA 拡張定義ファイル

ビジネスメッセージの交換に必要な情報技術に関する合意のうち、CPA ファイルに不足している内容を定義します。CPA 拡張定義ファイルについての詳細は、「7.7 CPA 拡張定義ファイル」を参照してください。

メッセージ交換定義導入コマンド

CPA ファイルおよび CPA 拡張定義ファイルからメッセージ交換定義ファイルを生成するために、ユーザーが実行するコマンドです。メッセージ交換定義導入コマンドの詳細については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHDeployMsgDef

を参照してください。

メッセージ交換定義ファイル

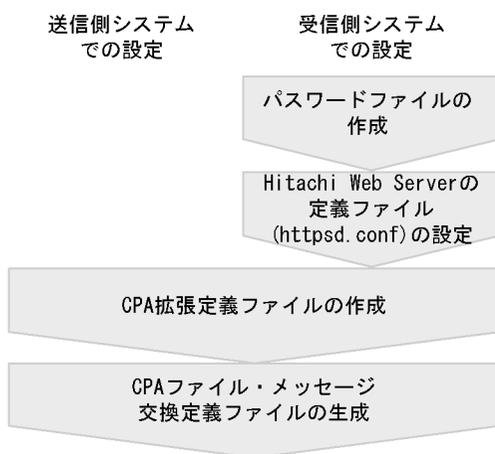
メッセージ交換定義ファイルは、uCosminexus Message Service for ebXML のシステム内に複数導入できます。複数の企業との取引や、同一企業との複数取引をした場合は、各取引に応じたメッセージ交換定義ファイルを uCosminexus Message Service for ebXML のシステムに導入してください。

3.8 セキュリティ環境の構築（HTTP ベーシック認証）

ここでは、uCosminexus Message Service for ebXML のシステムで HTTP ベーシック認証を適用する場合のセキュリティ環境を構築する方法について説明します。セキュリティ環境は、Hitachi Web Server および uCosminexus Message Service for ebXML で構築します。Hitachi Web Server の環境設定の詳細については、マニュアル「Hitachi Web Server」を参照してください。

HTTP ベーシック認証をする場合の環境構築手順を、次に示します。

図 3-5 セキュリティ環境の構築手順（HTTP ベーシック認証）



各項目を受信側・送信側のどちらの uCosminexus Message Service for ebXML システムで設定するかを、次に示します。

パスワードファイルの作成

受信側の Hitachi Web Server で作成します。

Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) の設定

受信側の Hitachi Web Server で設定します。

CPA 拡張定義ファイルの作成

送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML のメッセージ交換定義ファイルを生成するために、CPA 拡張定義ファイルを作成します。

CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの生成

送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML システムで同一の CPA ファイルを生成します。CPA ファイルを生成したら、送信側・受信側の

uCosminexus Message Service for ebXML でメッセージ交換定義ファイルを生成します。

3.8.1 パスワードファイルの作成（HTTP ベーシック認証）

送信側の uCosminexus Message Service for ebXML から HTTP リクエストを受信したときに使用する、パスワードファイルを作成します。受信側の Hitachi Web Server で `htpasswd` ユティリティを実行してください。

コマンドの引数に設定する項目について説明します。

-b

パスワードをコマンドラインに指定する場合に指定します。

-c

パスワードファイルを新規作成する場合に指定します。-b と同時に指定する場合は、"-bc" と記述します。

ユーザー情報を追加する場合は、-c オプションは不要です。

パスワードファイル名

パスワードファイルの格納場所をフルパスで指定します。

ユーザー名・パスワード

CPA 拡張定義ファイルで指定したユーザー名・パスワードと同じ記述にします。

パスワードファイルを作成するときの `htpasswd` ユティリティの実行例を、次に示します。

- Windows の場合

```
htpasswd -bc C:\temp\password.dat userid password
```

- UNIX の場合

```
htpasswd -bc /tmp/password.dat userid password
```

3.8.2 Hitachi Web Server の定義ファイル（`httpsd.conf`）の設定（HTTP ベーシック認証）

受信側の Hitachi Web Server の定義ファイル（`httpsd.conf`）に、HTTP ベーシック認証をするための情報を追加します。

Hitachi Web Server の定義ファイル（`httpsd.conf`）内に追加する情報の記述例を、次に示します。

- Windows の場合

3. システムの構築

```
<Location /ebxml/msh/recv/handler >
  AuthType Basic
  AuthName "realm 1"
  AuthUserFile "C:¥temp¥password.dat"
  require valid-user
</Location>
```

- UNIX の場合

```
<Location /ebxml/msh/recv/handler >
  AuthType Basic
  AuthName "realm 1"
  AuthUserFile "/tmp/password.dat"
  require valid-user
</Location>
```

この記述例で示した項目のうち, "AuthName" および "AuthUserFile" の内容をユーザーが指定します。"AuthName" の値には, Web ブラウザのユーザー認証画面に表示される, realm 名を指定します。また "AuthUserFile" の値には, 「3.8.1 パスワードファイルの作成 (HTTP ベーシック認証)」で設定したパスワードファイル名を指定します。

Hitachi Web Server の定義ファイルの設定が完了したら, Hitachi Web Server を再起動し, 設定した内容を有効にしてください。

3.8.3 CPA 拡張定義ファイルの作成 (HTTP ベーシック認証)

HTTP ベーシック認証で使用するユーザー ID およびパスワードを, CPA 拡張定義ファイルに指定します。CPA 拡張定義ファイルの詳細については, 「7.7 CPA 拡張定義ファイル」を参照してください。

CPA 拡張定義ファイルの設定例を, 次に示します。

```
<CPAExtendInfo>
  <AccessAuthenticationInfo>
    <Basic>
      <UserId>userid</UserId>
      <Password>password</Password>
    </Basic>
  </AccessAuthenticationInfo>
</CPAExtendInfo>
```

3.8.4 CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの生成 (HTTP ベーシック認証)

CPA ファイルに HTTP ベーシック認証に必要な項目を定義し, 定義した CPA ファイルを基にメッセージ交換定義ファイルを生成します。メッセージ交換定義ファイルを生成して MSH 実行環境に導入することで, 企業間でのビジネスメッセージの交換に HTTP ベーシック認証を適用できます。

送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML のシステムで同一の CPA ファイルおよびメッセージ交換定義ファイルを生成してください。

(1) CPA ファイルへの定義項目

CPA ファイルに、HTTP ベーシック認証をするために定義する必要がある項目を、次に示します。

表 3-8 CPA ファイルへの定義項目 (HTTP ベーシック認証)

項番	要素	属性	項目	説明
1	PartyInfo	-	-	送信パーティに関する定義です。
2	Transport	-	-	送信パーティに関する転送定義です。
3	TransportSender	-	送信側転送定義	-
4	AccessAuthentication	-	HTTP 認証情報	HTTP 認証の種類を指定します。ベーシック認証をする指定にします。

(凡例) - : なし

(2) メッセージ交換定義ファイルの生成

CPA ファイルおよび CPA 拡張定義ファイルの記述が HTTP ベーシック認証をする設定になっていることを確認してから、メッセージ交換定義ファイルを生成します。

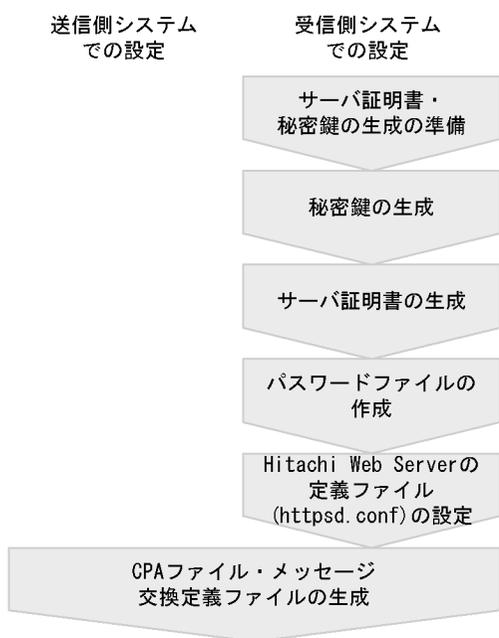
メッセージ交換定義ファイルを生成するには、メッセージ交換定義導入コマンドを実行します。送信側の uCosminexus Message Service for ebXML と受信側の uCosminexus Message Service for ebXML の両方でコマンドを実行します。メッセージ交換定義導入コマンドの詳細については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHDeployMsgDef を参照してください。

3.9 セキュリティ環境の構築（暗号化通信（SSLサーバ認証））

ここでは、uCosminexus Message Service for ebXML のシステムで暗号化通信（SSLサーバ認証）を適用する場合のセキュリティ環境を構築する方法について説明します。セキュリティ環境は、Hitachi Web Server および uCosminexus Message Service for ebXML で構築します。Hitachi Web Server の環境設定の詳細については、マニュアル「Hitachi Web Server」を参照してください。

暗号化通信（SSLサーバ認証）をする場合の環境構築手順を、次に示します。

図 3-6 セキュリティ環境の構築手順（暗号化通信（SSLサーバ認証））



各項目を受信側・送信側のどちらの uCosminexus Message Service for ebXML システムで設定するかを、次に示します。

サーバ証明書・秘密鍵の生成の準備

受信側の Hitachi Web Server で生成するサーバ証明書および秘密鍵の準備です。

秘密鍵の生成

受信側の Hitachi Web Server で生成します。

サーバ証明書の生成

受信側の Hitachi Web Server で生成します。

パスワードファイルの作成

受信側の Hitachi Web Server で作成します。

Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) の設定

受信側の Hitachi Web Server で設定します。

CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの生成

送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML システムで同一の CPA ファイルを生成します。CPA ファイルを生成したら、送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML でメッセージ交換定義ファイルを生成します。

3.9.1 サーバ証明書・秘密鍵の生成の準備

サーバ証明書および秘密鍵を生成するときに必要な情報の決定方法について説明します。次に示す項目については、サーバ証明書および秘密鍵を生成する前に決定しておいてください。

表 3-9 サーバ証明書および秘密鍵の生成に必要な項目

項番	項目	推奨値	説明
1	秘密鍵の形式	RSA	設定できる秘密鍵の形式は RSA だけです。
2	秘密鍵の強度	1,024bit	秘密鍵の強度となる、秘密鍵の長さを設定します。長さを長くすると鍵の強度が上がりますが、同時に暗号化通信路が確立したときにオーバーヘッドが大きくなります。 選択できる秘密鍵の強度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 512bit • 1,024bit • 2,048bit
3	サブジェクト名	-	証明書のサブジェクト名を設定します。サブジェクト名の設定項目については「表 3-10 サーバ証明書に記述するサブジェクト名の設定項目」を参照してください。
4	秘密鍵の暗号種別	DES3	秘密鍵を暗号化するときのアルゴリズムを設定します。選択できる暗号種別は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 暗号化なし • DES2 • DES3

3. システムの構築

項番	項目	推奨値	説明
5	秘密鍵のパスワード	任意	秘密鍵にアクセスするためのパスワードを設定します。4文字以上で設定してください。 秘密鍵を暗号化しない場合は、設定不要です。
6	パスワードファイルの格納場所	任意	秘密鍵にアクセスするとき使用する、パスワードファイルの格納場所です。

(凡例) - : なし

次の表に従って、適切なサブジェクト名を設定してください。

表 3-10 サーバ証明書に記述するサブジェクト名の設定項目

項番	項目	説明	省略
1	C	Country Name 国名を2文字で指定します。日本の国名は "JP" です。	できません。
2	S	State Or Province Name 都道府県名を指定します。	できます。
3	L	Location Name 市町村名を指定します。	できます。
4	O	Organization Name 企業名を指定します。	できます。
5	OU	Organization Unit Name 部署名を指定します。	できます。
6	CN	Common Name ドメイン名と同一のものを指定してください。	できません。
7	E	Email Address 電子メールアドレスを指定します。	できます。

3.9.2 秘密鍵の生成 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))

受信側の Hitachi Web Server で `sslc genrsa` コマンドを実行して、秘密鍵を生成します。
「3.9.1 サーバ証明書・秘密鍵の生成の準備」で決定した情報を基に、コマンドを実行してください。

秘密鍵を暗号化する場合、コマンド実行中にパスワードの入力を求められます。「3.9.1 サーバ証明書・秘密鍵の生成の準備」で決定したパスワードを入力してください。

3.9.3 サーバ証明書の生成

秘密鍵を生成したら、次の手順でサーバ証明書を生成します。

1. 認証局への証明書発行要求

受信側の Hitachi Web Server で `ssl req` コマンドを実行して、認証局への証明書発行要求を生成します。「3.9.1 サーバ証明書・秘密鍵の生成の準備」で決定した情報を基に、コマンドを実行してください。なお、コマンドの引数に指定する定義ファイルについては、Hitachi Web Server が提供するサンプルファイルを指定してください。認証局への証明書発行要求の送付については、使用する認証局の取り決めに従ってください。

2. サーバ証明書の受け取り
認証局への証明書発行要求を送付して、認証局が証明書を発行したら、認証局で署名された証明書を受け取ってください。
3. サーバ証明書および認証局証明書の取り込み
認証局から受け取ったサーバ証明書および認証局証明書を、受信側の Hitachi Web Server に取り込みます。取り込み先については、「3.9.5 Hitachi Web Server の定義ファイル (`httpsd.conf`) の設定 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))」を参照してください。
なお、証明書には有効期限があります。Hitachi Web Server に取り込んだ証明書の有効期限が切れた場合、再度サーバ証明書の生成手順を実行してください。同時に、CPA ファイル (Certificate 要素) の情報を更新し、メッセージ交換定義ファイルを生成し直す必要があります。

3.9.4 パスワードファイルの作成 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))

秘密鍵を暗号化する場合、受信側の Hitachi Web Server で `sslpasswd` コマンドを実行してパスワードファイルを作成します。`sslpasswd` コマンドの引数に指定するパスワードファイル名には、「3.9.1 サーバ証明書・秘密鍵の生成の準備」で決定したパスワードファイルの格納場所をフルパスで指定します。

秘密鍵を暗号化しない場合は、この設定は不要です。

3.9.5 Hitachi Web Server の定義ファイル (`httpsd.conf`) の設定 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))

受信側の Hitachi Web Server の定義ファイル (`httpsd.conf`) に、暗号化通信 (SSL サーバ認証) をするための設定をします。次の項目について設定してください。

3. システムの構築

表 3-11 Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) への設定項目 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))

項番	項目	推奨値	解説
1	SSLEnable	-	SSL を有効にします。 定義ファイル中に SSLDisable ディレクティブがある場合は、削除してください。
2	SSLRequireSSL	-	SSL 通信以外のアクセスを禁止します。
3	SSLCertificateFile	-	認証局によって署名されたサーバ証明書を格納するファイルをフルパスで指定します。
4	SSLCertificateKeyFile	-	作成した秘密鍵を格納したパスワードファイルをフルパスで指定します。
5	SSLCertificateKeyPassword	-	秘密鍵のパスワード情報に記述したファイル名を指定します。 秘密鍵を暗号化していない場合は不要です。
6	SSLCACertificateFile	-	認証局証明書を格納したファイルをフルパスで指定します。 使用する認証局が中間認証局を持つ場合は、複数の証明書ファイルを連結させて、一つのファイルとして登録してください。
7	SSLVerifyClient	<ul style="list-style-type: none"> • SSL サーバ認証をする場合：0 • SSL クライアント認証をする場合：1 	SSL クライアント認証に関する設定をします。"0" を指定すると、SSL クライアント認証をしません。 SSL クライアント認証をする場合は、"1" を指定してください。また、「3.10 セキュリティ環境の構築 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))」で説明する手順に従って SSL クライアント認証の環境構築をしてください。
8	SSLRequiredCiphers	EXP-RC4-MD5: RC4-MD5: EXP-RC2-CBC-MD5: DES-CBC-SHA: DES-CBC3-SHA	暗号化通信をするときに使用する暗号化アルゴリズムを指定します。推奨値で示している値をそのまま指定してください。
9	SSLSessionCacheTimeout	3600	SSL セッション情報の有効時間を、秒単位で指定します。
10	listen	443	SSL プロトコル使用時の、Hitachi Web Server のポート番号を指定します。

(凡例) - : なし

暗号化通信 (SSL サーバ認証) をするために必要な、Hitachi Web Server の定義ファイ

ル (httpsd.conf) への設定例を、次に示します。

- Windows の場合

```

SSLEnable
SSLRequireSSL
SSLCertificateFile "C:/Cosminexus/httpsd/conf/ssl/server/httpsd.pem"
SSLCertificateKeyFile "C:/Cosminexus/httpsd/conf/ssl/server/httpsdkey.pem"
SSLCertificateKeyPassword "C:/Cosminexus/httpsd/conf/passwd.dat"
SSLCACertificateFile "C:/Cosminexus/httpsd/conf/ssl/cacert/cacert.pem"
SSLVerifyClient 0
SSLRequiredCiphers
EXP-RC4-MD5:RC4-MD5:EXP-RC2-CBC-MD5:DES-CBC-SHA:DES-CBC3-SHA
SSLSessionCacheTimeout 3600
listen 443

```

- UNIX の場合

```

SSLEnable
SSLRequireSSL
SSLCertificateFile /opt/hitachi/httpsd/conf/ssl/server/httpsd.pem
SSLCertificateKeyFile /opt/hitachi/httpsd/conf/ssl/server/httpsdkey.pem
SSLCertificateKeyPassword /opt/Hitachi/httpsd/conf/passwd.dat
SSLCACertificateFile /opt/Hitachi/httpsd/conf/ssl/cacert/cacert.pem
SSLVerifyClient 0
SSLRequiredCiphers
EXP-RC4-MD5:RC4-MD5:EXP-RC2-CBC-MD5:DES-CBC-SHA:DES-CBC3-SHA
SSLSessionCacheTimeout 3600
listen 443

```

Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) の設定が完了したら、Hitachi Web Server を再起動し、設定した内容を有効にしてください。

3.9.6 CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの生成 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))

CPA ファイルに暗号化通信 (SSL サーバ認証) に必要な項目を定義し、定義した CPA ファイルを基にメッセージ交換定義ファイルを生成します。メッセージ交換定義ファイルを生成して MSH 実行環境に導入することで、企業間でのビジネスメッセージの交換に暗号化通信 (SSL サーバ認証) を適用できます。

送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML のシステムで同一の CPA ファイルおよびメッセージ交換定義ファイルを生成してください。

(1) CPA ファイルへの定義項目

CPA ファイルに、暗号化通信 (SSL サーバ認証) をするために定義する必要がある項目を、次に示します。

3. システムの構築

表 3-12 CPA ファイルへの定義項目（暗号化通信（SSL サーバ認証））

項番	要素	属性	項目	説明
1	PartyInfo	-	-	送信パーティに関する定義です。
2	Certificate	-	証明書情報	サーバ証明書に対する認証局証明書を定義します。
3		certId	証明書識別子	認証局証明書を CPA ファイル内で一意に特定する、証明書識別子を指定します。
4	ds:Certificate	-	認証局証明書情報	XMLDSig で規定されている形式で表現された証明書を指定します。
5	SecurityDetails	-	セキュリティ詳細情報	送信パーティで適用するセキュリティ詳細情報を指定します。
6		securityId	セキュリティ詳細情報識別子	SecurityDetails 要素を CPA ファイル内で一意に特定する識別子です。
7	TrustAnchors	-	信認認証局リスト	Security Details 要素の記載内容を信任する認証局を指定します。
8	AnchorCertificateRef	-	認証局証明書参照	認証局証明書の参照先を指定します。
9		certId	証明書識別子	認証局証明書の証明書識別子を指定します。
10	Transport	-	-	送信パーティに関する転送定義です。
11	TransportSender	-	送信側転送定義	-
12	TransportClientSecurity	-	転送クライアントセキュリティ	-

項番	要素	属性	項目	説明
13	TransportSecurityProtocol	-	セキュリティ タイププロ トコル	セキュア転送で用 いるプロトコルを 指定します。SSL または TLS を指 定します。
14	ServerSecurityDetailsRef	-	サーバ認 証セキュ リティ詳 細情報参 照	サーバ認証時に使 用するセキュリ ティ詳細情報への 参照先を指定しま す。
15	-	security Id	セキュリ ティ詳細 情報識別 子	サーバ認証時に使 用するセキュリ ティ詳細情報を特 定するセキュリ ティ詳細情報識別 子を指定します。
16	PartyInfo	-	-	受信パーティに関 する定義です。
17	Certificate	-	証明書情 報	サーバ証明書を定 義します。
18		certId	証明書識 別子	サーバ証明書を CPA ファイル内 で一意に特定する 識別子を指定しま す。
19	ds:Certificate	-	サーバ証 明書情報	XMLDSig で規定 されている形式で 表現された証明書 です。
20	Transport	-	-	受信パーティに関 する転送定義で す。
21	TransportReceiver	-	受信側転 送定義	-
22	Endpoint	-	エンドポ イント	ビジネスメッセー ジを受信するエンド ポイントを URI で指定しま す。
23		uri	エンドポ イント URI	プロトコルを HTTPS としま す。
24	TransportServerSecurity	-	転送サー バセキュ リティ	-

3. システムの構築

項番	要素	属性	項目	説明
25	TransportSecurityProtocol	-	セキュリティプロトコル	セキュア転送で用いるプロトコルを指定します。SSL または TLS を指定します。
26	ServerCertificateRef	-	サーバ証明書参照	使用するサーバ証明書を指定します。
27	-	certId	証明書識別子	サーバ証明書を特定する証明書識別子を指定します。

(凡例) - : なし

注 X.509 証明書を、XMLDsig 形式に変換する必要があります。証明書形式変換 (X.509 証明書) コマンドを使用して変換してください。証明書形式変換 (X.509 証明書) コマンドについては、「9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド」の MSHConvertCertFile を参照してください。使用する認証局が中間認証局を持つ場合は、認証パスを構成するすべての認証局の証明書を証明書形式変換 (X.509 証明書) コマンドに指定し、XMLDsig 形式に変換して CPA ファイルに記載する必要があります。

サーバ証明書およびルート認証局証明書を受け取った場合

証明書名称としてサーバ証明書・ルート認証局の名称を指定します。

サーバ証明書、中間認証局証明書、およびルート認証局証明書を受け取った場合

証明書名称としてサーバ証明書・中間認証局・ルート認証局の名称を指定します。

(2) メッセージ交換定義ファイルの生成

CPA ファイルの記述が暗号化通信 (SSL サーバ認証) をする設定になっていることを確認してから、メッセージ交換定義ファイルを生成します。

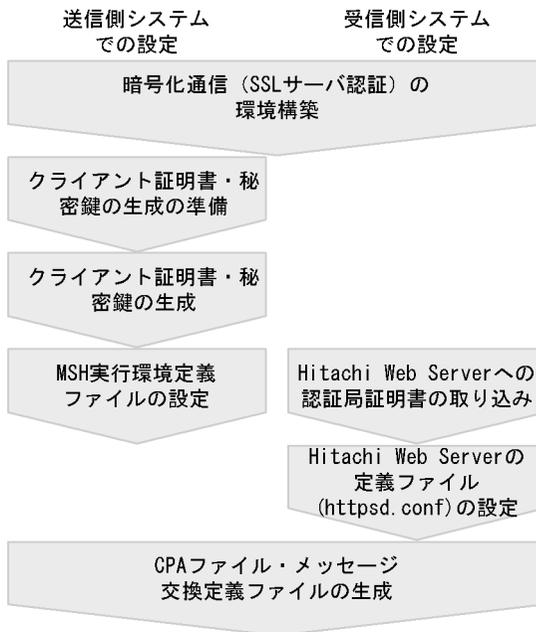
メッセージ交換定義ファイルを生成するには、メッセージ交換定義導入コマンドを実行します。送信側の uCosminexus Message Service for ebXML と受信側の uCosminexus Message Service for ebXML の両方でコマンドを実行します。メッセージ交換定義導入コマンドの詳細については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHDeployMsgDef を参照してください。

3.10 セキュリティ環境の構築（暗号化通信（SSL クライアント認証））

ここでは、uCosminexus Message Service for ebXML のシステムで暗号化通信（SSL クライアント認証）を適用する場合のセキュリティ環境を構築する方法について説明します。セキュリティ環境は、Hitachi Web Server および uCosminexus Message Service for ebXML で構築します。Hitachi Web Server の環境設定の詳細については、マニュアル「Hitachi Web Server」を参照してください。

暗号化通信（SSL クライアント認証）をする場合の環境構築手順を、次に示します。

図 3-7 セキュリティ環境の構築手順（暗号化通信（SSL クライアント認証））



各項目を受信側・送信側のどちらの uCosminexus Message Service for ebXML システムで設定するかを、次に示します。

暗号化通信（SSL サーバ認証）の環境構築

受信側・送信側両方の uCosminexus Message Service for ebXML システムで構築します。暗号化通信（SSL サーバ認証）の環境構築手順の詳細は、「3.9 セキュリティ環境の構築（暗号化通信（SSL サーバ認証）」を参照してください。

クライアント証明書・秘密鍵の生成の準備

送信側の uCosminexus Message Service for ebXML で生成するクライアント証明書および秘密鍵の準備です。

3. システムの構築

クライアント証明書・秘密鍵の生成

送信側の uCosminexus Message Service for ebXML で生成します。

MSH 実行環境定義ファイルの設定

送信側の uCosminexus Message Service for ebXML の MSH 実行環境定義ファイルを設定します。

Hitachi Web Server への認証局証明書の取り込み

受信側の Hitachi Web Server に認証局証明書を取り込みます。

Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) の設定

受信側の Hitachi Web Server で設定します。

CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの生成

送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML システムで同一の CPA ファイルを生成します。CPA ファイルを生成したら、送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML でメッセージ交換定義ファイルを生成します。

3.10.1 暗号化通信 (SSL サーバ認証) の環境構築

暗号化通信 (SSL クライアント認証) をする場合、暗号化通信 (SSL サーバ認証) の環境を事前に構築しておく必要があります。「3.9.6 CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの生成 (暗号化通信 (SSL サーバ認証))」以外の項目について、構築しておいてください。

CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの生成は、SSL サーバ認証用の設定と SSL クライアント認証用の設定を最後にまとめて行うため、ここで SSL サーバ認証用の設定を行う必要はありません。

3.10.2 クライアント証明書・秘密鍵の生成の準備

クライアント証明書および秘密鍵を生成するときに必要な情報の決定方法について説明します。次に示す項目については、クライアント証明書および秘密鍵を生成する前に決定しておいてください。

表 3-13 クライアント証明書および秘密鍵の生成に必要な項目

項番	項目	推奨値	説明
1	秘密鍵の形式	RSA	設定できる秘密鍵の形式は RSA だけです。

項番	項目	推奨値	説明
2	秘密鍵の強度	1,024bit	秘密鍵の強度となる、秘密鍵の長さを設定します。長さを長くすると鍵の強度が上がりますが、同時に暗号化通信路が確立したときにオーバーヘッドが大きくなります。 選択できる秘密鍵の強度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 512bit • 1,024bit • 2,048bit
3	サブジェクト名	-	証明書のサブジェクト名を設定します。サブジェクト名の設定項目については「表 3-14 クライアント証明書に記述するサブジェクト名の設定項目」を参照してください。
4	KeyStore ファイルアクセスパスワード	任意	KeyStore ファイルにアクセスするためのパスワードを決定します。パスワードは、6 文字以上の英数字にしてください。

(凡例) - : なし

次の表に従って、適切なサブジェクト名を設定してください。

表 3-14 クライアント証明書に記述するサブジェクト名の設定項目

項番	項目	説明	省略
1	C	Country Name 国名を 2 文字で指定します。日本の国名は "JP" です。	できません。
2	S	State Or Province Name 都道府県名を指定します。	できます。
3	L	Location Name 市町村名を指定します。	できます。
4	O	Organization Name 企業名を指定します。	できます。
5	OU	Organization Unit Name 部署名を指定します。	できます。
6	CN	Common Name 任意の名称を指定します。	できません。
7	E	Email Address 電子メールアドレスを指定します。	できます。

3.10.3 クライアント証明書・秘密鍵の生成

次の手順でクライアント証明書を生成します。

1. 証明書発行コマンドの実行

送信側の uCosminexus Message Service for ebXML で証明書発行コマンドを実行して、認証局に送付するためのクライアント証明書を生成します。「3.10.2 クライアント証明書・秘密鍵の生成の準備」で決定した情報を基に、コマンドを実行してください。証明書発行コマンドの詳細については、「9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド」の MSHCreateCert を参照してください。

コマンド実行後に、証明書のサブジェクト名を求められます。「3.10.2 クライアント証明書・秘密鍵の生成の準備」で決定したサブジェクト名を入力してください。

2. 認証局への証明書発行要求

送信側の uCosminexus Message Service for ebXML で証明書要求作成コマンドを実行して、認証局への証明書発行要求を作成します。「3.10.2 クライアント証明書・秘密鍵の生成の準備」で決定した情報を基に、コマンドを実行してください。証明書要求作成コマンドの詳細については、「9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド」の MSHCreateCertReq を参照してください。

認証局への証明書発行要求の送付については、使用する認証局の取り決めに従ってください。

3. クライアント証明書の受け取り

認証局への証明書発行要求を生成したら、認証局で署名された証明書を受け取ってください。

4. 認証局証明書の取り込み

認証局から受け取った認証局証明書を、送信側の uCosminexus Message Service for ebXML にある KeyStore ファイルに登録します。認証局証明書登録コマンドを実行して、登録してください。認証局証明書登録コマンドの詳細については、「9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド」の MSHImportCACert を参照してください。使用する認証局が中間認証局を持つ場合は、認証パスを構成するすべての認証局の証明書を登録する必要があります。

クライアント証明書およびルート認証局証明書を受け取った場合

認証局証明書登録コマンドに、証明書名称としてルート認証局の名称を指定します。

クライアント証明書、中間認証局証明書、およびルート認証局証明書を受け取った場合

認証局証明書登録コマンドを中間認証局証明書とルート証明書の数だけ複数回実行します。コマンドを実行するときは、証明書名称をそれぞれ変えてコマンドを実行する必要があります。

5. クライアント証明書の取り込み

認証局から受け取ったクライアント証明書を、送信側の uCosminexus Message

Service for ebXML にある KeyStore ファイルに登録します。証明書登録コマンドを実行して、登録してください。証明書登録コマンドの詳細については、「9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド」の MSHImportCert を参照してください。

なお、証明書には有効期限があります。Keystore ファイルに取り込んだ証明書の有効期限が切れた場合、証明書削除コマンドを実行して期限切れとなった証明書を削除したあと、再度クライアント証明書・秘密鍵の生成手順を実行してください。同時に、CPA ファイル (Certificate 要素) の情報を更新し、メッセージ交換定義ファイルを生成し直す必要があります。証明書削除コマンドの詳細については、「9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド」の MSHDeleteCert を参照してください。

3.10.4 MSH 実行環境定義ファイルの設定 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))

送信側の uCosminexus Message Service for ebXML の MSH 実行環境定義ファイルにある、次の項目について設定します。

- クライアント証明書を格納した Keystore ファイルの名称
- Keystore ファイルにアクセスするためのパスワード

MSH 実行環境定義ファイルの詳細については、「7.4 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)」を参照してください。MSH 実行環境定義ファイルを設定したら、uCosminexus Message Service for ebXML を再起動し、設定した内容を有効にしてください。

3.10.5 Hitachi Web Server への認証局証明書の取り込み (暗号化通信 (SSL クライアント認証))

認証局から受け取った、クライアント認証用の認証局証明書を、受信側の Hitachi Web Server に取り込みます。取り込み先については、「3.10.6 Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) の設定 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))」を参照してください。

なお、証明書には有効期限があります。Hitachi Web Server に取り込んだ証明書の有効期限が切れた場合、再度クライアント証明書の生成手順を実行してください。同時に、CPA ファイル (Certificate 要素) の情報を更新し、メッセージ交換定義ファイルを生成し直す必要があります。

3.10.6 Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) の設定 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))

受信側の Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) に、暗号化通信 (SSL クライアント認証) をするための設定をします。次の項目について設定してください。なお、

3. システムの構築

次に示す項目には、暗号化通信（SSL サーバ認証）で設定が必要な項目も含まれます。

表 3-15 Hitachi Web Server の定義ファイルへの設定項目（暗号化通信（SSL クライアント認証））

項番	項目	推奨値	解説
1	SSLEnable	-	SSL を有効にします。定義ファイル中に SSLDisable ディレクティブがある場合は削除してください。
2	SSLRequireSSL	-	SSL 通信以外のアクセスを禁止します。
3	SSLCertificateFile	-	認証局によって署名されたサーバ証明書および認証局証明書の取り込みで取り込んだサーバ証明書を格納するファイルをフルパスで指定します。
4	SSLCertificateKeyFile	-	秘密鍵の生成で作成した秘密鍵を格納したファイルをフルパスで指定します。
5	SSLCertificateKeyPassword	-	秘密鍵のパスワード情報に記述したパスワードファイルを指定します。秘密鍵を暗号化していない場合は不要です。
6	SSLCACertificateFile	-	認証局証明書を格納したファイルをフルパスで指定します。使用する認証局が中間認証局を持つ場合やサーバ認証およびクライアント認証で認証局証明書が異なる場合は、複数の証明書ファイルを連結させて、一つのファイルとして登録してください。
7	SSLVerifyClient	1	SSL クライアント認証に関する設定をします。
8	SSLVerifyDepth	10	SSL クライアント証明書のチェーンの長さを指定します。ルート認証局証明書からクライアント証明書までの証明書チェーンの長さが指定した値を超える場合は、クライアント証明書を無効と判断します。
9	SSLRequiredCiphers	EXP-RC4-MD5: RC4-MD5: EXP-RC2-CBC-MD5: DES-CBC-SHA: DES-CBC3-SHA	暗号化通信をするときに使用する暗号化アルゴリズムを指定します。推奨値で示している値をそのまま指定してください。
10	SSLSessionCacheTimeout	3600	SSL セッション情報の有効時間を、秒単位で指定します。
11	SSLExportClientCertificates	-	Hitachi Web Server で受け取ったクライアント証明書を、uCosminexus Application Server へ渡すように指定します。

項番	項目	推奨値	解説
12	listen	443	SSL プロトコル使用時の、Hitachi Web Server のポート番号を指定します。

(凡例) - : なし

暗号化通信 (SSL クライアント認証) をするために必要な、Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) への設定例を、次に示します。

- Windows の場合

```

SSLEnable
SSLRequireSSL
SSLCertificateFile "C:/cert/servercert.pem"
SSLCertificateKeyFile "C:/cert/httpsdkey.pem"
SSLCertificateKeyPassword "C:/cert/passwd.dat"
SSLCACertificateFile "C:/cert/cacert.pem"
SSLVerifyClient 1
SSLVerifyDepth 10
SSLRequiredCiphers
EXP-RC4-MD5:RC4-MD5:EXP-RC2-CBC-MD5:DES-CBC-SHA:DES-CBC3-SHA
SSLSessionCacheTimeout 3600
SSLExportClientCertificates
listen 443

```

- UNIX の場合

```

SSSEnable
SSLRequireSSL
SSLCertificateFile /opt/hitachi/httpsd/conf/ssl/server/httpsd.pem
SSLCertificateKeyFile /opt/hitachi/httpsd/conf/ssl/server/httpsdkey.pem
SSLCertificateKeyPassword /opt/hitachi/httpsd/conf/passwd.dat
SSLCACertificateFile /opt/hitachi/httpsd/conf/ssl/cacert/cacert.pem
SSLVerifyClient 1
SSLVerifyDepth 10
SSLRequiredCiphers
EXP-RC4-MD5:RC4-MD5:EXP-RC2-CBC-MD5:DES-CBC-SHA:DES-CBC3-SHA
SSLSessionCacheTimeout 3600
SSLExportClientCertificates
listen 443

```

Hitachi Web Server の定義ファイル (httpsd.conf) の設定が完了したら、Hitachi Web Server を再起動し、設定した内容を有効にしてください。

3.10.7 CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの生成 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))

CPA ファイルに暗号化通信 (SSL クライアント認証) に必要な項目を定義し、定義した CPA ファイルを基にメッセージ交換定義ファイルを生成します。メッセージ交換定義ファイルを生成して MSH 実行環境に導入することで、企業間でのビジネスメッセージの交換に暗号化通信 (SSL クライアント認証) を適用できます。

3. システムの構築

送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML のシステムで同一の CPA ファイルおよびメッセージ交換定義ファイルを生成してください。

(1) CPA ファイルへの定義項目

CPA ファイルに、暗号化通信 (SSL クライアント認証) をするために定義する必要がある項目を、次に示します。

表 3-16 CPA ファイルへの定義項目 (暗号化通信 (SSL クライアント認証))

項番	要素	属性	項目	説明
1	PartyInfo	-	-	送信パーティに関する定義です。
2	Certificate	-	証明書情報	クライアント証明書を定義します。
3		certId	証明書識別子	クライアント証明書を CPA ファイル内で一意に特定する識別子を指定します。
4	ds:Certificate	-	クライアント証明書	XMLDSig で規定されている形式で表現された証明書です。
5	Certificate	-	証明書情報	サーバ証明書に対する認証局証明書を定義します。
6		certId	証明書識別子	認証局証明書を CPA ファイル内で一意に特定する識別子を指定します。
7	ds:Certificate	-	認証局証明書	XMLDSig で規定されている形式で表現された証明書です。
8	SecurityDetails	-	セキュリティ詳細情報	送信パーティで適用するセキュリティ詳細情報を指定します。
9		securityId	セキュリティ詳細情報識別子	SecurityDetails 要素を CPA ファイル内で一意に特定する識別子を指定します。

項番	要素	属性	項目	説明
10	TrustAnchors	-	信認認証局リスト	Security Details 要素の記載内容を信任する認証局を指定します。
11	AnchorCertificateRef	-	認証局証明書参照	認証局証明書の参照先を指定します。
12		certId	証明書識別子	認証局証明書の証明書識別子を指定します。
13	Transport	-	-	送信パーティに関する転送定義です。
14	TransportSender	-	送信側転送定義	-
15	TransportClientSecurity	-	転送クライアントセキュリティ	-
16	TransportSecurityProtocol	-	セキュリティプロトコル	セキュア転送で用いるプロトコルを指定します。SSL または TLS を指定します。
17	ClientCertificateRef	-	クライアント証明書参照	使用するクライアント証明書を指定します。
18		certId	証明書識別子	クライアント証明書を特定する証明書識別子を指定します。
19	ServerSecurityDetailsRef	-	サーバ認証セキュリティ詳細情報参照	サーバ認証時に使用するセキュリティ詳細情報への参照先を指定します。
20	-	security Id	セキュリティ詳細情報識別子	サーバ認証時に使用するセキュリティ詳細情報を特定するセキュリティ詳細情報識別子を指定します。
21	PartyInfo	-	-	受信パーティに関する定義です。
22	Certificate	-	証明書情報	サーバ証明書を定義します。

3. システムの構築

項番	要素	属性	項目	説明
23		certId	証明書識別子	サーバ証明書を CPA ファイル内で一意に特定する識別子を指定します。
24	ds:Certificate	-	サーバ証明書	XMLDSig で規定されている形式で表現された証明書です。
25	Certificate	-	証明書情報	クライアント証明書に対する認証局証明書を定義します。
26		certId	証明書識別子	認証局証明書を CPA ファイル内で一意に特定する識別子を指定します。
27	ds:Certificate	-	認証局証明書	XMLDSig で規定されている形式で表現された証明書です。
28	SecurityDetails	-	セキュリティ詳細情報	受信パーティで適用するセキュリティ詳細情報を指定します。
29		security Id	セキュリティ詳細情報識別子	SecurityDetails 要素を CPA ファイル内で一意に特定する識別子を指定します。
30	TrustAnchors	-	信認認証局リスト	Security Details 要素の記載内容を信任する認証局を指定します。
31	AnchorCertificateRef	-	認証局証明書参照	認証局証明書の参照先を指定します。
32		certId	証明書識別子	認証局証明書の証明書識別子を指定します。
33	Transport	-	-	受信パーティに関する転送定義です。
34	TransportReceiver	-	受信側転送定義	-

項番	要素	属性	項目	説明
35	Endpoint	-	エンドポイント	ビジネスメッセージを受信するエンドポイントを URI で指定します。
36		uri	エンドポイント URI	プロトコルを HTTPS とします。
37	TransportServerSecurity	-	転送サーバセキュリティ	-
38	TransportSecurityProtocol	-	セキュリティプロトコル	セキュア転送で用いるプロトコルを指定します。SSL または TLS を指定します。
39	ServerCertificateRef	-	サーバ証明書参照	使用するサーバ証明書を指定します。
40		certId	証明書識別子	サーバ証明書を特定する証明書識別子を指定します。
41	ClientSecurityDetailsRef	-	クライアント認証セキュリティ詳細情報	クライアント認証時に使用するセキュリティ詳細情報への参照先を指定します。
42	-	securityId	セキュリティ詳細情報識別子	クライアント認証時に使用するセキュリティ詳細情報を特定する、セキュリティ詳細情報識別子を指定します。

(凡例) - : なし

注 証明書を XMLDSig 形式に変換する必要があります。証明書が KeyStore ファイルで管理されている場合は証明書形式変換 (KeyStore) コマンドを、証明書が X.509 証明書の場合は証明書形式変換 (X.509 証明書) コマンドを使用して変換してください。証明書形式変換 (KeyStore) コマンド、および証明書形式変換 (X.509 証明書) コマンドについては、「9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド」の MSHConvertCert および MSHConvertCertFile を参照してください。

使用する認証局が中間認証局を持つ場合、認証パスを構成するすべての認証局の証明書を、運用に応じて証明書形式変換 (KeyStore) コマンドまたは証明書形式変換 (X.509 証明書) コマンドに指定し、XMLDSig 形式に変換して CPA ファイルに記載する必要があります。

クライアント証明書およびルート認証局証明書を受け取った場合

証明書名称としてクライアント証明書、ルート認証局の名称を指定します。

3. システムの構築

クライアント証明書，中間認証局証明書，およびルート認証局証明書を受け取った場合
証明書名称としてクライアント証明書・中間認証局・ルート認証局の名称を指定します。

(2) メッセージ交換定義ファイルの生成

CPA ファイルの記述が暗号化通信 (SSL クライアント認証) をする設定になっていることを確認してから，メッセージ交換定義ファイルを生成します。

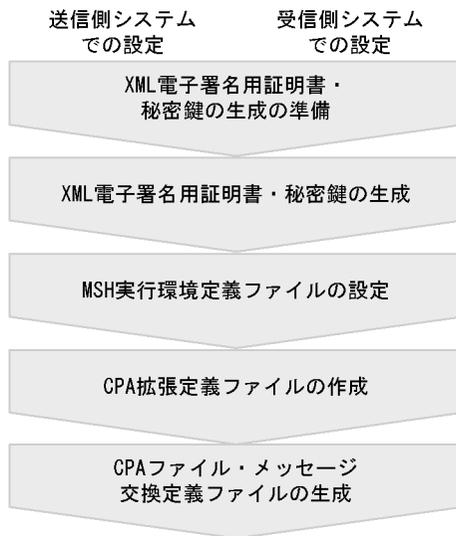
メッセージ交換定義ファイルを生成するには，メッセージ交換定義導入コマンドを実行します。送信側の uCosminexus Message Service for ebXML と受信側の uCosminexus Message Service for ebXML の両方でコマンドを実行します。メッセージ交換定義導入コマンドの詳細については，「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHDeployMsgDef を参照してください。

3.11 セキュリティ環境の構築（XML 電子署名）

ここでは、uCosminexus Message Service for ebXML のシステムで XML 電子署名を適用する場合のセキュリティ環境を構築する方法について説明します。セキュリティ環境は、uCosminexus Message Service for ebXML で構築します。

XML 電子署名する場合の環境構築手順を、次に示します。

図 3-8 セキュリティ環境の構築手順（XML 電子署名）



ここで説明する構築手順のうち、Acknowledgment メッセージに対して電子署名をしない場合は、受信側の uCosminexus Message Service for ebXML に関する設定は不要です。ただし、CPA 拡張定義ファイル、CPA ファイル、およびメッセージ交換定義ファイルは、受信側の uCosminexus Message Service for ebXML でも生成してください。

各項目を受信側・送信側のどちらの uCosminexus Message Service for ebXML システムで設定するかを、次に示します。

XML 電子署名用証明書・秘密鍵の生成の準備

送信側・受信側両方の uCosminexus Message Service for ebXML で生成する XML 電子署名用証明書・秘密鍵の準備です。

XML 電子署名用証明書・秘密鍵の生成

送信側・受信側両方の uCosminexus Message Service for ebXML で生成します。

MSH 実行環境定義ファイルの設定

3. システムの構築

送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML の MSH 実行環境定義ファイルで設定します。

CPA 拡張定義ファイルの作成

送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML のメッセージ交換定義ファイルを生成するために、CPA 拡張定義ファイルを作成します。

CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの生成

送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML システムで同一の CPA ファイルを生成します。CPA ファイルを生成したら、送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML でメッセージ交換定義ファイルを生成します。

3.11.1 XML 電子署名用証明書・秘密鍵の生成の準備

XML 電子署名用証明書および秘密鍵を生成するときに必要な情報の決定方法について説明します。次に示す項目については、XML 電子署名用証明書および秘密鍵を生成する前に決定しておいてください。

表 3-17 XML 電子署名用証明書および秘密鍵の生成に必要な項目

項番	項目	推奨値	説明
1	秘密鍵の形式	RSA	設定できる秘密鍵の形式は RSA だけです。
2	秘密鍵の強度	1,024bit	秘密鍵の強度となる、秘密鍵の長さを設定します。長さを長くすると鍵の強度が上がりますが、同時に暗号化通信路が確立したときにオーバーヘッドが大きくなります。 選択できる秘密鍵の強度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• 512bit• 1,024bit• 2,048bit
3	サブジェクト名	-	証明書のサブジェクト名を設定します。サブジェクト名の設定項目については「表 3-18 XML 電子署名用証明書に記述するサブジェクト名の設定項目」を参照してください。
4	KeyStore ファイルアクセスパスワード	任意	KeyStore ファイルにアクセスするためのパスワードを決定します。パスワードは、6 文字以上の英数字にしてください。

(凡例) - : なし

次の表に従って、適切なサブジェクト名を設定してください。

表 3-18 XML 電子署名用証明書に記述するサブジェクト名の設定項目

項番	項目	説明	省略
1	C	Country Name 国名を 2 文字で指定します。日本の国名は "JP" です。	できません。
2	S	State Or Province Name 都道府県名を指定します。	できます。
3	L	Location Name 市町村名を指定します。	できます。
4	O	Organization Name 企業名を指定します。	できます。
5	OU	Organization Unit Name 部署名を指定します。	できます。
6	CN	Common Name 任意の名称を指定します。	できません。
7	E	Email Address 電子メールアドレスを指定します。	できます。

3.11.2 XML 電子署名用証明書・秘密鍵の生成

次の手順で XML 電子署名用証明書を生成します。送信側と受信側の uCosminexus Message Service for ebXML とで、同じ手順で設定をしてください。

1. 証明書発行コマンドの実行

送信側の uCosminexus Message Service for ebXML で証明書発行コマンドを実行して、認証局に送付するための XML 電子署名用証明書を生成します。「3.11.1 XML 電子署名用証明書・秘密鍵の生成の準備」で決定した情報を基に、コマンドを実行してください。証明書発行コマンドの詳細については、「9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド」の MSHCreateCert を参照してください。

コマンド実行中に、証明書のサブジェクト名の入力を求められます。「3.11.1 XML 電子署名用証明書・秘密鍵の生成の準備」で決定したサブジェクト名を入力してください。サブジェクト名に指定する値を省略する場合は、何も入力しないで Enter キーを押します。

2. 認証局への証明書発行要求

送信側の uCosminexus Message Service for ebXML で証明書要求作成コマンドを実行して、認証局への証明書発行要求を作成します。「3.11.1 XML 電子署名用証明書・秘密鍵の生成の準備」で決定した情報を基に、コマンドを実行してください。証明書要求作成コマンドの詳細については、「9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド」の MSHCreateCertReq を参照してください。

認証局への証明書発行要求の送付については、使用する認証局の取り決めに従ってください。

3. システムの構築

3. XML 電子署名用証明書の受け取り

認証局への証明書発行要求を生成したら、認証局で署名された証明書を受け取ってください。

4. 認証局証明書の取り込み

認証局から受け取った認証局証明書を、送信側の uCosminexus Message Service for ebXML にある KeyStore ファイルに登録します。認証局証明書登録コマンドを実行して、登録してください。認証局証明書登録コマンドの詳細については、「9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド」の MSHImportCACert を参照してください。使用する認証局が中間認証局を持つ場合は、認証パスを構成するすべての認証局の証明書を登録する必要があります。

XML 電子署名用証明書およびルート認証局証明書を受け取った場合

認証局証明書登録コマンドに、証明書名称としてルート認証局の名称を指定します。

XML 電子署名用証明書、中間認証局証明書、およびルート認証局証明書を受け取った場合

認証局証明書登録コマンドに、証明書名称として中間認証局およびルート認証局の名称を指定します。

5. XML 電子署名用証明書の取り込み

認証局から受け取った XML 電子署名用証明書を、送信側の uCosminexus Message Service for ebXML にある KeyStore ファイルに登録します。証明書登録コマンドを実行して、登録してください。証明書登録コマンドの詳細については、「9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド」の MSHImportCert を参照してください。

なお、証明書には有効期限があります。Keystore ファイルに取り込んだ証明書の有効期限が切れた場合、証明書削除コマンドを実行して期限切れとなった証明書を削除したあと、再度 XML 電子署名用証明書・秘密鍵の生成手順を実行してください。同時に、CPA ファイル (Certificate 要素) の情報を更新し、メッセージ交換定義ファイルを生成し直す必要があります。証明書削除コマンドの詳細については、「9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド」の MSHDeleteCert を参照してください。

3.11.3 MSH 実行環境定義ファイルの設定 (XML 電子署名)

送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML の MSH 実行環境定義ファイルにある、次の項目について設定します。

- XML 電子署名用証明書を格納した KeyStore ファイルの名称
- KeyStore ファイルにアクセスするためのパスワード

XML 電子署名用証明書に、クライアント証明書と同じ証明書を使用することもできます。この場合、MSH 実行環境定義ファイルに設定する内容を、XML 電子署名の値と暗号化通信 (SSL クライアント認証) の値とで同じにしてください。

MSH 実行環境定義ファイルの詳細については、「7.4 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)」を参照してください。MSH 実行環境定義ファイルを設定したら、uCosminexus Message Service for ebXML を再起動し、設定した内容を有効にしてください。

3.11.4 CPA 拡張定義ファイルの作成 (XML 電子署名)

XML 電子署名をするという情報を、CPA 拡張定義ファイルに記載します。CPA 拡張定義ファイルの詳細については、「7.7 CPA 拡張定義ファイル」を参照してください。

CPA 拡張定義ファイルの設定例を、次に示します。

```
<CPAExtendInfo>
  <SignatureRequested>always</SignatureRequested>
  <SignPayload>always</SignPayload>
</CPAExtendInfo>
```

3.11.5 CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイルの生成 (XML 電子署名)

CPA ファイルに暗号化通信 (XML 電子署名) に必要な項目を定義し、定義した CPA ファイルを基にメッセージ交換定義ファイルを生成します。メッセージ交換定義ファイルを生成して MSH 実行環境に導入することで、企業間でのビジネスメッセージの交換に暗号化通信 (XML 電子署名) を適用できます。

送信側・受信側の uCosminexus Message Service for ebXML のシステムで同一の CPA ファイルおよびメッセージ交換定義ファイルを生成してください。

(1) CPA ファイルへの定義項目

CPA ファイルに、XML 電子署名をするために定義する必要がある項目を、次に示します。

表 3-19 CPA ファイルへの定義項目 (XML 電子署名)

項番	要素	属性	項目	説明
1	PartyInfo	-	-	送信パーティに関する定義です。
2	Certificate	-	証明書情報	XML 電子署名用証明書について定義します。

3. システムの構築

項番	要素	属性	項目	説明
3		certId	証明書識別子	XML 電子署名証明書を CPA ファイル内で一意に特定する識別子を指定します。
4	ds:Certificate	-	XML 電子署名用証明書	XMLDSig で規定されている形式で表現された証明書を指定します。 2
5	Certificate ¹	-	証明書情報	受信パーティの XML 電子署名用証明書に対する認証局証明書について定義します。
6		certId ¹	証明書識別子	認証局証明書を CPA ファイル内で一意に特定する識別子を指定します。
7	ds:Certificate ¹	-	認証局証明書	XMLDSig で規定されている形式で表現された証明書を指定します。 2
8	SecurityDetails ¹	-	-	セキュリティの詳細情報です。送信パーティで適用するセキュリティ詳細情報を指定します。
9		securityId ¹	セキュリティ詳細情報識別子	SecurityDetails 要素を CPA ファイル内で一意に特定する識別子を指定します。
10	TrustAnchors ¹	-	信認認証局リスト	Security Details 要素の記載内容を信任する認証局を指定します。
11	AnchorCertificateRef ¹	-	認証局証明書参照	信認する認証局証明書への参照先を指定します。
12		certId ¹	証明書識別子	認証局証明書の証明書識別子を指定します。
13	DeliveryChannel	-	-	配送チャンネルの定義です。

項番	要素	属性	項目	説明
14	MessagingCharacteristics	-	-	メッセージ交換特性です。
15		ackSignatureRequested	署名付受信確認要否	Acknowledgmentメッセージに対して電子署名をどうかを指定します。電子署名をする場合は"always"を、しない場合は"never"を指定します。
16	DocExchange	-	文書交換定義	文書交換に関する定義です。
17	ebXMLSenderBinding	-	送信時文書交換定義	-
18	SenderNonRepudiation	-	送信時電子署名定義	-
19	NonRepudiationProtocol	-	電子署名プロトコル	電子署名を行う際の技術方式 "http://www.w3.org/2000/09/xmlsig#" を指定します。
20	HashFunction	-	ハッシュ関数	電子署名生成時に使用するハッシュ関数 "http://www.w3.org/2000/09/xmlsig#sha1" を指定します。
21	SignatureAlgorithm	-	署名アルゴリズム	電子署名生成時に使用する署名アルゴリズム "http://www.w3.org/2000/09/xmlsig#rsa-sha1" を指定します。
22	SigningCertificateRef	-	電子証明書参照	電子署名用証明書を指定します。
23		certId	証明書識別子	電子署名用証明書を特定する証明書識別子を指定します。

3. システムの構築

項番	要素	属性	項目	説明
24	ebXMLReceiverBinding	-	受信時文書交換定義	-
25	ReceiverNonRepudiation ¹	-	受信時電子署名定義	-
26	NonRepudiationProtocol ¹	-	電子署名プロトコル	電子署名を行う際の技術方式 "http://www.w3.org/2000/09/xmlsig#" を指定します。
27	HashFunction ¹	-	ハッシュ関数	電子署名生成時に使用するハッシュ関数 "http://www.w3.org/2000/09/xmlsig#sha1" を指定します。
28	SignatureAlgorithm ¹	-	署名アルゴリズム	電子署名生成時に使用する署名アルゴリズム "http://www.w3.org/2000/09/xmlsig#rsa-sha1" を指定します。
29	SigningSecurityDetailsRef ¹	-	署名検証セキュリティ詳細情報参照	電子署名検証時に使用する、セキュリティ詳細情報への参照先を指定します。
30	-	securityId ¹	セキュリティ詳細情報識別子	電子署名検証時に使用する、セキュリティ詳細情報を特定するセキュリティ詳細情報識別子を指定します。
31	PartyInfo	-	-	受信パーティに関する定義です。
32	Certificate ¹	-	証明書情報	XML 電子署名用証明書を定義します。

項番	要素	属性	項目	説明
33		certId 1	証明書識別子	XML 電子署名用証明書を CPA ファイル内で一意に特定する識別子を指定します。
34	ds:Certificate ¹	-	XML 電子署名用証明書	XMLDSig で規定されている形式で表現された証明書を指定します。 ²
35	Certificate	-	証明書情報	送信パーティの電子署名用証明書に対する認証局証明書を定義します。
36		certId	証明書識別子	認証局証明書を CPA ファイル内で一意に特定する識別子を指定します。
37	ds:Certificate	-	認証局証明書	XMLDSig で規定されている形式で表現された証明書を指定します。 ²
38	SecurityDetails	-	-	セキュリティの詳細情報です。受信パーティで適用するセキュリティ詳細情報を指定します。
39		security Id	セキュリティ詳細情報識別子	SecurityDetails 要素を CPA ファイル内で一意に特定する識別子を指定します。
40	TrustAnchors	-	信認認証局リスト	Security Details 要素の記載内容を信任する認証局のリストです。
41	AnchorCertificateRef	-	認証局証明書参照	認証局証明書の参照先を指定します。
42		certId	証明書識別子	認証局証明書の証明書識別子を指定します。
43	DeliveryChannel	-	配送チャンネル定義	-

3. システムの構築

項番	要素	属性	項目	説明
44	MessagingCharacteristics	-	メッセージ交換特性	-
45		ackSignatureRequested	署名付受信確認要否	Acknowledgmentメッセージに対して電子署名をすることがどうかを指定します。電子署名を行う場合 "always" を、行わない場合は "never" を指定します。
46	DocExchange	-	文書交換定義	文書交換に関する定義です。
47	ebXMLSenderBinding	-	送信時文書交換定義	-
48	SenderNonRepudiation ¹	-	送信時電子署名定義	-
49	NonRepudiationProtocol ¹	-	電子署名プロトコル	電子署名を行う際の技術方式 "http://www.w3.org/2000/09/xmlsig#" を指定します。
50	HashFunction ¹	-	ハッシュ関数	電子署名生成時に使用するハッシュ関数 "http://www.w3.org/2000/09/xmlsig#sha1" を指定します。
51	SignatureAlgorithm ¹	-	署名アルゴリズム	電子署名生成時に使用する署名アルゴリズム "http://www.w3.org/2000/09/xmlsig#rsa-sha1" を指定します。
52	SigningCertificateRef ¹	-	電子証明書参照	電子署名用証明書を指定します。
53		certId ¹	証明書識別子	電子署名用証明書を特定する証明書識別子を指定します。

項番	要素	属性	項目	説明
54	ebXMLReceiverBinding	-	-	受信時文書交換定義です。
55	ReceiverNonRepudiation	-	-	受信時電子署名定義です。
56	NonRepudiationProtocol	-	電子署名 プロトコ ル	電子署名を行う際の技術方式 "http:// www.w3.org/ 2000/09/ xmldsig#" を指定 します。
57	HashFunction	-	ハッシュ 関数	電子署名生成時に使用するハッシュ関数 "http:// www.w3.org/ 2000/09/ xmldsig#sha1" を指定 します。
58	SignatureAlgorithm	-	署名アル ゴリズム	電子署名生成時に使用する署名アル ゴリズム "http:// www.w3.org/ 2000/09/ xmldsig#rsa-sha 1" を指定します。
59	SigningSecurityDetailsRef	-	署名検証 セキュリ ティ詳細 情報参照	電子署名検証時に使用する、セキュ リティ詳細情報への参照先を指定し ます。
60	-	security Id	セキュリ ティ詳細 情報識別 子	電子署名検証時に使用する、セキュ リティ詳細情報を特定するセキュリ ティ詳細情報識別子を指定します。

(凡例)

- : なし

注 1 次の場合にだけ設定が必要です。

- ビジネスメッセージの高信頼配信をする場合で、Acknowledgment メッセージに対して XML 電子署名をする場合
- 受信パーティから送信されるビジネスメッセージも電子署名されている場合

注 2 証明書を XMLDsig 形式に変換する必要があります。証明書が KeyStore ファイルで管理されている場合は証明書形式変換 (KeyStore) コマンドを、証明書が X.509 証明書の場合は証明書形式変換 (X.509 証明書) コマンドを使用して変換してください。証明書形式変換 (KeyStore) コマンド、および証明書形式変換 (X.509 証明書) コマンドについては、「9.4 セキュリティ環境構築・

3. システムの構築

運用コマンド」の MSHConvertCert および MSHConvertCertFile を参照してください。

使用する認証局が中間認証局を持つ場合、認証バスを構成するすべての認証局の証明書を、運用に応じて証明書形式変換 (KeyStore) コマンドまたは証明書形式変換 (X.509 証明書) コマンドに指定し、XMLDsig 形式に変換して CPA ファイルに記載する必要があります。

XML 電子署名用証明書およびルート認証局証明書を受け取った場合

証明書名称として XML 電子署名用証明書、ルート認証局の名称を指定します。

XML 電子署名用証明書、中間認証局証明書、およびルート認証局証明書を受け取った場合

証明書名称として XML 電子署名用証明書・中間認証局・ルート認証局の名称を指定します。

(2) メッセージ交換定義ファイルの生成

CPA ファイルおよび CPA 拡張定義ファイルの記述が XML 電子署名をする設定になっていることを確認してから、メッセージ交換定義ファイルを生成します。

メッセージ交換定義ファイルを生成するには、メッセージ交換定義導入コマンドを実行します。送信側の uCosminexus Message Service for ebXML と受信側の uCosminexus Message Service for ebXML の両方でコマンドを実行します。メッセージ交換定義導入コマンドの詳細については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHDeployMsgDef を参照してください。

4

起動と停止

この章では、uCosminexus Message Service for ebXML システムの起動方法、停止方法、および uCosminexus Message Service for ebXML の再起動方法について説明します。

4.1 uCosminexus Message Service for ebXML システムの起動

4.2 uCosminexus Message Service for ebXML システムの停止

4.3 uCosminexus Message Service for ebXML の再起動

4.1 uCosminexus Message Service for ebXML システムの起動

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを起動する手順について説明します。ここでは、前提ソフトウェアを含めてシステム全体を起動する方法について説明します。システムを起動する前に、前提ソフトウェアおよび uCosminexus Message Service for ebXML の定義ファイルの準備をしておいてください。

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを起動する手順の中で実行する HiRDB のコマンドについてはマニュアル「HiRDB コマンドリファレンス」を、Cosminexus のコマンドについてはマニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」を参照してください。また、uCosminexus Message Service for ebXML のコマンドについては「9. コマンドリファレンス」を参照してください。

1. HiRDB の開始

HiRDB の `pdstart` コマンドを実行して、HiRDB を開始してください。

2. Cosminexus の PRF デーモンの開始

Cosminexus の `cprfstart` コマンドを実行して、PRF デーモンを開始してください。

- Windows の場合

```
<Cosminexus のインストールディレクトリ >%PRF%\bin%cprfstart
```

- UNIX の場合

```
/opt/Cosminexus/PRF/bin/cprfstart
```

3. Java の RMI レジストリの起動

次のコマンドを実行して、Java の RMI レジストリを起動してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXML のインストールディレクトリ >%bin%\RMIRegistryStart
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/bin/RMIRegistryStart
```

RMI サーバのデフォルトポート (1099) が、すでに使用されている場合

MSH 実行環境定義ファイル (`END_POINT` コンテナの `TIMER_SEND` キーおよび `TIMER_NOTIFY_AP` キー) の設定を変更する必要があります。MSH 実行環境定義ファイルの設定の詳細については、「7.4 MSH 実行環境定義ファイル (`mshenv.xml`)」を参照してください。

また、Java の RMI レジストリを起動するとき、RMI レジストリ起動コマンドに引数としてポート番号を指定して実行してください。

4. J2EE サーバ、および uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーション

の起動

次のコマンドを実行して、J2EE サーバ、および uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションを起動してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXML のインストールディレクトリ
>%bin%\MSHAppStart
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/bin/MSHAppStart
```

5. タイマー監視の開始

次のコマンドを実行して、タイマー監視を開始してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXML のインストールディレクトリ
>%bin%\MSHTimerStart
```

- UNIX の場合

送信タイマーの起動

```
/opt/ebxml/msh/bin/MSHTimerStart -send
```

AP 通知タイマープロセスの起動

```
/opt/ebxml/msh/bin/MSHTimerStart -notifyap
```

AP 通知タイマープロセスは、送信タイマー起動後、約 1 分以内に起動してください。

6. Hitachi Web Server の起動

- Windows の場合

Windows のサービスから、"Hitachi Web Server" を開始してください。

- UNIX の場合

次のユティリティを実行して、Hitachi Web Server を起動してください。

```
/opt/hitachi/httpsd/sbin/httpsdctl start
```

4.2 uCosminexus Message Service for ebXML システムの停止

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを停止する手順について説明します。

ここでは、前提ソフトウェアを含めてシステム全体を停止する方法について説明します。ほかのシステムで前提ソフトウェアを使用している場合は、前提ソフトウェアを停止させる必要はありません。

前提ソフトウェアを停止させるときは、ほかのソフトウェアで使用していないかどうかを必ず確認してください。

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを停止する手順の中で実行する HiRDB のコマンドについてはマニュアル「HiRDB コマンドリファレンス」を、Cosminexus のコマンドについてはマニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」を参照してください。また、uCosminexus Message Service for ebXML のコマンドについては「9. コマンドリファレンス」を参照してください。

1. Hitachi Web Server の停止

- Windows の場合

Windows のサービスから、"Hitachi Web Server" を停止してください。

- UNIX の場合

次のユティリティを実行して、Hitachi Web Server を停止してください。

```
/opt/hitachi/httpsd/sbin/httpsdctl stop
```

Hitachi Web Server を停止することで、送信側の MSH からのビジネスメッセージの受信を確実に遮断できるため、uCosminexus Message Service for ebXML を停止するときは Hitachi Web Server を停止することを推奨します。

2. J2EE サーバ、および uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションの停止

次のコマンドを実行して、J2EE サーバ、および uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションを停止してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXML のインストールディレクトリ  
>%bin%\MSHAppStop
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/bin/MSHAppStop
```

3. タイマー監視の終了

次のコマンドを実行して、タイマー監視を終了してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXML のインストールディレクトリ
>¥bin¥MSHTimerKill
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/bin/MSHTimerKill
```

4. Java の RMI レジストリの停止

- Windows の場合

Java の RMI レジストリのウィンドウを閉じてください。

- UNIX の場合

ps コマンドを実行し、JavaRMI レジストリのプロセス ID を確認します。

確認後、kill コマンドを実行して JavaRMI レジストリのプロセスを終了してください。

JavaRMI レジストリのプロセスを終了するまでの、コマンドの実行例を次に示します。

```
#ps
  PID TTY   TIME CMD
  3330 pts/1  0:00 -usr/bin/csh
 20150 pts/1  0:00 ps
 23714 pts/1  0:00 /opt/Cosminexus/jdk/bin/rmiregistry -J-cp -J/opt/ebxml/msh
#kill 23714
```

5. Cosminexus の PRF デーモンの停止

Cosminexus の cprfstop コマンドを実行して、Cosminexus の PRF デーモンを停止してください。

- Windows の場合

```
<Cosminexus のインストールディレクトリ >¥PRF¥bin¥cprfstop
```

- UNIX の場合

```
/opt/Cosminexus/PRF/bin/cprfstop
```

6. HiRDB の終了

HiRDB の pdstop コマンドを実行して、HiRDB を終了してください。

4.3 uCosminexus Message Service for ebXML の再起動

サーバマシンの電源を切らないで、uCosminexus Message Service for ebXML だけを再起動する場合の手順は、次のとおりです。

なお、ほかのプログラムで Hitachi Web Server を併用している場合は、Hitachi Web Server を停止させる必要はありません。

1. Hitachi Web Server の停止

- Windows の場合

Windows のサービスから、"Hitachi Web Server" を停止してください。

- UNIX の場合

次のユティリティを実行して、Hitachi Web Server を停止してください。

```
/opt/hitachi/httpsd/sbin/httpsdctl stop
```

Hitachi Web Server を停止することで、送信側の MSH からのビジネスメッセージの受信を確実に遮断できるため、uCosminexus Message Service for ebXML を停止するときは Hitachi Web Server を停止することを推奨します。

2. J2EE サーバ、および uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションの停止

次のコマンドを実行して、J2EE サーバ、および uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションを停止してください。

- Windows の場合

<uCosminexus Message Service for ebXML のインストールディレクトリ

```
>%bin%\MSHAppStop
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/bin/MSHAppStop
```

3. タイマー監視の終了

次のコマンドを実行して、タイマー監視を終了してください。

- Windows の場合

<uCosminexus Message Service for ebXML のインストールディレクトリ

```
>%bin%\MSHTimerKill
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/bin/MSHTimerKill
```

4. J2EE サーバ、および uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションの起動

次のコマンドを実行して、J2EE サーバ、および uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションを起動してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXML のインストールディレクトリ
>%bin%MSHAppStart
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/bin/MSHAppStart
```

5. タイマー監視の開始

次のコマンドを実行して、タイマー監視を開始してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXML のインストールディレクトリ
>%bin%MSHTimerStart
```

- UNIX の場合

送信タイマーの起動

```
/opt/ebxml/msh/bin/MSHTimerStart -send
```

AP 通知タイマープロセスの起動

```
/opt/ebxml/msh/bin/MSHTimerStart -notifyap
```

AP 通知タイマープロセスは、送信タイマー起動後、約 1 分以内に起動してください。

6. Hitachi Web Server の起動

- Windows の場合

Windows のサービスから、"Hitachi Web Server" を開始してください。

- UNIX の場合

次のユティリティを実行して、Hitachi Web Server を起動してください。

```
/opt/hitachi/httpsd/sbin/httpsdctl start
```


5

システムの運用

uCosminexus Message Service for ebXML の主な機能は、ビジネスメッセージの送受信です。この章では、ビジネスメッセージを送受信するためのシステム運用の流れ、ビジネスメッセージの送受信方法、および送受信したビジネスメッセージの削除・照会方法について説明します。

5.1 システム運用の流れ

5.2 ビジネスメッセージの送信

5.3 ビジネスメッセージの受信

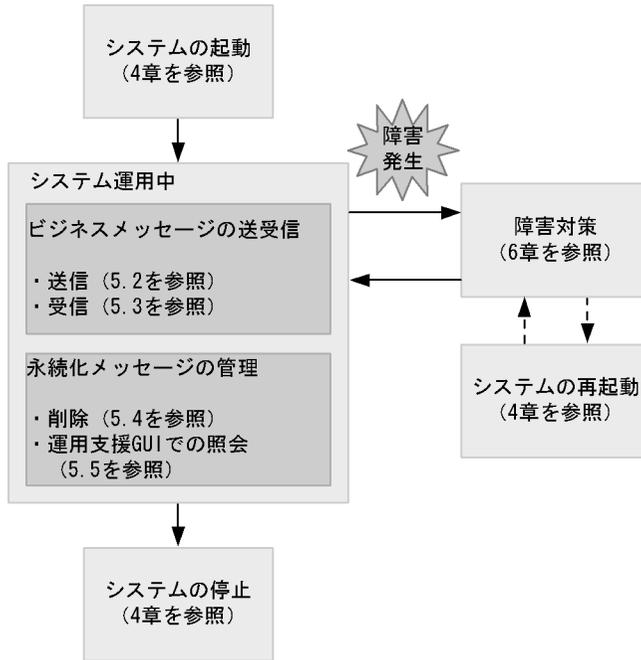
5.4 永続化メッセージの削除

5.5 運用支援 GUI でのビジネスメッセージの照会

5.1 システム運用の流れ

uCosminexus Message Service for ebXML のシステム運用は、次の図で示す流れで行います。

図 5-1 システム運用の流れ



- (凡例)
- ↓ : 操作の流れ
 - ⋮ ↓ : 必要に応じて行う操作の流れ

5.2 ビジネスメッセージの送信

取引データをビジネスメッセージとして送信するには、ビジネスメッセージを送信するために必要な情報を設定したあと、ビジネスメッセージ送信コマンドを実行します。また、ユーザーの設定に従って、ビジネスメッセージの送信結果を JP1、またはユーザーが作成した UOC に通知できます。

ここでは、ビジネスメッセージを送信するためにユーザーがする操作、およびビジネスメッセージ送信時に行われる uCosminexus Message Service for ebXML の処理の流れについて説明します。

5.2.1 ビジネスメッセージ送信情報の設定

ユーザーは、実際にビジネスメッセージを送信する前に、ビジネスメッセージを送信するために必要な情報を設定します。

ビジネスメッセージを送信するためには、次の情報を必ず設定してください。

メッセージ交換定義識別子

メッセージ交換定義ファイルの識別子を指定します。メッセージ交換定義識別子は、CPA 識別子とユーザーのパーティ識別子をハイフン (-) でつないだものです。

サービス名およびアクション名

送信するビジネスメッセージに対応するサービス名およびアクション名を指定します。あらかじめ CPA ファイルで定義してあるサービス名およびアクション名を指定してください。

ここでは、ビジネスメッセージ送信情報の設定方法について説明します。

(1) 送信情報ファイルを作成しておく方法

送信するビジネスメッセージの送信情報が毎回変わらない場合や、同じ送信情報で送信する頻度が高い場合、送信情報ファイルを作成しておくことで、送信時の手間が軽減されます。

また、アスタリスク (*) や山括弧 (< , >) など、OS のコマンドラインでワイルドカードやリダイレクトなどに指定する記号を使用する場合、送信情報ファイルを作成しておくことを推奨します。

送信情報ファイルの作成方法については、「7.6 送信情報ファイル」を参照してください。

(2) ビジネスメッセージ送信コマンドの引数に指定する方法

毎回異なる送信情報でビジネスメッセージを送信する場合、送信情報をビジネスメッセージ送信コマンドの引数に指定します。

5. システムの運用

ビジネスメッセージ送信コマンドに指定する引数の詳細については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHSendMessage を参照してください。

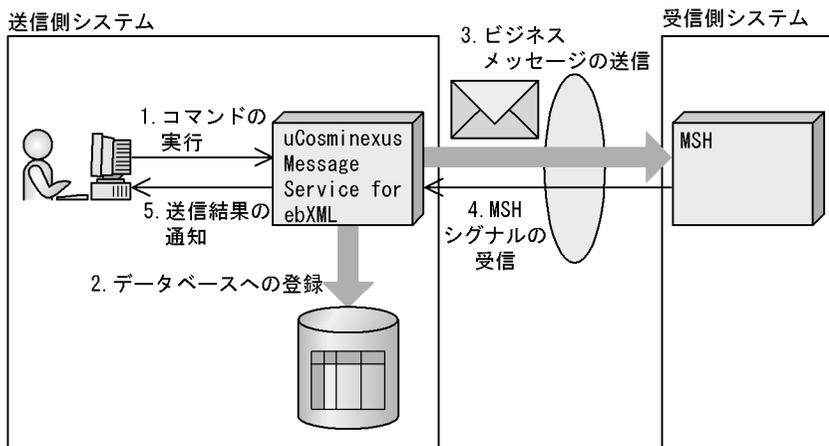
5.2.2 ビジネスメッセージ送信コマンドの実行

ビジネスメッセージ送信情報の設定が終わったら、ビジネスメッセージ送信コマンドを実行してビジネスメッセージを送信します。

ここでは、ビジネスメッセージ送信時に行われる uCosminexus Message Service for ebXML の処理の流れについて説明します。

uCosminexus Message Service for ebXML の処理は、高信頼配信をするかしないかによって異なります。高信頼配信をする場合の、ビジネスメッセージ送信時の処理の流れを次の図に示します。

図 5-2 ビジネスメッセージ送信時の処理の流れ（高信頼配信をする場合）



図中の番号に沿って処理の流れを説明します。次に示す番号は、図中の番号と対応しています。

1. コマンドの実行

ユーザーがビジネスメッセージ送信コマンドを実行します。

uCosminexus Message Service for ebXML によって、ビジネスメッセージが生成されます。

ビジネスメッセージ送信コマンドの実行方法については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHSendMessage を参照してください。

2. データベースへの登録

uCosminexus Message Service for ebXML が、送信したビジネスメッセージを永続化メッセージとしてデータベースに登録します。

3. ビジネスメッセージの送信

uCosminexus Message Service for ebXML が、ビジネスメッセージを受信側の MSH に送信します。

4. MSH シグナルの受信

uCosminexus Message Service for ebXML は、受信側の MSH から MSH シグナルを受信します。

MSH シグナルには、Acknowledgment メッセージ（正常時のシグナル）と Error メッセージ（エラー時のシグナル）があります。uCosminexus Message Service for ebXML は、MSH シグナルの種類からビジネスメッセージの送信結果を判断します。MSH シグナルが届かない場合、または警告レベルの Error メッセージを受信した場合は、CPA ファイルで指定した再送回数 / 間隔分、送信処理のリトライをします。

5. 送信結果の通知

uCosminexus Message Service for ebXML は、ビジネスメッセージの送信結果をユーザーに通知します。

JP1 のイベント送信、または UOC の起動によって、次の内容を通知します。

- ビジネスメッセージの送信結果（成功または失敗）
- 送信したビジネスメッセージの情報
- 送信したビジネスメッセージのペイロード情報

ビジネスメッセージの送信結果をユーザーに通知するために必要な設定については、「7.5 送信結果 / 受信定義ファイル (revdef.xml)」を参照してください。

高信頼配信をしない場合、「4. MSH シグナルの受信」が行われません。また、「5. 送信結果の通知」では、ビジネスメッセージの送信に成功しても失敗しても「成功」と通知されます。

ユーザーは、「2. データベースへの登録」でデータベースに登録された永続化メッセージの情報を運用支援 GUI から参照できます。運用支援 GUI の詳細については、「5.5 運用支援 GUI でのビジネスメッセージの照会」を参照してください。

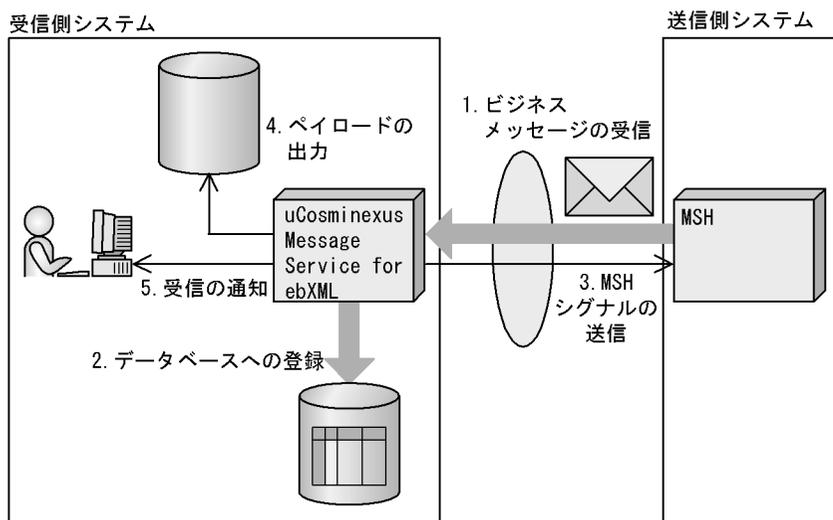
5.3 ビジネスメッセージの受信

uCosminexus Message Service for ebXML は、相手パーティが送信したビジネスメッセージを受信します。また、ユーザーの設定に従って、ビジネスメッセージの受信を JP1、またはユーザーが作成した UOC に通知できます。

ここでは、ビジネスメッセージ受信時に行われる uCosminexus Message Service for ebXML の処理の流れについて説明します。ビジネスメッセージを受信するために必要な設定については、「3.7.4 送信結果 / 受信定義ファイルの作成」を参照してください。

uCosminexus Message Service for ebXML の処理は、高信頼配信をするかしないかによって異なります。高信頼配信をする場合の、ビジネスメッセージ受信時の処理の流れを次の図に示します。

図 5-3 ビジネスメッセージ受信時の処理の流れ（高信頼配信をする場合）



図中の流れに沿って処理の詳細を説明します。次に示す番号は、図中の番号と対応しています。

1. ビジネスメッセージの受信

uCosminexus Message Service for ebXML は、送信側の MSH が送信したビジネスメッセージを受信します。

2. データベースへの登録

uCosminexus Message Service for ebXML は、受信したビジネスメッセージを永続化メッセージとしてデータベースに登録します。

3. MSH シグナルの送信

uCosminexus Message Service for ebXML は、送信側の MSH に受信処理が終了した

ことを通知するために、MSH シグナルを送信します。

4. ペイロードの出力

受信したビジネスメッセージに添付されたペイロードを、受信メッセージ格納ディレクトリに格納するか、またはメモリに出力します。

5. 受信の通知

uCosminexus Message Service for ebXML は、ビジネスメッセージを受信したことをユーザーに通知します。

JP1 のイベント送信、または UOC の起動によって、次の内容を通知します。

- 受信したビジネスメッセージの情報
- 受信したビジネスメッセージのペイロード情報

高信頼配信をしない場合、「3. MSH シグナルの送信」が行われません。

ユーザーは、「2. データベースへの登録」でデータベースに登録された永続化メッセージの情報を運用支援 GUI から参照できます。運用支援 GUI の詳細については「5.5 運用支援 GUI でのビジネスメッセージの照会」を参照してください。

5.4 永続化メッセージの削除

永続化メッセージとは、データベースに保存されている uCosminexus Message Service for ebXML が送受信したメッセージのことです。データベースに保存された永続化メッセージは、送受信処理が完了すると CLOSED 状態になります。CLOSED 状態で、かつ、永続期限を過ぎた永続化メッセージは不要ですので、ユーザーが定期的に削除してください。永続化メッセージを削除することで、データベースの容量が許容範囲を超えて動作に支障を来すことを防ぎます。

永続化メッセージを削除するには、永続化メッセージ削除コマンドを実行します。永続化メッセージ削除コマンドの詳細については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHRemoveMessage を参照してください。

なお、高信頼配信が完了していない状態、つまり OPEN 状態のときは、永続化メッセージを削除できません。障害などの理由から OPEN 状態の永続化メッセージを削除するには、次の手順で削除してください。

1. ビジネスメッセージを強制終了する。
ビジネスメッセージ強制終了コマンドを使用して、OPEN 状態のビジネスメッセージを CLOSED 状態にします。
2. ビジネスメッセージを削除する。
永続化メッセージ削除コマンドを使用して、該当するビジネスメッセージを削除します。

これらのコマンドの実行形式については、次を参照してください。

- ビジネスメッセージ強制終了コマンド
「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHTerminateMessage
- 永続化メッセージ削除コマンド
「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHRemoveMessage

5.5 運用支援 GUI でのビジネスメッセージの照会

システム管理者として登録されているユーザーは、永続化メッセージとしてデータベースに格納されたビジネスメッセージの情報を、運用支援 GUI から照会できます。運用支援 GUI は Internet Explorer で閲覧できます。

この運用支援 GUI を使用するユーザーを、あらかじめ管理者情報登録コマンドで登録しておく必要があります。ユーザー登録の詳細については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHRegisterUser を参照してください。

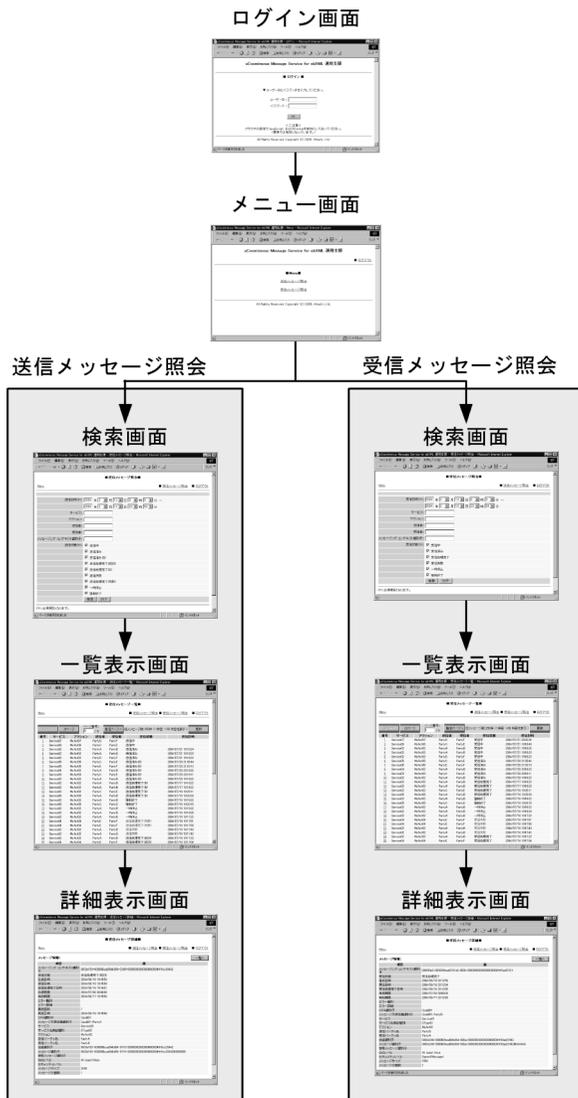
この運用支援 GUI では、送信メッセージの照会、および受信メッセージの照会ができます。運用支援 GUI の照会が有効なのは、例えば次のときです。

- 送受信に失敗したビジネスメッセージがないかを確認するとき
- 送受信メッセージの詳細情報を確認するとき
- 送受信に失敗したビジネスメッセージの要因を特定するとき

5.5.1 運用支援 GUI の画面遷移

運用支援 GUI の画面遷移を次の図に示します。

図 5-4 運用支援 GUI の画面遷移



運用支援 GUI を起動すると、ログイン画面が表示されます。ログイン画面でユーザー認証を終えると、メニュー画面が表示されます。メニュー画面から、送信メッセージまたは受信メッセージの照会操作ができます。操作が終わったら、各画面に表示されている [ログアウト] アンカーをクリックして、ログアウトをします。

なお、セッションタイムアウトやデータベースへのアクセスエラーなど、運用支援 GUI を操作中にエラーが発生した場合、エラー画面に遷移します。この場合、エラー画面に表示されているメッセージ ID の対処に従ってください。

5.5.2 運用支援 GUI の起動，ログイン，およびログアウト

運用支援 GUI の起動，ログイン，およびログアウトの方法について説明します。

(1) 運用支援 GUI の起動

運用支援 GUI を起動するには，ブラウザに次の URL を入力します。運用支援 GUI を起動すると，ログイン画面が表示されます。

`http(s)://<ドメイン名>:<ポート番号>/ebxml/gui`

ドメイン名

インターネットのドメイン名を指定します。社内イントラネット内で運用支援 GUI を使用する場合は，ドメイン名の代わりに，ebXML サーバのホスト名または IP アドレスを指定することもできます。

ポート番号

Hitachi Web Server のポート番号を指定します。デフォルトのポート番号を使用する場合は省略できます。

(2) ログイン

ログインするには，運用支援 GUI 起動後に表示されるログイン画面で次の操作をしてください。

1. 運用支援 GUI を使用するシステム管理者のユーザー ID およびパスワードを，それぞれ 20 バイト以下の英数字で入力します。
2. [OK] ボタンをクリックします。
入力されている項目を基に認証されます。
認証に成功すると，メニュー画面が表示されます。
認証に失敗すると，画面にエラーが表示されます。ログイン画面に戻って，再度ログインをしてください。

(3) ログアウト

ログアウトをするには，運用支援 GUI の各画面で次の操作をしてください。

1. 運用支援 GUI の各画面に表示されている [ログアウト] アンカーをクリックします。
ログアウトの処理が実行され，ログアウト画面が表示されます。
2. ブラウザの画面を閉じます。
ブラウザの [戻る] ボタンなどで，照会結果が表示されるおそれがあるため，使用後はブラウザの画面を閉じることを推奨します。

5.5.3 運用支援 GUI に表示されるビジネスメッセージの状態

運用支援 GUI では，ビジネスメッセージの状態を参照できます。ここでは，運用支援

5. システムの運用

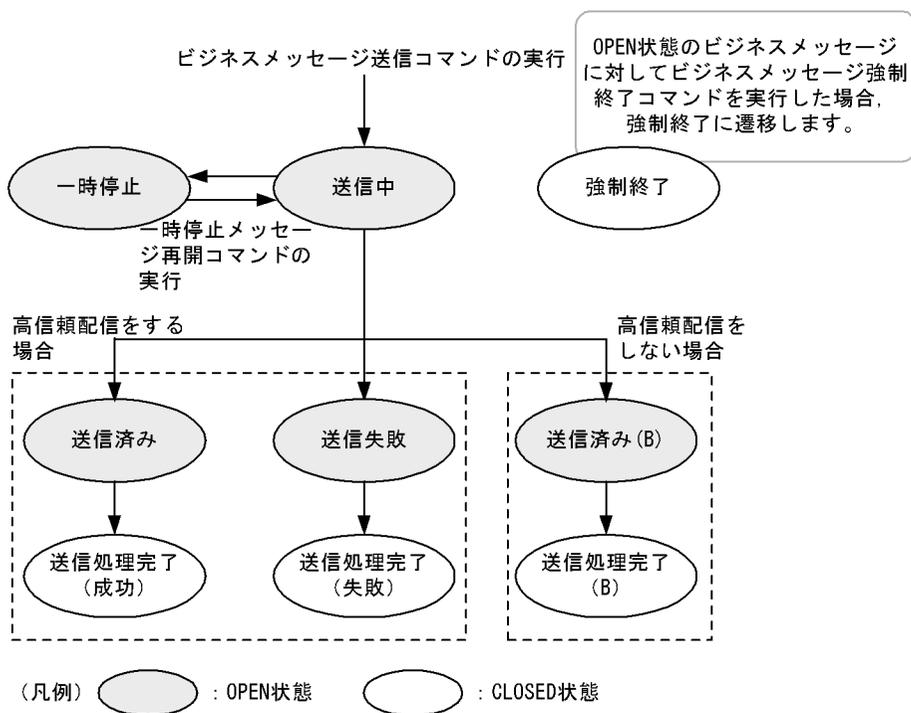
GUIに表示されるビジネスメッセージの状態、および状態遷移について説明します。

ビジネスメッセージの状態は、OPEN 状態と CLOSED 状態に分けられます。OPEN 状態とは、ビジネスメッセージの送受信が完了していない状態です。CLOSED 状態とは、ビジネスメッセージの送受信が完了した状態です。

(1) 送信メッセージの状態

ユーザーがビジネスメッセージ送信コマンドを使用して送信したビジネスメッセージは、OPEN 状態を経て CLOSED 状態へと遷移します。送信メッセージの状態遷移を次の図に示します。

図 5-5 送信メッセージの状態遷移



状態遷移で示した送信メッセージの状態を、次の表に示します。

表 5-1 送信メッセージの状態

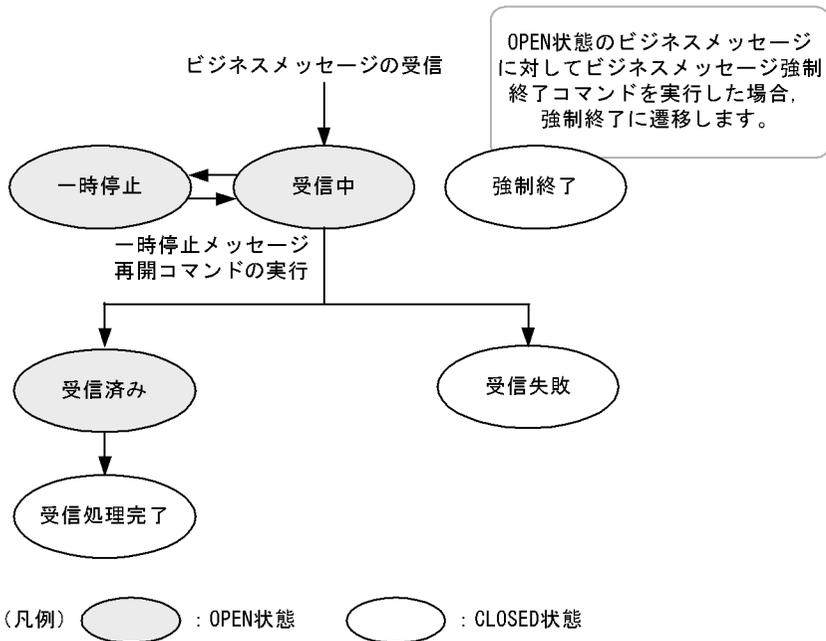
項番	画面に表示される内容	説明	状態の分類
1	送信中	ビジネスメッセージの送信処理を実行中であることを示します。	OPEN 状態
2	送信済み	高信頼配信をしている場合に、ビジネスメッセージの送信処理に成功したことを示します。	OPEN 状態

項番	画面に表示される内容	説明	状態の分類
3	送信済み (B)	高信頼配信をしない場合に、ビジネスメッセージの送信処理が完了したことを示します。(B)とは、Best Effortを意味します。	OPEN 状態
4	送信処理完了 (成功)	高信頼配信をしている場合に、ビジネスメッセージの送信処理に成功したという送信結果を受け取ったことを示します。	CLOSED 状態
5	送信処理完了 (B)	高信頼配信をしない場合に、ビジネスメッセージの送信処理が完了したという送信結果を受け取ったことを示します。(B)とは、Best Effortを意味します。	CLOSED 状態
6	送信失敗	高信頼配信をしている場合に、ビジネスメッセージの送信処理に失敗したことを示します。	OPEN 状態
7	送信処理完了 (失敗)	高信頼配信をしている場合に、ビジネスメッセージの送信処理に失敗したという送信結果を受け取ったことを示します。	CLOSED 状態
8	一時停止	ビジネスメッセージの送信中にエラーなどが発生したため、送信処理が一時停止されたことを示します。	OPEN 状態
9	強制終了	ユーザーによって、OPEN 状態のビジネスメッセージが強制終了されたことを示します。	CLOSED 状態

(2) 受信メッセージの状態

uCosminexus Message Service for ebXML が受信したビジネスメッセージは、OPEN 状態を経て CLOSED 状態へと遷移します。受信メッセージの状態遷移を次の図に示します。

図 5-6 受信メッセージの状態遷移



状態遷移で示した受信メッセージの状態を、次の表に示します。

表 5-2 受信メッセージの状態

項番	画面に表示される内容	説明	状態の分類
1	受信中	ビジネスメッセージの受信処理を実行中であることを示します。	OPEN 状態
2	受信済み	送信パーティからのビジネスメッセージの受け取りは完了しましたが、ペイロードの出力や受信通知が未完了である状態を示します。	OPEN 状態
3	受信処理完了	ビジネスメッセージの受信処理が完了したことを示します。	CLOSED 状態
4	受信失敗	ビジネスメッセージの受信に失敗したことを示します。	CLOSED 状態
5	一時停止	ビジネスメッセージの受信中にエラーなどが発生したため、受信処理が一時停止されたことを示します。	OPEN 状態
6	強制終了	ユーザーによって、OPEN 状態のビジネスメッセージが強制終了されたことを示します。	CLOSED 状態

5.5.4 送信メッセージの照会

送信メッセージの照会では、条件を指定して送信メッセージを検索し、条件に合った送

信メッセージの一覧を参照できます。送信メッセージの一覧では、ビジネスメッセージの送信状態や送信日時などを確認できます。また、送信メッセージの一覧からあるビジネスメッセージを選択して、メッセージングコンテキスト識別子などの詳細情報を参照することもできます。

送信メッセージの検索画面、一覧表示画面、および詳細表示画面について説明します。

(1) 送信メッセージの検索画面

送信メッセージの検索画面について説明します。送信メッセージの検索画面は、メニュー画面などにある [送信メッセージ照会] アンカーをクリックすると表示されます。

図 5-7 送信メッセージの検索画面

■送信メッセージ照会■

Menu ■ 受信メッセージ照会 ■ ログアウト

送信日時(*): 2004年 2月 12日 0時 0分 ~
 2004年 2月 12日 23時 59分

サービス:

アクション:

送信者:

受信者:

メッセージング コンテキスト識別子:

送信状態(*): 送信中
 送信済み
 送信済み(B)
 送信処理完了(成功)
 送信処理完了(B)
 送信失敗
 送信処理完了(失敗)
 一時停止
 強制終了

(*) : 必須項目となります。

ページが表示されました イントラネット

送信日時 (指定必須)

検索したいビジネスメッセージの送信日時を指定します。検索の開始点と終了点を両方指定してください。

サービス

5. システムの運用

255 バイト以内の文字列で、ビジネスメッセージに対応づけられているサービス名を指定します。

アクション

255 バイト以内の文字列で、ビジネスメッセージに対応づけられているアクション名を指定します。

送信者

63 バイト以内の文字列で、ビジネスメッセージを送信したパーティ名を指定します。

受信者

63 バイト以内の文字列で、ビジネスメッセージを受信したパーティ名を指定します。

メッセージングコンテキスト識別子

63 バイト以内の文字列で、永続化メッセージを一意に識別するメッセージングコンテキスト識別子を指定します。

送信状態（指定必須）

検索したい送信メッセージの状態を選択します。どれか一つを必ず選択してください。ビジネスメッセージの状態の詳細については、「5.5.3 運用支援 GUI に表示されるビジネスメッセージの状態」を参照してください。

[検索] ボタン

クリックすると、検索が開始され、送信メッセージの一覧表示画面が表示されます。

[クリア] ボタン

クリックすると、画面の入力値が初期状態に戻ります。

(2) 送信メッセージの一覧表示画面

送信メッセージの一覧表示画面について説明します。送信メッセージの一覧表示画面は、送信メッセージの検索画面で条件を指定して [検索] ボタンをクリックすると表示されます。

送信メッセージの一覧表示画面には、検索の結果抽出された送信メッセージの一覧が表示されます。一画面に表示される件数は 50 件で、送信日時の新しい順に並べて表示されます。ただし、送信中のメッセージは、送信日時に関係なく先頭に表示されます。

各送信メッセージの詳細を表示するには、該当する送信メッセージに付けられた番号をクリックしてください。送信メッセージの詳細表示画面が表示されます。

図 5-8 送信メッセージの一覧表示画面

番号	サービス	アクション	送信者	受信者	送信状態	送信日時
1	Service07	MsAct07	PartyD	PartyF	送信中	
2	Service06	MsAct06	PartyC	PartyE	送信中	
3	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	送信済み	2004/07/21 19:18:24
4	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	送信済み	2004/07/21 19:18:23
5	Service02	MsAct02	PartyD	PartyF	送信済み	2004/07/21 19:18:22
6	Service05	MsAct05	PartyC	PartyE	送信済み(B)	2004/07/20 21:05:44
7	Service05	MsAct05	PartyE	PartyF	送信済み(B)	2004/07/20 21:03:13
8	Service04	MsAct02	PartyA	PartyB	送信済み(B)	2004/07/20 20:18:22
9	Service03	MsAct03	PartyC	PartyE	送信済み(B)	2004/07/20 20:18:11
10	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	送信済み(B)	2004/07/20 19:18:22
11	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	送信処理完了(B)	2004/07/17 19:18:22
12	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	送信処理完了(B)	2004/07/17 19:18:22
13	Service02	MsAct02	PartyC	PartyE	送信処理完了(B)	2004/07/16 19:25:11
14	Service06	MsAct06	PartyA	PartyB	送信処理完了(B)	2004/07/16 19:20:33
15	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	強制終了	2004/07/16 19:18:22
16	Service05	MsAct05	PartyC	PartyD	強制終了	2004/07/16 19:20:15
17	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	一時停止	2004/07/16 19:18:22
18	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	一時停止	2004/07/16 19:18:20
19	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	一時停止	2004/07/16 19:17:22
20	Service04	MsAct04	PartyE	PartyF	送信処理完了(失敗)	2004/07/16 19:17:51
21	Service04	MsAct04	PartyE	PartyF	送信処理完了(失敗)	2004/07/16 19:17:50
22	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	送信失敗	2004/07/16 19:17:43
23	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	送信失敗	2004/07/16 19:17:42
24	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	送信処理完了(成功)	2004/07/16 19:17:22
25	Service04	MsAct04	PartyE	PartyF	送信処理完了(成功)	2004/07/16 19:17:06

[前ページ] ボタン, および [次ページ] ボタン

送信メッセージの一覧表示画面が複数のページに分かれている場合に, これらのボタンをクリックすると, 前後のページを表示できます。

[ページ番号] テキストボックス, および [指定ページへ] ボタン

送信メッセージの一覧表示画面が複数のページに分かれている場合に, [ページ番号] テキストボックスにページ番号を入力して [指定ページへ] ボタンをクリックすると, 任意のページを表示できます。

総メッセージ数 :

検索の結果抽出されたビジネスメッセージの総数が表示されます。また, 現在送信メッセージの一覧表示画面に表示されているビジネスメッセージが, 総数のうち何件目に該当するかも表示されます。

[更新] ボタン

クリックすると, 送信メッセージの一覧表示画面に表示されている内容が最新の情

5. システムの運用

報に更新されます。

番号

検索の結果抽出されたビジネスメッセージの通し番号が表示されます。番号をクリックすると、送信メッセージの詳細表示画面が表示されます。

サービス

ビジネスメッセージに対応づけられているサービス名が表示されます。

アクション

ビジネスメッセージに対応づけられているアクション名が表示されます。

送信者

ビジネスメッセージを送信したパーティ名が表示されます。

受信者

ビジネスメッセージを受信したパーティ名が表示されます。

送信状態

送信したビジネスメッセージの状態が表示されます。ビジネスメッセージの状態の詳細については、「5.5.3 運用支援 GUI に表示されるビジネスメッセージの状態」を参照してください。

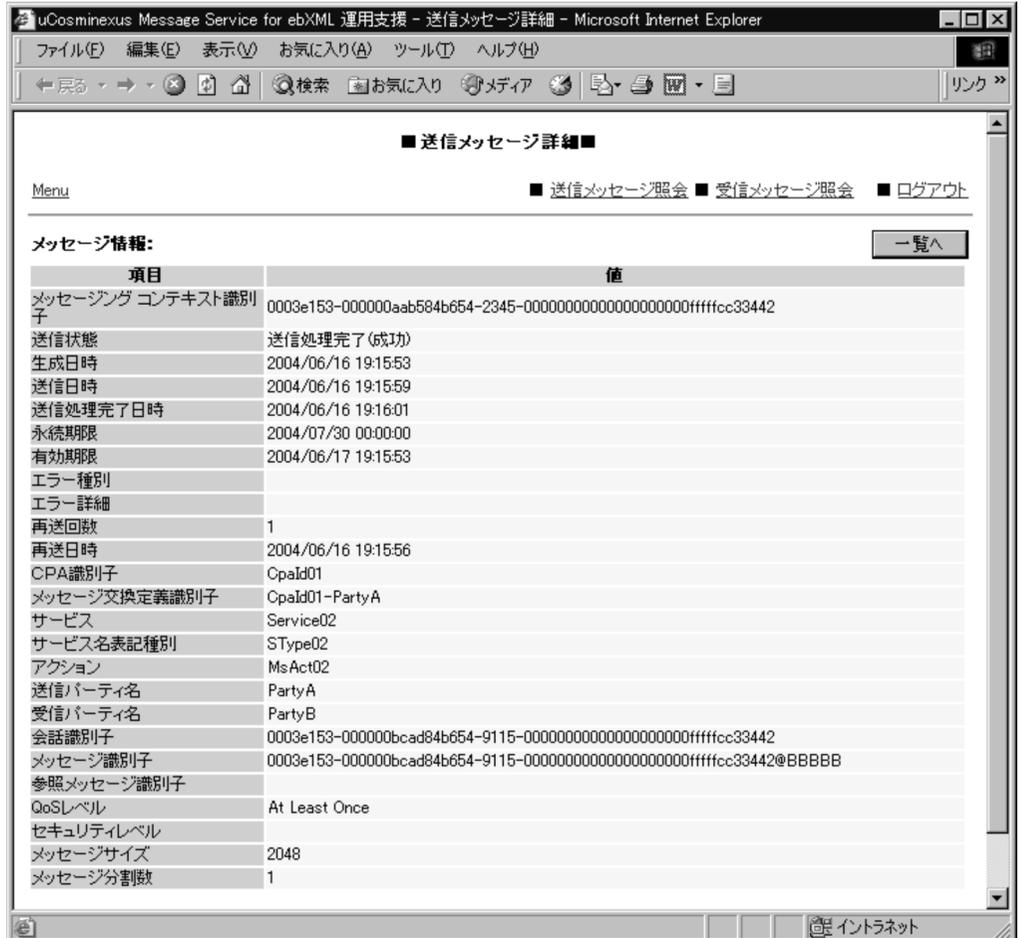
送信日時

uCosminexus Message Service for ebXML が受信側の MSH に、ビジネスメッセージを送信した日時が表示されます。

(3) 送信メッセージの詳細表示画面

送信メッセージの詳細表示画面について説明します。送信メッセージの詳細表示画面は、送信メッセージの一覧表示画面で、送信メッセージの番号欄に記載されている番号をクリックすると表示されます。

図 5-9 送信メッセージの詳細表示画面



[一覧へ] ボタン

クリックすると、送信メッセージの一覧表示画面が表示されます。

メッセージングコンテキスト識別子

uCosminexus Message Service for ebXML が永続化メッセージを識別するために使用する識別子が表示されます。

送信状態

ビジネスメッセージの送信状態が表示されます。ビジネスメッセージの状態の詳細については、「5.5.3 運用支援 GUI に表示されるビジネスメッセージの状態」を参照してください。

生成日時

uCosminexus Message Service for ebXML がビジネスメッセージを生成した日時が表示されます。

5. システムの運用

送信日時

uCosminexus Message Service for ebXML が受信側の MSH に、ビジネスメッセージを送信した日時が表示されます。

送信処理完了日時

uCosminexus Message Service for ebXML が JP1、または UOC にビジネスメッセージの送信結果を通知した日時が表示されます。

永続期限

永続化メッセージをデータベースサーバに保持しておく期限が表示されます。CPA 拡張定義ファイル (DurationTime 要素) で定義した値が表示されます。

有効期限

このビジネスメッセージを受信側の MSH に届ける期限が表示されます。受信側の MSH がビジネスメッセージを受信した時点でこの有効期限が過ぎていると、受信側の MSH は受信エラーと判断します。

運用支援 GUI では、受信エラーとなったビジネスメッセージの [エラー種別] および [エラー詳細] に、エラーの要因などが表示されます。

エラー種別

ビジネスメッセージの送信で発生したエラーの要因が表示されます。

エラー詳細

ビジネスメッセージの送信で発生したエラーの詳細情報が表示されます。

再送回数

ビジネスメッセージを再送した回数が表示されます。

再送日時

ビジネスメッセージの次の再送日時が表示されます。

CPA 識別子

CPA ファイルを識別する識別子が表示されます。

メッセージ交換定義識別子

ビジネスメッセージの送信で使用したメッセージ交換定義ファイルを識別する識別子が表示されます。

サービス

ビジネスメッセージに対応づけられているサービス名が表示されます。

サービス名表記種別

ビジネスメッセージに対応するサービスの表記種別が表示されます。

アクション

ビジネスメッセージに対応づけられているアクション名が表示されます。

送信パーティ名

ビジネスメッセージを送信したパーティ名が表示されます。送信メッセージの検索画面や送信メッセージの一覧表示画面で表示される [送信者] と同じ内容です。

受信パーティ名

ビジネスメッセージを受信したパーティ名が表示されます。受信メッセージの検索画面や受信メッセージの一覧表示画面で表示される [受信者] と同じ内容です。

会話識別子

ビジネスメッセージの会話識別子が表示されます。

メッセージ識別子

業務アプリケーション側でビジネスメッセージそのものを識別するための識別子が表示されます。

メッセージングコンテキスト識別子が uCosminexus Message Service for ebXML によって自動生成されるのに対して、このメッセージ識別子は、ユーザーが送信時に任意の値を指定できます。

参照メッセージ識別子

このビジネスメッセージと関連するビジネスメッセージの、メッセージ識別子が表示されます。このビジネスメッセージの送信時に、ユーザーが異なるビジネスメッセージを関連づけなかった場合は表示されません。

QoS レベル

このビジネスメッセージの QoS レベルとして、次のどれかが表示されます。

- Once and Only Once
- At Least Once
- Best Effort

セキュリティレベル

ビジネスメッセージの送信で XML 電子署名を使用する場合に、次のどれかが表示されます。XML 電子署名を使用しない場合は、何も表示されません。

- Signed(Message)
送信メッセージだけが署名されたことを示します。
- Signed(Ack)
Acknowledgment メッセージだけが署名されたことを示します。
- Signed(Message/Ack)
送信メッセージ、および送信メッセージに対する Acknowledgment メッセージが署名されたことを示します。

メッセージサイズ

ビジネスメッセージのサイズが表示されます。単位はバイトです。

メッセージ分割数

このビジネスメッセージのサイズを、メッセージ分割サイズに従って分割した個数が表示されます。

5. システムの運用

メッセージ分割サイズは、MSH 実行環境定義ファイル（PERSIST コンテナの MESSAGE_ARCHIVE_DIVISION_SIZE キー）に指定した値が使用されます。

5.5.5 受信メッセージの照会

受信メッセージの照会では、条件を指定して受信メッセージを検索し、条件に合った受信メッセージの一覧を参照できます。受信メッセージの一覧では、ビジネスメッセージの受信状態や受信日時などを確認できます。また、受信メッセージの一覧からあるメッセージを選択して、メッセージングコンテキスト識別子などの詳細情報を参照することもできます。

受信メッセージの検索画面、一覧表示画面、および詳細表示画面について説明します。

(1) 受信メッセージの検索画面

受信メッセージの検索画面について説明します。受信メッセージの検索画面は、メニュー画面などにある [受信メッセージ照会] アンカーをクリックすると表示されます。

図 5-10 受信メッセージの検索画面

■ 受信メッセージ照会 ■

Menu ■ 送信メッセージ照会 ■ ログアウト

受信日時(*)：2004 年 2 月 12 日 0 時 0 分 ~
2004 年 2 月 12 日 23 時 59 分

サービス：

アクション：

送信者：

受信者：

メッセージング コンテキスト識別子：

受信状態(*)： 受信中
 受信済み
 受信処理完了
 受信失敗
 一時停止
 強制終了

(*)：必須項目となります。

受信日時（指定必須）

ビジネスメッセージの受信処理を開始・終了した日時として、開始日時と終了日時を両方指定します。

サービス

255バイト以内の文字列で、ビジネスメッセージに対応づけられているサービス名を指定します。

アクション

255バイト以内の文字列で、ビジネスメッセージに対応づけられているアクション名を指定します。

送信者

63バイト以内の文字列で、ビジネスメッセージを送信したパーティ名を指定します。

受信者

63バイト以内の文字列で、ビジネスメッセージを受信したパーティ名を指定します。

メッセージングコンテキスト識別子

63バイト以内の文字列で、永続化メッセージを一意に識別するメッセージングコンテキスト識別子を指定します。

受信状態（指定必須）

検索したい受信メッセージの状態を選択します。どれか一つには必ず選択してください。ビジネスメッセージの状態の詳細については、「5.5.3 運用支援 GUI に表示されるビジネスメッセージの状態」を参照してください。

[検索] ボタン

クリックすると、検索が開始され、受信メッセージの一覧表示画面が表示されます。

[クリア] ボタン

クリックすると、画面の入力値が初期状態に戻ります。

(2) 受信メッセージの一覧表示画面

受信メッセージの一覧表示画面について説明します。受信メッセージの一覧表示画面は、受信メッセージの検索画面で条件を指定して [検索] ボタンをクリックすると表示されます。

受信メッセージの一覧表示画面には、検索の結果抽出された受信メッセージの一覧が表示されます。一画面に表示される件数は50件で、受信日時の新しい順に並べて表示されます。

各受信メッセージの詳細を表示するには、該当する受信メッセージの番号をクリックしてください。受信メッセージの詳細表示画面が表示されます。

図 5-11 受信メッセージの一覧表示画面

番号	サービス	アクション	送信者	受信者	受信状態	受信日時
1	Service07	MsAct07	PartyD	PartyF	受信中	2004/07/21 20:02:34
2	Service06	MsAct06	PartyC	PartyE	受信中	2004/07/21 19:18:40
3	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	受信中	2004/07/21 19:18:24
4	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	受信中	2004/07/21 19:18:23
5	Service02	MsAct02	PartyD	PartyF	受信中	2004/07/21 19:18:22
6	Service05	MsAct05	PartyC	PartyE	受信済み	2004/07/20 21:05:44
7	Service05	MsAct05	PartyE	PartyF	受信済み	2004/07/20 21:03:13
8	Service04	MsAct02	PartyA	PartyB	受信済み	2004/07/20 20:18:22
9	Service03	MsAct03	PartyC	PartyE	受信済み	2004/07/20 20:18:11
10	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	受信済み	2004/07/20 19:18:22
11	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	受信処理完了	2004/07/17 19:18:22
12	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	受信処理完了	2004/07/17 19:18:22
13	Service02	MsAct02	PartyC	PartyE	受信処理完了	2004/07/16 19:25:11
14	Service06	MsAct06	PartyA	PartyB	受信処理完了	2004/07/16 19:20:33
15	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	強制終了	2004/07/16 19:18:22
16	Service05	MsAct05	PartyC	PartyD	強制終了	2004/07/16 19:20:15
17	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	一時停止	2004/07/16 19:18:22
18	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	一時停止	2004/07/16 19:18:20
19	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	一時停止	2004/07/16 19:17:22
20	Service04	MsAct04	PartyE	PartyF	受信失敗	2004/07/16 19:17:51
21	Service04	MsAct04	PartyE	PartyF	受信失敗	2004/07/16 19:17:50
22	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	受信失敗	2004/07/16 19:17:43
23	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	受信失敗	2004/07/16 19:17:42
24	Service02	MsAct02	PartyA	PartyB	受信処理完了	2004/07/16 19:17:22
25	Service04	MsAct04	PartyE	PartyF	受信処理完了	2004/07/16 19:17:06

[前ページ] ボタン, および [次ページ] ボタン

受信メッセージの一覧表示画面が複数のページに分かれている場合に, これらのボタンをクリックすると, 前後のページを表示できます。

[ページ番号] テキストボックス, および [指定ページへ] ボタン

受信メッセージの一覧表示画面が複数のページに分かれている場合に, [ページ番号] テキストボックスにページ番号を入力して [指定ページへ] ボタンをクリックすると, 任意のページを表示できます。

総メッセージ数 :

検索の結果抽出されたビジネスメッセージの総数が表示されます。また, 現在受信メッセージの一覧表示画面に表示されているビジネスメッセージが, 総数のうち何件目に該当するかも表示されます。

[更新] ボタン

クリックすると, 受信メッセージの一覧表示画面に表示されている内容が最新の情

報に更新されます。

番号

検索の結果抽出されたビジネスメッセージの通し番号が表示されます。番号をクリックすると、受信メッセージの詳細表示画面が表示されます。

サービス

ビジネスメッセージに対応づけられているサービス名が表示されます。

アクション

ビジネスメッセージに対応づけられているアクション名が表示されます。

送信者

ビジネスメッセージを送信したパーティ名が表示されます。

受信者

ビジネスメッセージを受信したパーティ名が表示されます。

受信状態

受信したビジネスメッセージの状態が表示されます。ビジネスメッセージの状態の詳細については、「5.5.3 運用支援 GUI に表示されるビジネスメッセージの状態」を参照してください。

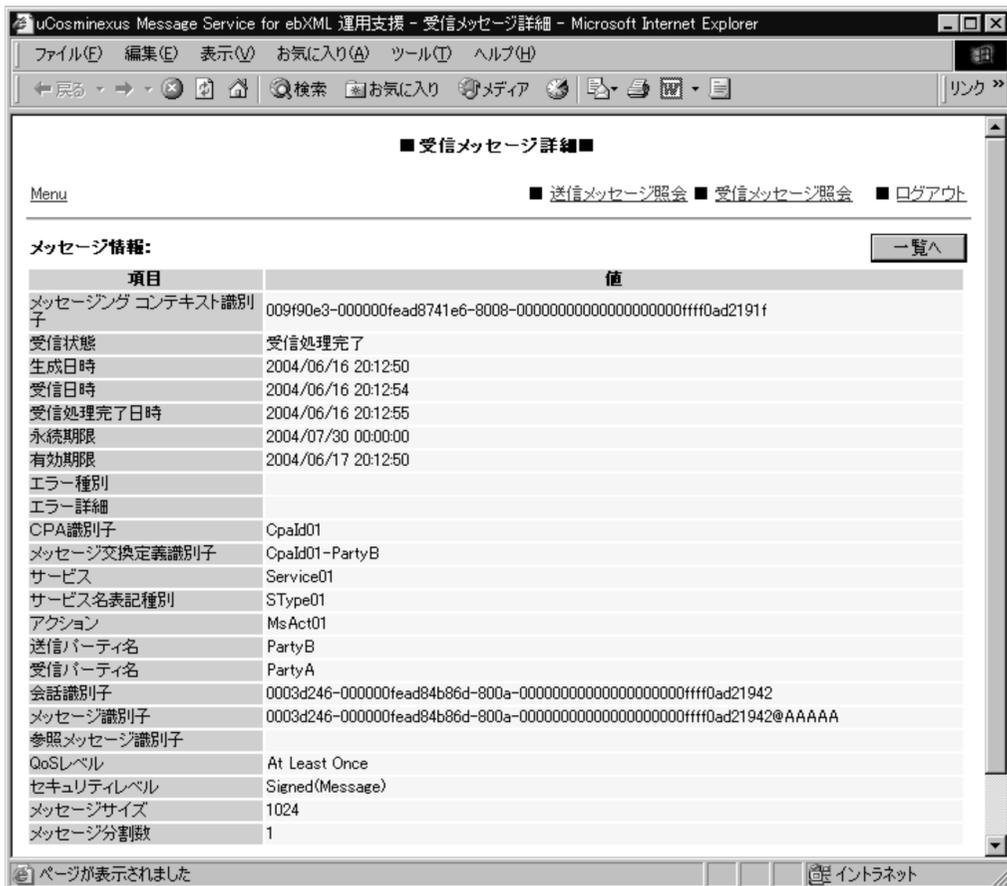
受信日時

uCosminexus Message Service for ebXML が送信側の MSH から、ビジネスメッセージの受信処理を開始した日時が表示されます。受信中のビジネスメッセージにも、受信日時が表示されます。

(3) 受信メッセージの詳細表示画面

受信メッセージの詳細表示画面について説明します。受信メッセージの詳細表示画面は、受信メッセージの一覧表示画面で、受信メッセージの番号欄に記載されている番号をクリックすると表示されます。

図 5-12 受信メッセージの詳細表示画面



[一覧へ] ボタン

クリックすると、受信メッセージの一覧表示画面が表示されます。

メッセージングコンテキスト識別子

uCosminexus Message Service for ebXML が永続化メッセージを識別するために使用する識別子が表示されます。

受信状態

ビジネスメッセージの受信状態が表示されます。ビジネスメッセージの状態の詳細については、「5.5.3 運用支援 GUI に表示されるビジネスメッセージの状態」を参照してください。

生成日時

送信側の MSH がビジネスメッセージを生成した日時が表示されます。

受信日時

uCosminexus Message Service for ebXML がビジネスメッセージの受信処理を開始

した日時が表示されます。

受信処理完了日時

uCosminexus Message Service for ebXML が JP1 , または UOC にビジネスメッセージの受信を通知した日時が表示されます。

永続期限

永続化メッセージをデータベースサーバに保持しておく期限が表示されます。CPA ファイルで定義した値が表示されます。

有効期限

このビジネスメッセージを受信側の MSH に届ける期限が表示されます。受信側の MSH がビジネスメッセージを受信した時点でこの有効期限が過ぎていると、受信側の MSH は受信エラーと判断します。

運用支援 GUI では、受信エラーとなったビジネスメッセージの [エラー種別] および [エラー詳細] に、エラーの要因などが表示されます。

エラー種別

ビジネスメッセージの受信で発生したエラーの要因が表示されます。

エラー詳細

ビジネスメッセージの受信で発生したエラーの詳細情報が表示されます。

CPA 識別子

CPA ファイルを識別する識別子が表示されます。

メッセージ交換定義識別子

ビジネスメッセージの受信で使用したメッセージ交換定義ファイルを識別する識別子が表示されます。

サービス

ビジネスメッセージに対応づけられているサービス名が表示されます。

サービス名表記種別

ビジネスメッセージに対応するサービスの表記種別が表示されます。

アクション

ビジネスメッセージに対応づけられているアクション名が表示されます。

送信パーティ名

ビジネスメッセージを送信したパーティ名が表示されます。送信メッセージの検索画面や送信メッセージの一覧表示画面で表示される [送信者] と同じ内容です。

受信パーティ名

ビジネスメッセージを受信したパーティ名が表示されます。受信メッセージの検索画面や受信メッセージの一覧表示画面で表示される [受信者] と同じ内容です。

会話識別子

5. システムの運用

ビジネスメッセージの会話識別子が表示されます。

メッセージ識別子

業務アプリケーション側でビジネスメッセージそのものを識別するための識別子が表示されます。

メッセージングコンテキスト識別子が uCosminexus Message Service for ebXML によって自動生成されるのに対して、このメッセージ識別子は、ユーザーが送信時に任意の値を指定できます。

参照メッセージ識別子

このメッセージと関連するビジネスメッセージの、メッセージ識別子です。このビジネスメッセージの送信時に、ユーザーが異なるビジネスメッセージを関連づけなかった場合は表示されません。

QoS レベル

このビジネスメッセージの QoS レベルとして、次のどれかが表示されます。

- Once and Only Once
- At Least Once
- Best Effort

セキュリティレベル

受信メッセージだけ、または受信メッセージと Acknowledgment メッセージが XML 電子署名されている場合に、次のどれかが表示されます。XML 電子署名がされていない場合は、何も表示されません。

- Signed(Message)
受信メッセージだけが署名されたことを示します。
- Signed(Ack)
Acknowledgment メッセージだけが署名されたことを示します。
- Signed(Message/Ack)
受信メッセージ、および受信メッセージに対する Acknowledgment メッセージが署名されたことを示します。

メッセージサイズ

ビジネスメッセージのサイズが表示されます。単位はバイトです。

メッセージ分割数

このビジネスメッセージのサイズを、メッセージ分割サイズに従って分割した個数が表示されます。

メッセージ分割サイズは、MSH 実行環境定義ファイル (PERSIST コンテナの MESSAGE_ARCHIVE_DIVISION_SIZE キー) に指定した値が使用されます。

6

障害対策

この章では、uCosminexus Message Service for ebXML のシステムに障害が発生した場合の対策について説明します。

6.1 障害が発生したときの手順

6.2 ログ・トレース情報の取得方法

6.3 トレースの出力形式

6.4 主な障害とその対策

6.1 障害が発生したときの手順

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムに障害が発生した場合、次の手順に従って対処してください。

1. 必要なトレースを取得する。

uCosminexus Message Service for ebXML はシステムの稼働状況をログ・トレース情報として出力します。障害原因の調査には、出力されるログ・トレース情報を使用してください。

取得するトレースについては、「6.2 ログ・トレース情報の取得方法」を参照してください。

2. トレースに出力されたメッセージの対処方法を参照し、要因を分析して障害に対処する。

トレースの形式については、「6.3 トレースの出力形式」を参照してください。また、メッセージ ID ごとの説明および対処については、「10. メッセージ」を参照してください。

このマニュアルでは、障害の種類とユーザーの対策について主なケースを取り上げて説明しています。主な障害の種類とユーザーの対策の詳細については、「6.4 主な障害とその対策」を参照してください。

3. 対処できない場合、および予期しないエラーが発生した場合は、トレースを取得して保守員に連絡する。

「保守員に連絡する」とは、購入時の契約に基づいて、システム管理者が弊社問い合わせ窓口へ連絡することを示します。

6.2 ログ・トレース情報の取得方法

ここでは uCosminexus Message Service for ebXML のシステムから出力されるログ、およびトレースについて説明します。

6.2.1 uCosminexus Message Service for ebXML のログ・トレース

uCosminexus Message Service for ebXML のログ・トレース情報の出力内容、および出力先を次に示します。障害が発生した場合には、これらのログ・トレース情報を取得してください。

(1) イベントログ (Windows の場合)

エラーメッセージ (トレース出力レベルが 0 のメッセージ) が出力されます。

イベントログの出力先は、システムの設定によって異なります。

(2) システムログ (UNIX の場合)

エラーメッセージ (トレース出力レベルが 0 のメッセージ) が出力されます。

システムログの出力先は、システムの設定によって異なります。

(3) MSH 実行環境トレース

ビジネスメッセージ送受信に関するトレースが出力されます。

MSH 実行環境トレースは、MSH 実行環境定義ファイルで指定した場所に出力されます。MSH 実行環境定義ファイルの詳細については、「7.4 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)」を参照してください。

(4) タイマートレース

タイマー監視 (送信タイマーおよび AP 通知タイマー) に関するトレースが出力されません。

タイマートレースは、MSH 実行環境定義ファイルで指定した場所に出力されます。MSH 実行環境定義ファイルの詳細については、「7.4 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)」を参照してください。

(5) 共通トレース

コマンドや運用支援 GUI に関する内容が出力されます。

共通トレースは、実行環境参照定義ファイルで指定した場所に出力されます。実行環境参照定義ファイルの詳細については、「7.3 実行環境参照定義ファイル

6. 障害対策

(mshenvrefs.xml)」を参照してください。

共通トレースに実行結果が出力されるコマンドを、次に挙げます。このほかのコマンドの実行結果は、標準出力、または標準エラー出力に出力されます。

- MSH 実行環境定義チェックコマンド
- 送信結果 / 受信定義チェックコマンド
- メッセージ交換定義導入コマンド
- 管理者情報登録コマンド
- 一時停止メッセージ解除コマンド
- 永続化メッセージ削除コマンド
- ビジネスメッセージ送信コマンド
- ビジネスメッセージ強制終了コマンド

6.2.2 前提プログラムのログ

次に示す前提プログラムのログは、必要に応じて取得してください。

(1) HiRDB のログ

ログの取得方法については、マニュアル「HiRDB システム運用ガイド」を参照してください。

(2) uCosminexus Application Server のログ

ログの取得方法については、マニュアル「Cosminexus システム運用ガイド」を参照してください。

6.3 トレースの出力形式

uCosminexus Message Service for ebXML が出力するトレースの出力形式について説明します。uCosminexus Message Service for ebXML が出力するのは、次に示すトレースです。

- MSH 実行環境トレース
- タイマートレース
- 共通トレース

図 6-1 uCosminexus Message Service for ebXML が出力するトレースの出力形式

1. 通番	2. 日付	3. 時刻	4. 予約	5. AP名	6. PID	7. TID	8. MID	9. 種別	10. AID	11. メッセージ
-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	-------	---------	-----------

図中の番号は、次に示す表の項番と一致しています。トレースには番号は出力されません。

表 6-1 トレースの出力項目

項番	項目	内容	表示形式	サイズ(バイト)
1	通番	トレースコードの通番です。	4 桁の整数値	4
2	日付	トレースの取得日付です。	yyyy/mm/dd	10
3	時刻	トレースの取得時刻です。	hh:mm:ss.SSS	12
4	予約	予約されている領域です。4 バイトのスペースが表示されます。	なし	4
5	AP 名	トレースの出力元となるアプリケーション名です。 uCosminexus Message Service for ebXML の場合, "MSH" が出力されます。	MSH	16
6	PID	トレースの出力元となるプロセスの ID です。	8 桁の 16 進数値	8
7	TID	トレースの出力元となるスレッドの ID です。	Jxxxxxxx • Java スレッドを示す "J" • xxxxxxxx Java スレッド ID を示す 7 桁の 16 進数値	8
8	MID	メッセージ ID です。	KDEBnnxxx-Y	16

6. 障害対策

項番	項目	内容	表示形式	サイズ(バイト)
9	種別	メッセージの種別です。	<ul style="list-style-type: none"> • ER エラーレベルメッセージ • WR 警告レベルメッセージ • IF インフォメーションメッセージ • FB メソッドの開始メッセージ • FE メソッドの終了メッセージ 	2
10	AID	トレースの出力元となるアクションの ID です。	Ayyyyyyy <ul style="list-style-type: none"> • アクションを示す "A" • yyyyyyy アクションの通番を示す 7 桁の 16 進数値 	8
11	メッセージ	各メソッドが出力するメッセージです。	省略	960

注 表示形式の詳細については、「10.1.2 メッセージの記述形式」を参照してください。

6.4 主な障害とその対策

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムに発生する主な障害、および障害に対するユーザーの対策を次に示します。

表 6-2 主な障害の種類とユーザーの対策

項番	発生した事象	障害の種類	ユーザーの対策
1	uCosminexus Message Service for ebXML が閉塞した。	メッセージ交換定義ファイルの内容が不正。	メッセージ交換定義導入コマンドを実行して正しいメッセージ交換定義ファイルを生成し、サーバを再起動してください。
2		不正ファイルの保存中に、予期しないエラーが発生。	トレースを取得し、保守員に連絡してください。
3		システム内部で予期しないエラーが発生。	トレースを取得し、保守員に連絡してください。
4		Java 環境でメモリ不足 (java.lang.OutOfMemoryError) が発生。	マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」を参照し、JavaVM のメモリチューニングをしてください。チューニングで障害回避できない場合は、単純に必要なメモリが足りないので、マシンに搭載するメモリを増やしてください。
5		項番 1 から項番 4 以外の障害が発生。	トレースを取得して、閉塞状態になった原因を調査します。原因を取り除いたあと、サーバを再起動してください。
6	ビジネスメッセージが送信失敗した。	ビジネスメッセージ送信コマンドに指定したメッセージ交換定義ファイルがない。	ビジネスメッセージ送信コマンドの指定を見直してください。指定が正しい場合は、メッセージ交換定義導入コマンドでメッセージ交換定義ファイルを生成してください。
7		データベースへのアクセスエラーが発生。	データベースのログを確認し、障害に対処します。必要に応じて、uCosminexus Message Service for ebXML を停止し、データベースの障害を回復後、再起動してください。
8		HTTP 通信エラーが発生。	通信エラーの原因を特定し、対処してください。 CPA ファイルの内容に誤りがある、または CPA ファイルの定義とほかの定義ファイルとに矛盾があるなど、原因が CPA ファイルに関係する場合、CPA ファイルおよびメッセージ交換定義ファイルを再度生成する必要があります。

6. 障害対策

項番	発生した事象	障害の種類	ユーザーの対策
9		XML 電子署名処理でエラーが発生。	エラーの原因を特定し、対処してください。 CPA ファイルの内容に誤りがある、または CPA ファイルの定義とほかの定義ファイルとに矛盾があるなど、原因が CPA ファイルに関係する場合、CPA ファイルおよびメッセージ交換定義ファイルを再度生成する必要があります。
10		タイマーが未起動。	タイマー起動コマンドを実行して、タイマーを起動してください。
11		高信頼配信でリトライオーバー。	高信頼配信でエラーとなる原因を特定し、対処してください。相手サーバが起動しているか、または相手サーバにエラーが発生していないかを確認してください。
12		送信後、相手サーバから Error メッセージを受信。	送信結果情報から Error メッセージの内容を確認し、対処してください。相手サーバの問題の場合もあるため、その場合相手サーバへの確認が必要です。
13	ビジネスメッセージの受信エラーが発生した。	受信したビジネスメッセージが不正。	相手サーバに確認してください。 CPA ファイルが不正の場合は、CPA ファイルおよびメッセージ交換定義ファイルを再度生成する必要があります。
14	ビジネスメッセージが一時停止状態になった。	受信ファイルのディレクトリ格納に失敗。	原因を特定し対処したあと、一時停止メッセージ解除コマンドおよびタイマー回復コマンドを実行してメッセージを再受信してください。対処方法の詳細については、「6.4.1 ビジネスメッセージが一時停止状態になった場合の対処」を参照してください。

6.4.1 ビジネスメッセージが一時停止状態になった場合の対処

ビジネスメッセージが一時停止状態になった場合、次の方法で対処してください。

1. 障害の原因をトレースから調査し、原因を取り除く。
障害の原因を取り除いてから、次の手順に進んでください。取り除かないまま手順を進めると、ビジネスメッセージは再度一時停止状態になります。
2. 一時停止状態になったビジネスメッセージを解除する。
一時停止メッセージ解除コマンドを実行すると、該当するビジネスメッセージの状態が " 受信中 " または " 送信中 " になります。
一時停止メッセージ解除コマンド実行時には、該当するビジネスメッセージのメッセージングコンテキスト識別子をオプションに指定します。メッセージングコンテキスト識別子は、運用支援 GUI またはトレースから調べることができます。
一時停止状態になったビジネスメッセージが複数ある場合は、複数回一時停止メッ

セージ解除コマンドを実行してください。

一時停止メッセージ解除コマンドの詳細については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHReleaseMessage を参照してください。

3. タイマーを再起動させる。

タイマー回復コマンドを実行すると、タイマーが回復します。"受信"または"送信"だったビジネスメッセージの送受信が行われます。

障害が回復されていない場合は、"一時停止"状態に戻ります。再度障害の要因調査から繰り返してください。

7

定義ファイル

この章では、uCosminexus Message Service for ebXML のシステムで使用する定義ファイルのうち、ユーザーが作成する定義ファイルの形式、および記述方法について説明します。

-
- 7.1 定義ファイル一覧

 - 7.2 定義ファイルの形式

 - 7.3 実行環境参照定義ファイル (mshenvrefs.xml)

 - 7.4 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)

 - 7.5 送信結果 / 受信定義ファイル (rcvdef.xml)

 - 7.6 送信情報ファイル

 - 7.7 CPA 拡張定義ファイル

 - 7.8 MIME コンテントタイプマッピングファイル (mime.types)

 - 7.9 管理者情報登録ファイル
-

7.1 定義ファイル一覧

uCosminexus Message Service for ebXML で使用する定義ファイルの一覧を、次の表に示します。

表 7-1 uCosminexus Message Service for ebXML の定義ファイル一覧

項番	定義ファイルの名称	ファイル名	用途
1	実行環境参照定義ファイル	mshenvrefs.xml	MSH 実行環境が構築されるディレクトリ、およびシステム共通のトレースを定義します。
2	MSH 実行環境定義ファイル	mshenv.xml	MSH 実行環境についての定義を記述します。
3	送信結果 / 受信定義ファイル	rcvdef.xml	ビジネスメッセージの送信結果通知、およびビジネスメッセージ受信時の動作を定義します。
4	送信情報ファイル	任意	ビジネスメッセージを送信するために必要な情報を定義します。ビジネスメッセージ送信コマンドで <code>-cf</code> オプションを使用する場合に必要な定義です。
5	メッセージ交換定義ファイル	メッセージ交換定義識別子.xml	uCosminexus Message Service for ebXML でビジネスメッセージを交換するために必要な情報を定義します。
6	CPA 拡張定義ファイル	任意	メッセージ交換定義ファイルを生成するに当たって、CPA ファイルで不足している情報を記述します。
7	MIME コンテントタイプマッピングファイル	mime.types	送信するペイロードファイルの拡張子と MIME コンテントタイプをマッピングします。
8	管理者情報登録ファイル	任意	運用支援 GUI を使用するシステム管理者の情報を登録します。

注 uCosminexus Message Service for ebXML の定義ファイルのうち、メッセージ交換定義ファイルはユーザーがメッセージ交換定義導入コマンドを実行することで作成されます。メッセージ交換定義ファイルの作成の詳細については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHDeployMsgDef を参照してください。

7.2 定義ファイルの形式

uCosminexus Message Service for ebXML の定義ファイルの構成，および記述形式について説明します。

7.2.1 定義ファイルの基本構成

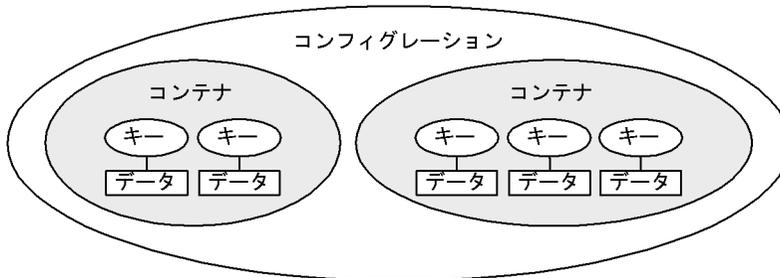
uCosminexus Message Service for ebXML の定義ファイルのうち，この項で基本構成を説明する定義ファイルを次に挙げます。

- 実行環境参照定義ファイル
- MSH 実行環境定義ファイル
- 送信結果 / 受信定義ファイル
- 送信情報ファイル

この項で説明しない定義ファイルの基本構成については，各定義ファイルの詳細を参照してください。

この項で説明する定義ファイルは XML 形式であり，名前空間 (<http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/common/configuration/config/>) に属します。定義ファイルの基本構成を，次の図に示します。

図 7-1 定義ファイルの基本構成



コンフィグレーションは複数のコンテナを持ち，コンテナは複数のキーを持ちます。このためコンテナおよびキーは，各要素を識別するために属性 id を持ちます。

定義ファイルを構成する要素の詳細を，次に示します。

表 7-2 定義ファイルを構成する要素

項番	要素	XML タグ名	要素が持つ情報
1	コンフィグレーション	Configuration	コンテナ要素，キー要素，データ
2	コンテナ	Container	キー要素，データ
3	キー	Key	データ

7. 定義ファイル

注 データは、キー要素のテキストデータとして記述されます。

7.2.2 定義ファイルの記述形式

uCosminexus Message Service for ebXML のすべての定義ファイルで置換して記述する必要がある文字、および使用できない文字について説明します。

(1) 定義ファイルに置換して記述する必要がある文字

定義ファイルのデータに XML 形式で直接記述できない文字を含む場合は、置換する必要があります。

定義ファイルに記述するときに置換する必要がある文字の一覧を次の表に示します。

表 7-3 置換する必要がある文字一覧

項番	文字	置換文字
1	&	&
2	<	<
3	>	>
4	"	"
5	'	'

(2) 定義ファイルに使用できない文字

定義ファイルのデータに記述できない文字は、記述しないでください。ファイルパスにも使用しないでください。

定義ファイルに使用できない文字の一覧を次に示します。

図 7-2 定義ファイルに使用できない文字一覧

記号	機種依存文字
●長音記号 (ー)	●NEC拡張文字
●波記号 (～)	(①②③, I II III, (株), 明大正昭和平成, ミッキオなど)
●並行符 ()	●NEC選定IBM拡張文字 (i ii iii など)
●ハイフン (ー)	●IBM拡張文字 (No., Tel など)

7.3 実行環境参照定義ファイル (mshenvrefs.xml)

MSH 実行環境が構築されるディレクトリ，および uCosminexus Message Service for ebXML のシステムの共通トレースを定義します。

(1) 形式

XML 形式です。記述形式の詳細については、「7.2 定義ファイルの形式」を参照してください。

(2) ファイルの格納先

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXMLインストールディレクトリ
>¥conf¥mshenvrefs.xml
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/conf/mshenvrefs.xml
```

(3) 定義できるコンテナ

- MSH 実行環境定義 (EXEC_ENV_REF_DEF)

MSH 実行環境が構築されるディレクトリを指定します。

- トレース定義 (COMMON_TRACE)

uCosminexus Message Service for ebXML のシステム全体として出力する共通トレースの情報を指定します。

(4) 定義できるキー

実行環境参照定義ファイルで定義できるキー要素の一覧を，次の表に示します。

表 7-4 実行環境参照定義ファイルのキー要素一覧

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	任意 / 必須
1	MSH 実行環境定義 EXEC_ENV_REF_DEF	MSH 実行環境ディレクトリ EXEC_ENV_IO_DIR_PATH	MSH 実行環境が構築されているディレクトリをフルパス (相対的な内容を含まない) で，かつ 100 バイト以内で指定します。	なし。	必須

7. 定義ファイル

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	任意/必須
2	トレース定義 COMMON_TRACE	トレースファイル名 TRACE_FILE_NAME	共通トレースのトレースファイル名をフルパス（相対的な内容を含まない）で、かつ 120 バイト以内で指定します。 実際のトレースファイル名は、"<TRACE_FILE_NAME で指定した名称>_[番号].log" となります。 指定を省略した場合、トレースファイルは次のディレクトリ下に出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> Windows の場合 <uCosminexus Message Service for ebXML インストールディレクトリ>¥log UNIX の場合 /opt/ebxml/msh/log 	MshCommon	任意
3		トレースファイル数 OUTPUT_FILE_MAX_VALUE	トレースファイルの出力ファイル数を指定します。出力ファイル数が指定値になった場合、トレースファイルはラップアラウンドされます。 指定できる値の範囲は、1 ~ 64 です。	4	任意
4		トレースファイルサイズ FILE_SIZE_MAX_VALUE	個々のトレースファイルの最大サイズを指定します。単位はバイトです。 トレースファイルのサイズが指定したサイズを超過した場合、次のトレースファイルに出力されます。 指定できる値の範囲は、4096 ~ 16777216 です。	8388608	任意
5		トレース出力レベル TRACE_OUTPUT_LEVEL	トレースファイルに出力する情報のレベルを指定します。 指定できる値は、0, 10, 20, または 30 です。	20	任意

注 デフォルト値は 8MB です。

(5) 定義例

- Windows の場合

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<Configuration
xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/common/
configuration/config/config.xsd"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <Container id="EXEC_ENV_REF_DEF">
    <Key id="EXEC_ENV_IO_DIR_PATH">C:¥Program
Files¥HITACHI¥ebxml¥msh¥mshenv</Key>
```

```

</Container>
<Container id="COMMON_TRACE">
  <Key id="TRACE_FILE_NAME">C:¥Program
Files¥HITACHI¥ebxml¥msh¥log¥MshCommon</Key>
  <Key id="OUTPUT_FILE_MAX_VALUE">4</Key>
  <Key id="FILE_SIZE_MAX_VALUE">8388608</Key>
  <Key id="TRACE_OUTPUT_LEVEL">20</Key>
</Container>
</Configuration>

```

- UNIX の場合

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Configuration
xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/common/
configuration/config/config.xsd"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <Container id="EXEC_ENV_REF_DEF">
    <Key id="EXEC_ENV_IO_DIR_PATH">/opt/ebxml/msh/mshenv</Key>
  </Container>
  <Container id="COMMON_TRACE">
    <Key id="TRACE_FILE_NAME">/opt/ebxml/msh/log/MshCommon</Key>
    <Key id="OUTPUT_FILE_MAX_VALUE">4</Key>
    <Key id="FILE_SIZE_MAX_VALUE">8388608</Key>
    <Key id="TRACE_OUTPUT_LEVEL">20</Key>
  </Container>
</Configuration>

```

7.4 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)

MSH 実行環境の定義を記述します。

(1) 形式

XML 形式です。記述形式の詳細については、「7.2 定義ファイルの形式」を参照してください。

(2) ファイルの格納先

- Windows の場合
 <MSH実行環境ディレクトリ>%mshenv.xml
- UNIX の場合
 <MSH実行環境ディレクトリ>/mshenv.xml

<MSH 実行環境ディレクトリ> は、実行環境参照定義ファイル (EXEC_ENV_REF_DEF コンテナの EXEC_ENV_IO_DIR_PATH キー) で指定した値です。

なお、次のディレクトリにサンプルファイルがあります。サンプルファイルを定義ファイルの格納ディレクトリにコピーして編集してください。

- Windows の場合
 <uCosminexus Message Service for ebXMLインストールディレクトリ>%sample%conf%mshenv.xml
- UNIX の場合
 /opt/ebxml/msh/sample/conf/mshenv.xml

(3) 定義できるコンテナ

- システム情報 (SYSTEM_INFO)
 MSH 実行環境が構築された uCosminexus Message Service for ebXML のシステム情報を指定します。
- エンドポイント (END_POINT)
 MSH 実行環境やタイマー監視のエンドポイント情報を指定します。
- 永続化 (PERSIST)
 永続化メッセージの管理に関する情報を指定します。
- セキュリティ (SECURITY)
 セキュリティ通信に関する情報を指定します。
- トランスポート (TRANSPORT)
 HTTP 上で通信するに当たっての、uCosminexus Message Service for ebXML の詳細な動作を指定します。
- DB 情報 (DB_INFO)

- データベース情報を指定します。
- 送信タイマー (MSH_SEND_TIMER)
ビジネスメッセージの送信時にタイマー監視をする, 送信タイマーに関する情報を指定します。
 - AP 通知タイマー (MSH_NOTIFYAP_TIMER)
ビジネスメッセージの受信時・送信結果通知時にタイマー監視をする, AP 通知タイマーに関する情報を指定します。
 - トレース定義 (TRACE)
MSH 実行環境が出力するトレースの情報を指定します。
 - メッセージ交換定義 (MSGDEF)
メッセージ交換定義ファイルに関連する情報を指定します。
 - メッセージ制御 (MESSAGING)
ビジネスメッセージの制御に関する情報を指定します。

(4) 定義できるキー

MSH 実行環境定義ファイルで定義できるキー要素の一覧を, 次の表に示します。

表 7-5 MSH 実行環境定義ファイルのキー要素一覧

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
1	システム情報 SYSTEM_INFO	ドメイン名 DOMAIN_NAME	MSH 実行環境が構築されたシステムのドメイン名を 128 バイト以内で指定します。	MSH 実行環境が構築されている uCosminexus Message Service for ebXML システムのホスト名称	任意
2		サーバ識別子 SERVER_ID	MSH 実行環境が構築されたマシンを識別するための ID を 8 文字以下の英数文字列で指定します。複数の ebXML サーバで同一のデータベースを共有する場合, それぞれの ebXML サーバで異なる値を指定してください。	MSHSV	任意
3		文字コード種別 ENCODING	MSH 実行環境がデータのサイズチェックに使用する文字コード種別を指定します。指定できる値は, "MS932" または "UTF-8" です。HiRDB システムを OS に登録したときに指定した文字コード種別と同じになるように指定してください。	プラットフォームのデフォルト文字コード	任意

7. 定義ファイル

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
4	エンドポイント END_POINT	送信タイマー登録先 TIMER_SEND	送信タイマーが uCosminexus Message Service for ebXML からの追加・削除要求を受け付けるためのエンドポイントを指定します。 この指定値は、デフォルトのポート番号 (1099) で RMI レジストリを起動しない場合に限って指定してください。uCosminexus Message Service for ebXML では、通常デフォルトポート番号 (1099) で RMI レジストリを起動するので、通常はユーザーが指定する必要はありません。 ポート番号を変更する場合の指定方法を、次に示します。 rmi://localhost:<ポート番号>/MSH_SEND_TIMER なお、ここで指定したポート番号は、RMI レジストリ起動コマンドを実行するときに、引数として指定します。	rmi://localhost/MSH_SEND_TIMER	任意
5		AP 通知タイマー登録先 TIMER_NOTIFY_AP	AP 通知タイマーが uCosminexus Message Service for ebXML からの追加・削除要求を受け付けるためのエンドポイントを指定します。 この指定値は、デフォルトのポート番号 (1099) で RMI レジストリを起動しない場合に限って指定してください。uCosminexus Message Service for ebXML では、通常デフォルトポート番号 (1099) で RMI レジストリを起動するので、通常はユーザーが指定する必要はありません。 ポート番号を変更する場合の指定方法を、次に示します。 rmi://localhost:<ポート番号>/MSH_NOTIFYAP_TIMER なお、ここで指定したポート番号は、RMI レジストリ起動コマンドを実行するときに、引数として指定します。	rmi://localhost/MSH_NOTIFYAP_TIMER	任意

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
6		メッセージサービス MESSAGE_SERVICE	メッセージサービスのエンドポイントを指定します。 ebXML サーバのデフォルト名称は "ebxml" です。サーバ名称を "ebxml" 以外にする場合、デフォルト値 "HITACHI_EJB/SERVERS/ebxml/EJB/MSH/MessageService" の "ebxml" を、指定するサーバ名称に変更してください。 ebXML サーバの名称がデフォルトのままの場合は、ユーザーが指定する必要はありません。	HITACHI_EJB/SERVERS/ebxml/EJB/MSH/MessageService	任意
7	永続化 PERSIST	メッセージ分割サイズ MESSAGE_ARCHIVE_DIVISION_SIZE	ビジネスメッセージ本体の分割サイズを 100 ~ 15999 で指定します。単位は KB です。	1024 ¹	任意
8		ペイロード最大サイズ PAYLOAD_MAX_SIZE	ペイロードの最大サイズを 1 ~ 1024 で指定します。単位は MB です。 ペイロードが複数ある場合、ペイロードの合計サイズの最大値を指定します。	10	任意
9		ペイロード最大数 PAYLOAD_MAX_NUMBER	1 ビジネスメッセージ当たりのペイロードの最大数を、1 ~ 64 で指定します。	10	任意
10	セキュリティ SECURITY	SSL 用証明書格納ファイル SSL_CERTIFICATE_FILE_NAME	クライアント証明書が格納されている KeyStore ファイル名をフルパス (相対的な内容を含まない) で指定します。 暗号化通信 (SSL クライアント認証) をする場合、必ず指定します。	なし。	任意
11		SSL 証明書アクセスパスワード SSL_CERTIFICATE_ACCESS_PASSWORD	クライアント証明書が格納されている KeyStore ファイルから証明書・秘密鍵にアクセスするためのパスワードを指定します。 KeyStore では、KeyStore ファイルにアクセスするためのパスワード、および秘密鍵を取得するためのパスワードを使用します。二つのパスワードに同じものを指定します。 暗号化通信 (SSL クライアント認証) をする場合、必ず指定します。	なし。	任意

7. 定義ファイル

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
12		電子署名用証明書格納ファイル CERTIFICATE_FILE_NAME	XML 電子署名用証明書が格納されている KeyStore ファイル名をフルパス（相対的な内容を含まない）で指定します。 XML 電子署名をする場合、必ず指定します。	なし。	任意
13		電子証明書用証明書アクセスパスワード CERTIFICATE_ACCESS_PASSWORD	XML 電子署名用の証明書が格納されている KeyStore ファイルから証明書・秘密鍵にアクセスするためのパスワードを指定します。 Keystore では、Keystore ファイルにアクセスするためのパスワード、および秘密鍵を取得するためのパスワードを使用します。二つのパスワードに同じものを指定します。 XML 電子署名をする場合、必ず指定します。	なし。	任意
14	トランスポート TRANSPORT	ポート番号付与 ENABLE_PORT_FOR_HOST_HEADER	HTTP プロトコルのデフォルトのポート番号を使用した場合、HTTP ヘッダの HOST 要素にポート番号を与えるかどうかを指定します。 指定できる値は、"TRUE"（ポート番号を与える）または "FALSE"（ポート番号を与えない）です。 大文字で指定してください。 HTTP プロトコルのデフォルトのポート番号を使用しない場合、この指定に関係なく、HTTP ヘッダの HOST 要素にポート番号を与えます。	FALSE	任意
15		SwA オプション ENABLE_SWA_ALWAYS	送信メッセージをすべて SwA 形式で送信することを指定します。 指定しない場合、添付がないビジネスメッセージはすべて SOAP 形式で送信されます。指定できる値は、"TRUE"（指定する）または "FALSE"（指定しない）です。大文字で指定してください。	FALSE	任意
16		HTTP プロキシホスト PROXY_HOST	HTTP プロトコルでビジネスメッセージを送信する場合に、使用する HTTP プロキシのホスト名を指定します。HTTP プロキシを使用しない場合、指定する必要はありません。	なし。	任意

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
17		HTTP プロキシポート PROXY_PORT	HTTP プロトコルでビジネスメッセージを送信する場合に、使用する HTTP プロキシのポート番号を指定します。HTTP プロキシを使用しない場合、指定する必要はありません。	なし。	任意
18		HTTP プロキシ認証ユーザー AUTH_USER	HTTP プロキシで接続ユーザー認証をする場合に使用するユーザー名を指定します。HTTP プロキシ認証をしない場合、指定する必要はありません。	なし。	任意
19		HTTP プロキシ認証パスワード AUTH_PASSWORD	HTTP プロキシで接続ユーザー認証をする場合に使用するパスワードを指定します。HTTP プロキシ認証をしない場合、指定する必要はありません。	なし。	任意
20		HTTPS プロキシホスト SSL_PROXY_HOST	HTTPS プロトコルを使用してメッセージを送信する場合に使用する HTTPS プロキシのホスト名を指定します。HTTPS プロキシを使用しない場合、指定する必要はありません。	なし。	任意
21		HTTPS プロキシポート SSL_PROXY_PORT	HTTPS プロトコルを使用してビジネスメッセージを送信する場合に、使用する HTTPS プロキシのポート番号を指定します。HTTPS プロキシを使用しない場合、指定する必要はありません。	なし。	任意
22		HTTPS プロキシ認証ユーザー SSL_AUTH_USER	HTTPS プロキシで接続ユーザー認証をする場合に使用するユーザー名を指定します。HTTPS プロキシ認証をしない場合、指定する必要はありません。	なし。	任意
23		HTTPS プロキシ認証パスワード SSL_AUTH_PASSWORD	HTTPS プロキシで接続ユーザー認証をする場合に使用するパスワードを指定します。HTTPS プロキシ認証をしない場合、指定する必要はありません。	なし。	任意

7. 定義ファイル

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
24	DB 情報 DB_INFO	データベース接続先 DB_CONNECT_URL	<p>接続先となるデータベースを特定する JDBC の URL を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows の場合 「3.6.3 HiRDB のクライアント環境変数の設定」で指定したグループ名称を指定します。指定例を次に示します。 jdbc:hitachi:dbplib:// DB=hirdb,DBID=@DABENVGRP=MSHGRP 指定例では, "MSHGRP" が, グループ名称になります。 UNIX の場合 「3.6.3 HiRDB のクライアント環境変数の設定」で設定した HiRDB.ini ファイルのフルパスを指定します。指定例を次に示します。 jdbc:hitachi:hirdb:// DBID=@HIRDBENVGRP=/ HiRDB/Client/HiRDB.ini 指定例では, "/HiRDB/Client/" が HiRDB.ini ファイルの格納先になります。 	なし。	必須
25		データベース接続ユーザー DB_USER	データベースへ接続するためのユーザー名を指定します。	なし。	必須
26		データベース接続パスワード DB_PASSWORD	データベースへ接続するためのパスワードを指定します。	なし。	必須
27	送信タイマー MSH_SEND_TIMER AP 通知タイマー MSH_NOTIFYAP_TIMER	同時通知数 NOTIFICATION_VALUE	タイマーから uCosminexus Message Service for ebXML へ同時に通知する件数を指定します。指定できる値は, 1 ~ 100 の範囲です。	10	任意

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
28		タイマー用エンドポイント DESTINATION_NAME	MSH 実行環境が提供するタイマーのエンドポイント (EJB のルックアップ名) を指定します。ebXML サーバのデフォルト名称は "ebxml" です。サーバ名称を "ebxml" 以外にする場合、デフォルト値 "HITACHI_EJB/SERVERS/ebxml/EJB/MSH/MessageService" の "ebxml" を、指定するサーバ名称に変更してください。ebXML サーバの名称がデフォルトのままの場合は、ユーザーが指定する必要はありません。	HITACHI_EJB/SERVERS/ebxml/EJB/MSH/SendTimerAdapterEJB (MSH_SEND_TIMER コンテナの場合) HITACHI_EJB/SERVERS/ebxml/EJB/MSH/NotifyApTimerAdapterEJB (MSH_NOTIFYAP_TIMER コンテナの場合)	任意
29		トレースファイル名 TRACE_FILE_NAME	タイマーが出力するトレースファイル名をフルパス (相対的な内容を含まない) で、かつ 120 バイト以内で指定します。実際のトレースファイル名は、"<TRACE_FILE_NAME で指定した名称>_[番号].log" となります。トレースファイル名の指定を省略した場合は、MSH 実行環境ディレクトリ下の log ディレクトリに出力されます。	MshSendTimer (MSH_SEND_TIMER コンテナの場合) MshNotifyApTimer (MSH_NOTIFYAP_TIMER コンテナの場合)	任意
30		トレースファイル数 OUTPUT_FILE_MAX_VALUE	トレースファイルの出力ファイル数を指定します。出力ファイル数が指定値になった場合、トレースファイルはラップアラウンドされます。指定できる値の範囲は、1 ~ 16 です。	4	任意

7. 定義ファイル

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
31		トレースファイルサイズ FILE_SIZE_MAX_VALUE	個々のトレースファイルの最大サイズを指定します。単位はバイトです。 トレースファイルのサイズが指定したサイズを超過した場合、新しいトレースファイルが作成され、出力されます。 指定できる値は、4096 ~ 2147483647 の範囲です。	8388608 ₂	任意
32		トレース出力レベル TRACE_OUTPUT_LEVEL	トレースファイルに出力する情報のレベルを指定します。 指定できる値は、0、10、20、または30です。	20	任意
33		文字エンコーディング ENCODELANG	String クラスで文字変換に使用するエンコード文字形態を指定します。 Java がサポートしている文字エンコーディング (MS932 など)、または "OFF" (Java VM がサポートしている標準エンコードを使用する) を指定します。省略した場合、"OFF" が設定されます。なお、大文字と小文字は区別されます。	OFF	任意
34	トレース定義 TRACE	トレースファイル名 TRACE_FILE_NAME	MSH 実行環境が出力するトレースファイル名をフルパス (相対的な内容を含まない) で、かつ 120 バイト以内で指定します。実際のトレースファイル名は、" <code><TRACE_FILE_NAME</code> で指定した名称 <code>>_[番号].log</code> " となります。 トレースファイル名を省略した場合は、MSH 実行環境ディレクトリ下の log ディレクトリに出力されます。	MshTrace	任意
35		トレースファイル数 OUTPUT_FILE_MAX_VALUE	トレースファイルの出力ファイル数を指定します。指定できる値は、1 ~ 16 の範囲です。	16	任意
36		トレースファイルサイズ FILE_SIZE_MAX_VALUE	個々のトレースファイルの最大サイズを指定します。単位はバイトです。 指定できる値は、4096 ~ 2147483647 の範囲です。	16777216 ₃	任意

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
37		トレース出力レベル TRACE_OUTPUT_LEVEL	トレースファイルに出力する情報のレベルを指定します。0, 10, 20, または 30 です。	20	任意
38	メッセージ交換定義 MSGDEF	キャッシュサイズ CACHE_NUM	メモリ上で保持するメッセージ交換定義ファイルの最大数を指定します。指定できる値は、10 ~ 1024 の範囲です。	100	任意
39	メッセージ制御 MESSAGING	不正メッセージ退避フラグ INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG	不正な ebXML メッセージを受信した場合にそのメッセージをファイル保存するかどうかを指定します。指定できる値は、"TRUE" (保存する) または "FALSE" (保存しない) です。大文字で指定してください。 "TRUE" 時のファイルの保存場所は、MSH 実行環境のディレクトリ下の ngmsg ディレクトリです。	FALSE	任意
40		実行環境閉塞フラグ MSH_ENV_CLOSE_FLAG	イベント処理中に致命的エラーが発生した場合に、MSH 実行環境を閉塞するかどうかを指定します。指定できる値は、"TRUE" (閉塞する) または "FALSE" (閉塞しない) です。大文字で指定してください。	TRUE	任意

注 1 デフォルト値は 1MB です。

注 2 デフォルト値は 8MB です。

注 3 デフォルト値は 16MB です。

(5) 定義例

• Windows の場合

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<Configuration
  xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/common/
configuration/config/config.xsd"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <Container id="SYSETM_INFO">
    <Key id="SERVER_ID">SV01</Key>
  </Container>
  <Container id="SECURITY">
    <Key id="SSL_CERTIFICATE_FILE_NAME">C:¥Program
Files¥HITACHI¥ebxml¥msh¥mshenv¥keypairs¥.keystore</Key>
    <Key id="SSL_CERTIFICATE_ACCESS_PASSWORD">changeit</Key>
  </Container>
  <Container id="TRANSPORT">
    <Key id="ENABLE_PORT_FOR_HOST_HEADER">TRUE</Key>
    <Key id="ENABLE_SWA_ALWAYS">FALSE</Key>
  </Container>
</Configuration>
```

7. 定義ファイル

```
</Container>
<Container id="DB_INFO">
  <Key id="DB_CONNECT_URL">jdbc:hitachi:dbplib://
DB=hirdb,DBID=@DABENVGRP=MSHGRP</Key>
  <Key id="DB_USER">ebxmlmsh</Key>
  <Key id="DB_PASSWORD">mshpass</Key>
</Container>
<Container id="TRACE">
  <Key id="TRACE_FILE_NAME">C:¥Program
Files¥HITACHI¥ebxml¥msh¥mshenv¥log¥MshTrace</Key>
</Container>
</Configuration>
```

• UNIX の場合

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Configuration
  xmlns=" http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/common/
configuration/config/config.xsd "
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <Container id="SYSETM_INFO">
    <Key id="SERVER_ID">SV01</Key>
  </Container>
  <Container id="SECURITY">
    <Key id="SSL_CERTIFICATE_FILE_NAME">/opt/ebxml/msh/mshenv/
keypairs/keystore
    <Key id="SSL_CERTIFICATE_ACCESS_PASSWORD">changeit</Key>
  </Container>
  <Container id="TRANSPORT">
    <Key id="ENABLE_PORT_FOR_HOST_HEADER">TRUE</Key>
    <Key id="ENABLE_SWA_ALWAYS">FALSE</Key>
  </Container>
  <Container id="DB_INFO">
    <Key id="DB_CONNECT_URL">
jdbc:hitachi:hirdb://DBID=@HIRDBENVGRP=/HirDB/Client/HirDB.ini</
Key>
    <Key id="DB_USER">ebxmlmsh</Key>
    <Key id="DB_PASSWORD">mshpass</Key>
  </Container>
  <Container id="TRACE">
    <Key id="TRACE_FILE_NAME">/opt/ebxml/msh/mshenv/log/MshTrace
</Key>
  </Container>
</Configuration>
```

7.5 送信結果 / 受信定義ファイル (rcvdef.xml)

ビジネスメッセージの送信結果通知，およびビジネスメッセージ受信時の動作を定義します。

(1) 形式

XML 形式です。記述形式の詳細については、「7.2 定義ファイルの形式」を参照してください。

(2) ファイルの格納先

- Windows の場合
`<MSH実行環境ディレクトリ>%rcvdef.xml`
- UNIX の場合
`<MSH実行環境ディレクトリ>/rcvdef.xml`

`<MSH 実行環境ディレクトリ>` は，実行環境参照定義ファイル (EXEC_ENV_REF_DEF コンテナの EXEC_ENV_IO_DIR_PATH キー) で指定した値です。

なお，次のディレクトリにサンプルファイルがあります。サンプルファイルを定義ファイルの格納ディレクトリにコピーして編集してください。

- Windows の場合
`<uCosminexus Message Service for ebXMLインストールディレクトリ>%sample%conf%rcvdef.xml`
- UNIX の場合
`/opt/ebxml/msh/sample/conf/rcvdef.xml`

(3) 定義できるコンテナ

- JP1 イベント定義 (JP1_EVENT)
uCosminexus Message Service for ebXML から JP1 にイベントを通知する場合に指定します。
- メッセージ送信結果通知機能 (SEND_NOTIFY)
uCosminexus Message Service for ebXML からビジネスメッセージの送信結果を通知するための情報を指定します。
- メッセージ受信機能 (RCV_MESSAGE)
uCosminexus Message Service for ebXML からビジネスメッセージの受信を通知するための情報，および受信メッセージの格納方法について指定します。
- サービス名 / アクション名マッピング定義 (MAP_DEFINE)
サービス名およびアクション名を，受信メッセージ格納ディレクトリ下に作成するサービスディレクトリ名，アクションディレクトリ名に対応づけるための定義をします。

(4) 定義できるキー

送信結果 / 受信定義ファイルで定義できるキー要素の一覧を、次の表に示します。

表 7-6 送信結果 / 受信定義ファイルのキー要素一覧

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	任意 / 必須
1	JP1 イベント定義 JP1_EVENT	JP1 イベント通知 JP1_EVENT_NOTIFY	JP1 にイベントを通知するかどうかを指定します。 指定できる値は、"TRUE" (JP1 にイベントを通知する)、"FALSE" (JP1 にイベントを通知しない) です。大文字で指定してください。 "TRUE" を指定した場合、項番 3、項番 4 は指定不要です。また、"TRUE" を指定した場合、項番 5 にも必ず "TRUE" を指定してください。	FALSE	任意
2		JP1 イベント種別 JP1_EVENT_TYPE	JP1 に通知する JP1 イベントの種類を指定します。指定値の範囲は 0 ~ 6 です。 uCosminexus Message Service for ebXML が通知する JP1 イベントには次の種類があります。 (1) 送信結果 (成功) イベント (2) 送信結果 (失敗) イベント (3) 受信イベント ここで指定する値によって、次のとおり送信する JP1 イベントの種類が異なります。 0 : (1)(2)(3) すべて送信 1 : (1)(2) だけ送信 2 : (1)(3) だけ送信 3 : (2)(3) だけ送信 4 : (1) だけ送信 5 : (2) だけ送信 6 : (3) だけ送信	0	任意
3	メッセージ送信結果通知機能 SEND_NOTIFY	UOC クラス名 UOC_CLASS	ビジネスメッセージの送信結果を取得した場合に呼び出される UOC を実装したクラスを指定します。 該当する項目を省略した場合は、UOC は呼び出されません。 クラス名は、パッケージ名を含めた完全なクラス名を指定します。	なし。	任意
4	メッセージ受信機能 RECV_MESSAGE	UOC クラス名 UOC_CLASS	ビジネスメッセージを受信した場合に呼び出される UOC を実装したクラスを指定します。 該当する項目を省略した場合は、UOC は呼び出されません。 クラス名はパッケージ名を含めた完全なクラス名を指定します。	なし。	任意

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	任意 / 必須
5		受信メッセージ出力設定 FILE_OUT	受信したペイロードを、受信メッセージ格納ディレクトリに格納するかどうかを指定します。 指定できる値は、"TRUE"（受信メッセージ格納ディレクトリに格納する）、"FALSE"（受信メッセージ格納ディレクトリに格納しない）です。大文字で指定してください。 "FALSE"を指定した場合、ペイロードは UOC 起動時にメモリを介して展開されます。この場合、RECV_MESSAGE コンテナの UOC_CLASS キーを必ず設定してください。	TRUE	任意
6		ファイル名形式変換 FILE_OUT_FOR CE	受信したペイロードのファイル名に uCosminexus Message Service for ebXML で使用できない文字（「¥」, 「/」, 「:」, 「<」, 「>」, 「 」, 「"」, 「*」, 「?」）が含まれている場合に、使用できない文字を「_」に変換するかどうかを指定します。変換しない場合、ファイル出力エラーとなります。指定できる値は、"TRUE"（変換する）、"FALSE"（変換しない）です。大文字で指定してください。	TRUE	任意
7		受信メッセージ格納ディレクトリ RECV_MESSAGE_FOLDER	受信したペイロードを格納するディレクトリをフルパス（相対的な内容を含まない）で、かつ 100 バイト以内で指定します。 省略した場合、MSH 実行環境ディレクトリ下の RecvMessage ディレクトリに出力されます。RecvMessage ディレクトリがないときは、新しくディレクトリを作成します。	MSH 実行環境ディレクトリ下の RecvMessage ディレクトリ	任意
8		ファイル出力エラーディレクトリ ERR_MESSAGE_FOLDER	ビジネスメッセージごとにディレクトリを作成しなかった場合に、ファイル名の重複でペイロードが出力できなかったビジネスメッセージのペイロードを出力するディレクトリをフルパス（相対的な内容を含まない）で、かつ 100 バイト以内で指定します。 省略した場合、MSH 実行環境ディレクトリ下の FailedMessage ディレクトリに出力されます。FailedMessage ディレクトリがないときは、新しくディレクトリを作成します。	MSH 実行環境ディレクトリ下の FailedMessage ディレクトリ	任意

7. 定義ファイル

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	任意 / 必須
9		ビジネスメッセージ別ディレクトリ作成 PER_MESSAGE_FOLDER	ビジネスメッセージごとにディレクトリを作成するかを指定します。指定できる値は、"TRUE" (作成する)、"FALSE" (作成しない) です。大文字で指定してください。	FALSE	任意
10	サービス名 / アクション名マッピング定義 MAP_DEFINE	サービス名マッピング SERVICE	ビジネスメッセージ交換時に指定するサービス名に対応するディレクトリ名を指定します。32 バイト以内で指定します。ディレクトリの指定方法については、「表 7-7 サービス名マッピングの記述形式」を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 指定したディレクトリがない場合 新しくディレクトリが作成されます。この場合、サービス名マッピングデフォルトで指定されたディレクトリが使用されます。 同一サービス名・サービス名表記種別のサービスに対応するディレクトリを複数指定した場合 最初に記述されているディレクトリが有効となります。 指定を省略した場合 サービス名に対応するディレクトリの作成はしません。 	なし。	任意
11		サービス名マッピングデフォルト SERVICE_DEFAULT	受信メッセージ出力時、サービス名マッピングで指定したディレクトリがない場合に使用されるディレクトリ名を指定します。32 バイト以内で指定します。 サービス名マッピングを定義していない場合、このキーへの指定は無効となります。	Service	任意
12		アクション名マッピング ACTION	メッセージ交換時に指定するアクション名に対応するディレクトリ名を指定します。32 バイト以内で指定します。ディレクトリの指定方法については、「表 7-8 アクション名マッピングの記述形式」を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 指定したディレクトリがない場合 新しくディレクトリが作成されます。この場合、アクション名マッピングデフォルトで指定されたディレクトリが使用されます。 同一アクション名のアクションに対応するディレクトリを複数指定した場合 最初に記述されているディレクトリが有効となります。 指定を省略した場合 アクション名に対応するディレクトリの作成はしません。 	なし。	任意

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	任意 / 必須
13		アクション名マッピングデフォルト ACTION_DEFAULT	受信メッセージ出力時、アクション名マッピングで指定したディレクトリがない場合に使用されるディレクトリ名を指定します。32 バイト以内で指定します。 アクション名マッピングを定義していない場合、このキーへの指定は無効になります。	Action	任意

サービス名 / アクション名マッピング定義のサービス名マッピングは、次の表に示す XML 形式で記述します。

表 7-7 サービス名マッピングの記述形式

項番	要素	属性	値	任意 / 必須
1	Service	-	ディレクトリ名を 32 バイト以内で指定します。 uCosminexus Message Service for ebXML で使用できない文字 (「¥」、「/」、「:」、「<」、「>」、「 」、「"」、「*」、「?」) が含まれている場合はエラーになります。	必須
2		name	サービス名を指定します。	必須
3		type	サービス名表記種別を指定します。	任意

(凡例) - : 該当しません。

サービス名 / アクション名マッピング定義のアクション名マッピングは、次の表に示す XML 形式で記述します。

表 7-8 アクション名マッピングの記述形式

項番	要素	属性	値	任意 / 必須
1	Action	-	ディレクトリ名を 32 バイト以内で指定します。 uCosminexus Message Service for ebXML で使用できない文字 (「¥」、「/」、「:」、「<」、「>」、「 」、「"」、「*」、「?」) が含まれている場合はエラーになります。	必須
2		name	アクション名を指定します。	必須

(凡例) - : 該当しません。

(5) 定義例

- Windows の場合

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<Configuration
  xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/common/
configuration/config/rcvdef.xsd"
```

7. 定義ファイル

```
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
<Container id="SEND_NOTIFY">
  <Key id="UOC_CLASS">jp.co.hitachi.soft.ebxml.uoc.SendNotify</
Key>
</Container>
<Container id="RECV_MESSAGE">
  <Key
id="UOC_CLASS">jp.co.hitachi.soft.ebxml.uoc.RecvMessage</Key>
  <Key id="RECV_MESSAGE_FOLDER">C:¥RecvMessage</Key>
  <Key id="ERR_MESSAGE_FOLDER">C:¥FailedMessage</Key>
  <Key id="PER_MESSAGE_FOLDER">FALSE</Key>
</Container>
<Container id="MAP_DEFINE">
  <Key id="SERVICE">
    <Service name="Order Service" type="anyURI">
      Order
    </Service>
  </Key>
  <Key id="SERVICE_DEFAULT">Service</Key>
  <Key id="ACTION">
    <Action name="Purchase Order Request Action">
      PurchaseOrderRequest
    </Action>
  </Key>
  <Key id="ACTION_DEFAULT">Action</Key>
</Container>
</Configuration>
```

• UNIX の場合

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Configuration
  xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/common/
configuration/config/rcvdef.xsd"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <Container id="SEND_NOTIFY">
    <Key id="UOC_CLASS">jp.co.hitachi.soft.ebxml.uoc.SendNotify</
Key>
  </Container>
  <Container id="RECV_MESSAGE">
    <Key
id="UOC_CLASS">jp.co.hitachi.soft.ebxml.uoc.RecvMessage</Key>
    <Key id="RECV_MESSAGE_FOLDER">/tmp/RecvMessage</Key>
    <Key id="ERR_MESSAGE_FOLDER">/tmp/FailedMessage</Key>
    <Key id="PER_MESSAGE_FOLDER">FALSE</Key>
  </Container>
  <Container id="MAP_DEFINE">
    <Key id="SERVICE">      <Service
name="uri:icann:rosettnet.org:bpid:3A4$2.0" type="anyURI">
      Order
    </Service>
  </Key>
  <Key id="SERVICE_DEFAULT">Service</Key>
  <Key id="ACTION">
    <Action name="Purchase Order Request Action">
      PurchaseOrderRequest
    </Action>
  </Key>
  <Key id="ACTION_DEFAULT">Action</Key>
</Container>
</Configuration>
```

7.6 送信情報ファイル

ビジネスメッセージを送信するために必要な情報をまとめておく定義ファイルです。ビジネスメッセージ送信コマンドを実行するときに、このファイルのフルパスを `-cf` オプションの引数に指定します。ビジネスメッセージ送信コマンドの詳細については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の `MSHSendMessage` を参照してください。

(1) 形式

XML 形式です。記述形式の詳細については、「7.2 定義ファイルの形式」を参照してください。

(2) ファイルの格納先

送信情報ファイルの格納先は任意です。

なお、次のディレクトリにサンプルファイルがあります。サンプルファイルを定義ファイルの格納ディレクトリにコピーして編集してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXMLインストールディレクトリ
>¥sample¥conf¥sendinfo.xml
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/sample/conf/sendinfo.xml
```

(3) 定義できるコンテナ

- 送信メッセージ定義 (SEND_MESSAGE_DEFINITION)

`uCosminexus Message Service for ebXML` がビジネスメッセージを送信するために必要な情報を定義します。

(4) 定義できるキー

送信情報ファイルで定義できるキー要素の一覧を、次の表に示します。

表 7-9 送信情報ファイルのキー要素一覧

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	任意 / 必須
1	送信メッセージ定義 SEND_MESSAGE_DEFINITION	メッセージ交換定義識別子 ¹ MESSAGING_DEFINITION_ID	メッセージ交換定義識別子を、127 バイト以内の文字列で指定します。 ²	なし。	必須
2		サービス名 SERVICE	CPA ファイルに記載されている、送信対象のサービス名を 255 バイト以内の文字列で指定します。 ²	なし。	必須

7. 定義ファイル

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	任意 / 必須
3		サービス名表記種別 ¹ SERVICE_TYPE	CPA ファイルに記載されている、送信対象のサービス名表記種別を 255 バイト以内の文字列で指定します。 ²	なし。	任意
4		アクション名 ¹ ACTION	CPA ファイルに記載された、送信対象のアクション名を 255 バイト以内の文字列で指定します。 ²	なし。	必須
5		会話識別子 CONVERSATION_ID	業務アプリケーション側で ebXML の会話管理をする場合、その会話を一意に識別する識別子を 255 バイト以内の文字列で指定します。 ²	なし。	任意
6		メッセージ識別子 MESSAGE_ID	業務アプリケーション側でビジネスメッセージに対して識別子を割り当てたい場合に、255 バイト以内の文字列を指定します。 ²	なし。	任意
7		参照メッセージ識別子 REF_TO_MESSAGE_ID	送信メッセージを、ある送信メッセージと関連づけたい場合など、呼び出し側の運用に必要な場合だけ指定します。255 バイト以内の文字列で指定します。 ²	なし。	任意

注 1 キーに指定する値は XML 属性値であるため、次を考慮して指定してください。

- タブ文字や改行文字は半角スペースに置き換えられます。
- 半角スペースの連続は一つの半角スペースとなります。

注 2 各キーのバイト長は、MSH 実行環境定義ファイルの SYSTEM_INFO/ENCODING に指定した文字コードでのバイト長を意味します。MSH 実行環境定義ファイルの詳細については、「7.4 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)」を参照してください。

(5) 定義例

- Windows の場合

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift-JIS"?>
<Configuration
  xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/common/
configuration/config/rcvdef.xsd"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <Container id="SEND_MESSAGE_DEFINITION">
    <Key id="MESSAGING_DEFINITION_ID">cpa001-partyA</Key>
    <Key id="SERVICE">Order Service</Key>
    <Key id="SERVICE_TYPE">anyURI</Key>
```

```
    <Key id="ACTION">Purchase Order Request Action</Key>
  </Container>
</Configuration>
```

- UNIX の場合

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Configuration
  xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/common/
configuration/config/rcvdef.xsd"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <Container id="SEND_MESSAGE_DEFINITION">
    <Key id="MESSAGING_DEFINITION_ID">cpa001-partyA</Key>
    <Key id="SERVICE">Order Service</Key>
    <Key id="SERVICE_TYPE">anyURI</Key>
    <Key id="ACTION">Purchase Order Request Action</Key>
  </Container>
</Configuration>
```

7.7 CPA 拡張定義ファイル

ビジネスメッセージを交換するために必要な情報のうち、CPA ファイルに記載されているだけでは uCosminexus Message Service for ebXML が動作するのに不足している情報を定義します。ユーザーは、メッセージ交換定義導入コマンドを実行することによって、CPA 拡張定義ファイルで定義した情報をメッセージ交換定義ファイルに追加します。

CPA 拡張定義ファイルの作成は任意です。ただし、CPA 拡張定義ファイルを作成する場合、ファイルの情報はメッセージ交換定義導入コマンドの引数として使用されるため、コマンド実行前にあらかじめファイルを作成しておいてください。

(1) 形式

XML 形式です。CPA 拡張定義ファイルの記述形式を、次の表に示します。

表 7-10 CPA 拡張定義ファイルの記述形式

項番	要素	記述内容	デフォルト値	任意 / 必須
1	CPAExtendInfo	CPA 拡張定義ファイルのルート要素です。	-	任意 (HTTP ベーシック認証または XML 電子署名をする場合は必須)
2	SignatureRequired	<p>ビジネスメッセージに対して XML 電子署名をするかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • always 該当するメッセージ交換定義ファイルを使用して送信されるすべてのビジネスメッセージに対して XML 電子署名を示します。 • never 該当するメッセージ交換定義ファイルを使用して送信されるビジネスメッセージに対して XML 電子署名をしないことを示します。 	never	任意 (XML 電子署名をする場合は必須)

項番	要素	記述内容	デフォルト値	任意 / 必須
3	SignPayload	<p>ビジネスメッセージに対して XML 電子署名をする場合に、ビジネスメッセージに添付するペイロードを電子署名対象とするかどうかを指定します。この項目は、項番 1 の指定が "always" の場合だけ有効になります。それ以外の場合は、無視されます。次のどちらかの値を指定します</p> <ul style="list-style-type: none"> • always 該当するメッセージ交換定義を使用して送信されるすべてのビジネスメッセージに添付されるペイロードを署名対象とします。 • never 該当するメッセージ交換定義を使用して送信されるすべてのビジネスメッセージに添付されるペイロードを署名対象としません。 	always	任意

7. 定義ファイル

項番	要素	記述内容	デフォルト値	任意 / 必須
4	DurationTime	<p>送信メッセージの永続期限の最小値を、XMLスキーマのDuration形式で指定します。</p> <p>DurationTime要素の指定を省略した場合、送信メッセージの永続期間はCPAファイルのリトライ情報（RetriesおよびRetryInterval）から、次の式どおりに算出されます。</p> <p>送信メッセージの永続期間 = 最小再送時間間隔 × (最大再送回数 + 1) (秒)</p> <p>CPAファイルにリトライ情報がない場合、値は0となります。</p> <p>また、CPAファイルのリトライ情報の値に現実的でない大きな値を指定した場合、上に示す計算結果がDuration形式として不正な値になることがあります。</p>	なし。	任意
5	AccessAuthenticationInfo	HTTP認証を示す要素です。	-	任意 (HTTPベーシック認証をする場合は必須)
6	Basic	ベーシック認証を示す要素です。	-	任意 (HTTPベーシック認証をする場合は必須)
7	UserId	HTTPベーシック認証をする場合に、使用するユーザー名を指定します。	なし。	任意 (HTTPベーシック認証をする場合は必須)

項番	要素	記述内容	デフォルト値	任意 / 必須
8	Password	HTTP ベーシック認証をする場合に、使用するパスワードを指定します。	なし。	任意 (HTTP ベーシック認証をする場合は必須)
9	ConnectionTimeout	HTTP コネクションのタイムアウト時間を指定します。 TCP/IP コネクション確立時に、指定した期間反応がない場合は、通信エラーとします。 指定の範囲は、1 ~ 3,000 (秒) です。	90	任意

(凡例) - : 該当しません。

XML スキーマの Duration 形式

CPA 拡張定義ファイルの DurationTime 要素を記述するときに使用する Duration 形式について説明します。

PnYnMnDTnHnMnS

n にはそれぞれ数値を入力します。

- P : 期間を示します。入力必須です。
- nY : 年数を示します。
- nM : 月数を示します。
- nD : 日数を示します。
- T : 日付と時間の区切り文字です。
- nH : 時間を示します。
- nM : 分を示します。
- nS : 秒を示します。

XML スキーマの Duration 形式の記述例を、次に示します。

- P1D
1 日を表します。
- P1Y2D
1 年と 2 日を表します。
- PT50S
50 秒を表します。

(2) ファイルの格納先

CPA 拡張定義ファイルの格納先は任意です。

7. 定義ファイル

なお、次のディレクトリにサンプルファイルがあります。サンプルファイルを定義ファイルの格納ディレクトリにコピーして編集してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXMLインストールディレクトリ
>¥sample¥conf¥cpa_extend.xml
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/sample/conf/cpa_extend.xml
```

(3) 定義例

- Windows の場合

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<CPAExtendInfo
xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/schema/
cpa-entinfo.xsd"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <SignatureRequired>always</SignatureRequired>
  <SignPayload>always</SignPayload>
  <DurationTime>PlD</DurationTime>
  <AccessAuthenticationInfo>
    <Basic>
      <UserId>UserName</UserId>
      <Password>Password</Password>
    </Basic>
  </AccessAuthenticationInfo>
  <ConnectionTimeout>90</ConnectionTimeout>
</CPAExtendInfo>
```

- UNIX の場合

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<CPAExtendInfo
xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/schema/
cpa-entinfo.xsd"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <SignatureRequired>always</SignatureRequired>
  <SignPayload>always</SignPayload>
  <DurationTime>PlD</DurationTime>
  <AccessAuthenticationInfo>
    <Basic>
      <UserId>UserName</UserId>
      <Password>Password</Password>
    </Basic>
  </AccessAuthenticationInfo>
  <ConnectionTimeout>90</ConnectionTimeout>
</CPAExtendInfo>
```

7.8 MIME コンテントタイプマッピングファイル (mime.types)

ビジネスメッセージの送信時に、ユーザーはMIME コンテントタイプマッピングファイルを作成して、送信するペイロードファイルの拡張子とMIME コンテントタイプとのマッピングをする必要があります。uCosminexus Message Service for ebXML が提供するサンプルファイルを使用するか、またはサンプルファイルを修正して使用してください。

MIME コンテントタイプマッピングファイルに登録されていない拡張子のペイロードファイル、または拡張子がないペイロードファイルは、次のデフォルト値で送信されません。

MIMEコンテントタイプ:application/octet-stream

uCosminexus Message Service for ebXML を使用する場合、MIME の Content-Transfer-Encoding は "binary" で送信されます。

(1) 形式

拡張子=MIMEコンテントタイプ

(2) ファイルの格納先

- Windows の場合
`<MSH実行環境ディレクトリ>%mime.types`
- UNIX の場合
`<MSH実行環境ディレクトリ>/mime.types`

<MSH 実行環境ディレクトリ> は、実行環境参照定義ファイル (EXEC_ENV_REF_DEF コンテナの EXEC_ENV_IO_DIR_PATH キー) で指定した値です。

なお、次のディレクトリにサンプルファイルがあります。サンプルファイルを定義ファイルの格納ディレクトリにコピーして編集してください。

- Windows の場合
`<uCosminexus Message Service for ebXMLインストールディレクトリ>%sample%conf%mime.types`
- UNIX の場合
`/opt/ebxml/msh/sample/conf/mime.types`

(3) 定義例

```
txt=text/plain
css=text/css
```

7. 定義ファイル

```
html=text/html  
htm=text/html  
zip=application/zip  
lzh=application/oda  
doc=application/msword  
xls=application/vnd.ms-excel  
ppt=application/vnd.ms-powerpoint
```

7.9 管理者情報登録ファイル

uCosminexus Message Service for ebXML が提供する運用支援 GUI を使用するシステム管理者の情報を登録します。管理者情報登録ファイルを作成することで、登録したシステム管理者が運用支援 GUI にログインできるようになります。

管理者情報登録ファイルは、運用支援 GUI を使用するシステム管理者に増減があった場合に、対象となる情報だけの追加・削除はできません。管理者情報登録ファイルを修正する場合、すべての管理者情報を登録し直してください。

(1) 形式

ユーザーID,パスワード

次の規則に従って記述してください。

- ユーザー ID およびパスワードは、それぞれ 20 文字以下の英数文字列で記述してください。
- 途中にスペースを入れると、英数文字列でない文字とみなされてエラーになります。ただし、前後のスペースおよびタブは、無視されます。

(2) ファイルの格納先

管理者情報登録ファイルの格納先は任意です。

なお、次のディレクトリにサンプルファイルがあります。サンプルファイルを定義ファイルの格納ディレクトリにコピーして編集してください。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXMLインストールディレクトリ
>¥sample¥conf¥userinfo.csv
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/sample/conf/userinfo.csv
```

(3) 定義例

```
UserA, Pass1
UserB, Pass2
UserC, Pass3
```


8

UOC リファレンス

この章では、ビジネスメッセージの情報を参照するために使用する UOC のインターフェースやメソッドの詳細について説明します。

-
- 8.1 uCosminexus Message Service for ebXML が UOC に渡すビジネスメッセージの情報

 - 8.2 UOC の実装

 - 8.3 インターフェース一覧

 - 8.4 CallbackInterface インターフェース

 - 8.5 MessagingStatus インターフェース

 - 8.6 MessageProperty インターフェース

 - 8.7 Payload インターフェース
-

8.1 uCosminexus Message Service for ebXML が UOC に渡すビジネスメッセージの情報

ユーザー関数の呼び出し時に uCosminexus Message Service for ebXML が UOC に渡すビジネスメッセージの情報を、インターフェース名ごとに次に示します。

表 8-1 uCosminexus Message Service for ebXML が UOC に渡すビジネスメッセージ情報

項番	インターフェース名	ビジネスメッセージ情報	説明
1	MessagingStatus	SendResult	ビジネスメッセージの送信結果コード
2		ErrDescription	ビジネスメッセージの送信エラー詳細
3	MessageProperty	MessageContextId	メッセージングコンテキスト識別子
4		MessagingDefinitionId	メッセージ交換定義識別子
5		SendPartyName	送信パーティ名
6		ReceivePartyName	受信パーティ名
7		CPAId	CPA 識別子
8		ConversationId	会話識別子
9		Service	サービス名
10		ServiceType	サービス名表記種別
11		Action	アクション名
12		MessageId	メッセージ識別子
13		MessageDate	ビジネスメッセージの生成日時
14		RefToMessageId	参照メッセージ識別子

項番	インターフェース名	ビジネスメッセージ情報	説明
15	Payload	Filename	<p>受信メッセージ格納ディレクトリに格納されたペイロードのファイル名</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビジネスメッセージ送信結果通知によって起動される場合 ビジネスメッセージ送信時に指定したファイル名が指定されます。ファイル名が指定されていない場合、null が設定されます。 • ビジネスメッセージ受信によって起動される場合 送信結果 / 受信定義ファイル (RECV_MESSAGE コンテナの FILE_OUT キー) に "TRUE" を指定した場合、この項目にはペイロードを格納しているファイルシステム上でのファイル名が指定されます。 送信結果 / 受信定義ファイル (RECV_MESSAGE コンテナの FILE_OUT キー) に "FALSE" を指定した場合、ビジネスメッセージ送信時に指定したファイル名が指定されます。ファイル名が指定されていない場合、null が設定されます。
16		Filepath	<p>受信メッセージ格納ディレクトリに格納されたペイロードのファイルパス</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビジネスメッセージ送信結果通知によって起動される場合 null が設定されます。 • ビジネスメッセージ受信によって起動される場合 送信結果 / 受信定義ファイル (RECV_MESSAGE コンテナの FILE_OUT キー) に "TRUE" を指定した場合、この項目には受信メッセージ格納ディレクトリに格納されたペイロードのファイル名がフルパスで指定されます。送信メッセージのファイル名が指定されていない場合、null が設定されます。 送信結果 / 受信定義ファイル (RECV_MESSAGE コンテナの FILE_OUT キー) に "FALSE" を指定した場合、この項目には null が設定されます。

8. UOC リファレンス

項番	インターフェース名	ビジネスメッセージ情報	説明
17		Content	<p>ペイロード実体</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビジネスメッセージ送信結果通知によって起動される場合 null が設定されます。 • ビジネスメッセージ受信によって起動される場合 送信結果 / 受信定義ファイル (RECV_MESSAGE コンテナの FILE_OUT キー) に "TRUE" を指定した場合、この項目には null が設定されます。 送信結果 / 受信定義ファイル (RECV_MESSAGE コンテナの FILE_OUT キー) に "FALSE" を指定した場合、この項目に送信したペイロード実体が設定されます。

8.2 UOC の実装

UOC は `CallBackInterface` インターフェースを実装して作成します。UOC の実装手順と、UOC 実装クラスの例について説明します。

8.2.1 UOC の実装手順

UOC の実装手順と、一つの UOC を作成するための手順例とをあわせて説明します。ここで説明する手順例によって完成する UOC 実装クラスの例については、「8.2.2 UOC 実装クラスの例」を参照してください。

例として示す UOC 実装クラスでは、次の情報を使用しています。

- パッケージ名 =sample
- クラス名 =UOC_Implementation

1. UOC 実装クラスを作成します。

UOC 実装クラスを作成する際には、次のことに注意してください。

- パッケージ名
UOC を実装したクラスを格納するパッケージ名は任意とします。
- UOC 実装クラスのアクセス制限
public とします。
- UOC 実装クラスのコンストラクタ
デフォルトコンストラクタだけとします。コンストラクタ内で処理が必要な場合は、デフォルトコンストラクタを使用してください。また、その場合はコンストラクタのアクセス制限は public としてください。
- UOC 実装クラスのインスタンス化
UOC 実装クラスは、UOC を呼ぶたびにインスタンス化されます。
- UOC 実装クラスの例外処理
UOC からは例外を送り出ししないでください。
UOC 内で発生する例外については、UOC 内で処理を実行してください。

2. UOC 実装クラスをコンパイルします。

javac コマンドを使用して、作成した UOC 実装クラスをコンパイルし、クラスファイルを作成します。

クラスパスには、uCosminexus Message Service for ebXML が提供するライブラリ (hebxmlmshcbejb.jar) を指定します。hebxmlmshcbejb.jar は、次のディレクトリに格納されています。

- Windows の場合
<uCosminexus Message Service for ebXML のインストールディレクトリ >¥lib
- UNIX の場合
/opt/ebxml/msh/lib

8. UOC リファレンス

【例】

javac コマンドの実行例を次に示します。

Windows の場合

```
javac -classpath "C:\Program Files\HITACHI\ebxml\msh\lib\hebxmlmshcbejb.jar"  
UOC_Implementation.java
```

UNIX の場合

```
javac -classpath /opt/ebxml/msh/lib/hebxmlmshcbejb.jar UOC_Implementation.java
```

3. uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションファイルおよびライブラリをバックアップします。

作成した UOC 実装クラスを動作させるためには、uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションファイルに追加する必要があります。uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションファイルに UOC 実装クラスを追加すると、uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションファイルは上書きされるため、前もって別ディレクトリにバックアップしてください。

なお、uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションファイルおよびライブラリが uCosminexus Message Service for ebXML インストールディレクトリの lib 下にないとコマンド実行エラーとなるため、移動ではなく、必ずコピーするようにしてください。

コピーが必要なファイルを次に示します。

• Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXML インストールディレクトリ  
>\lib\hebxmlmshcbejb.jar  
<uCosminexus Message Service for ebXML インストールディレクトリ  
>\lib\hebxmlmshapp.ear
```

• UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/lib/hebxmlmshcbejb.jar  
/opt/ebxml/msh/lib/hebxmlmshapp.ear
```

4. UOC 実装クラスを uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションファイルに追加します。

UOC 追加コマンドを使用して、UOC 実装クラスを uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションファイルに追加します。追加するには、UOC 追加コマンド実行時に UOC 実装クラスを格納したディレクトリをオプションで指定します。UOC 実装クラスは、あらかじめ任意の位置にパッケージ名のディレクトリを作成し、さらにその下に class ファイル名のディレクトリを作成して格納しておいてください。UOC 追加コマンドの実行形式については、「9.3 システム構築・運用コマンド」の MSHAddUoc を参照してください。

【例】

Windows の場合の、UOC 追加コマンドの実行例を次に示します。

```
MSHAddUoc -f sample¥UOC_Implementation.class -c C:¥tmp
```

UNIX の場合の、UOC 追加コマンドの実行例を次に示します。

```
MSHAddUoc -f sample/UOC_Implementation.class -c /tmp
```

5. 送信結果 / 受信定義ファイルに、UOC 実装クラスを指定します。

UOC 実装クラスは送信結果 / 受信定義ファイル (SEND_NOTIFY コンテナおよび RECV_MESSAGE コンテナの UOC_CLASS キー) に指定します。送信結果 / 受信定義ファイルの詳細については、「7.5 送信結果 / 受信定義ファイル (revdef.xml)」を参照してください。

【例】

送信結果 / 受信定義ファイル (SEND_NOTIFY コンテナおよび RECV_MESSAGE コンテナの UOC_CLASS キー) に、UOC 実装クラスをパッケージ名から指定する場合の例を次に示します。この例はサンプルのため、送信結果 / 受信定義ファイルの一部を抜粋しています。

```
<Container id="SEND_NOTIFY">
  <Key id="UOC_CLASS">sample.UOC_Implementation</Key>
</Container>
<Container id="RECV_MESSAGE">
  <Key id="UOC_CLASS">sample.UOC_Implementation</Key>

( 中略 )

</Container>
```

8.2.2 UOC 実装クラスの例

UOC 実装クラスの例について説明します。ここで示す UOC 実装クラスのサンプルファイルは、次のディレクトリに格納されています。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXMLのインストールディレクトリ
>¥sample¥uoc¥UOC_Implementation.java
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/sample/uoc/UOC_Implementation.java
```

この例のパッケージ名およびクラス名は次のとおりです。

- パッケージ名 =sample
- クラス名 =UOC_Implementation

ここでは、UOC 実装クラスのサンプルファイルを簡略化して示します。

8. UOC リファレンス

```
// パッケージ名の定義
package sample;

// UOCで使用するインターフェースの宣言
import jp.co.hitachi.soft.ebxml.msh.ejb.callback.uoc.CallbackInterface;
import jp.co.hitachi.soft.ebxml.msh.ejb.callback.uoc.MessageProperty;
import jp.co.hitachi.soft.ebxml.msh.ejb.callback.uoc.MessagingStatus;
import jp.co.hitachi.soft.ebxml.msh.ejb.callback.uoc.Payload;

// UOCの実装は、CallbackInterfaceを使用すること。
public class UOC_Implementation
    implements CallbackInterface
{
    // コンストラクタ
    public UOC_Implementation() {
        // 初期化処理
    }

    // メッセージ受信時に呼び出されるUOC
    public void recvMessage(
        MessageProperty messageProperty)
    {
        // メッセージ受信時の処理を記述します
    }

    // メッセージ送信結果通知時に呼び出されるUOC
    public void sendMessageNotify(
        MessagingStatus messagingStatus,
        MessageProperty messageProperty)
    {
        // メッセージ送信結果通知時の処理
        if (MessagingStatus.SUCCESS == messagingStatus.getSendResult()) {
            // メッセージ送信成功時の処理を記述します
        } else {
            // メッセージ送信失敗時の処理を記述します
        }
    }
}
```

8.3 インターフェース一覧

UOC を作成するためのインターフェースを次に示します。これらのインターフェースのパッケージ名は `jp.co.hitachi.soft.ebxml.msh.ejb.callback.uoc` です。

表 8-2 UOC インターフェース一覧

項番	インターフェース名	メソッド名	説明
1	CallBackInterface	sendMessageNotify	ビジネスメッセージの送信結果通知時に呼び出されるメソッド
2		recvMessage	ビジネスメッセージの受信時に呼び出されるメソッド
3	MessagingStatus	getSendResult	ビジネスメッセージの送信結果の取得
4		getErrDescription	メッセージ送信エラー詳細の取得
5	MessageProperty	getMessageContextId	メッセージングコンテキスト識別子の取得
6		getMessageDefinitionId	メッセージ交換定義識別子の取得
7		getSendPartyName	送信パーティ名の取得
8		getReceivePartyName	受信パーティ名の取得
9		getCPAId	CPA 識別子の取得
10		getConversationId	会話識別子の取得
11		getService	サービス名の取得
12		getServiceType	サービス名表記種別の取得
13		getAction	アクション名の取得
14		getMessageId	メッセージ識別子の取得
15		getMessageDate	ビジネスメッセージ生成日時取得
16		getRefToMessageId	参照メッセージ識別子の取得
17		getPayloads	ペイロードの取得
18		Payload	getFilename
19	getFilepath		ペイロード格納ファイルパスの取得
20	getContent		ペイロード実体の取得
21	getInputStream		ペイロードを表すストリームの取得
22	length		ペイロードの長さの取得

注 UNIX の場合にだけ使用できるメソッドです。

8.4 CallbackInterface インターフェース

UOC を作成するためのインターフェースを定義します。UOC は、CallbackInterface インターフェースで規定されている、次の二つのメソッドを実装することで作成します。ビジネスメッセージ送信結果通知およびビジネスメッセージ受信機能は、次の二つのメソッドを介して UOC を呼び出します。

sendMessageNotify

形式

```
public void sendMessageNotify(
    MessagingStatus messagingStatus,
    MessageProperty messageProperty
);
```

機能

ビジネスメッセージの送信結果通知時に UOC を呼び出すときのインターフェースです。

引数

uCosminexus Message Service for ebXML から渡される引数

messagingStatus

ビジネスメッセージの送信結果が渡されます。

messageProperty

送信結果通知の対象となったビジネスメッセージの情報が渡されます。

戻り値

なし

例外

上位への例外は送出しないでください。UOC 内で発生した例外は、UOC 内で処理してください。UOC 内から例外が送出された場合、呼び出し元である uCosminexus Message Service for ebXML がすべての例外をキャッチし、送出された例外に関する情報をトレースに出力します。

recvMessage

形式

```
public void recvMessage(
```

```
        MessageProperty messageProperty  
    );
```

機能

ビジネスメッセージ受信時に UOC を呼び出すときのインターフェースです。

引数

uCosminexus Message Service for ebXML から渡される引数

messageProperty

受信したビジネスメッセージの情報が渡されます。

戻り値

なし

例外

上位への例外は送出しないでください。UOC 内で発生した例外は、UOC 内で処理してください。UOC 内から例外が送出された場合、呼び出し元である uCosminexus Message Service for ebXML がすべての例外をキャッチし、送出された例外に関する情報をトレースに出力します。

8.5 MessagingStatus インターフェース

ビジネスメッセージの送信結果情報に関するインターフェースです。UOC 内でビジネスメッセージの送信結果情報を取得する場合、このインターフェースを介して情報を取得します。

getSendResult

形式

```
public int getSendResult ();
```

機能

ビジネスメッセージのメッセージ送信結果コードを取得します。

引数

なし

戻り値

メッセージ送信結果コードを返します。

このメソッドによって返されるメッセージ送信結果コードを次に示します。次の定義名で示す値を、メッセージ送信結果情報の定数として利用できます。

表 8-3 メッセージ送信結果コードとメッセージ送信結果情報の定数

項番	コード値	定義名	説明
1	-1	RETRIED_OUT	リトライアウト
2	-2	ERROR_SIGNAL_RECEIVED	エラーシグナル受信
3	-3	VALIDATION_ERROR	メッセージ検証エラー
4	0	SUCCESS	送信成功 (高信頼配信)
5	1	SENT	送信成功 (Best Effort)

getErrDescription

形式

```
public String getErrDescription ();
```

機能

ビジネスメッセージのメッセージ送信エラー詳細を取得します。

引数

なし

戻り値

メッセージ送信エラー詳細を返します。

ビジネスメッセージ送信に成功 (`getSendResult` で返されるメッセージ送信結果コードが 0 (SUCCESS) または 1 (SENT)) した場合、このメソッドの戻り値は `null` となります。

8.6 MessageProperty インターフェース

メッセージ情報を UOC へ渡すときに使用されるインターフェースです。UOC 内でメッセージ情報を参照する場合は、このインターフェースを介してメッセージ情報を取得します。

getMessageContextId

形式

```
public String getMessageContextId ();
```

機能

ビジネスメッセージのメッセージングコンテキスト識別子を取得します。

引数

なし

戻り値

メッセージングコンテキスト識別子を返します。

getMessageDefinitionId

形式

```
public String getMessageDefinitionId ();
```

機能

ビジネスメッセージを送信または受信したときに使用したメッセージ交換定義識別子を取得します。

引数

なし

戻り値

メッセージ交換定義識別子を返します。

getSendPartyName

形式

```
public String getSendPartyName ();
```

機能

ビジネスメッセージの送信パーティ名を取得します。

送信結果通知時に呼び出された場合、このメソッドで取得されるパーティ名は、自企業のパーティ名となります。ビジネスメッセージ受信時に呼び出された場合は、このメソッドで取得されるパーティ名は、相手企業のパーティ名となります。

引数

なし

戻り値

送信パーティ名を返します。

getReceivePartyName

形式

```
public String getReceivePartyName ();
```

機能

ビジネスメッセージの受信パーティ名を取得します。

送信結果通知時に呼び出された場合、このメソッドで取得されるパーティ名は、相手企業のパーティ名となります。ビジネスメッセージの受信時に呼び出された場合は、このメソッドで取得されるパーティ名は、自企業のパーティ名となります。

引数

なし

戻り値

受信パーティ名を返します。

getCPAId

形式

```
public String getCPAId ();
```

機能

ビジネスメッセージの CPA 識別子を取得します。

引数

なし

戻り値

CPA 識別子を返します。

getConversationId

形式

```
public String getConversationId ();
```

機能

ビジネスメッセージの会話識別子を取得します。

引数

なし

戻り値

会話識別子を返します。

getService

形式

```
public String getService();
```

機能

ビジネスメッセージのサービス名を取得します。

引数

なし

戻り値

サービス名を返します。

getServiceType

形式

```
public String getServiceType ();
```

機能

ビジネスメッセージのサービス名表記種別を取得します。

引数

なし

戻り値

サービス名表記種別を返します。

ビジネスメッセージでサービス名表記種別が使用されていない場合、このメソッドの戻り値は null となります。

getAction

形式

```
public String getAction ();
```

機能

ビジネスメッセージのアクション名を取得します。

引数

なし

戻り値

アクション名を返します。

getMessageId

形式

```
public String getMessageId ();
```

機能

ビジネスメッセージのメッセージ識別子を取得します。

引数

なし

戻り値

メッセージ識別子を返します。

getMessageDate

形式

```
public Date getMessageDate ();
```

機能

ビジネスメッセージのメッセージ生成日時を取得します。

引数

なし

戻り値

メッセージ生成日時を返します。

getRefToMessageId

形式

```
public String getRefToMessageId ();
```

機能

ビジネスメッセージの参照メッセージ識別子を取得します。

引数

なし

戻り値

参照メッセージ識別子を返します。

ビジネスメッセージで参照メッセージ識別子が使用されていない場合、このメソッドの戻り値は `null` となります。

getPayloads

形式

```
public List getPayloads ();
```

機能

ビジネスメッセージのペイロードを取得します。

引数

なし

戻り値

ペイロード情報を返します。このメソッドで返される `List` の各要素には、`Payload` が格納されています。

ビジネスメッセージにペイロードが付与されていない場合、このメソッドの戻り値は、長さ 0 の `List` を返します。

8.7 Payload インターフェース

ペイロード情報に関するインターフェースです。MessageProperty インターフェースの getPayloads メソッドを実行すると、Payload インターフェースの情報を取得できます。

getFilename

形式

```
public String getFilename ();
```

機能

ビジネスメッセージのペイロードファイル名を取得します。

引数

なし

戻り値

ペイロードファイル名を返します。ビジネスメッセージ送信時にペイロードに対してファイル名を指定していない場合は、このメソッドの戻り値は null となります。

ビジネスメッセージ送信結果通知によって起動される場合

ビジネスメッセージ送信時に指定したファイル名が指定されます。

ビジネスメッセージ受信によって起動される場合

このメソッドの戻り値は、送信結果 / 受信定義ファイル (RECV_MESSAGE コンテナの FILE_OUT キー) の指定によって、次のように異なります。

- "TRUE" を指定した場合、この項目にはペイロードを格納しているファイルシステム上でのファイル名が指定されます。
- "FALSE" を指定した場合、ビジネスメッセージ送信時に指定したファイル名が指定されます。

getFilepath

形式

```
public String getFilepath ();
```

機能

ビジネスメッセージのペイロード格納ファイルパスを取得します。

引数

なし

戻り値

ペイロード格納ファイルパスを返します。

ビジネスメッセージ送信結果通知によって呼び出された場合
このメソッドの戻り値は null となります。

ビジネスメッセージ受信によって呼び出された場合
このメソッドの戻り値は、送信結果 / 受信定義ファイル (RECV_MESSAGE コンテナ
の FILE_OUT キー) の指定によって、次のように異なります。

- FILE_OUT キーに "TRUE" を指定した場合、ファイルシステム上でのペイロード
が格納されているファイルパスをフルパスで返します。
- FILE_OUT キーに "FALSE" を指定した場合、このメソッドの戻り値は null とな
ります。

getContent

形式

```
public byte[] getContent ();
```

機能

ビジネスメッセージのペイロード実体を取得します。

引数

なし

戻り値

ペイロード実体を返します。

ビジネスメッセージ送信結果通知によって呼び出された場合
このメソッドの戻り値は null となります。

ビジネスメッセージ受信によって呼び出された場合
このメソッドの戻り値は、送信結果 / 受信定義ファイル (RECV_MESSAGE コンテナ
の FILE_OUT キー) の指定によって、次のように異なります。

- FILE_OUT キーに "TRUE" を指定した場合、null となります。
- FILE_OUT キーに "FALSE" を指定した場合、ペイロードが格納された byte 配列が
返されます。ペイロードのサイズが 0 の場合は、長さ 0 の byte 配列が返されます。

! 注意事項

このメソッドはペイロードをメモリ上に展開するため、大規模なデータを扱う場合にメモリが不足することがあります。そのため、このメソッドを使用することは推奨しません。ペイロードを取得する場合は、`getInputStream` メソッドを使用してください。

getInputStream

形式

```
public InputStream getInputStream () throws IOException;
```

機能

ビジネスメッセージのペイロードを表すストリームを取得します。

引数

なし

戻り値

ペイロードを表すストリームを返します。

メッセージ送信結果通知によって呼び出された場合
このメソッドの戻り値は `null` となります。

メッセージ受信によって呼び出された場合
定義ファイルで `FILE_OUT` に `"TRUE"` を指定した場合、`null` となります。
定義項目 `FILE_OUT` に `"FALSE"` を指定した場合、ペイロードへの入力ストリームが返されます。
ペイロードのサイズが `0` の場合、長さ `0` の入力ストリームが返されます。

! 注意事項

このメソッドは、UNIX の場合にだけ使用できます。

length

形式

```
public int length ();
```

機能

ビジネスメッセージのペイロードの長さを取得します。

引数

なし

戻り値

ペイロードの長さを返します。ペイロード実体が null の場合は、-1 が返されます。

! 注意事項

このメソッドは、UNIX の場合にだけ使用できます。

9

コマンドリファレンス

この章では、uCosminexus Message Service for ebXML のシステムで使用するコマンドについて、記述形式、文法、使用例などを説明します。

9.1 コマンドの記述形式

9.2 コマンド一覧

9.3 システム構築・運用コマンド

9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド

9.1 コマンドの記述形式

コマンドの説明で使用する見出し、およびコマンドを実行するときに注意する必要がある記述規則について説明します。

9.1.1 コマンドの説明で使用する見出し

コマンドの説明で使用する、各見出しについて説明します。

形式

コマンドの記述形式をまとめています。オプション名とオプションの引数の間には、半角スペースまたはタブを入力してください。

機能

コマンドの機能を説明します。

オプション

オプションについて説明します。オプションの引数や、オプションを指定するときの注意事項などを説明します。

戻り値

コマンドの戻り値を説明します。

コマンドの戻り値は、標準出力または標準エラー出力に出力されますが、コマンドの種類によっては共通トレースに出力される場合があります。コマンドの戻り値が共通トレースに出力されるかどうかは、各コマンドの詳細を参照してください。戻り値の種類は次のとおりです。

0

正常終了したことを示します。

コマンドの戻り値が 0 の場合、標準出力にメッセージが出力されます。

1

警告付きで正常終了したことを示します。コマンド処理は終了しましたが、処理中にコマンド内で解決できない問題が発生した場合です。

コマンドの戻り値が 1 の場合、標準出力にメッセージが出力されます。

2

引数エラーが発生したことを示します。コマンド実行時に指定した引数に過不足がある場合、または引数の指定方法に誤りがある場合です。この戻り値は UNIX の場合だけ出力されます。

コマンドの戻り値が 2 の場合、標準エラー出力に Usage としてコマンドの正しい記述形式を出力します。Usage を参照して引数を指定し直してください。

- 1

引数エラーが発生したことを示します。コマンド実行時に指定した引数に過不足がある場合、または引数の指定方法に誤りがある場合です。この戻り値は Windows の場合だけ出力されます。

コマンドの戻り値が - 1 の場合、標準エラー出力に Usage としてコマンドの正しい記述形式を出力します。Usage を参照して引数を指定し直してください。

その他

コマンド処理中に何らかの問題が発生したため、コマンド処理を中断したことを示します。この場合、標準エラー出力にメッセージが出力されます。

Windows の場合は - 2 以下、UNIX の場合は 3 以上が返されます。

注意事項

コマンドの注意事項を説明します。

実行例

オプションを選択し、オプションの引数に具体値を入力したコマンド実行例を示します。

9.1.2 コマンドの記述形式に関する注意事項

コマンドを実行する場合、次の規則に従って指定してください。

ファイルやディレクトリのパスを指定するとき

アスタリスク (*) など、ワイルドカードの記号をパス名に含めないでください。

パス名に空白があるとき

"" で囲んでください。

9.2 コマンド一覧

uCosminexus Message Service for ebXML のコマンドの一覧を、次の表に示します。

表 9-1 uCosminexus Message Service for ebXML のコマンド一覧

項番	コマンドの種類	コマンド名	説明
1	システム構築・運用コマンド	UOC 追加 (MSHAddUoc)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを構築するためのコマンドです。 uCosminexus Message Service for ebXML が提供する UOC 用インターフェースを使用して作成したプログラムを、uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーション (hebxmlmshapp.ear) に追加します。
2		J2EE サーバ & MSH アプリケーション起動 (MSHAppStart)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを運用するためのコマンドです。 J2EE サーバおよび uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションを起動します。
3		J2EE サーバ & MSH アプリケーション停止 (MSHAppStop)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを運用するためのコマンドです。 J2EE サーバおよび uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションを停止します。
4		MSH 実行環境定義チェック (MSHCheckConfig)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを構築するためのコマンドです。 実行環境参照定義ファイル、および MSH 実行環境定義ファイルが正しい形式で記述されているかどうかをチェックします。
5		送信結果 / 受信定義チェック (MSHCheckRcvDef)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを構築するためのコマンドです。 送信結果 / 受信定義ファイルが正しい形式で記述されているかどうかをチェックします。
6		メッセージ交換定義導入 (MSHDeployMsgDef)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを構築するためのコマンドです。 CPA ファイルをメッセージ交換定義ファイルに変換し、MSH 実行環境に導入します。
7		管理者情報登録 (MSHRegisterUser)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを構築するためのコマンドです。 運用支援 GUI にログインするシステム管理者を登録します。
8		一時停止メッセージ解除 (MSHReleaseMessage)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを運用するためのコマンドです。 一時停止状態のビジネスメッセージを解除します。

項番	コマンドの種類	コマンド名	説明
9		永続化メッセージ削除 (MSHRemoveMessage)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを運用するためのコマンドです。データベースサーバで管理している永続化メッセージを削除します。
10		ビジネスメッセージ送信 (MSHSendMessage)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを運用するためのコマンドです。ビジネスメッセージを送信します。
11		ビジネスメッセージ強制終了 (MSHTerminateMessage)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを運用するためのコマンドです。指定したビジネスメッセージの状態を強制的にCLOSED 状態にします。
12		タイマー停止 (MSHTimerKill)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを運用するためのコマンドです。タイマーを停止します。
13		タイマー回復 (MSHTimerRecovery)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを運用するためのコマンドです。タイマーが起動された状態で、タイマー監視処理を再起動させます。メッセージの対処でこのコマンドの実行が必要と記されている場合、またはビジネスメッセージが一時停止状態になった場合に使用してください。
14		タイマー起動 (MSHTimerStart)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを運用するためのコマンドです。タイマーを起動します。
15		RMI レジストリ起動 (RMIRegistryStart)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを運用するためのコマンドです。Java の RMI レジストリを起動します。
16		EJB スタブダウンロード (StubDownload)	uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを構築するためのコマンドです。uCosminexus Message Service for ebXML が使用する J2EE 用のスタブファイルを、uCosminexus Application Server からダウンロードします。
17	セキュリティ環境構築・運用コマンド	証明書形式変換 (KeyStore) (MSHConvertCert)	暗号化通信 (SSL クライアント認証) または XML 電子署名をするためのコマンドです。KeyStore ファイルに格納されているクライアント証明書または XML 電子署名用証明書を、XMLDSig 形式に変換します。
18		証明書形式変換 (X.509 証明書) (MSHConvertCertFile)	暗号化通信 (SSL サーバ認証) または SSL クライアント認証) または XML 電子署名をするためのコマンドです。X.509 形式で記述されているサーバ証明書を、XMLDSig 形式に変換します。

9. コマンドリファレンス

項番	コマンドの種類	コマンド名	説明
19		証明書発行 (MSHCreateCert)	暗号化通信 (SSL クライアント認証) または XML 電子署名をするためのコマンドです。 暗号化通信 (SSL クライアント認証) または XML 電子署名で使用する証明書・秘密鍵を生成します。
20		証明書要求作成 (MSHCreateCertReq)	暗号化通信 (SSL クライアント認証) または XML 電子署名をするためのコマンドです。 証明書発行コマンドによって発行された証明書を認証局で署名するための、証明書要求を作成します。
21		証明書削除 (MSHDeleteCert)	暗号化通信 (SSL クライアント認証) または XML 電子署名をするためのコマンドです。 uCosminexus Message Service for ebXML の KeyStore ファイルで管理している証明書を削除します。
22		認証局証明書登録 (MSHImportCACert)	暗号化通信 (SSL クライアント認証) または XML 電子署名をするためのコマンドです。 認証局証明書を、uCosminexus Message Service for ebXML の KeyStore ファイルに登録します。
23		証明書登録 (MSHImportCert)	暗号化通信 (SSL クライアント認証) または XML 電子署名をするためのコマンドです。 認証局によって署名されたクライアント証明書または XML 電子署名用証明書を、uCosminexus Message Service for ebXML の KeyStore ファイルに登録します。
24		証明書一覧表示 (MSHListCert)	暗号化通信 (SSL クライアント認証) または XML 電子署名をするためのコマンドです。 uCosminexus Message Service for ebXML の KeyStore ファイルで管理している証明書の一覧を表示します。

注

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムにセキュリティ通信を適用する場合にだけ必要なコマンドです。

9.3 システム構築・運用コマンド

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを構築・運用するために使用するコマンドについて説明します。

MSHAddUoc (UOC 追加)

形式

```
MSHAddUoc -f <UOC実装クラスパス> [-c <UOC実装クラスディレクトリ>]
```

機能

uCosminexus Message Service for ebXML が提供する UOC 用インターフェースを使用して作成したプログラムを、uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーション (hebxmlmshapp.ear) に追加します。

異なる複数のパッケージを追加する場合は、このコマンドをパッケージごとに実行します。

オプション

-f < UOC 実装クラスパス >

UOC を実装したクラスファイルのパスを、パッケージがある階層から指定します。必ず指定してください。
クラスファイルが複数ある場合、すべてのクラスファイルを含むパッケージの名称を指定します。

-c < UOC 実装クラスディレクトリ >

-f オプションに指定したパス名を、絶対パスで指定します。

クラスファイルを、次のディレクトリにコピーして実行する場合は、指定を省略できます。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXML インストールディレクトリ>\util
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/util
```

戻り値

0 : 正常終了しました。

0 以外 : エラーが発生しました。

注意事項

Windows の場合、`-f` オプションおよび `-c` オプションにパスを指定するとき、「9.1.2 コマンドの記述形式に関する注意事項」で示す規則のほかに、次の規則にも従って記述します。

- "`¥¥`" を使用しないでください。
- パス名の末尾に "/" を指定すると、クラスファイルが不正な名称で追加されてしまうので、指定しないでください。

実行例

- sample パッケージ下の "UOC_Implementation.class" を追加する場合のコマンド実行例を次に示します。
 - Windows の場合
`MSHAddUoc -f sample¥¥UOC_Implementation.class -c C:¥¥tmp`
 - UNIX の場合
`MSHAddUoc -f sample/UOC_Implementation.class -c /tmp`
- sample パッケージ下の複数のクラスファイルを追加する場合のコマンド実行例を次に示します。
 - Windows の場合
`MSHAddUoc -f sample -c C:¥¥tmp`
 - UNIX の場合
`MSHAddUoc -f sample -c /tmp`

MSHAppStart (J2EE サーバ &MSH アプリケーション起動)

形式

```
MSHAppStart [ -sv <サーバ名称> ]
```

機能

J2EE サーバおよび uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションを開始します。uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを起動させるときに使用します。

オプション

`-sv <サーバ名称>`

運用上サーバ名称にデフォルトで設定されている "ebxml" を使用できない場合に、ユーザーが設定した任意のサーバ名称を指定します。サーバ名称に "ebxml" を使用する場合は、このオプションを設定する必要はありません。

戻り値

0 : 正常終了しました。

0 以外 : エラーが発生しました。

実行例

サーバ名称を "msh" にした場合のコマンド実行例を次に示します。

```
MSHAppStart -sv msh
```

MSHAppStop (J2EE サーバ &MSH アプリケーション停止)

形式

```
MSHAppStop [-sv <サーバ名称>]
```

機能

J2EE サーバおよび uCosminexus Message Service for ebXML のアプリケーションを停止します。uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを停止させるときに使用します。

オプション

-sv <サーバ名称>

運用上サーバ名称にデフォルトで設定されている "ebxml" を使用できない場合に、ユーザーが設定した任意のサーバ名称を指定します。サーバ名称に "ebxml" を使用する場合は、このオプションを設定する必要はありません。

戻り値

0 : 正常終了しました。

0 以外 : エラーが発生しました。

実行例

サーバ名称を "msh" にした場合のコマンド実行例を次に示します。

```
MSHAppStop -sv msh
```

MSHCheckConfig (MSH 実行環境定義チェック)

形式

MSHCheckConfig

機能

MSH 実行環境を定義するファイルが、正しい形式で記述されているかどうかをチェックします。チェック対象となるのは、次の定義ファイルです。

実行環境参照定義ファイル

MSH 実行環境定義ファイル

このコマンドを実行して出力されるメッセージは、共通トレースに出力されます。

オプション

なし

戻り値

- Windows の場合
 - 0 : 正常終了しました。
 - 1 : 引数エラーです。コマンド実行時に指定した引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。
 - 2 : 定義内容エラーです。定義ファイルの内容の不正を検知しました。
 - 3 : 実行エラーです。メモリ不足など、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。
 - 4 : チェックする定義ファイルに対するアクセス権限がありません。
 - 5 : チェックする定義ファイルがありません。
- UNIX の場合
 - 0 : 正常終了しました。
 - 2 : 引数エラーです。コマンド実行時に指定した引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。
 - 3 : 定義内容エラーです。定義ファイルの内容の不正を検知しました。
 - 4 : 実行エラーです。メモリ不足など、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。
 - 5 : チェックする定義ファイルに対するアクセス権限がありません。
 - 6 : チェックする定義ファイルがありません。

注意事項

MSH 実行環境定義チェックコマンドがチェックする内容は、静的な情報だけです。データベースへのアクセス確認など、動的なチェックはしません。

実行例

MSHCheckConfig

MSHCheckRcvDef (送信結果 / 受信定義チェック)

形式

MSHCheckRcvDef

機能

送信結果 / 受信定義ファイルが、正しい形式で記述されているかどうかをチェックします。

このコマンドを実行して出力されるメッセージは、共通トレースに出力されます。

オプション

なし

戻り値

- Windows の場合
 - 0 : 正常終了しました。
 - 1 : 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。
 - 2 : 定義内容エラーです。定義内容の不正を検知しました。
 - 3 : 実行エラーです。メモリ不足など、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。
 - 4 : チェックする定義ファイルにアクセス権がありません。
 - 5 : チェックする定義ファイルがありません。
- UNIX の場合
 - 0 : 正常終了しました。
 - 2 : 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。
 - 3 : 定義内容エラーです。定義内容の不正を検知しました。
 - 4 : 実行エラーです。メモリ不足など、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。
 - 5 : チェックする定義ファイルにアクセス権がありません。
 - 6 : チェックする定義ファイルがありません。

実行例

MSHCheckRcvDef

MSHDeployMsgDef (メッセージ交換定義導入)

形式

```
MSHDeployMsgDef -c <CPAファイルパス>
                 [-i <CPA拡張定義ファイルパス>]
                 -p <パーティ識別子>
```

機能

CPA ファイルおよび CPA 拡張定義ファイルからメッセージ交換定義ファイルを生成し、生成したメッセージ交換定義ファイルを MSH 実行環境に導入します。このコマンドを実行して成功した場合、メッセージ交換定義ファイルが MSH 実行環境ディレクトリの msgdefs ディレクトリ下に作成されます。

CPA ファイルをメッセージ交換定義ファイルに変換するとき、CPA ファイルおよび CPA 拡張定義ファイルの記述形式が正しいかどうかを、XML スキーマによってチェックします。チェックの結果、記述形式が不正の場合はエラーとします。

uCosminexus Message Service for ebXML の運用開始後、このコマンドを実行して生成されたメッセージ交換定義ファイルは削除しないでください。運用開始後にメッセージ交換定義ファイルの内容を更新したい場合は、新しい cpaid で CPA ファイルを再作成し、このコマンドを実行して新しいメッセージ交換定義ファイルを生成してください。

なお、運用開始前のテスト段階であれば、生成したメッセージ交換定義ファイルに誤りがある場合、メッセージ交換定義ファイルをいったん削除して再生成できます。

このコマンドを実行して出力されるメッセージは、共通トレースに出力されます。

オプション

-c < CPA ファイルパス >

メッセージ交換定義ファイルの基となる CPA ファイルを、フルパスで指定します。

-i < CPA 拡張定義ファイルパス >

メッセージ交換定義ファイルを生成するための CPA 拡張定義ファイルを、フルパスで指定します。このオプションを省略した場合は、CPA 拡張定義ファイルで指定する値がすべてデフォルト値を指定したものとして処理されます。

-p < パーティ識別子 >

ユーザーのパーティ識別子を、63 バイト以内で指定します。CPA ファイルに指定した PartyId と同じ値を指定してください。

戻り値

- Windows の場合
 - 0 : 正常終了しました。

- 1: 引数エラーです。次の原因が挙げられます。
 - コマンド実行時に指定した引数に過不足がある。
 - 引数の指定方法に誤りがある。
 - コマンド実行時の引数で指定されたファイルがない。
- 2: 重複エラーです。MSH 実行環境にすでに同じメッセージ交換定義ファイルが導入されています。
- 3: システム定義不正です。実行環境参照定義ファイルの記述内容に不正があるため、MSH 実行環境ディレクトリを取得できません。
- 4: 実行エラーです。メモリ不足など、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。
- 5: CPA ファイル、または CPA 拡張定義ファイルの記述形式が不正です。
- 6: メッセージ交換定義ファイルを生成するディレクトリにアクセス権限がない、または MSH 実行環境ディレクトリを作成できません。
- UNIX の場合
 - 0: 正常終了しました。
 - 2: 引数エラーです。次の原因が挙げられます。
 - コマンド実行時に指定した引数に過不足がある。
 - 引数の指定方法に誤りがある。
 - コマンド実行時の引数で指定されたファイルがない。
 - 3: 重複エラーです。MSH 実行環境にすでに同じメッセージ交換定義ファイルが導入されています。
 - 4: システム定義不正です。実行環境参照定義ファイルの記述内容に不正があるため、MSH 実行環境ディレクトリを取得できません。
 - 5: 実行エラーです。メモリ不足など、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。
 - 6: CPA ファイル、または CPA 拡張定義ファイルの記述形式が不正です。
 - 7: メッセージ交換定義ファイルを生成するディレクトリにアクセス権限がない、または MSH 実行環境ディレクトリを作成できません。

注意事項

メッセージ交換定義識別子は、CPA 識別子とパーティ識別子をハイフン (-) でつなげたものになります。このため、CPA ファイルに記述する CPA 識別子およびパーティ識別子そのものにハイフン (-) が含まれる場合、異なる CPA ファイルに対してメッセージ交換定義導入コマンドを実行したときに、メッセージ交換定義ファイルのファイル名重複エラー (KDEB02309-E) が発生するおそれがあります。

メッセージ交換定義導入コマンドを実行したときに重複エラーが発生する事例の詳細については、「付録 B.1 CPA ファイルの各項目と uCosminexus Message Service for ebXML での規約」を参照してください。

実行例

CPA ファイル (cpa001.xml), CPA 拡張定義ファイル (cpa-ext.xml) を使用して, partyA のパーティ識別子に対するメッセージ交換定義ファイルを導入する場合の実行例を示します。

- Windows の場合

```
MSHDeployMsgDef -c C:¥tmp¥cpa001.xml -i C:¥tmp¥cpa-ext.xml -p partyA
```

- UNIX の場合

```
MSHDeployMsgDef -c /tmp/cpa001.xml -i /tmp/cpa-ext.xml -p partyA
```

MSHRegisterUser (管理者情報登録)

形式

```
MSHRegisterUser -cf <管理者情報登録ファイルパス>
```

機能

運用支援 GUI にログインするシステム管理者の情報を, データベースに登録します。ユーザー ID とパスワードを登録します。

このコマンドを実行して出力されるメッセージは, 共通トレースに出力されます。

オプション

-cf <管理者情報登録ファイルパス>

登録するシステム管理者のユーザー ID とパスワードを管理者情報登録ファイルに記述し, そのファイルパスを指定します。必ず指定してください。管理者情報登録ファイルの詳細については, 「7.9 管理者情報登録ファイル」を参照してください。

戻り値

- Windows の場合

0 : 正常終了しました。

- 1 : 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか, または引数の指定方法に誤りがあります。

- 2 : 実行エラーです。メモリ不足など, コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。または, 管理者情報登録ファイルの記述内容が不正です。

- 3 : システム定義不正です。システム定義に不正があり, コマンド実行に必要な情報が取得できません。

- UNIX の場合

0 : 正常終了しました。

2 : 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか, または引数の指定方法

に誤りがあります。

3：実行エラーです。メモリ不足など、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。または、管理者情報登録ファイルの記述内容が不正です。

4：システム定義不正です。システム定義に不正があり、コマンド実行に必要な情報が取得できません。

注意事項

管理者情報登録コマンドで登録する情報は、常に上書きされます。そのため、新たにシステム管理者を登録する場合は、すべてのシステム管理者を登録し直す必要があります。管理者情報登録ファイルは、登録後も保管しておき、新たにシステム管理者を登録するときに備えてください。

実行例

管理者情報登録ファイル (userinfo.csv) の内容で管理者情報を登録する場合の実行例を、次に示します。

- Windows の場合

```
MSHRegisterUser -cf C:¥tmp¥userinfo.csv
```

- UNIX の場合

```
MSHRegisterUser -cf /tmp/userinfo.csv
```

MSHReleaseMessage (一時停止メッセージ解除)

形式

```
MSHReleaseMessage -m <メッセージングコンテキスト識別子>
```

機能

ビジネスメッセージの送受信時、または送信結果通知時に何らかの障害が発生した場合、uCosminexus Message Service for ebXML は、ビジネスメッセージを一時停止状態にする場合があります。障害に対処したあとビジネスメッセージの処理を再開させたい場合には、このコマンドで一時停止状態を解除し、タイマー回復コマンドを実行してください。

このコマンドを実行して出力されるメッセージは、共通トレースに出力されます。

オプション

-m <メッセージングコンテキスト識別子>

一時停止状態のビジネスメッセージのメッセージングコンテキスト識別子を指定します。必ず指定してください。

メッセージングコンテキスト識別子は、運用支援 GUI から参照できます。運用支援

9. コマンドリファレンス

GUIの詳細については、「5.5 運用支援 GUI でのビジネスメッセージの照会」を参照してください。

戻り値

- Windows の場合
 - 0: 正常終了です。
 - 1: 警告付きで正常終了しました。対象のビジネスメッセージがない、または一時停止状態ではありません。
 - 1: 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。
 - 2: 実行エラーです。メモリ不足など、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。
 - 3: システム定義不正です。システム定義に不正があり、コマンド実行に必要な情報が取得できません。
- UNIX の場合
 - 0: 正常終了です。
 - 1: 警告付きで正常終了しました。対象のビジネスメッセージがない、または一時停止状態ではありません。
 - 2: 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。
 - 3: 実行エラーです。メモリ不足など、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。
 - 4: システム定義不正です。システム定義に不正があり、コマンド実行に必要な情報が取得できません。

注意事項

一時停止状態になった場合は、必ず障害を取り除いたあとで、このコマンドを実行してください。障害を取り除かないで実行した場合は、ビジネスメッセージは再度一時停止状態になります。

実行例

メッセージングコンテキスト識別子

(009f90e3-000000fead8741e6-8008-00000000000000000000ffff0ad2191f) に対する一時停止状態のビジネスメッセージを解除する場合の実行例を、次に示します。

```
MSHReleaseMessage -m  
009f90e3-000000fead8741e6-8008-00000000000000000000ffff0ad2191f
```

MSHRemoveMessage (永続化メッセージ削除)

形式

```
MSHRemoveMessage [-m <メッセージングコンテキスト識別子>]
                  [-d <メッセージ交換定義識別子>]
                  [-f <開始時間>]
                  [-t <終了時間>]
                  [-c <コミットサイクル>]
```

機能

データベースサーバで管理している永続化メッセージを削除します。

削除対象となるのは、CLOSED 状態となっていて、かつ、永続期限を超過している永続化メッセージだけです。ただし、メッセージングコンテキスト識別子をオプションで指定すると、永続期限を超過していない CLOSED 状態の永続化メッセージを削除できます。

このコマンドを実行して出力されるメッセージは、共通トレースに出力されます。

オプション

オプションを指定していない場合は、送受信したすべての永続化メッセージのうち、CLOSED 状態となっていて、かつ、永続期限を超過しているものをすべて削除します。

-m <メッセージングコンテキスト識別子>

削除対象となる永続化メッセージのメッセージングコンテキスト識別子を指定します。メッセージングコンテキスト識別子を指定すると、永続期限を超過していなくても対象となる永続化メッセージを削除できます。ただし、指定された永続化メッセージが OPEN 状態の場合は削除できません。

メッセージングコンテキスト識別子は、運用支援 GUI から参照できます。運用支援 GUI の詳細については、「5.5 運用支援 GUI でのビジネスメッセージの照会」を参照してください。

-d <メッセージ交換定義識別子>

削除対象となる永続化メッセージのメッセージ交換定義識別子を指定します。指定された永続化メッセージの状態が CLOSED 状態となっていて、かつ、永続期限を超過している場合だけ削除できます。

-f <開始時間>

削除対象となる永続化メッセージの送信または受信処理完了日時を指定します。指定された日時以降に送信または受信したビジネスメッセージのうち、CLOSED 状態となっていて、かつ、永続期限を超過しているものだけを削除します。指定した時刻に送受信したビジネスメッセージも、削除対象に含まれます。

開始時間は、次の形式で指定します。

```
YYYY[MM[DD[HH[mm[SS]]]]]
```

YYYY : 年 (1970 ~ 2038)

MM : 月 (01 ~ 12)

9. コマンドリファレンス

DD : 日 (01 ~ 31)

HH : 時 (00 ~ 23)

mm : 分 (00 ~ 59)

SS : 秒 (00 ~ 59)

-t <終了時間>

削除対象となる永続化メッセージの送信または受信処理完了日時を指定します。指定された日時以前に送信または受信したビジネスメッセージのうち、CLOSED 状態となっていて、かつ、永続期限を超過しているものだけを削除します。

指定した時刻に送受信したビジネスメッセージも、削除対象に含まれます。

終了時間の指定形式は、開始時間の指定形式と同じです。

-c <コミットサイクル>

ビジネスメッセージをまとめて削除するサイクル (コミットサイクル) を、10 ~ 1000 の範囲で指定します。デフォルト値は 50 です。コミットサイクルに大きい値を指定すると、送受信したビジネスメッセージを早く削除できますが、データベース処理のためにメモリを消費します。

通常の運用では、デフォルト値のままにしておくことを推奨します。

戻り値

• Windows の場合

0 : 正常終了しました。コマンドとしての処理がすべて正常終了しました。

1 : 警告付きで正常終了しました。対象の永続化メッセージがありません。

- 1 : 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。

- 2 : 実行エラーです。メモリ不足など、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。

- 3 : システム定義不正です。システム定義に不正があり、コマンド実行に必要な情報が取得できません。

• UNIX の場合

0 : 正常終了しました。コマンドとしての処理がすべて正常終了しました。

1 : 警告付きで正常終了しました。対象の永続化メッセージがありません。

2 : 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。

3 : 実行エラーです。メモリ不足など、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。

4 : システム定義不正です。システム定義に不正があり、コマンド実行に必要な情報が取得できません。

注意事項

- オプションは、すべて AND 条件になります。例えば -m オプションおよび -f オプション、または -m オプションおよび -t オプションを同時に指定した場合で、-m オプションに指定した永続化メッセージが -f オプションまたは -t オプションで指定した日

時期間に該当しないときは、対象メッセージはないものとされます。

- `-m` オプションをほかのオプションと一緒に指定した場合、永続化メッセージは永続期限に関係なく削除されます。
- `-f` オプションと `-t` オプションは、片方だけ指定してもかまいません。`-f` オプションだけ指定した場合は、指定日時以降の削除対象の永続化メッセージすべて、`-t` オプションの場合は、指定日時以前の削除対象の永続化メッセージすべてが削除されます。

実行例

- すべての削除対象メッセージを削除する場合の実行例を、次に示します。

```
MSHRemoveMessage
```

- メッセージングコンテキスト識別子

(009f90e3-000000fead8741e6-8008-00000000000000000000ffff0ad2191f) の永続化メッセージを削除する場合の実行例を、次に示します。

```
MSHRemoveMessage -m
009f90e3-000000fead8741e6-8008-00000000000000000000ffff0ad2191f
```

- メッセージ交換定義識別子 (cpa001-partyA) で送受信完了日時が 2005/1/1 から 2005/1/7 に対するすべての削除対象メッセージを削除する場合の実行例を、次に示します。

```
MSHRemoveMessage -d cpa001-partyA -f 20050101 -t 20050107
```

MSHSendMessage (ビジネスメッセージ送信)

形式 1 (送信情報ファイルを指定しない場合)

```
MSHSendMessage    -md <メッセージ交換定義識別子>
                  -s <サービス名>
                  [-st <サービス名表記種別> ]
                  -a <アクション名>
                  [-ci <会話識別子> ]
                  [-mi <メッセージ識別子> ]
                  [-rm <参照メッセージ識別子> ]
                  [<ペイロードファイルの絶対パス> ]...
                  [<ペイロードの格納先ディレクトリの絶対パス> ]...
```

形式 2 (送信情報ファイルを指定する場合)

```
MSHSendMessage    -cf <送信情報ファイルの絶対パス>
                  [-md <メッセージ交換定義識別子> ]
                  [-s <サービス名> ]
                  [-st <サービス名表記種別> ]
                  [-a <アクション名> ]
                  [-ci <会話識別子> ]
                  [-mi <メッセージ識別子> ]
                  [-rm <参照メッセージ識別子> ]
                  [<ペイロードファイルの絶対パス> ]...
                  [<ペイロードファイルの格納先ディレクトリの絶対パス> ]...
```

機能

ビジネスメッセージを送信します。ビジネスメッセージ送信コマンドを実行するために、次の方法があります。

- 送信情報ファイルを指定しない方法
ビジネスメッセージ送信に必要な情報を、直接引数として指定する方法です。
- 送信情報ファイルを指定する方法
ビジネスメッセージ送信に必要な情報を送信情報ファイルに記述し、送信情報ファイルの絶対パスを指定する方法です。

このコマンドを実行して出力されるメッセージは、共通トレースに出力されます。

オプション

-cf <送信情報ファイルの絶対パス>

送信情報ファイルの絶対パスを指定します。ビジネスメッセージ送信コマンドは、送信情報ファイルに記述された内容で送信します。ただし、コマンドオプションの引数を指定した場合は、オプションの引数で指定した値が優先されます。指定した送信情報ファイルが存在しない場合、または送信情報ファイルの内容に不正がある場合は、エラーとなります。送信情報ファイルを使用する場合は、必ず指定してください。

-md <メッセージ交換定義識別子>

メッセージ交換定義識別子を 127 バイト以内の文字列で指定します。バイト数が不正の場合は、送信時にエラーとなります。送信情報ファイルを指定しない場合は、必ず指定してください。

-s <サービス名>

CPA ファイルに記載した送信対象のサービス名を 255 バイト以内の文字列で指定します。バイト数が不正の場合は、送信時にエラーとなります。送信情報ファイルを指定しない場合は、必ず指定してください。

-st <サービス名表記種別>

CPA に記載した送信対象のサービス名表記種別を 255 バイト以内の文字列で指定します。バイト数が不正の場合は、送信時にエラーとなります。

-a <アクション名>

CPA ファイルに記載した送信対象のアクション名を 255 バイト以内の文字列で指定します。バイト数が不正の場合は、送信時にエラーとなります。送信情報ファイルを指定しない場合は、必ず指定してください。

-ci <会話識別子>

業務アプリケーション側で ebXML の会話管理をする場合、その会話を一意に識別する識別子を 255 バイト以内の文字列で指定します。指定している場合でバイト数が不正の場合は、送信時にエラーとなります。会話管理を行わない場合は指定不要

です。指定がない場合は、uCosminexus Message Service for ebXML が自動的に採番します。

`-mi` <メッセージ識別子>

業務アプリケーション側でビジネスメッセージに対して識別子を割り当てたい場合に 255 バイト以内の文字列を指定します。バイト数が不正の場合は、送信時にエラーとなります。指定がない場合は、uCosminexus Message Service for ebXML が自動的に採番します。

`-rm` <参照メッセージ識別子>

送信メッセージを、ある送信メッセージと関連づけたい場合など、業務アプリケーション側の運用で必要な場合だけ指定します。255 バイト以内の文字列で指定します。指定している場合でバイト数が不正の場合は、送信時にエラーとなります。指定がない場合、参照メッセージ識別子は付与されません。

<ペイロードファイルの絶対パス> ... <ペイロードファイルの格納先ディレクトリの絶対パス> ...

ビジネスメッセージに添付するペイロードのファイル名、またはペイロードの格納先ディレクトリ名を指定します。コマンドの引数の最後に、送信するペイロードファイルの絶対パス、ペイロードファイルの格納先ディレクトリの絶対パス、またはその両方を指定します。ディレクトリ指定の場合は、ディレクトリ下のすべてのペイロードファイルが送信対象となります。

ファイル名およびディレクトリ名を一つも指定しない場合、ペイロードの指定がないものとみなし、ヘッダ情報だけのビジネスメッセージを送信します。

ペイロードのファイル名または格納先ディレクトリを直接指定する場合、「9.1.2 コマンドの記述形式に関する注意事項」で示す規則のほかに、次の規則にも従って記述します。

- 送信するペイロードファイル名は、63 バイト以内で指定します。
- 指定したファイルパスまたはディレクトリパスがない場合は、エラーとなります。複数指定した場合、一つでもファイルまたはディレクトリがないとエラーとなります。
- 送信するファイルの合計バイト数が 0 バイトの場合は、エラーとなります。複数のファイルを指定した場合で 0 バイトのファイルがあるときは、0 バイトのファイル以外は正常に送信されます。
- 指定した格納先ディレクトリにファイルがない場合、エラーで終了します。ディレクトリ内の下位ディレクトリにあるファイルは無視します。ただし、ほかのオプション指定をしている場合、対象の送信するペイロードだけを送信します。
- 指定するファイルの数および合計ファイルサイズは、MSH 実行環境定義ファイル (PERSIST コンテナの PAYLOAD_MAX_NUM キーおよび PAYLOAD_MAX_SIZE キー) で上限値を設定します。上限を超える数および合計サイズのファイルを指定した場合は、エラーとなります。

戻り値

- Windows の場合
 - 0 : 正常終了しました。コマンドとしての処理がすべて正常終了しました。
 - 1 : 警告付きで正常終了しました。直接指定したペイロードファイルに、0 バイトのファイルまたは空のディレクトリが含まれています。
 - 1 : 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。
 - 2 : 実行エラーです。ビジネスメッセージの送信処理でエラーが発生しました。
 - 3 : システム定義不正です。システム定義に不正があり、コマンド実行に必要な情報が取得できません。
- UNIX の場合
 - 0 : 正常終了しました。コマンドとしての処理がすべて正常終了しました。
 - 1 : 警告付きで正常終了しました。直接指定したペイロードファイルに、0 バイトのファイルまたは空のディレクトリが含まれています。
 - 2 : 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。
 - 3 : 実行エラーです。ビジネスメッセージの送信処理でエラーが発生しました。
 - 4 : システム定義不正です。システム定義に不正があり、コマンド実行に必要な情報が取得できません。

注意事項

指定するビジネスメッセージ送信に必要な情報に、アスタリスク (*) や山括弧 (<, >) など OS のコマンドラインでワイルドカードやリダイレクトなどに指定する記号を含めるときは、送信情報ファイルを指定することを推奨します。

実行例

- Windows の場合
 - 送信情報ファイル (sendinfo.xml) を指定して、C:¥tmp¥SEND ディレクトリ下のすべてのファイルをペイロードとして送信する場合の実行例を、次に示します。

```
MSHSendMessage -cf C:¥tmp¥sendinfo.xml C:¥tmp¥SEND
```
 - メッセージ交換定義識別子 (cpa001-partyA)、サービス名 (Service1)、アクション名 (Action1) の指定で C:¥tmp ディレクトリ下の FileA と FileB を送信する場合の実行例を、次に示します。

```
MSHSendMessage -md cpa001-partyA -s Service1 -a Action1  
C:¥tmp¥FileA C:¥tmp¥FileB
```
- UNIX の場合
 - 送信情報ファイル (sendinfo.xml) を指定して、/tmp/SEND ディレクトリ下のすべてのファイルをペイロードとして送信場合の実行例を、次に示します。

```
MSHSendMessage -cf /tmp/sendinfo.xml /tmp/SEND
```
 - メッセージ交換定義識別子 (cpa001-partyA)、サービス名 (Service1)、アクション名 (Action1) の指定で /tmp ディレクトリ下の FileA と FileB を送信場合の実行例

を、次に示します。

```
MSHSendMessage -md cpa001-partyA -s Service1 -a Action1 /tmp/
FileA /tmp/FileB
```

MSHTerminateMessage (ビジネスメッセージ強制終了)

形式

```
MSHTerminateMessage [ -f ]
                    -m <メッセージングコンテキスト識別子>
```

機能

OPEN 状態の送信メッセージおよび受信メッセージを、強制的に CLOSED 状態とします。ビジネスメッセージに関連するタイマー情報も、同時に CLOSED 状態にします。

このコマンドを実行して出力されるメッセージは、共通トレースに出力されます。ただし、このコマンドを実行してエラーが発生した場合、エラー内容によっては共通トレースでなく MSH 実行環境トレースに出力されます。

オプション

-f

uCosminexus Message Service for ebXML にアクセスしないで、ビジネスメッセージを強制終了します。uCosminexus Message Service for ebXML の停止中にビジネスメッセージを強制終了させたいときは、このオプションを指定してください。uCosminexus Message Service for ebXML が起動中にこのオプションを指定すると、内部の状態と矛盾が生じるおそれがあるため、指定しないでください。なお、-f オプションを指定しないでこのコマンドを実行した場合、uCosminexus Message Service for ebXML にアクセスしてからコマンド処理をします。したがって、-f オプションを指定する場合と指定しない場合とでは、同じエラーの事象に対して出力されるメッセージ内容が異なることがあります。

-m <メッセージングコンテキスト識別子>

強制終了するビジネスメッセージのメッセージングコンテキスト識別子を指定します。必ず指定してください。

戻り値

- Windows の場合

0：正常終了しました。

1：警告付きで正常終了しました。対象のビジネスメッセージがないか、またはビジネスメッセージがすでに CLOSED 状態です。

- 1：引数エラーです。コマンド実行時に指定した引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。

9. コマンドリファレンス

- 2: 実行エラーです。メモリ不足など、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。
- 3: システム定義不正です。システム定義に不正があり、コマンド実行に必要な情報を取得できません。

- UNIX の場合

- 0: 正常終了しました。
- 1: 警告付きで正常終了しました。対象のビジネスメッセージがないか、またはビジネスメッセージがすでに CLOSED 状態です。
- 2: 引数エラーです。コマンド実行時に指定した引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。
- 3: 実行エラーです。メモリ不足など、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。
- 4: システム定義不正です。システム定義に不正があり、コマンド実行に必要な情報を取得できません。

注意事項

このコマンドは、通常は使用しません。障害が発生してビジネスメッセージの状態を変えなければならない場合に使用してください。

実行例

メッセージングコンテキスト識別子

(009f90e3-000000fead8741e6-8008-00000000000000000000ffff0ad2191f) に対するビジネスメッセージを、強制的に CLOSED 状態にする場合の実行例を、次に示します。

```
MSHTerminateMessage -m  
009f90e3-000000fead8741e6-8008-00000000000000000000ffff0ad2191f
```

MSHTimerKill (タイマー停止)

形式

```
MSHTimerKill
```

機能

タイマーを停止します。uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを停止させるときに使用します。

オプション

なし

戻り値

0 : 正常終了しました。

0 以外 : エラーが発生しました。

実行例

```
MSHTimerKill
```

MSHTimerRecovery (タイマー回復)

形式

```
MSHTimerRecovery
```

機能

タイマーが起動した状態で、タイマー監視処理を再起動させます。メッセージの対処でこのコマンドの実行が必要と記されている場合、および一時停止状態のビジネスメッセージを再開させる場合に、使用してください。

一時停止状態のビジネスメッセージを再開させる場合、このコマンドを実行する前に一時停止メッセージ解除コマンドを実行してください。

オプション

なし

戻り値

0 : 正常終了しました。

0 以外 : エラーが発生しました。

実行例

```
MSHTimerRecovery
```

MSHTimerStart (タイマー起動)

形式

- Windows の場合

```
MSHTimerStart
```

- UNIX の場合

```
MSHTimerStart -send | -notifyap
```

機能

タイマーを起動します。uCosminexus Message Service for ebXML システムを起動させるときに使用します。

UNIX の場合、送信タイマー起動後 1 分以内に AP 通知タイマーが起動されないと、uCosminexus Message Service for ebXML システムの起動に失敗します。

オプション

-send

送信タイマーを起動します (UNIX だけで使用できるオプションです)。

-notifyap

AP 通知タイマーを起動します (UNIX だけで使用できるオプションです)。

戻り値

0 : 正常終了しました。

0 以外 : エラーが発生しました。

実行例

```
MSHTimerStart
```

RMIRegistryStart (RMI レジストリ起動)

形式

```
RMIRegistryStart [ <ポート番号> ]
```

機能

Java の RMI レジストリを起動します。uCosminexus Message Service for ebXML のシステムを起動させるときに使用します。

オプション

<ポート番号>

RMI サーバのデフォルトポートがすでに使用されている場合に、ユーザーが設定したポート番号を指定してください。指定しない場合のデフォルト値は 1099 です。

MSH 実行環境定義ファイル (END_POINT コンテナの TIMER_SEND キーおよび TIMER_NOTIFY_AP キー) にデフォルトポート番号以外を指定した場合、このコマンドのオプションでも、ポート番号を指定してください。MSH 実行環境定義ファイルの詳細については、「7.4 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)」を参照してください。

戻り値

0 : 正常終了しました。

0 以外 : エラーが発生しました。

実行例

ポート番号 3185 で RMI レジストリを起動する場合の実行例を、次に示します。

```
RMIRegistryStart 3185
```

StubDownload (EJB スタブダウンロード)

形式

```
StubDownload
```

機能

uCosminexus Message Service for ebXML が使用する J2EE 用のスタブファイルを、uCosminexus Application Server からダウンロードします。

オプション

なし

戻り値

0 : 正常終了しました。

0 以外 : エラーが発生しました。

注意事項

EJB スタブファイルのダウンロードは、uCosminexus Application Server の J2EE サーバを起動し、J2EE アプリケーションをデプロイしてから行ってください。J2EE アプリケーションのデプロイの詳細については、「3.6.7 J2EE アプリケーションのデプロイ」を参照してください。

実行例

```
StubDownload
```

9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド

uCosminexus Message Service for ebXML のシステムにセキュリティ通信を適用した環境を構築・運用するために使用するコマンドについて説明します。

MSHConvertCert (証明書形式変換 (KeyStore))

形式

```
MSHConvertCert -k KeyStoreファイル名
                -p KeyStoreファイルアクセスパスワード
                [-n 証明書名称 [認証局証明書名称]...]
                -o 出力先ファイル名
```

機能

KeyStore ファイルに格納されているクライアント証明書または XML 電子署名用証明書を、XMLDSig 形式に変換します。

オプション

- k KeyStore ファイル名
KeyStore ファイル名をフルパスで指定します。必ず指定してください。
- p KeyStore ファイルアクセスパスワード
KeyStore ファイルにアクセスするためのパスワードを指定します。必ず指定してください。
- n 証明書名称 認証局証明書名称
KeyStore ファイル内の証明書の名称を指定します。XMLDSig 形式に変換する証明書の名称を、証明書チェーンを構成するクライアント証明書からルート認証局証明書の順に指定します。このパラメタを省略した場合は、証明書の名称として "clcert cacert" が使用されます。
- o 出力先ファイル名
XMLDSig 形式に変換した証明書の出力先ファイル名をフルパスで指定します。必ず指定してください。

戻り値

- Windows の場合
 - 0 : 正常終了しました。証明書が正常に XMLDSig 形式に変換されました。
 - 1 : 警告付きで正常終了しました。
 - 1 : 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。

- 2: 実行エラーです。コマンド実行時に継続できないエラーが発生しました。
- UNIX の場合
 - 0: 正常終了しました。証明書が正常に XMLDSig 形式に変換されました。
 - 1: 警告付きで正常終了しました。
 - 2: 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。
 - 3: 実行エラーです。コマンド実行時に継続できないエラーが発生しました。

実行例

クライアント証明書、および認証局証明書の形式を変換する場合のコマンド実行例を、次に示します。

- KeyStore ファイルが管理するクライアント証明書を XMLDSig 形式に変換
 - Windows の場合


```
MSHConvertCert -k
"C:¥Program Files¥Hitachi¥ebxml¥msh¥keypairs¥sslclcert.ks" -p
changeit -n clcert cacert -o C:¥Temp¥clcert.xml
```
 - UNIX の場合


```
MSHConvertCert -k
/opt/ebxml/msh/keypairs/sslclcert.ks -p changeit -n clcert
cacert -o /tmp/clcert.xml
```
- KeyStore ファイルが管理する認証局証明書を XMLDSig 形式に変換
 - Windows の場合


```
MSHConvertCert -k
"C:¥Program Files¥Hitachi¥ebxml¥msh¥keypairs¥sslclcert.ks" -p
changeit -n cacert -o C:¥Temp¥cacert.xml
```
 - UNIX の場合


```
MSHConvertCert -k
/opt/ebxml/msh/keypairs/sslclcert.ks -p changeit -n cacert -o /
tmp/cacert.xml
```

MSHConvertCertFile (証明書形式変換 (X.509 証明書))

形式

```
MSHConvertCertFile -c 証明書ファイル名 [ 証明書ファイル名 ]...
-o 出力先ファイル名
```

機能

uCosminexus Message Service for ebXML の KeyStore ファイルで管理されていない、

9. コマンドリファレンス

X.509 形式で記述されている証明書を、XMLDSig 形式に変換します。

オプション

-c 証明書ファイル名

XMLDSig 形式に変換する証明書が格納されているファイル名を、フルパスで指定します。証明書ファイルは、証明書チェーンを構成するサーバ証明書またはクライアント証明書からルート認証局証明書の順に指定します。必ず指定してください。

-o 出力先ファイル名

XMLDSig 形式に変換した証明書の出力先ファイル名を、フルパスで指定します。必ず指定してください。

戻り値

• Windows の場合

0：正常終了しました。証明書が、正常に XMLDSig 形式に変換されました。

1：警告付きで正常終了しました。

- 1：引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。

- 2：実行エラーです。コマンド実行時に継続できないエラーが発生しました。

• UNIX の場合

0：正常終了しました。証明書が、正常に XMLDSig 形式に変換されました。

1：警告付きで正常終了しました。

2：引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。

3：実行エラーです。コマンド実行時に継続できないエラーが発生しました。

注意事項

証明書の記述形式は、最初の行が「-----BEGIN CERTIFICATE-----」で、最後の行が「-----END CERTIFICATE-----」である必要があります。

余分な行が挿入されているなど、正しい記述形式でない場合は、このコマンドを実行する前に証明書ファイルの中身を編集して正しい記述形式にしてください。

実行例

サーバ証明書、および認証局証明書の形式を変換する場合のコマンド実行例を、次に示します。

• サーバ証明書を XMLDSig 形式に変換

• Windows の場合

```
MSHConvertCertFile -c C:¥Temp¥svcert.pem C:¥Temp¥cacert.pem -o  
C:¥Temp¥svcert.xml
```

• UNIX の場合

```
MSHConvertCertFile -c /tmp/svcert.pem /tmp/cacert.pem -o /tmp/
svcert.xml
```

- 認証局証明書を XMLDSig 形式に変換

- Windows の場合

```
MSHConvertCertFile -c C:¥Temp¥cacert.pem -o C:¥Temp¥svcert.xml
```

- UNIX の場合

```
MSHConvertCertFile -c /tmp/cacert.pem -o /tmp/svcert.xml
```

MSHCreateCert (証明書発行)

形式

```
MSHCreateCert -k KeyStoreファイル名
               -p KeyStoreファイルアクセスパスワード
               [-s {512 | 1024 | 2048} ]
               [-n 証明書名称 ]
```

機能

暗号化通信 (SSL クライアント認証) または XML 電子署名で使用する証明書・秘密鍵を生成します。このコマンドを実行して生成される証明書の形式を、次に示します。

表 9-2 クライアント証明書・XML 電子署名用証明書の形式

項番	項目	設定される値
1	証明書形式バージョン	1
2	署名アルゴリズム	md5RSA
3	有効期限の開始	コマンド実行日時
4	有効期限の終了	コマンド実行日から 365 日後
5	鍵アルゴリズム	RSA
6	鍵サイズ	コマンド実行時に -s オプションで指定した値

オプション

- k KeyStore ファイル名

KeyStore ファイル名をフルパスで指定します。必ず指定してください。

- p KeyStore ファイルアクセスパスワード

KeyStore ファイルにアクセスするためのパスワードを指定します。必ず指定してください。

KeyStore ファイルアクセスパスワードは、6 文字以上の英数字で指定します。

9. コマンドリファレンス

-s {512 | 1024 | 2048}

鍵のサイズを指定します。指定できる値は、512・1024・2048 です。このパラメータを省略した場合は、鍵サイズとして 1024 が使用されます。

-n 証明書名称

KeyStore ファイル内の証明書の名称を指定します。単一の KeyStore ファイルを使用して複数の証明書を管理する場合、個々の証明書を識別するために証明書の名称を指定します。このパラメータを省略した場合は、証明書の名称として "clcert" が使用されます。

戻り値

- Windows の場合
 - 0：正常終了しました。証明書および秘密鍵が正常に作成されました。
 - 1：警告付きで正常終了しました。
 - 1：引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。
 - 2：実行エラーです。コマンド実行時に、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。
- UNIX の場合
 - 0：正常終了しました。証明書および秘密鍵が正常に作成されました。
 - 1：警告付きで正常終了しました。
 - 2：引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。
 - 3：実行エラーです。コマンド実行時に、コマンド処理を継続できないエラーが発生しました。

注意事項

- 証明書発行コマンドでは、SSL サーバ証明書を発行することはできません。SSL サーバ証明書を発行する場合は、Hitachi Web Server が提供するコマンドを使用してください。
- 証明書の記述形式は、最初の行が「-----BEGIN CERTIFICATE-----」で、最後の行が「-----END CERTIFICATE-----」である必要があります。余分な行が挿入されているなど、正しい記述形式でない場合は、このコマンドを実行する前に証明書ファイルの中身を編集して正しい記述形式にしてください。
- 同じ名称を持つ証明書を一つの KeyStore ファイル上に作成することはできません。
- -n オプションで指定した証明書の名称がすでに KeyStore ファイルにある場合、エラー (java.lang.Exception)「鍵ペアは生成されませんでした。別名 <clcert> はすでに存在します。」が通知されます。この場合、KeyStore ファイル内の該当証明書を削除するか、または -n オプションで指定する証明書の名称を変更してください。
- コマンドの実行時に、サブジェクト名の入力が必要です。発行する証明書のサブジェクト名を入力してください。入力項目を、次に示します。

表 9-3 証明書発行コマンド実行後に入力するサブジェクト名

項番	項目	サーバ証明書に記述したサブジェクト名との対応
1	姓名	CN
2	組織単位名	OU
3	組織名	O
4	都市名または地域名	L
5	州名または地方名	ST
6	2文字の国番号	C

実行例

クライアント証明書 (keypairs¥sslclcert.ks) を作成する場合のコマンド実行例を、次に示します。

- Windows の場合

```
MSHCreateCert -k
"C:¥Program Files¥Hitachi¥ebxml¥msh¥keypairs¥sslclcert.ks" -p
changeit
```

- UNIX の場合

```
MSHCreateCert -k
/opt/ebxml/msh/keypairs/sslclcert.ks -p changeit
```

MSHCreateCertReq (証明書要求作成)

形式

```
MSHCreateCertReq -k KeyStoreファイル名
                  -p KeyStoreファイルアクセスパスワード
                  -r 証明書要求格納ファイル名
                  [ -n 証明書名称 ]
```

機能

証明書発行コマンドによって発行された証明書を認証局で署名するための、証明書要求を作成します。

オプション

-k KeyStore ファイル名

KeyStore ファイル名をフルパスで指定します。必ず指定してください。

-p KeyStore ファイルアクセスパスワード

KeyStore ファイルにアクセスするためのパスワードを指定します。必ず指定してく

9. コマンドリファレンス

ださい。

-r 証明書要求格納ファイル名

証明書要求を格納するファイル名をフルパスで指定します。必ず指定してください。

-n 証明書名称

KeyStore ファイル内の証明書の名称を指定します。単一の KeyStore ファイルを使用して複数の証明書を管理する場合、個々の証明書を識別するために証明書の名称を指定します。このパラメータを省略した場合は、証明書の名称として "clcert" が使用されます。

戻り値

• Windows の場合

0：正常終了しました。証明書要求が正常に作成されました。

1：警告付きで正常終了しました。

- 1：引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。

- 2：実行エラーです。コマンド実行時に継続できないエラーが発生しました。

• UNIX の場合

0：正常終了しました。証明書要求が正常に作成されました。

1：警告付きで正常終了しました。

2：引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。

3：実行エラーです。コマンド実行時に継続できないエラーが発生しました。

実行例

KeyStore ファイルが管理するクライアント証明書の証明書発行要求を作成する場合のコマンド実行例を、次に示します。

• Windows の場合

```
MSHCreateCertReq -k  
"C:\Program Files\Hitachi\ebxml\msh\keypairs\sslclcert.ks" -p  
changeit -r C:\Temp\sslclcertreq.pem
```

• UNIX の場合

```
MSHCreateCertReq -k  
/opt/ebxml/msh/keypairs/sslclcert.ks -p changeit -r /tmp/  
sslclcertreq.pem
```

MSHDeleteCert (証明書削除)

形式

```
MSHDeleteCert -k KeyStoreファイル名
               -p KeyStoreファイルアクセスパスワード
               -n 証明書名称
```

機能

uCosminexus Message Service for ebXML の KeyStore ファイルで管理されている証明書を削除します。

オプション

-k KeyStore ファイル名

KeyStore ファイル名をフルパスで指定します。必ず指定してください。

-p KeyStore ファイルアクセスパスワード

KeyStore ファイルにアクセスするためのパスワードを指定します。必ず指定してください。

-n 証明書名称

KeyStore ファイル内の証明書の名称を指定します。必ず指定してください。

戻り値

- Windows の場合

0：正常終了しました。KeyStore ファイルから証明書が正常に削除されました。

1：警告付きで正常終了しました。

- 1：引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。

- 2：実行エラーです。コマンド実行時に継続できないエラーが発生しました。

- UNIX の場合

0：正常終了しました。KeyStore ファイルから証明書が正常に削除されました。

1：警告付きで正常終了しました。

2：引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。

3：実行エラーです。コマンド実行時に継続できないエラーが発生しました。

注意事項

クライアント証明書のチェーンを構成する認証局証明書を削除するなど、完全な証明書チェーンを構成できなくなるような状態を発生させないでください。

実行例

KeyStore ファイルにあるクライアント証明書を削除する場合のコマンド実行例を、次に示します。

- Windows の場合

9. コマンドリファレンス

```
MSHDeleteCert -k  
"C:¥Program Files¥Hitachi¥ebxml¥msh¥keypairs¥sslclcert.ks" -p  
changeit -n clcert
```

- UNIX の場合

```
MSHDeleteCert -k  
/opt/ebxml/msh/keypairs/sslclcert.ks -p changeit -n clcert
```

MSHImportCACert (認証局証明書登録)

形式

```
MSHImportCACert -k KeyStoreファイル名  
                 -p KeyStoreファイルアクセスパスワード  
                 -c 認証局証明書ファイル名  
                 [ -n 証明書名称 ]
```

機能

認証局証明書を、uCosminexus Message Service for ebXML の KeyStore ファイルに登録します。認証局によって署名された証明書を KeyStore ファイルに登録する前に、認証局証明書を KeyStore ファイルに登録してください。

オプション

- k KeyStore ファイル名
KeyStore ファイル名をフルパスで指定します。必ず指定してください。
- p KeyStore ファイルアクセスパスワード
KeyStore ファイルにアクセスするためのパスワードを指定します。必ず指定してください。
- c 認証局証明書ファイル名
認証局証明書が格納されているファイル名をフルパスで指定します。必ず指定してください。
- n 証明書名称
KeyStore ファイル内の証明書の名称を指定します。複数の認証局証明書を同一の KeyStore ファイルに格納する場合は、個々の認証局証明書を識別するためにこのオプションで証明書名称を指定してください。
このパラメタを省略した場合は、証明書の名称として "cacert" が使用されます。

戻り値

- Windows の場合
0 : 正常終了しました。認証局証明書が KeyStore ファイルに正常に登録されました。

- 1: 警告付きで正常終了しました。
 - 1: 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。
 - 2: 実行エラーです。コマンド実行時に継続できないエラーが発生しました。
- UNIX の場合
 - 0: 正常終了しました。認証局証明書が KeyStore ファイルに正常に登録されました。
 - 1: 警告付きで正常終了しました。
 - 2: 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。
 - 3: 実行エラーです。コマンド実行時に継続できないエラーが発生しました。

注意事項

- 証明書の記述形式は、最初の行が「-----BEGIN CERTIFICATE-----」で、最後の行が「-----END CERTIFICATE-----」である必要があります。
余分な行が挿入されているなど、正しい記述形式でない場合は、このコマンドを実行する前に証明書ファイルの中身を編集して正しい記述形式にしてください。
- 認証局が中間認証局を持つ場合、認証パスを構成するすべての認証局証明書を登録する必要があります。

実行例

認証局証明書を KeyStore ファイルに登録する場合のコマンド実行例を、次に示します。

- Windows の場合


```
MSHImportCACert -k
"C:\Program Files\Hitachi\ebxml\msh\keypairs\sslclcert.ks" -p
changeit -c C:\Temp\cacert.pem
```
- UNIX の場合


```
MSHImportCACert -k
/opt/ebxml/msh/keypairs/sslclcert.ks -p changeit -c /tmp/
cacert.pem
```

MSHImportCert (証明書登録)

形式

```
MSHImportCert -k KeyStoreファイル名
                -p KeyStoreファイルアクセスパスワード
                -c 証明書ファイル名
                [-n 証明書名称]
```

機能

認証局によって署名された証明書を、KeyStore ファイルに登録します。

オプション

-k KeyStore ファイル名

KeyStore ファイル名をフルパスで指定します。必ず指定してください。

-p KeyStore ファイルアクセスパスワード

KeyStore ファイルにアクセスするためのパスワードを指定します。必ず指定してください。

-c 証明書ファイル名

認証局によって署名された証明書が格納されているファイル名を指定します。証明書を追加する場合は、追加する証明書のファイル名をこのオプションで指定してください。必ず指定してください。

-n 証明書名称

KeyStore ファイル内の証明書の名称を指定します。証明書作成時に指定した鍵の名称を指定します。このパラメタを省略した場合は、証明書の名称として "clcert" が使用されます。

戻り値

- Windows の場合

0 : 正常終了しました。認証局で署名された証明書が KeyStore ファイルに正常に登録されました。

1 : 警告付きで正常終了しました。

- 1 : 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。

- 2 : 実行エラーです。コマンド実行時に継続できないエラーが発生しました。

- UNIX の場合

0 : 正常終了しました。認証局で署名された証明書が KeyStore ファイルに正常に登録されました。

1 : 警告付きで正常終了しました。

2 : 引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。

3 : 実行エラーです。コマンド実行時に継続できないエラーが発生しました。

注意事項

- 認証局で署名された証明書を登録する場合は、事前に KeyStore ファイルに対して認証局証明書を登録しておく必要があります。認証局証明書が KeyStore ファイルに登録されていない場合、エラー (java.lang.Exception) 「応答から連鎖を確立できませんでした。」が通知されます。

認証局証明書を登録するには、認証局証明書登録コマンドを実行します。認証局証明書登録コマンドの詳細については、「9.4 セキュリティ環境構築・運用コマンド」の MSHImportCACert を参照してください。

- 証明書がすでに登録されている場合、エラー (java.lang.Exception) 「証明書応答とキーストア内の証明書が同じです。」が通知されます。
- 証明書の記述形式は、最初の行が「-----BEGIN CERTIFICATE-----」で、最後の行が「-----END CERTIFICATE-----」である必要があります。
余分な行が挿入されているなど、正しい記述形式でない場合は、このコマンドを実行する前に証明書ファイルの中身を編集して正しい記述形式にしてください。

実行例

認証局で署名されたクライアント証明書を登録する場合のコマンド実行例を、次に示します。

- Windows の場合

```
MSHImportCert -k
"C:\Program Files\Hitachi\ebxml\msh\keypairs\sslclcert.ks" -p
changeit -c C:\Temp\sslclcertreq.pem
```

- UNIX の場合

```
MSHImportCert -k
/opt/ebxml/msh/keypairs/sslclcert.ks -p changeit -c /tmp/
sslclcertreq.pem
```

MSHListCert (証明書一覧表示)

形式

```
MSHListCert -k KeyStoreファイル名
-p KeyStoreファイルアクセスパスワード
```

機能

KeyStore ファイルで管理されている証明書の一覧を表示します。証明書一覧表示コマンドを実行した場合に出力される証明書の情報を、次に示します。

表 9-4 証明書一覧表示コマンド実行時に出力される証明書の情報

項番	情報の種類	出力項目	出力内容
1	KeyStore ファイルの情報	キーストアのタイプ	KeyStore の形式 "jks" が表示されます。
2		キーストアのプロバイダ	KeyStore ファイルのプロバイダ "SUN" が表示されます。
3		エントリ数	KeyStore ファイルに格納されている証明書の数が表示されます。
4	証明書の情報	別名	証明書作成時や証明書登録時に指定した、証明書の名称を表示します。

9. コマンドリファレンス

項番	情報の種類	出力項目	出力内容
5		作成日	証明書が作成された日付を表示します。
6		エントリのタイプ	証明書の種別を表示します。 <ul style="list-style-type: none">• trustedCertEntry 認証局証明書です。• keyEntry クライアント証明書です。
7		証明連鎖の長さ	証明書チェーンの長さを表示します。長さが2以上の場合は、クライアント証明書および認証局証明書が証明書情報として出力されます。
8		所有者	証明書のサブジェクト名を表示します。
9		実行者	証明書を発行した認証局の名称を表示します。
10		シリアル番号	認証局によって割り振られたシリアル番号を表示します。
11		有効日	証明書の有効期間が始まる日時を表示します。
12		有効期限	証明書の有効期間が終了する日時を表示します。
13		証明書のフィンガープリント	証明書のフィンガープリント（ハッシュ値）を表示します。

オプション

-k KeyStore ファイル名

KeyStore ファイル名をフルパスで指定します。必ず指定してください。

-p KeyStore ファイルアクセスパスワード

KeyStore ファイルにアクセスするためのパスワードを指定します。必ず指定してください。

戻り値

• Windows の場合

0：正常終了しました。証明書の一覧が正常に表示されました。

1：警告付きで正常終了しました。

- 1：引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法に誤りがあります。

- 2：実行エラーです。コマンド実行時に継続できないエラーが発生しました。

• UNIX の場合

0：正常終了しました。証明書の一覧が正常に表示されました。

1：警告付きで正常終了しました。

2：引数エラーです。コマンド実行時の引数に過不足があるか、または引数の指定方法

に誤りがあります。

3: 実行エラーです。コマンド実行時に継続できないエラーが発生しました。

実行例

KeyStore ファイルが管理する証明書の一覧を表示させる場合のコマンド実行例を、次に示します。

- Windows の場合

```
MSHListCert -k  
"C:\Program Files\Hitachi\ebxml\msh\keypairs\sslclcert.ks" -p  
changeit
```

- UNIX の場合

```
MSHListCert -k  
/opt/ebxml/msh/keypairs/sslclcert.ks -p changeit
```

証明書一覧表示コマンドを実行した場合に出力されるファイルの例を、次に示します。

9. コマンドリファレンス

キーストアのタイプ: jks
キーストアのプロバイダ: SUN

キーストアには 2 エントリが含まれます。

別名: cacert
作成日: 2004/10/25
エントリのタイプ: trustedCertEntry

所有者: CN=test CA, OU=ebXML, O=Hitachi, L=Yokohama-shi, ST=Kanagawa, C=JP
実行者: CN=test CA, OU=ebXML, O=Hitachi, L=Yokohama-shi, ST=Kanagawa, C=JP
シリアル番号: 0

有効日: Mon Oct 25 15:22:58 JST 2004 有効期限: Tue Oct 25 15:22:58 JST 2005

証明書のフィンガープリント:

MD5: B6:9A:1E:8C:70:FD:D8:8F:BB:76:D1:C9:C5:06:25:C2
SHA1: 91:4B:42:67:2B:A3:DC:6A:13:20:4E:DE:C4:D7:63:78:ED:38:27:70

別名: clcert
作成日: 2004/10/25
エントリのタイプ: keyEntry

証明連鎖の長さ: 2

証明書[1]:

所有者: CN=msh.hitachi.co.jp, OU=ebXML, O=Hitachi, L=Yokohama-shi, ST=Kanagawa, C=JP

実行者: CN=test CA, OU=ebXML, O=Hitachi, L=Yokohama-shi, ST=Kanagawa, C=JP
シリアル番号: 1

有効日: Mon Oct 25 15:26:03 JST 2004 有効期限: Tue Oct 25 15:26:03 JST 2005

証明書のフィンガープリント:

MD5: 29:27:F6:72:8F:91:F1:90:D7:E5:6D:17:5B:C8:59:DB
SHA1: 98:7C:A0:1E:4E:54:21:AE:0C:CA:59:37:E7:68:9B:D6:53:D8:D5:74

証明書[2]:

所有者: CN=test CA, OU=ebXML, O=Hitachi, L=Yokohama-shi, ST=Kanagawa, C=JP
実行者: CN=test CA, OU=ebXML, O=Hitachi, L=Yokohama-shi, ST=Kanagawa, C=JP
シリアル番号: 0

有効日: Mon Oct 25 15:22:58 JST 2004 有効期限: Tue Oct 25 15:22:58 JST 2005

証明書のフィンガープリント:

MD5: B6:9A:1E:8C:70:FD:D8:8F:BB:76:D1:C9:C5:06:25:C2
SHA1: 91:4B:42:67:2B:A3:DC:6A:13:20:4E:DE:C4:D7:63:78:ED:38:27:70

10 メッセージ

この章では，uCosminexus Message Service for ebXML が出力するメッセージの出力先，記述形式，および記述内容について説明しています。

10.1 メッセージの概要

10.2 KDEB00001 ~ KDEB01000 のメッセージ

10.3 KDEB01001 ~ KDEB02000 のメッセージ

10.4 KDEB02001 ~ KDEB03000 のメッセージ

10.5 KDEB03001 ~ KDEB04000 のメッセージ

10.6 KDEB04001 ~ KDEB05000 のメッセージ

10.7 KDEB05001 ~ KDEB06000 のメッセージ

10.8 KDEB06001 ~ KDEB07000 のメッセージ

10.9 KDEB07001 ~ KDEB08000 のメッセージ

10.10 KDEB08001 ~ KDEB09000 のメッセージ

10.11 KDEB09001 ~ KDEB10000 のメッセージ

10.12 KDEB10001 ~ KDEB11000 のメッセージ

10.13 KDEB11001 ~ KDEB12000 のメッセージ

10.14 KDEB12001 ~ KDEB13000 のメッセージ

10.15 KDEB13001 ~ KDEB14000 のメッセージ

10.16 KDEB14001 ~ KDEB15000 のメッセージ

10. メッセージ

10.17 KDEB15001 ~ KDEB16000 のメッセージ

10.18 KDEB17001 ~ KDEB18000 のメッセージ

10.19 KDEB18001 ~ KDEB19000 のメッセージ

10.1 メッセージの概要

ここでは、uCosminexus Message Service for ebXML が出力するメッセージの出力先、および記述形式について説明します。

10.1.1 メッセージの出力先

メッセージは、次に挙げるログ・トレース情報として出力されます。

- イベントログ (Windows の場合)
- システムログ (UNIX の場合)
- MSH 実行環境トレース
- タイマートレース
- 共通トレース

uCosminexus Message Service for ebXML が出力するメッセージの出力先の詳細については「6.2.1 uCosminexus Message Service for ebXML のログ・トレース」を参照してください。

10.1.2 メッセージの記述形式

このマニュアルでのメッセージの記述形式について説明します。

KDEBnnxxx-Y

メッセージテキスト

Message Text

可変値について説明します。

説明

メッセージが出力された要因、およびシステムの動作について説明します。

対処

ユーザーが実施する対処について説明します。

対処に「保守員に連絡してください」が記載されている場合、購入時の契約に基づいて、システム管理者が弊社問い合わせ窓口へ連絡することを示します。

なお、「可変値に関する説明」および「対処」は、メッセージによって記述しないものもあります。

(1) メッセージ ID の記述形式

メッセージ ID の記述形式の詳細について説明します。

KDEB

uCosminexus Message Service for ebXML のメッセージプレフィックスで、固定値

10. メッセージ

です。

nn

メッセージを出力したコンポーネントの識別子を示します。

xxx

メッセージ ID の通し番号を示します。

Y

メッセージのレベルを表します。メッセージのレベルは英字 1 文字で示します。

メッセージのレベルを示す文字とその意味を次に示します。

E：エラー

W：警告

I：通知

(2) データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係

データベースへのアクセスエラーが発生した場合に uCosminexus Message Service for ebXML がメッセージに出力するエラーコードと、HiRDB のメッセージ ID との関係を、次に示します。

表 10-1 データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係

項番	データベースのエラーコード	HiRDB のメッセージ ID
1	-nnn	KFPA11nnn
2	-1nnn	KFPA19nnn
3	+nnn	KFPA12nnn
4	0	HiRDB のエラーではなく、Cosminexus 関連 (DABroker Library) のエラーです。Cosminexus のメッセージを参照してください。
5	上記以外	

表で示した "nnn" は、HiRDB のメッセージ ID の通し番号です。

uCosminexus Message Service for ebXML が出力するメッセージにエラーコードが表示されている場合、エラーコードを基に、該当する HiRDB または Cosminexus のメッセージを参照してください。HiRDB のメッセージの詳細については、マニュアル「HiRDB メッセージ」を、Cosminexus のメッセージの詳細については、マニュアル「Cosminexus メッセージ」を参照してください。

10.2 KDEB00001 ~ KDEB01000 のメッセージ

KDEB00001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB00002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB00003-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB00004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

10. メッセージ

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB00005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB00006-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB00021-E

パラメタ {0} が null または空文字列です。 ({1}::{2})

The parameter {0} is null or a null string. ({1}::{2})

{0}: パラメタ名

{1}: クラス名

{2}: メソッド名

説明

内部で処理されるパラメタが不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00022-E

リスト型パラメタ {0} の要素の型が不正です。 ({1}::{2})

An element of the List parameter {0} is an invalid type. ({1}::{2})

{0}: パラメタ名

{1}: クラス名

{2}: メソッド名

説明

内部で処理されるパラメタが不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00023-E

リスト型パラメタ {0} が null または空です。({1}::{2})

The List parameter {0} is null or empty. ({1}::{2})

{0}: パラメタ名

{1}: クラス名

{2}: メソッド名

説明

内部で処理されるパラメタが不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00024-E

直列化オブジェクトの復元に失敗しました。({0})

An attempt to restore the serialized object has failed. ({0})

{0}: クラス名

説明

内部処理で予期しないエラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00025-E

内部エラーが発生しました。({0}::{1},{2})

An internal error occurred. ({0}::{1}, {2})

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

{2}: 詳細情報

説明

内部処理で予期しないエラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00027-E

トランザクションのロールバックに失敗しました。

An attempt to rollback the transaction has failed.

説明

トランザクションのロールバックに失敗しました。

対処

例外の原因を参照してエラー要因を取り除いてください。

KDEB00028-E

CallBackEjbInterface オブジェクトの取得に失敗しました。

An attempt to acquire the CallBackEjbInterface object has failed.

説明

内部処理で予期しないエラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00029-E

定義情報 (コンテナ : {0}, キー : {1}) の取得に失敗しました。

An attempt to acquire the defined information (container: {0}, key: {1}) has failed.

{0}: コンテナ名

{1}: キー名

説明

定義情報の取得に失敗しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00030-E

定義情報 (コンテナ : {0}) の取得に失敗しました。

An attempt to acquire the definition information (container: {0}) has failed.

{0}: コンテナ名

説明

定義情報の取得に失敗しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00031-E

送信メッセージ (Message) のメッセージ交換属性にサービスが指定されていません。

The Service has not been specified for the MessagingProperty of the message to be sent.

説明

ビジネスメッセージ送信コマンドで送信された情報が不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00032-E

送信メッセージ (Message) のメッセージ交換属性にアクションが指定されていません。

The Action has not been specified for the MessagingProperty of the message to be sent.

説明

ビジネスメッセージ送信コマンドで送信された情報が不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00033-E

送信メッセージ (Message) にメッセージ交換属性が指定されていません。

A MessagingProperty not been specified for the message to be sent.

説明

ビジネスメッセージ送信コマンドで送信された情報が不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00034-E

ペイロードコンテナの MIME コンテントタイプが null または空文字列です。

The MIME ContentType of the Payload Container is null or a null string.

説明

ビジネスメッセージ送信コマンドで送信された情報が不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00035-E

スキーマのスキーマ URI が null または空文字列です。

The schema URI of the schema is null or a null string.

説明

ビジネスメッセージ送信コマンドで送信された情報が不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00036-E

ペイロードコンテナからのコンテンツデータの取得に失敗しました。

An attempt to acquire the contents data from the Payload Container has failed.

説明

ビジネスメッセージ送信コマンドで送信された情報が不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00037-E

送信メッセージ (Message) 中のメッセージ交換定義識別子が null または空文字列です。

The messaging definition ID of the message to be sent is null or a null string.

説明

ビジネスメッセージ送信コマンドで送信された情報が不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00038-E

送信メッセージ (Message) 中のサービスのサービス名が null または空文字列です。

The service name for the Service of the message to be sent is null or a null string.

説明

ビジネスメッセージ送信コマンドで送信された情報が不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00039-E

送信メッセージ (Message) 中のメッセージ説明記述の説明文が null または空文字列です。

The description text in the Description entry of the message to be sent is null or a null string.

説明

ビジネスメッセージ送信コマンドで送信された情報が不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00040-E

送信メッセージ (Message) 中のメッセージ説明記述の表現言語が null または空文字列です。

The expression language in the Description entry of the message to be sent is null or a null string.

説明

ビジネスメッセージ送信コマンドで送信された情報が不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00042-E

ペイロードコンテナのコンテンツデータが null です。

The contents data of the Payload Container is null or a null string.

説明

ビジネスメッセージ送信コマンドで送信された情報が不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00043-E

メッセージ受信情報に不整合があります。({0})

There is an inconsistency in the information for the received message. ({0})

{0}: 詳細情報

説明

ビジネスメッセージの受信処理で受信した、メッセージ交換情報が不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00044-E

送信結果通知情報に不整合があります。({0})

There is an inconsistency in the information for the transmission result notification. ({0})

{0}: 詳細情報

説明

ビジネスメッセージ送信結果通知処理で取得した、メッセージ交換情報が不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00045-E

パラメタ {0} のサイズが制限を超えています。({1}::{2})

The size of the parameter {0} exceeds the limit. ({1}::{2})

{0}: パラメタ名

{1}: クラス名

{2}: メソッド名

説明

10. メッセージ

内部で処理されるパラメタが不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00046-E

ペイロードの数が許容量を超えました。(最大値 = {0})

The number of payloads exceeded the allowable capacity. (max. = {0})

{0}: ペイロードの最大数

説明

送信メッセージのペイロードに指定したファイルの数が最大値を超えました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (PERSIST コンテナの PAYLOAD_MAX_NUM キー) に指定したペイロードの数を見直すか、または送信するペイロードの数を少なくしてください。

KDEB00047-E

ペイロードの合計サイズが許容量を超えました。(最大サイズ = {0}MB)

The total size of the payloads exceeded the allowable capacity. (max. size = {0} MB)

{0}: ペイロードの最大サイズ

説明

送信メッセージのペイロードに指定したファイルの合計サイズが最大値を超えました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (PERSIST コンテナの PAYLOAD_MAX_SIZE キー) に指定したペイロードの合計バイト数を見直すか、または送信するペイロードのサイズを小さくしてください。

KDEB00048-E

{0}::{1} でエラーが発生しました。

An error occurred at {0}::{1}.

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

該当クラス / メソッドでエラーが発生しました。

対処

このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照して、エラー要因を取り除いてください。

KDEB00049-E

MSH サービスが正常に初期化されていません。

The MSH service has not been initialized normally.

説明

uCosminexus Message Service for ebXML が正常に起動していない状態で、EJB 生成処理が行われました。

対処

uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB00102-I

AP 通知を行う設定で動作します。

Operation will be performed with the AP notification set.

説明

このトレース情報出力後、処理を続行します。

KDEB00103-I

AP 通知を行わない設定で動作します。

Operation will be performed without the AP notification set.

説明

このトレース情報出力後、処理を続行します。

KDEB00201-E

コールバック先 EJB エンドポイント {0} が見つかりません。

The callback destination (EJB end point {0}) was not found.

{0}: コールバック先 EJB エンドポイント

説明

コールバック先 EJB へのルックアップに失敗しました。

対処

保守員に連絡してください。

KDEB00202-E

コールバック (notifyMessagingEvent) への接続に失敗しました。

An attempt to connect with the callback (notifyMessagingEvent) has failed.

説明

イベント通知受付 EJB の生成に失敗しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00203-E

コールバック (notifyMessagingEvent) でエラーが発生しました。

An error occurred in the callback (notifyMessagingEvent).

説明

イベント受付用コールバックオブジェクトからの例外をキャッチしました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB00204-E

コールバック EJB の削除でエラーが発生しました。

An error occurred in removing callback EJB.

説明

イベント通知受付 EJB の削除に失敗しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

10.3 KDEB01001 ~ KDEB02000 のメッセージ

KDEB01001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB01002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB01003-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB01004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

10. メッセージ

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB01005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB01006-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB01101-E

メッセージの CPAId が、対応する CPA の cpaid の値と一致していません。

The CPAId of the message does not match the cpaid value for the corresponding CPA.

説明

受信メッセージの検証中に、不正を検知しました。

受信メッセージの CPAId の値がメッセージ交換定義ファイルで指定されている cpaid と一致していません。

対処

受信メッセージの内容が使用する CPA ファイルと矛盾しているため、送信パーティに連絡し、送信メッセージの内容を確認してもらってください。

KDEB01102-E

メッセージの From 内の PartyId が、対応する CPA の PartyId と一致していません。

The PartyId in the From section of the message does not match the PartyId for the corresponding CPA.

説明

受信メッセージの検証中に、不正を検知しました。

受信メッセージの From で指定されている PartyId がメッセージ交換定義ファイルで指定されている PartyId と一致していません。

対処

受信メッセージの内容が使用する CPA ファイルと矛盾しているため、送信パーティに連絡し、送信メッセージの内容を確認してもらってください。

KDEB01103-E

メッセージの To 内の PartyId が、対応する CPA の PartyId と一致していません。

The PartyId in the To section of the message does not match the PartyId for the corresponding CPA.

説明

受信メッセージの検証中に、不正を検知しました。

受信メッセージの To で指定されている PartyId がメッセージ交換定義ファイルで指定されている PartyId と一致していません。

対処

受信メッセージの内容が使用する CPA ファイルと矛盾しているため、送信パーティに連絡し、送信メッセージの内容を確認してもらってください。

KDEB01104-E

メッセージの処理期限を超過しています。

The processing period for the message has elapsed.

説明

受信メッセージの検証中に、不正を検知しました。

受信メッセージのヘッダ情報にある TimeToLive 要素で指定されている時刻を超過しています。

対処

実際に ebXML メッセージを受信した時刻が、ebXML メッセージのヘッダ情報にある TimeToLive 要素に指定された時刻を超えています。送信パーティに連絡し、TimeToLive 要素の値を見直してもらってください。

KDEB01105-E

メッセージの特性が、CPA で指定されている特性と一致していません。{0}

The MessageCharacteristics of the message do not match the MessageCharacteristics specified in the CPA. {0}

{0}: 一致していない特性を示す名称

説明

受信メッセージの検証中に、不正を検知しました。

受信メッセージで設定されている QoS レベル、および HTTP 上でのメッセージ交換

10. メッセージ

方式が、メッセージ交換定義ファイルでの設定と一致していません。

対処

受信メッセージを高信頼配信するための設定が、CPA ファイルの内容と矛盾しています。送信パーティに連絡し、送信メッセージの設定内容を確認してもらってください。

KDEB01106-E

メッセージを受信したエンドポイントが、対応する CPA のエンドポイントと一致していません。
{0}

The Endpoint where the message was received does not match the Endpoint of the corresponding CPA. {0}

{0}:eBXML メッセージを受信したエンドポイント

説明

受信メッセージの検証で、受信状況の不具合を検知しました。
eBXML メッセージを受信したエンドポイントが、メッセージ交換定義ファイルで指定されているエンドポイントと一致していません。

対処

受信メッセージの内容が使用する CPA ファイルと矛盾しているため、送信パーティに連絡し、送信メッセージの内容を確認してもらってください。

KDEB01107-E

HTTP ベーシック認証のユーザー名が指定されていません。

The user name for the HTTP basic authentication has not been specified.

説明

受信メッセージの検証で、受信状況の不具合を検知しました。
メッセージ交換定義ファイルで HTTP ベーシック認証をする指定をしていますが、HTTP ベーシック認証が行われていません。

対処

送信パーティおよび受信パーティで、HTTP ベーシック認証の設定を見直してください。

KDEB01108-E

HTTP ベーシック認証のユーザー名が不正です。

The user name for the HTTP basic authentication is invalid.

説明

受信メッセージの検証で、受信状況の不具合を検知しました。
HTTP ベーシック認証で使用するユーザー名がメッセージ交換定義ファイルで指定されているユーザー名と一致していません。

対処

送信パーティおよび受信パーティで、HTTP ベーシック認証の設定を見直してください。

KDEB01109-E

SSL クライアント認証が行われていません。

SSL client authentication has not been performed.

説明

受信メッセージの検証で、受信状況の不具合を検知しました。
メッセージ交換定義ファイルで暗号化通信（SSL クライアント認証）を行うように定義されていますが、クライアント証明書を受け取っていません。

対処

Hitachi Web Server の定義ファイル（httpsd.conf）の、暗号化通信（SSL クライアント認証）に関する設定を見直してください。

KDEB01110-E

SSL クライアント証明書が不正です。

The SSL client certificate is invalid.

説明

受信メッセージの検証で、受信状況の不具合を検知しました。
暗号化通信（SSL クライアント認証）で使用するクライアント証明書がメッセージ交換定義ファイルで指定されている証明書と一致していません。

対処

送信パーティに連絡して、クライアント証明書が CPA ファイルと一致しているか確認してください。

KDEB01111-E

XML 電子署名の検証に失敗しました。

An attempt to verify the XML Signature has failed.

説明

受信メッセージの検証で、内容の不具合を検知しました。
XML 電子署名の検証に必要な情報が不足しています。

対処

CPA ファイルまたは CPA 拡張定義ファイルで XML 電子署名に必要な情報が定義されているかを確認し、メッセージ交換定義ファイルを生成し直してください。

KDEB01112-E

XML 電子署名が行われていません。

10. メッセージ

There is no XML Signature.

説明

受信メッセージの検証で、内容の不具合を検知しました。
メッセージ交換定義ファイルで XML 電子署名を要求していますが、XML 電子署名が行われていません。

対処

送信パーティに連絡して、XML 電子署名のセキュリティレベルが正しく設定されているかどうかを確認してもらってください。

KDEB01113-E

XML 電子署名に添付されている証明書が不正です。

The certificate attached to the XML Signature is invalid.

説明

受信メッセージの検証で、内容の不具合を検知しました。
XML 電子署名内に指定されている証明書が、メッセージ交換定義ファイルで指定された証明書と一致していません。

対処

受信メッセージの XML 電子署名に添付された証明書と、CPA ファイルに記述された XML 電子署名用証明書が異なります。送信パーティに連絡して、正しい証明書を使用しているかどうかを確認してもらってください。

KDEB01114-E

Acknowledgment メッセージ内に Reference が指定されていません。

Reference has not been specified in the Acknowledgment message.

説明

受信メッセージの検証で、内容の不具合を検知しました。
Acknowledgment メッセージ内に Reference が指定されていません。

対処

受信メッセージの内容が不正のため、送信パーティに連絡し、送信メッセージの内容を確認してもらってください。

KDEB01115-E

Acknowledgment メッセージ内の Reference で指定されているダイジェスト値が不正です。

(URI={0})

The digest value specified for Reference in the Acknowledgment message is invalid. (URI = {0})

{0}: ダイジェスト値が不正な URI

説明

受信メッセージの検証で、内容の不具合を検知しました。

Acknowledgment メッセージ内に指定されているダイジェスト値が、対応するビジネスメッセージのダイジェスト値と一致していません。

対処

送信パーティに連絡し、送信した Acknowledgment メッセージの内容が正しいかを確認してもらってください。

KDEB01116-E

Acknowledgment メッセージに対応するビジネスメッセージの取得に失敗しました。

An attempt to acquire the business message corresponding to the Acknowledgment message has failed.

説明

受信した Acknowledgment メッセージに対応するビジネスメッセージの取得に失敗しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01117-E

ペイロードに対する署名が行われていません。

There is no signature relating to the payload.

説明

受信メッセージの検証で、内容の不具合を検知しました。
ペイロードに対する XML 電子署名情報が不足しています。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージに対して XML 電子署名が行われているかを確認してください。

KDEB01201-E

メッセージ交換定義の内容に不整合があります。({0})

There is a contradiction in the messaging definition. ({0})

{0}: 不整合の箇所

説明

メッセージ交換定義ファイルの内容の矛盾を検知しました。
XML 電子署名を要求していますが、XML 電子署名を行うための情報が記述されていません。

対処

相手パーティとの CPA ファイルの内容に矛盾していないかを見直してください。

KDEB01500-E

{0} の初期化に失敗しました。

An attempt to initialize {0} has failed.

{0}: クラス名

説明

MSH 実行環境の内部オブジェクトの初期化に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージからエラーの原因を特定し、エラーの原因を取り除いたあと、uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB01501-E

予期しないエラーが発生しました。({0})

An unexpected error occurred. ({0})

{0}: エラーの原因となった例外

説明

予期しないエラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01502-E

MSH 実行環境を閉塞します。(実行環境識別子={0})

The MSH environment will now be blocked. (environment ID = {0})

{0}:MSH 実行環境識別子

説明

MSH 実行環境の閉塞処理を開始しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージからエラーの原因を特定し、エラーの原因を取り除いたあと、uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB01503-E

MSH 実行環境を閉塞しました。(実行環境識別子={0})

The MSH environment was blocked. (environment ID = {0})

{0}:MSH 実行環境識別子

説明

MSH 実行環境が閉塞しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージからエラーの原因を特定し、エラーの原因を取り除いたあと、uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB01504-I

一時的なエラーであるため、{0} 秒後にイベント処理をリトライします。(イベント={1}, リトライ回数={2})

Event processing will be retried in {0} seconds because a temporary error occurred. (event = {1}, number of retries = {2})

{0}: イベントリトライ間隔

{1}: イベント

{2}: イベントリトライ回数

説明

イベント処理を再度実行します。

KDEB01505-E

イベント処理のリトライアウトが発生しました。イベント処理を中止します。

A retry out occurred for event processing. Event processing will now stop.

説明

メッセージ交換処理のリトライ回数が設定値を超えました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01506-I

イベント : {0} を処理します。(イベントハンドラ={1})

Processing for the event ({0}) will be performed by the handler ({1}).

{0}: イベントコード

{1}: イベントハンドラ

説明

イベント処理を開始します。

KDEB01507-E

内部エラーが発生しました。({0}::{1}, {2})

An internal error occurred. ({0}::{1}, {2})

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

{2}: 詳細情報

10. メッセージ

説明

内部不正が発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01508-E

メッセージ交換定義 (識別子 = {0}) にサポートされていない値が指定されています。 ({1})

An unsupported value has been specified in the messaging definition (ID = {0}). ({1})

{0}: メッセージ交換定義識別子

{1}: 詳細

説明

メッセージ交換定義ファイルにサポートされていない値が設定されています。

対処

詳細情報からエラーの原因を特定し、CPA ファイルを見直してください。メッセージ交換定義ファイルを生成し直したあと、uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB01513-E

実行環境が不正であることを検出したため、会話処理またはメッセージ交換処理を中止します。

Conversation or messaging processing will now stop because an invalid environment was detected.

説明

メッセージ交換処理中に実行環境の不正を検出しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージからエラーの原因を特定し、エラーの原因を取り除いてください。MSH 実行環境が閉塞している場合は、uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB01514-E

会話処理またはメッセージ交換処理中にエラーが発生しました。

An error occurred during conversation or messaging processing.

説明

メッセージ交換処理中に一時的なエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージからエラーの原因を特定し、エラーの原因を取り除いたあと、再度エラーになった処理を実行してください。

KDEB01515-E

会話処理またはメッセージ交換処理中に致命的なエラーが発生しました。

A fatal error occurred during conversation or messaging processing.

説明

メッセージ交換処理中に致命的なエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージからエラーの原因を特定し、エラーの原因を取り除いてください。MSH 実行環境が閉塞している場合は、uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB01516-E

会話処理またはメッセージ交換処理中に予期しないエラーが発生しました。({0})

An unexpected error occurred during conversation or messaging processing. ({0})

{0}: エラーの原因となった例外

説明

メッセージ交換処理中に予期しないエラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01517-E

メッセージ交換定義 (識別子 = {0}) に必須の項目が指定されていません。({1})

A required item has not been specified in the messaging definition (ID = {0}). ({1})

{0}: メッセージ交換定義識別子

{1}: 詳細情報

説明

メッセージ交換定義ファイルに必須の値が指定されていません。

対処

詳細情報からエラーの原因を特定し、CPA ファイルを見直してください。メッセージ交換定義ファイルを生成し直したあと、uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB01518-E

永続化されたメッセージの解析に失敗しました。({0}::{1})

An attempt to parse an archived message has failed. ({0}::{1})

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

10. メッセージ

データベースから取得した永続化メッセージの解析に失敗しました。

対処

データベースに保存されている永続化メッセージが壊れているおそれがあります。
トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01520-E

指定したメッセージングコンテキストは存在しません。(メッセージングコンテキスト識別子={0})

The specified messaging context does not exist. (ID = {0})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

データベースに存在しないメッセージングコンテキストが指定されました。

対処

コマンドからの実行の場合は、指定するメッセージングコンテキスト識別子を確認し、再度実行してください。それ以外の場合は、トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01521-E

指定したメッセージ交換定義は存在しません。(メッセージ交換定義識別子={0})

The specified messaging definition does not exist. (ID = {0})

{0}: メッセージ交換定義識別子

説明

存在しないメッセージ交換定義ファイルが指定されました。

対処

このメッセージが出力されたのが送信時の場合は、ビジネスメッセージ送信コマンドで指定したメッセージ交換定義識別子を確認し、再度実行してください。受信時の場合は、送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージの内容を確認してもらってください。

KDEB01522-E

指定したメッセージ交換定義識別子とデータベース中の値が一致しません。(メッセージ交換定義識別子={0}, データベース中の値={1})

The specified messaging definition ID does not match the value in the database. (ID = {0}, value in the database = {1})

{0}: メッセージ交換定義識別子

{1}: データベース中の識別子

説明

指定されたメッセージ交換定義識別子とデータベース中に存在する値が一致しませ

んでした。

対処

このメッセージが出力されたのが送信時の場合は、ビジネスメッセージ送信コマンドで指定したメッセージ交換定義識別子を確認し、再度実行してください。受信時の場合は、送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージの内容を確認してもらってください。

KDEB01523-E

アーカイブテーブルから取得したメッセージの解析に失敗しました。(メッセージングコンテキスト識別子={0})

An attempt to parse the message acquired from the archive table has failed. (messaging context ID = {0})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

データベースから取得した永続化メッセージの解析に失敗しました。

対処

データベースに保存されている永続化メッセージが壊れているおそれがあります。トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01524-E

アーカイブテーブルからメッセージを取得する際にエラーが発生しました。{0}

An error occurred while acquiring the message from the archive table. ({0})

{0}: エラーの原因となった例外

説明

データベースから永続化メッセージを取得するときに、一時的なエラーが発生しました。

対処

詳細情報からエラーの原因を特定し、取り除いてください。このメッセージとともにほかのエラーメッセージが出力されている場合は、そのメッセージの対処に従ってください。

KDEB01525-E

メッセージ交換定義識別子が指定されていません。(メッセージ交換定義識別子={0})

The messaging definition ID has not been specified. (ID = {0})

{0}: メッセージ交換定義識別子

説明

メッセージ交換定義識別子が指定されていません。

対処

10. メッセージ

ビジネスメッセージ送信コマンドで指定したメッセージ交換定義識別子を確認し、再度実行してください。

KDEB01527-E

メッセージ交換定義にサービスとアクションが存在しません。(メッセージ交換定義識別子={0}, サービス={1}, アクション={2})

The Service and Action do not exist in the messaging definition. (ID = {0}, Service = {1}, Action = {2})

{0}: メッセージ交換定義識別子

{1}: サービス

{2}: アクション

説明

メッセージ交換定義ファイルに指定されたサービスとアクションがありません。

対処

このメッセージが出力されたのが送信時の場合は、ビジネスメッセージ送信コマンドで指定したサービスとアクションを確認し、再度実行してください。受信時の場合は、送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージの内容を確認してもらってください。

KDEB01528-E

電子署名に必要な情報がメッセージ交換定義に設定されていません。(メッセージ交換定義識別子={0})

Information required for the electronic signature has not been set in the messaging definition. (ID = {0})

{0}: メッセージ交換定義識別子

説明

メッセージ交換定義ファイルに XML 電子署名に必要な情報が設定されていません。

対処

CPA ファイルまたは CPA 拡張定義ファイルに XML 電子署名で必要な要素を指定し、メッセージ交換定義ファイルを生成し直してください。そのあと uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB01529-E

メッセージ交換定義 (識別子:{0}) にサポートされていない値が設定されています。({1}={2})

An unsupported value has been specified in the messaging definition (ID = {0}). ({1} = {2})

{0}: メッセージ交換定義識別子

{1}: 要素

{2}: 値

説明

メッセージ交換定義ファイルにサポートされていない値が設定されています。

対処

詳細情報からエラーの原因を特定し、CPA ファイルを修正してください。メッセージ交換定義ファイルを生成し直したあと、uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB01530-I

メッセージングコンテキストを生成しました。(メッセージングコンテキスト識別子={0})

The messaging context was created. (ID = {0})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

uCosminexus Message Service for ebXML がビジネスメッセージを送信したか、新規にビジネスメッセージを受信しました。

KDEB01535-I

メッセージ交換定義を特定しました。(メッセージ交換定義識別子={0})

The messaging definition was identified. (messaging definition ID = {0})

{0}: メッセージ交換定義識別子

説明

メッセージ交換定義ファイルの特定に成功しました。

KDEB01536-E

定義ファイルの内容が不正です。

The contents of the definition file are invalid.

説明

定義ファイルの内容が不正です。

対処

このメッセージの前に出力されたログからエラーの原因を特定し、エラーの原因を取り除いたあと、uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB01537-E

この要求はサポートされていません。何も処理しません。

This request is not supported. No processing will be performed.

説明

サポートしていないイベント要求を受け付けました。

10. メッセージ

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01544-E

DB アクセスエラーが発生しました。({0}::{1})

A database access error occurred. ({0}::{1})

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

データベースにアクセス中にエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01545-E

メッセージの MIME パッケージ中にエラーが発生しました。({0}::{1})

An error occurred while packaging a MIME message. ({0}::{1})

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

ebXML メッセージを MIME パッケージするときにエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01546-E

メッセージの MIME 展開中にエラーが発生しました。({0}::{1})

An error occurred while unpacking a MIME message. ({0}::{1})

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

ebXML メッセージを MIME 展開するときにエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01547-E

ebXML メッセージの生成中にエラーが発生しました。({0}::{1})

An error occurred while creating an ebXML message. ({0}::{1})

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

ebXML メッセージを生成するときにエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01548-E

ebXML メッセージの解析中にエラーが発生しました。({0}::{1})

An error occurred while parsing an ebXML message. ({0}::{1})

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

ebXML メッセージを解析するときにエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01549-E

メッセージの電子署名中にエラーが発生しました。({0}::{1})

An error occurred while electronically signing a message. ({0}::{1})

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

ebXML メッセージを署名するときにエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01550-E

鍵および証明書へのアクセス中にエラーが発生しました。({0}::{1})

An error occurred while accessing a private key or certificate. ({0}::{1})

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

鍵, および証明書へアクセスするときにエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01551-E

送信処理中に、トランスポート層でエラーが発生しました。({0}::{1})

An error occurred in the transport hierarchy while sending a message. ({0}::{1})

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

トランスポートコンポーネントへアクセス中にエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01552-E

タイマーへのアクセス中にエラーが発生しました。({0}::{1})

An error occurred while accessing the timer. ({0}::{1})

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

タイマーコンポーネントへアクセス中にエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01555-I

メッセージの送信中にエラーが発生しました。送信失敗とみなします。

An error occurred while sending a message.

説明

ebXML メッセージの送信中にエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01557-E

メッセージ交換定義 (識別子 = {0}) に送信用の DeliveryChannel が存在しません。 (Service = {1}, Action = {2}, PartyName = {3})

A DeliveryChannel for sending does not exist in the messaging definition (ID = {0}). (Service = {1}, Action = {2}, PartyName = {3})

{0}: メッセージ交換定義識別子

{1}: サービス

{2}: アクション

{3}: パーティ名称

説明

メッセージ交換定義ファイルに、送信パーティの DeliveryChannel 要素が見つかりません。

対処

CPA ファイルに送信パーティ情報のサービスとアクションに指定された DeliveryChannel 要素が定義されているかを確認してください。

KDEB01558-E

メッセージ交換定義 (識別子={0}) に受信用の DeliveryChannel が存在しません。 (Service={1}, Action={2}, PartyName={3})

A DeliveryChannel for receiving does not exist in the messaging definition (ID = {0}). (Service = {1}, Action = {2}, PartyName = {3})

{0}: メッセージ交換定義識別子

{1}: サービス

{2}: アクション

{3}: パーティ名称

説明

メッセージ交換定義ファイルに受信パーティの DeliveryChannel 要素が見つかりません。

対処

CPA ファイルに受信パーティ情報のサービスとアクションに指定された DeliveryChannel 要素が定義されているかを確認してください。

KDEB01559-E

メッセージ交換定義へのアクセス中にエラーが発生しました。 ({0}::{1})

An error occurred while accessing the messaging definition. ({0}::{1})

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

メッセージ交換定義ファイルにアクセスしたときにエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前には出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01560-I

メッセージの送信に成功しました。 (URL={0}, 同期応答={1})

It was successful to send message. (URL = {0}, SyncReply = {1})

{0}: ebXML メッセージの送信先 URL

{1}: 同期応答フラグ

10. メッセージ

説明

ebXML メッセージの送信に成功しました。

KDEB01650-E

メッセージを送信中であるため、送信結果を取得できません。(メッセージングコンテキスト識別子={0})

The transmission result cannot be acquired because the message is being sent. (messaging context ID = {0})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

ビジネスメッセージの状態が送信中のときに、送信結果通知処理が呼び出されました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01651-E

受信処理済みであるため、処理要求を受け付けることはできません。(メッセージングコンテキスト識別子={0})

The processing request cannot be accepted because the processing to receive the message has finished. (messaging context ID = {0})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

ビジネスメッセージを受信したあとに、メッセージ受信処理が呼び出されました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01652-E

指定したメッセージングコンテキストはすでに強制終了されています。(メッセージングコンテキスト識別子={0})

The specified messaging context has already been forcefully terminated. (messaging context ID = {0})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

すでに強制終了したビジネスメッセージに対して、強制終了処理が呼び出されました。

対処

指定したビジネスメッセージが CLOSED 状態でないかを確認してください。

KDEB01653-E

指定したメッセージングコンテキストは一時停止中です。(メッセージングコンテキスト識別子={0})

The specified messaging context is suspended. (messaging context ID = {0})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

一時停止中のビジネスメッセージに対して、何らかの処理が呼び出されました。

対処

指定したビジネスメッセージが一時停止中でないかを確認してください。

KDEB01654-E

指定したメッセージングコンテキストは受信できない状態です。(メッセージングコンテキスト識別子={0}, 状態={1})

The specified messaging context is in a non-receivable state. (messaging context ID = {0}, state = {1})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

{1}: メッセージングコンテキストの状態

説明

ビジネスメッセージが受信できない状態のときに、メッセージ受信処理が呼び出されました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01655-E

送信結果通知済みであるため、処理要求を受け付けることはできません。(メッセージングコンテキスト識別子={0})

The processing request cannot be accepted because transmission result notification has finished. (messaging context ID = {0})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

すでに送信結果を取得した状態で、送信結果通知処理が呼び出されました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01656-E

指定したメッセージングコンテキストは、送信結果を通知できない状態です。(メッセージングコンテキスト識別子={0}, 状態={1})

10. メッセージ

The specified messaging context is in a state in which transmission result notification cannot be performed. (messaging context ID = {0}, state = {1})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

{1}: メッセージングコンテキストの状態

説明

ビジネスメッセージの送信結果通知ができない状態で、送信結果通知処理が呼び出されました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01659-E

AP 処理完了済みであるため、処理要求を受け付けることはできません。(メッセージングコンテキスト識別子={0})

The processing request cannot be accepted because AP processing has completed. (messaging context ID = {0})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

AP 処理完了済みの状態で、AP 処理完了通知処理が呼び出されました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01660-E

メッセージを AP が受信していないため、AP 処理完了通知を受け付けることはできません。(メッセージングコンテキスト識別子={0})

The processing request cannot be accepted because the AP is not receiving the message. (messaging context ID = {0})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

メッセージ受信処理を呼び出す前に、AP 処理完了通知処理が呼び出されました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01661-E

指定したメッセージングコンテキストはすでに終了しています。(メッセージングコンテキスト識別子={0})

The specified messaging context has already finished. (messaging context ID = {0})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

すでに CLOSED 状態にあるビジネスメッセージに対して、何らかの処理が呼び出されました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01664-E

指定したメッセージングコンテキストは一時停止中ではありません。(メッセージングコンテキスト識別子={0})

The specified messaging context is not suspended. (messaging context ID = {0})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

ビジネスメッセージが一時停止状態でないときにメッセージ再開処理が呼び出されました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01668-E

すでに同じメッセージ識別子を持つメッセージを送信しています。(メッセージ識別子={0})

A message with the same message ID is already being sent. (message ID = {0})

{0}: メッセージ識別子

説明

すでに送信したビジネスメッセージと同じメッセージ識別子を持つメッセージを送信しようとしてしました。

対処

指定したメッセージ識別子を変更し、ビジネスメッセージ送信コマンドを実行してください。

KDEB01669-E

すでに同じメッセージ識別子を持つメッセージを受信しています。(メッセージ識別子={0})

A message with the same message ID is already being received. (message ID = {0})

{0}: メッセージ識別子

説明

すでに受信したビジネスメッセージと同じメッセージ識別子を持つメッセージを受信しようとしてしました。

対処

送信パーティに連絡して、異なるメッセージ識別子でビジネスメッセージを送信してもらってください。

KDEB01670-E

指定したメッセージングコンテキストは終了状態でないため、削除できません。(メッセージングコンテキスト識別子={0})

The specified messaging context can not be deleted because it is not in a finished state.

(messaging context ID = {0})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

CLOSED 状態でないビジネスメッセージを削除しようとした。

対処

ビジネスメッセージの状態を CLOSED 状態にしてください。

KDEB01673-E

AP から処理要求を受け付けましたが、閉塞状態のため処理しません。

The processing request was accepted from the AP, but processing cannot be performed because of a blocked status.

説明

処理要求がありましたが、閉塞中のため処理しません。

対処

uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB01675-E

指定したメッセージングコンテキストは一時停止できない状態です。(メッセージングコンテキスト識別子={0}, 状態={1})

The specified messaging context is not in a state in which it can be suspended. (messaging context ID = {0}, state = {1})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

{1}: メッセージングコンテキストの状態

説明

ビジネスメッセージを一時停止状態にできないときに、一時停止処理を呼び出しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01676-E

指定したメッセージングコンテキストは AP 処理完了通知を受け付けることができない状態です。(メッセージングコンテキスト識別子={0}, 状態={1})

The specified messaging context is not in a state in which it can be processed a request.

(messaging context ID = {0}, state = {1})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

{1}: メッセージングコンテキストの状態

説明

ビジネスメッセージが処理完了通知を受け付けられない状態のときに、処理完了通知処理が呼び出されました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01700-E

メッセージを受信しましたが、閉塞状態のため処理しません。

A message was received but processing cannot be performed because of a blocked status.

説明

閉塞中に送信パーティから ebXML メッセージを受信しました。

対処

uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB01701-E

メッセージを受信しましたが、メッセージ交換定義を特定できません。(メッセージ識別子={0})

A message was received but the messaging definition cannot be identified. (message ID = {0})

{0}: メッセージ識別子

説明

受信メッセージの情報からメッセージ交換定義ファイルを特定することができませんでした。

対処

ファイルに保存された ebXML メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01702-I

受信メッセージ情報 (CPA 識別子={0}, サービス={1}, アクション={2}, メッセージ種別={3}, 同期受信={4})

Information of received message (CPA ID = {0}, Service = {1}, Action = {2}, Type of message = {3}, SyncReceive = {4})

{0}: CPA 識別子

{1}: サービス

10. メッセージ

{2}: アクション

{3}: 受信メッセージ種別

{4}: 同期受信するかどうかのフラグ

説明

受信メッセージの種別を特定しました。

KDEB01703-E

受信メッセージの解析中にエラーが発生しました。

An error occurred while parsing a received message.

説明

受信メッセージの解析中にエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01704-E

受信メッセージのアンパッケージ中にエラーが発生しました。

An error occurred while unpacking a received message.

説明

受信メッセージの MIME 展開中にエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01705-E

メッセージ交換定義 (識別子 = {0}) が不正です。({1})

The messaging definition (ID = {0}) is invalid. ({1})

{0}: メッセージ交換定義識別子

{1}: 詳細情報

説明

受信時に特定したメッセージ交換定義ファイルに不正な値が指定されています。

対処

詳細情報からエラーの原因を特定し、取り除いてください。そのあと、
uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB01706-E

受信メッセージのトランスポートセキュリティ検証中にエラーが発生しました。

An error occurred while verifying transport security for a received message.

説明

受信メッセージの SSL 検証中にエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01707-E

受信メッセージのメッセージセキュリティ検証中にエラーが発生しました。

An error occurred while verifying message security for a received message.

説明

受信メッセージの署名検証中にエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01708-E

受信メッセージの CPA 整合性検証中にエラーが発生しました。

An error occurred while verifying CPA consistency for a received message.

説明

受信メッセージの CPA ファイル検証中にエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01709-E

受信メッセージの処理中に、メッセージが不正であることが判明しました。

The received message was found to be invalid during processing of the message.

説明

受信メッセージが不正であることを検出しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01710-E

受信メッセージの処理中に、トランザクションのコミットに失敗しました。

An attempt to commit the transaction failed during processing of the received message.

説明

受信メッセージの処理中にトランザクションのコミットに失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01711-E

受信メッセージの処理中に、実行環境不正を検出しました。

An invalid environment was detected during processing of the received message.

説明

受信メッセージの処理中に実行環境不正を検出しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01712-E

受信メッセージの処理中に、エラーが発生しました。

An error occurred while processing the received message.

説明

受信メッセージの処理中に一時的なエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01713-E

受信メッセージの処理中に、致命的なエラーが発生しました。

A fatal error occurred while processing the received message.

説明

受信メッセージの処理中に致命的なエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01714-E

受信メッセージの処理中に、予期しないエラーが発生しました。({0})

An unexpected error occurred while processing the received message. ({0})

{0}: エラーの原因となった例外

説明

受信メッセージの処理中に予期しないエラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01715-W

同期応答メッセージの送信に失敗しました。

An attempt to send the sync response message has failed.

説明

同期応答の返信に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01716-I

受信メッセージをファイルに保存します。(ファイル名={0})

The received message will now be saved in the file. (file name = {0})

{0}: 保存ファイル名

説明

不正な受信メッセージをファイルに保存します。

KDEB01717-E

受信メッセージの保存に失敗しました。({0})

An attempt to save the received message has failed. ({0})

{0}: エラーの原因となった例外

説明

不正な受信メッセージのファイル保存中にエラーが発生しました。

対処

エラーの原因となった例外情報からエラーの原因を特定し、取り除いてください。

KDEB01718-E

メッセージを受信しましたが、異常があることが判明しました。ビジネスメッセージではないため、不正メッセージとして処理します。(メッセージ識別子={0})

A message was received but an abnormality was found. Processing will be performed as if it is an invalid message because it is not a business message. (message ID = {0})

{0}: メッセージ識別子

説明

不正な ebXML メッセージを受信しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01719-W

警告レベルのメッセージを受信しました。(メッセージ識別子={0})

A warning-level message was received. (message ID = {0})

{0}: メッセージ識別子

説明

10. メッセージ

警告レベルの ebXML メッセージを受信しました。

KDEB01720-I

受信メッセージを破棄します。

The received message will now be discarded.

説明

受信メッセージを不要な ebXML メッセージと認識したため、破棄します。

KDEB01722-E

Acknowledgment メッセージの参照先メッセージは存在しません。(参照先メッセージ識別子={0})

The ref to message of the Acknowledgment message does not exist. (ref to message ID = {0})

{0}: 参照先メッセージ識別子

説明

Acknowledgment メッセージを受信しましたが、参照先メッセージ識別子に指定されたビジネスメッセージがありません。

対処

ファイルに保存された Acknowledgment メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01723-E

Acknowledgment メッセージの参照先メッセージは、受信したメッセージです。(参照先メッセージ識別子={0})

The ref to message of the Acknowledgment message is a received message. (ref to message ID = {0})

{0}: 参照先メッセージ識別子

説明

受信したビジネスメッセージを参照先メッセージ識別子に持つ Acknowledgment メッセージを受信しました。

対処

ファイルに保存された Acknowledgment メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01724-E

Error メッセージの参照先メッセージは存在しません。(参照先メッセージ識別子={0})

The ref to message of the Error message does not exist. (ref to message ID = {0})

{0}: 参照先メッセージ識別子

説明

Error メッセージを受信しましたが、参照先メッセージ識別子に指定されたビジネスメッセージがありません。

対処

ファイルに保存された Error メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01725-E

Error メッセージの参照先メッセージは、受信したメッセージです。(参照先メッセージ識別子={0})

The ref to message of the Error message is a received message. (ref to message ID = {0})

{0}: 参照先メッセージ識別子

説明

受信したビジネスメッセージを参照先メッセージ識別子に持つ Error メッセージを受信しました。

対処

ファイルに保存された Error メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01726-E

Acknowledgment メッセージの受信後に、Error メッセージを受信しました。このメッセージを不正メッセージとして処理します。(メッセージ識別子={0}, 参照先メッセージ識別子={1})

An Error message was received after receiving the Acknowledgment message. Processing will be performed as if this message is invalid. (message ID = {0}, ref to message ID = {1})

{0}: メッセージ識別子

{1}: 参照先メッセージ識別子

説明

高信頼配信で送信したビジネスメッセージに対して Acknowledgment メッセージを受信したあと、同じビジネスメッセージに対して Error メッセージを受信しました。

対処

ファイルに保存された Error メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01727-I

ビジネスメッセージの送信をキャンセルまたは強制終了したあとに、Error メッセージを受信しました。このメッセージを破棄します。(メッセージ識別子={0}、参照先メッセージ識別子={1})

An Error message was received after canceling or forcefully terminating the business message. This message will now be discarded. (message ID = {0}, ref to message ID = {1})

{0}: メッセージ識別子

{1}: 参照先メッセージ識別子

説明

ビジネスメッセージの送信をキャンセルまたは強制終了したあとに、Error メッセージを受信しました。

KDEB01728-I

BestEffort で送信したビジネスメッセージに対する Error メッセージを受信しました。(メッセージ識別子={0}、参照先メッセージ識別子={1})

An Error message was received regarding the business message that was sent by BestEffort. (message ID = {0}, ref to message ID = {1})

{0}: メッセージ識別子

{1}: 参照先メッセージ識別子

説明

BestEffort で送信したビジネスメッセージに対する Error メッセージを受信しました。

KDEB01729-I

Error メッセージの多重受信を検知しました。このメッセージを破棄します。(メッセージ識別子={0}、参照先メッセージ識別子={1})

Multiple received Error messages were detected. This message will now be discarded. (message ID = {0}, ref to message ID = {1})

{0}: メッセージ識別子

{1}: 参照先メッセージ識別子

説明

一度受信した Error メッセージを再度受信しました。

KDEB01730-E

非同期の応答メッセージを要求するビジネス送信に対して、同期応答メッセージを受信しました。このメッセージを不正メッセージとして処理します。(メッセージ識別子={0})

A sync response message was received for a business transmission that requests async response messages. Processing will be performed as if this message is invalid. (message ID = {0})

{0}: メッセージ識別子

説明

非同期応答を指定して送信したビジネスメッセージに対して、同期で Acknowledgment メッセージまたは Error メッセージを受信しました。

対処

ファイルに保存された ebXML メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01731-E

同期応答メッセージを要求するビジネス送信に対して、非同期で応答メッセージを受信しました。このメッセージを不正メッセージとして処理します。(メッセージ識別子={0})

An async response message was received for a business transmission that requests sync response messages. Processing will be performed as if this message is invalid. (message ID = {0})

{0}: メッセージ識別子

説明

同期応答を指定して送信したビジネスメッセージに対して、非同期で Acknowledgment メッセージまたは Error メッセージを受信しました。

対処

ファイルに保存された ebXML メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01732-E

ビジネスメッセージを受信しましたが、すでに TimeToLive を過ぎています。(メッセージ識別子={0})

A business message was received, but TimeToLive has already been exceeded. (message ID = {0})

{0}: メッセージ識別子

説明

受信メッセージのヘッダ情報にある TimeToLive 要素に指定された時刻を過ぎて、

10. メッセージ

ビジネスメッセージを受信しました。

対処

実際に ebXML メッセージを受信した時刻が、ebXML メッセージのヘッダ情報にある TimeToLive 要素に指定された時刻を超えています。送信パーティに連絡し、TimeToLive 要素の値を見直してもらってください。

KDEB01733-I

ビジネスメッセージの多重受信を検知しました。このメッセージを破棄します。(メッセージ識別子={0})

Multiple received business messages were detected. This message will now be discarded.
(message ID = {0})

{0}: メッセージ識別子

説明

一度受信したビジネスメッセージを再度受信しました。

KDEB01734-E

異常なビジネスメッセージを受信しましたが、同じメッセージ識別子を持つメッセージが存在します。このメッセージを不正メッセージとして処理します。(メッセージ識別子={0})

An invalid business message was received but a message with the same message ID exists.
Processing will be performed as if this message is invalid. (message ID = {0})

{0}: メッセージ識別子

説明

送信メッセージと同じメッセージ識別子を持つ不正なビジネスメッセージを受信しました。

対処

ファイルに保存された ebXML メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01735-E

サポートされていないメッセージを受信しましたが、同じメッセージ識別子を持つメッセージが存在します。このメッセージを不正メッセージとして処理します。(メッセージ識別子={0})

An unsupported message was received but a message with the same message ID exists.
Processing will be performed as if this message is invalid. (message ID = {0})

{0}: メッセージ識別子

説明

すでに存在するメッセージ識別子を持つ ebXML メッセージを受信しました。

対処

ファイルに保存された ebXML メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01736-I

Acknowledgment メッセージの多重受信を検知しました。このメッセージを破棄します。(メッセージ識別子={0}, 参照先メッセージ識別子={1})

Multiple received Acknowledgment messages were detected. This message will now be discarded. (message ID = {0}, ref to message ID = {1})

{0}: メッセージ識別子

{1}: 参照先メッセージ識別子

説明

一度受信した Acknowledgment メッセージを再度受信しました。

KDEB01737-I

ビジネスメッセージの送信をキャンセルまたは強制終了したあとに、Acknowledgment メッセージを受信しました。このメッセージを破棄します。(メッセージ識別子={0}, 参照先メッセージ識別子={1})

An Acknowledgment message was received after transmission of the business message was canceled or forcefully terminated. (message ID = {0}, ref to message ID = {1})

{0}: メッセージ識別子

{1}: 参照先メッセージ識別子

説明

送信を強制終了したビジネスメッセージに対する Acknowledgment メッセージを受信しました。

KDEB01738-E

BestEffort で送信したビジネスメッセージに対する Acknowledgment メッセージを受信しました。(メッセージ識別子={0}, 参照先メッセージ識別子={1})

An Acknowledgment message was received regarding the business message that was sent by BestEffort. (message ID = {0}, ref to message ID = {1})

{0}: メッセージ識別子

{1}: 参照先メッセージ識別子

説明

BestEffort で送信したビジネスメッセージを参照先メッセージ識別子に持つ Acknowledgment メッセージを受信しました。

対処

ファイルに保存された Acknowledgment メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01739-E

Error メッセージの受信後に、Acknowledgment メッセージを受信しました。このメッセージを不正メッセージとして処理します。(メッセージ識別子={0}、参照先メッセージ識別子={1})

An Acknowledgment message was received after the Error message was received. Processing will be performed as if this message is invalid. (message ID = {0}, ref to message ID = {1})

{0}: メッセージ識別子

{1}: 参照先メッセージ識別子

説明

高信頼配信で送信したビジネスメッセージに対して Error メッセージを受信したあとに、同じメッセージに対して Acknowledgment メッセージを受信しました。

対処

ファイルに保存された Acknowledgment メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01740-E

Acknowledgment メッセージの電子署名検証に失敗しました。(メッセージ識別子={0}、参照先メッセージ識別子={1})

An attempt to verify the electronic signature of the Acknowledgment message has failed. (message ID = {0}, ref to message ID = {1})

{0}: メッセージ識別子

{1}: 参照先メッセージ識別子

説明

Acknowledgment メッセージを受信しましたが、XML 電子署名の検証に失敗しました。

対処

CPA ファイルに設定されている XML 電子署名に関する情報が正しく設定されているかを確認してください。

KDEB01741-E

電子署名付き Acknowledgment メッセージが参照するビジネスメッセージがデータベース中に存在しません。(メッセージ識別子 = {0}, 参照先メッセージ識別子 = {1})

The business message that references Acknowledgment messages with an electronic signature does not exist in the database. (message ID = {0}, ref to message ID = {1})

{0}: メッセージ識別子

{1}: 参照先メッセージ識別子

説明

Acknowledgment メッセージの署名検証中に、参照先のビジネスメッセージ取得に失敗しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01742-E

Acknowledgment メッセージが持つメッセージダイジェストと、参照先のビジネスメッセージのメッセージダイジェストが異なります。(メッセージ識別子 = {0}, 参照先メッセージ識別子 = {1})

The message digest of the Acknowledgment message is different from the message digest for the business message of the ref to message. (message ID = {0}, ref to message ID = {1})

{0}: メッセージ識別子

{1}: 参照先メッセージ識別子

説明

Acknowledgment メッセージが持つメッセージダイジェストと、参照先のビジネスメッセージが持つメッセージダイジェストの比較で失敗しました。

対処

ファイルに保存された Acknowledgment メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01745-E

{0} メッセージを受信しましたが、{1} 要素が存在しません。(メッセージ識別子 = {2})

The {0} message was received but the {1} element does not exist. (message ID = {2})

{0}: 受信メッセージ種別

{1}: メッセージの要素名

{2}: メッセージ識別子

説明

ebXML メッセージを受信しましたが、必須の要素がメッセージにありません。

10. メッセージ

対処

ファイルに保存された ebXML メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01746-E

ペイロードの数が許容量を超えました。(最大値={0})

The number of payloads exceeded the allowable capacity. (max. value = {0})

{0}: ペイロードの最大数

説明

受信メッセージのペイロードに指定したファイルの数が最大値を超えました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (PERSIST コンテナの PAYLOAD_MAX_NUM キー) の値を見直してください。

KDEB01747-E

ペイロードの合計サイズが許容量を超えました。(最大サイズ={0}MB)

The total size of the payloads exceeded the allowable capacity. (max. size = {0})

{0}: ペイロードの最大サイズ

説明

受信メッセージのペイロードに指定したファイルの合計サイズが最大値を超えました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (PERSIST コンテナの PAYLOAD_MAX_SIZE キー) の値を見直してください。

KDEB01748-E

CPA ファイルにサービスとアクションが存在しません。(CPA 識別子={0}, サービス={1}, アクション={2})

The Service and Action do not exist in the CPA. (CPA ID = {0}, Service = {1}, Action = {2})

{0}: CPA 識別子

{1}: サービス

{2}: アクション

説明

CPA ファイルにサービスとアクションがありません。

対処

サービスとアクションが CPA ファイルにあるかどうかを確認し、送信パーティに再

度メッセージを送信してもらってください。

KDEB01749-E

このメッセージはサポートされていません。({0})

This message is not supported. ({0})

{0}: 詳細情報

説明

サポートしていない ebXML メッセージを受信しました。

対処

ファイルに保存された ebXML メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01752-E

コンテンツタイプの長さが 255 バイトを超えました。

The size of Content-Type exceeded 255 bytes.

説明

コンテンツタイプの長さが制限値の 255 バイトを超えました。

対処

ファイルに保存された ebXML メッセージを確認し、送信パーティに連絡してください。なお、不正な ebXML メッセージがファイルに保存されるのは、MSH 実行環境定義ファイル (MESSAGING コンテナの INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG キー) の値が TRUE の場合です。

KDEB01753-I

ビジネスメッセージの送信が失敗した後に Acknowledgment メッセージを受信しました。このメッセージを破棄します。(メッセージ識別子={0}, 参照先メッセージ識別子={1})

An Acknowledgment message was received after transmission of the business message was failed. This message will now be discarded.(message ID = {0}, ref to message ID = {1})

{0}: メッセージ識別子

{1}: 参照先メッセージ識別子

説明

送信したビジネスメッセージの再送回数が最大再送回数を超えたか、または有効期限が切れたビジネスメッセージに対応する Acknowledgment メッセージを受信しました。受信メッセージを破棄します。

対処

10. メッセージ

CPA ファイルに設定されているリトライ回数，およびリトライ間隔が小さ過ぎないかを確認してください。

KDEB01754-I

ビジネスメッセージの送信が失敗した後に Error メッセージを受信しました。このメッセージを破棄します。(メッセージ識別子={0}，参照先メッセージ識別子={1})

An Error message was received after transmission of the business message was failed. This message will now be discarded. (message ID = {0}, ref to message ID = {1})

{0}: メッセージ識別子

{1}: 参照先メッセージ識別子

説明

送信したビジネスメッセージの再送回数が最大再送回数を超えたか，または有効期限が切れたビジネスメッセージに対応する Error メッセージを受信しました。受信メッセージを破棄します。

対処

CPA ファイルに設定されているリトライ回数，およびリトライ間隔が小さ過ぎないかを確認してください。

KDEB01800-W

タイムアウト通知を受け付けましたが，閉塞状態のため無視します。(タイマー識別子={0})

A timeout notification was accepted but it will be ignored because of a blocked status. (timer ID = {0})

{0}: タイマー識別子

説明

uCosminexus Message Service for ebXML が閉塞している状態で，タイマーからタイムアウト通知を受けました。

対処

閉塞した原因を取り除き，uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB01801-W

タイマーから AP 通知要求を受け付けましたが，メッセージングコンテキストの状態と一致しません。このタイマー情報をキャンセルします。(タイマー識別子={0}，メッセージングコンテキスト識別子={1}，状態={2})

An AP notification request was accepted from the timer, but it does not match the status of the messaging context. This timer information will be canceled. (timer ID = {0}, messaging context ID = {1}, state = {2})

{0}: タイマー識別子

{1}: メッセージングコンテキスト識別子

{2}: メッセージングコンテキストの状態

説明

次の原因が考えられます。

- ebXML メッセージ受信処理でトランザクションがタイムアウトした。
- ebXML メッセージ受信処理でコミットに失敗した。

対処

頻繁に発生する場合は、トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01802-W

タイマーからビジネスメッセージ送信要求を受け付けましたが、メッセージングコンテキストの状態と一致しません。このタイマー情報をキャンセルします。(タイマー識別子={0}, メッセージングコンテキスト識別子={1}, 状態={2})

A business message transmission request was accepted from the timer, but it does not match the status of the messaging context. This timer information will be canceled. (timer ID = {0}, messaging context ID = {1}, state = {2})

{0}: タイマー識別子

{1}: メッセージングコンテキスト識別子

{2}: メッセージングコンテキストの状態

説明

次の原因が考えられます。

- ビジネスメッセージ送信コマンドでトランザクションがタイムアウトした。
- ビジネスメッセージ送信コマンドでコミットに失敗した。

対処

頻繁に発生する場合は、トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01803-W

タイマーからシグナルメッセージ送信要求を受け付けましたが、メッセージングコンテキストの状態と一致しません。このタイマー情報をキャンセルします。(タイマー識別子={0}, メッセージングコンテキスト識別子={1}, 状態={2})

A signal message transmission request was accepted from the timer, but it does not match the status of the messaging context. This timer information will be canceled. (timer ID = {0}, messaging context ID = {1}, state = {2})

{0}: タイマー識別子

{1}: メッセージングコンテキスト識別子

{2}: メッセージングコンテキストの状態

説明

以下の原因が考えられます。

- ebXML メッセージ受信処理でトランザクションがタイムアウトした。

10. メッセージ

- ebXML メッセージ受信処理でコミットに失敗した。

対処

頻繁に発生する場合は、トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01804-E

ビジネスメッセージの再送回数が Retries 要素に指定した値を超えました。

The number of resends for the business message exceeded the value specified in the Retries element.

説明

ビジネスメッセージの送信でリトライアウトが発生しました。

対処

相手パーティに連絡して、相手パーティのサーバが起動しているかを確認してください。

KDEB01805-E

ビジネスメッセージ送信中に TimeToLive 要素に指定した時間を過ぎました。

The time specified in the TimeToLive element elapsed while sending the business message.

説明

ビジネスメッセージを送信しようとしたのですが、すでにヘッダ情報にある TimeToLive 要素に指定した時刻を過ぎています。

対処

CPA 拡張定義ファイルの DurationTime 要素に指定されている値が短過ぎないかを確認してください。

KDEB01806-I

ビジネスメッセージを再送します。(メッセージ識別子={0}, 再送回数={1})

The business message will now be resent. (message ID = {0}, number of resends = {1})

{0}: メッセージ識別子

{1}: 再送回数

説明

ビジネスメッセージを再送します。

KDEB01850-E

タイムアウト通知情報と通知先が一致しません。MSH 実行環境定義に誤りがあります。(タイマー識別子={0})

The timeout notification information does not match the notification destination. The MSH environment definition is invalid. (timer ID = {0})

{0}: タイマー識別子

説明

送信タイマーから AP 通知要求を受けたか、または AP 通知タイマーから送信要求を受けました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01851-E

タイマーテーブルの情報とメッセージングコンテキストの状態が矛盾しています。この処理要求を破棄します。(タイマー識別子={0})

The timer table information conflicts with the status of the messaging context. This processing request will now be discarded. (timer ID = {0})

{0}: タイマー識別子

説明

タイムアウト通知が起り得ない状態で、タイマーからタイムアウト通知を受けました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01852-E

タイマー処理中にエラーが発生したため、トランザクションをロールバックしました。

The transaction was rolled back because an error occurred during timer processing.

説明

タイマー監視中にトランザクションをロールバックしました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB01853-E

タイマー情報がタイマーテーブルに存在しません。(タイマー識別子={0})

The timer information does not exist in the timer table. (timer ID = {0})

{0}: タイマー識別子

説明

タイマー情報がタイマーテーブルにありません。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB01854-E

高信頼配信の送信にもかかわらず，ReliableMessaging 要素が設定されていません。処理を続行できません。(メッセージ交換定義識別子={0})

The ReliableMessaging element has not been set, even though reliable messaging is being sent. (messaging definition ID = {0})

{0}: メッセージ交換定義識別子

説明

高信頼配信でビジネスメッセージを送信しようとしたのですが，メッセージ交換定義ファイルに ReliableMessaging 要素が存在しません。

対処

CPA ファイルに ReliableMessaging 要素が指定されているかを確認してください。

KDEB01857-E

タイマー処理中に一時的なエラーが発生しました。次回のタイムアウト通知まで処理しません。(タイマー識別子={0})

A temporary error occurred during timer processing. Processing will not be performed until the next timeout notification. (timer ID = {0})

{0}: タイマー識別子

説明

タイマー監視中に一時的なエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージからエラーの原因を特定し，原因を取り除いたあと，タイマー回復コマンドを実行してください。

KDEB01859-E

タイムアウト通知を受け付けましたが，タイマー情報が不正です。(タイマー識別子={0})

The timeout notification was accepted but the timer information is invalid. (timer ID = {0})

{0}: タイマー識別子

説明

タイムアウト通知を受け付けましたが，タイマー情報の内容が壊れています。

対処

トレースを採取し，保守員に連絡してください。

10.4 KDEB02001 ~ KDEB03000 のメッセージ

KDEB02001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB02002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB02003-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB02004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

10. メッセージ

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB02005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB02006-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB02040-W

XML スキーマ検証で Warning が発生しました。(ファイル名={0})(詳細情報={1})

A warning occurred during XML schema validation. (file name = {0}) (details = {1})

{0}: ファイル名

{1}: 詳細情報

説明

定義ファイルの検証中に、不正を検知しました。処理を継続します。

対処

詳細内容に表示されている情報を参照して、定義ファイルを見直してください。

KDEB02041-E

XML スキーマ検証で Error が発生しました。(ファイル名={0})(詳細情報={1})

An error occurred during XML schema validation. (file name = {0}) (details = {1})

{0}: ファイル名

{1}: 詳細情報

説明

定義ファイルの検証中に不正を検知しました。

対処

詳細内容に表示されている情報を参照して、定義ファイルを見直してください。

KDEB02042-E

XML スキーマ検証で FatalError が発生しました。(ファイル名 = {0})(詳細情報 = {1})

A fatal error occurred during XML schema validation. (file name = {0}) (details = {1})

{0}: ファイル名

{1}: 詳細情報

説明

定義ファイルの検証中に不正を検知しました。

対処

詳細内容に表示されている情報を参照して、定義ファイルを見直してください。

KDEB02050-I

Usage: MSHSendMessage -cf <Send Configuration File>

[-md <Messaging Definition Id>]

[-s <Service>]

[-st <Service Type>]

[-a <Action>]

[-ci <Conversation Id>]

[-mi <Message Id>]

[-rm <Ref To Message Id>]

[<Payload Path>...]

or MSHSendMessage -md <Messaging Definition Id>

-s <Service>

[-st <Service Type>]

-a <Action>

[-ci <Conversation Id>]

[-mi <Message Id>]

[-rm <Ref To Message Id>]

[<Payload Path>...]

Usage: MSHSendMessage -cf <Send Configuration File>

10. メッセージ

[-md <Messaging Definition Id>]

[-s <Service>]

[-st <Service Type>]

[-a <Action>]

[-ci <Conversation Id>]

[-mi <Message Id>]

[-rm <Ref To Message Id>]

[<Payload Path>...]

or MSHSendMessage -md <Messaging Definition Id>

-s <Service>

[-st <Service Type>]

-a <Action>

[-ci <Conversation Id>]

[-mi <Message Id>]

[-rm <Ref To Message Id>]

[<Payload Path>...]

説明

Usage としてビジネスメッセージ送信コマンドの記述形式を示します。

KDEB02051-I

送信コマンドが正常終了しました。(メッセージングコンテキスト識別子={0})

The send command finished normally. (messaging context ID = {0})

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

ビジネスメッセージの送信が完了しました。

KDEB02052-W

0 バイトのファイルが指定されました。(パス={0})

A file with zero bytes was specified. (path = {0})

{0}: ファイルパス

説明

0 バイトのペイロードを引数に指定しました。

KDEB02053-W

空のディレクトリが指定されました。(パス={0})

An empty directory was specified. (path = {0})

{0}: ディレクトリパス

説明

空のディレクトリを指定しました。

KDEB02054-E

予期しない内部エラーが発生しました。(詳細情報={0})

An unexpected internal error occurred. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

予期しない内部エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB02055-E

定義の初期化に失敗しました。(詳細情報={0})

An attempt to initialize the definition has failed. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

MSH 実行環境定義ファイルの取得に失敗しました。

対処

MSH 実行環境定義ファイルがあるか、またはアクセス権が正しいかを確認してください。

KDEB02056-E

トレースの初期化に失敗しました。(詳細情報={0})

An attempt to initialize the trace has failed. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

トレースの初期化に失敗しました。

対処

実行環境参照定義ファイルを見直してください。

また、uCosminexus Application Server の J2EE サーバ用オプション定義ファイルの設定を確認してください。uCosminexus Application Server の J2EE サーバ用オプション定義ファイルの設定の詳細については、「3.6.2(2) J2EE サーバ用オプショ

ン定義ファイル」を参照してください。

KDEB02057-E

初期化に失敗しました。(詳細情報 = {0})

Initialization has failed. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

MSH 実行環境定義ファイルの値の取得に失敗しました。

対処

MSH 実行環境定義ファイルを見直してください。

KDEB02058-E

必須の引数が指定されていません。

A required parameter has not been specified.

説明

引数が指定されていないか、または一つしか指定されていません。

対処

正しい形式でコマンドを実行してください。

KDEB02059-E

不正な引数が指定されました。(文字列 = {0})

An invalid parameter has been specified. (string = {0})

{0}: 引数の文字列長

説明

引数の文字列長が規定値を超えて指定されました。

対処

引数の指定が OS の制限を超えたため、-cf オプションで送信情報ファイルを指定することを検討してください。

KDEB02060-E

同じオプションが指定されました。(オプションコード = {0})

The same option was specified. (option code = {0})

{0}: オプションコード

説明

コマンドの引数に同じオプションが指定されました。

対処

正しい形式でコマンドを実行してください。

KDEB02061-E

オプションの引数が指定されていません。(オプションコード={0})

The parameter for the option has not been specified. (option code = {0})

{0}: オプションコード

説明

オプションの引数が設定されていません。

対処

正しい形式でコマンドを実行してください。

KDEB02062-E

オプションの指定位置が不正です。(オプションコード={0})

The specified position of the option is invalid. (option code = {0})

{0}: オプションコード

説明

オプションの指定位置を誤っています。

対処

正しい形式でコマンドを実行してください。

KDEB02063-E

指定されたファイルまたはディレクトリが存在しません。(パス={0})

The specified file or directory does not exist. (path = {0})

{0}: ファイルまたはディレクトリパス

説明

指定されたファイルまたはディレクトリパスがありません。

対処

実際に存在するファイルまたはディレクトリを指定するか、または、指定したファイルまたはディレクトリのアクセス権限を見直してください。

KDEB02064-E

必須の引数が指定されていません。(オプションコード={0})

A required option has not been specified. (option code = {0})

{0}: オプションコード

説明

必須オプションが指定されていません。

対処

必須オプションを指定してください。

KDEB02065-E

有効なペイロード情報が指定されていないため、送信を中止しました。

The transmission was canceled because valid payload information has not been specified.

説明

0 バイトのペイロードだけが引数に指定されました。

対処

送信するペイロードの合計サイズは 1 バイト以上にしてください。

KDEB02066-E

ファイル名の文字列長が {0} バイトを超えています。(文字列={1})

The string length of the file name has exceeded {0} bytes. (string = {1})

{0}: 規定値のバイト数

{1}: 文字列

説明

規定値を超えるバイト数のファイル名がペイロードとして指定されました。

対処

ペイロードのファイル名を 63 バイト以内にしてください。

KDEB02067-E

ペイロードのファイル数が規定値を超えています。(規定値={0})

The number of files for the payload exceeded the stipulated value. (stipulated value = {0})

{0}: 最大ペイロード数

説明

ペイロードのファイル数が規定値を超えて指定されました。

対処

MSH 実行環境定義 (PERSIST コンテナの PAYLOAD_MAX_NUM キー) に指定した値を見直すか、または送信するペイロードの数を少なくしてください。

KDEB02068-E

ペイロードの合計バイト数が規定値を超えています。(規定値={0}MB)

The total number of bytes for the payload exceeded the stipulated value. (stipulated value = {0} MB)

{0}: 最大ペイロードサイズ

説明

ペイロードの合計バイト数が規定値を超えて指定されました。

対処

MSH 実行環境定義 (PERSIST コンテナの PAYLOAD_MAX_SIZE キー) に指定した値を見直すか、または送信するペイロードのサイズを小さくしてください。

KDEB02069-E

ペイロード情報生成中にエラーが発生しました。(詳細情報 = {0})

An error occurred while creating payload information. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

ペイロードコンテナ情報生成中にエラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB02070-E

送信情報ファイルが存在しません。(パス = {0})

The transmission information file does not exist. (path = {0})

{0}: ファイルパス

説明

送信情報ファイルがありません。

対処

-cf オプションに、実際に存在する送信情報ファイルを指定してください。

KDEB02071-E

送信情報ファイルのスキーマに誤りがあります。(パス = {0})

The schema for the transmission information file is invalid. (path = {0})

{0}: ファイルパス

説明

送信情報ファイルのスキーマに誤りがあります。

対処

送信情報ファイルの内容を見直してください。

KDEB02072-E

送信情報ファイルの読み込みに失敗しました。(詳細情報 = {0})

An attempt to read the transmission information file has failed. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

送信情報ファイルのコンフィグレーション操作でエラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB02073-E

送信情報ファイル内のキー値の文字列長が規定値を超えています。(キー={0})

The string length for the key value of the transmission information file exceeded the stipulated value. (key = {0})

{0}: 送信情報ファイルのキー

説明

該当キーの文字列長が規定値を超えて指定されました。

対処

該当するキーに指定する値の長さを見直してください。

KDEB02074-E

送信情報ファイルに必須項目が指定されていません。(キー={0})

A required item has not been specified in the transmission information file. (key = {0}).

{0}: 送信情報ファイルのキー

説明

ビジネスメッセージ送信に必要な情報が指定されていません。

対処

送信情報ファイルの必須項目に値を指定してください。

KDEB02075-E

MIME コンテントタイプマッピングファイルが存在しません。(パス={0})

The MIME ContentType mapping file does not exist. (path = {0})

{0}: パス

説明

MIME コンテントタイプマッピングファイルがありません。

対処

MSH 実行環境ディレクトリ下に MIME コンテントタイプマッピングファイルを作成してください。

KDEB02076-E

MIME コンテントタイプマッピングファイルに誤りがあります。(行={0})

The MIME ContentType mapping file is invalid. (line = {0})

{0}: 行番号

説明

MIME コンテントタイプマッピングファイルが KEY 値=VALUE 値の形式で指定されていません。

対処

MIME コンテントタイプマッピングファイルの形式を見直してください。

KDEB02077-E

MIME コンテントタイプマッピングファイルの読み込みに失敗しました。(詳細情報 ={0})

An attempt to read the MIME ContentType mapping file has failed. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

MIME コンテントタイプマッピングファイルを読み込み中にエラーが発生しました。

対処

MIME コンテントタイプマッピングファイルの形式を見直してください。

KDEB02078-E

MSH の送信処理で予期しないパラメタ不正が発生しました。(詳細情報 ={0})

An unexpected parameter error occurred during MSH send processing. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

内部で引数不正がありました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB02079-E

MSH の送信処理でエラーが発生しました。(詳細情報 ={0})

An error occurred during MSH send processing. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

uCosminexus Message Service for ebXML 内でエラーが発生しました。

対処

詳細情報を参照し対処してください。

KDEB02080-I

引数情報 ({0})

Parameter information ({0})

{0}: 引数情報

説明

引数情報を示します。

KDEB02081-I

送信パラメタ情報 ({0})

Send parameter information ({0})

{0}: 送信パラメタ情報

説明

送信パラメタ情報を示します。

KDEB02101-E

データベースの接続に失敗しました。 ({0})

An attempt to connect to the database has failed. ({0})

{0}: データベースのエラーコード

説明

データベースの接続先に誤りがあるか、またはデータベースが起動していないため、データベースへの接続に失敗しました。

対処

エラーコードを基に、該当する HiRDB のメッセージの対処に従ってください。エラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係については、「10.1.2(2) データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係」を参照してください。

KDEB02104-I

送信メッセージの検索を終了します。 ({0})

The search for the sent message finished. {0}

{0}: ヒットレコード数

説明

送信メッセージの検索を終了しました。

KDEB02106-I

受信メッセージの検索を終了します。 ({0})

The search for the received message finished. {0}

{0}: ヒットレコード数

説明

受信メッセージの検索を終了しました。

KDEB02108-I

該当するメッセージが存在しません。

The corresponding message does not exist.

説明

検索条件に該当するビジネスメッセージはありません。

KDEB02109-E

日付の入力形式が不正です。({0})({1})

The format for the entered date is invalid. ({0}) ({1})

{0}: 不正箇所

{1}: 不正値

説明

ユーザーが入力する日付が不正です。

対処

正しい値を入力してください。

KDEB02110-E

状態が指定されていません。

The status has not been specified.

説明

必須項目の状態が一つも指定されていません。

対処

正しい値を入力してください。

KDEB02111-E

データベースアクセスエラーが発生しました。({0})

A database access error occurred. ({0})

{0}: データベースのエラーコード

説明

データベースアクセスエラーが発生しました。

対処

エラーコードを基に、該当する HiRDB のメッセージの対処に従ってください。エラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係については、「10.1.2(2) データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係」を参照してください。

KDEB02114-E

予期しない内部エラーが発生しました。({0})

An unexpected internal error occurred. ({0})

{0}: 詳細

説明

予期しない内部エラーが発生しました。

10. メッセージ

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB02115-E

ページ番号 {0} が不正です。

Page number {0} is invalid.

{0}: ページ番号

説明

ユーザーが入力したページ番号が不正です。

対処

正しい値を入力してください。

KDEB02116-E

入力値 (サービス) は 255 バイト以内です。

The entered value (Service) must be 255 bytes or less.

説明

ユーザーが入力するサービスが不正です。

対処

正しい値を入力してください。

KDEB02117-E

入力値 (アクション) は 255 バイト以内です。

The entered value (Action) must be 255 bytes or less.

説明

ユーザーが入力したアクションは不正です。

対処

正しい値を入力してください。

KDEB02118-E

入力値 (送信者) は 63 バイト以内です。

The entered value (Sender) must be 63 bytes or less.

説明

ユーザーが入力した送信者は不正です。

対処

正しい値を入力してください。

KDEB02119-E

入力値 (受信者) は 63 バイト以内です。

The entered value (Receiver) must be 63 bytes or less.

説明

ユーザーが入力した受信者は不正です。

対処

正しい値を入力してください。

KDEB02120-E

開始日時が終了日時を超えています。

The starting date exceeds the finishing data.

説明

ユーザーが指定した開始日時は終了日時を超えています。

対処

正しい値を入力してください。

KDEB02121-I

指定したページは、すでに表示されています。

The specified page is already displayed.

説明

運用支援 GUI のページ指定で同一ページを指定しました。

KDEB02122-I

運用支援 GUI を開始しました。

The Operational GUI started.

説明

運用支援 GUI を開始しました。

KDEB02123-I

運用支援 GUI を終了しました。

The Operational GUI finished.

説明

運用支援 GUI を終了しました。

KDEB02124-W

実行環境参照定義ファイルの取得に失敗したため、共通トレースが使用できません。
Cosminexus のユーザートレースを代わりに使用します。

The common trace cannot be used because an attempt to acquire the definition file for environment references failed. The Cosminexus user trace will be used instead.

説明

実行環境参照定義ファイルから共通トレースの情報を取得できません。

対処

実行環境参照定義ファイルがあるかどうか、アクセス権に問題がないかなどを確認してください。

KDEB02125-E

入力値 (メッセージングコンテキスト識別子) は 63 バイト以内です。

The entered value (messaging context ID) is equal to or less than 63 bytes.

説明

ユーザーが入力したメッセージングコンテキスト識別子は不正です。

対処

正しい値を入力してください。

KDEB02126-E

入力値 (ユーザー ID) は 20 バイト以内の半角英数文字列です。

The entered value (user ID) must be an alphanumeric string of 20 bytes or less.

説明

ユーザーが入力したユーザー ID は不正です。

対処

正しい値を入力してください。

KDEB02127-E

ユーザー ID を指定してください。

Specify the user ID.

説明

ユーザー ID が指定されていません。

対処

ユーザー ID を指定してください。

KDEB02128-E

入力値 (パスワード) は 20 バイト以内の半角英数文字列です。

The entered value (password) must be an alphanumeric string of 20 bytes or less.

説明

ユーザーが入力したパスワードは不正です。

対処

正しい値を入力してください。

KDEB02129-E

パスワードを指定してください。

Specify the password.

説明

パスワードが指定されていません。

対処

パスワードを指定してください。

KDEB02130-E

ユーザー認証に失敗しました。

An attempt to authenticate the user has failed.

説明

ユーザー認証に失敗しました。

対処

正しいユーザー ID およびパスワードを入力し、再度認証してください。

KDEB02131-E

セッションがタイムアウトしたか、またはセッションが無効です。ログインページから再度、実行してください。

The session timed out or the session is invalid. Re-execute from the login page.

説明

セッションがタイムアウトされたか、または無効なセッションでアクセスされました。

対処

ログイン画面から再度ログインしてください。

KDEB02132-I

ユーザーがログインしました。({0})

The user logged in. ({0})

{0}: セッション ID

説明

10. メッセージ

ユーザーがログインしました。

KDEB02133-I

ユーザーがログアウトしました。({0})

The user logged out. ({0})

{0}: セッション ID

説明

ユーザーがログアウトしました。

KDEB02201-E

内部エラーが発生したため、オペレーションに失敗しました。({0})

The operation failed because an internal error occurred. ({0})

{0}: 詳細

説明

内部エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB02202-E

データベースの接続に失敗しました。({0})

An attempt to connect to the database has failed. ({0})

{0}: データベースのエラーコード

説明

データベースの接続先に誤りがあるか、またはデータベースの接続に失敗しました。

対処

エラーコードを基に、該当する HiRDB のメッセージの対処に従ってください。エラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係については、「10.1.2(2) データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係」を参照してください。

KDEB02203-E

データベースアクセスエラーが発生しました。({0})

A database access error occurred. ({0})

{0}: データベースのエラーコード

説明

データベースアクセスエラーが発生しました。

対処

エラーコードを基に、該当する HiRDB のメッセージの対処に従ってください。エ

ラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係については、「10.1.2(2) データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係」を参照してください。

KDEB02204-E

引数が不正です。

The parameter is invalid.

説明

コマンドパラメタが不正です。

対処

正しいコマンドパラメタで実行してください。

KDEB02205-E

引数が不正です。({0})

The parameter is invalid. ({0})

{0}: 不正引数

説明

コマンドパラメタが不正です。複数のパラメタが不正の場合は、最初に発生するものだけを表示します。

対処

正しいコマンドパラメタで実行してください。

KDEB02207-E

ファイル({0})のオープンに失敗しました。

An attempt to open the file ({0}) has failed.

{0}: ファイル名

説明

ファイルを開けませんでした。

対処

該当するファイルがあるかどうかを確認してください。

KDEB02208-E

APIの呼び出しでエラーが発生しました。(詳細情報 = {0})

An error occurred while calling the API. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

プログラム内部の EJB オブジェクトを呼び出すときにエラーが発生しました。

対処

10. メッセージ

uCosminexus Message Service for ebXML が正常に起動されているかを確認してください。
また、MSH 実行環境定義ファイル (END_POINT コンテナ) の各設定値が正しく設定されているかを確認してください。

KDEB02209-E

API({0}) の実行中にエラーが発生しました。(詳細情報 = {1})

An error occurred while executing the API ({0}). (details = {1})

{0}: 実行中の API メソッド名

{1}: 詳細情報

説明

プログラム内部の API の実行中にエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB02251-I

Usage: MSHCheckConfig

Usage: MSHCheckConfig

説明

Usage として MSH 実行環境定義チェックコマンドの記述形式を示します。

KDEB02252-I

引数情報 ({0})

Parameter information ({0})

{0}: 引数情報

説明

引数情報を示します。

KDEB02253-I

MSH 実行環境の定義内容のチェックに成功しました。

The defined contents of the MSH environment were checked successfully.

説明

MSH 実行環境定義ファイルの定義内容のチェックが正常に終了しました。

KDEB02254-E

MSH 実行環境の定義内容のチェックに失敗しました。

An attempt to check the defined contents of the MSH environment has failed.

説明

MSH 実行環境ファイルの定義内容のチェックに失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB02255-E

実行環境参照定義ファイルの内容が不正です。({0})({1})

The contents of the definition file for environment references is invalid. ({0}) ({1})

{0}: ファイルパス

{1}: 不正個所

説明

実行環境参照定義ファイルの内容が不正です。

対処

実行環境参照定義ファイルの内容を見直してください。

KDEB02257-E

MSH 実行環境定義ファイルの内容が不正です。({0})({1})

The contents of the definition file for the MSH environment is invalid. ({0}) ({1})

{0}: ファイルパス

{1}: 不正個所

説明

MSH 実行環境定義ファイルの内容が不正です。

対処

MSH 実行環境定義ファイルの内容を見直してください。

KDEB02258-E

実行環境参照定義ファイルが存在しません。({0})

The definition file for environment references does not exist. ({0})

{0}: ファイルパス

説明

実行環境参照定義ファイルがありません。

対処

実行環境参照定義ファイルがあるかどうかを確認してください。

KDEB02260-E

MSH 実行環境定義ファイルが存在しません。({0})

The definition file for the MSH environment does not exist. ({0})

10. メッセージ

{0}: ファイルパス

説明

MSH 実行環境定義ファイルがありません。

対処

MSH 実行環境定義ファイルがあるかどうかを確認してください。

KDEB02261-E

実行環境参照定義ファイルにアクセス権がありません。({0})

You do not have permission to access the definition file for environment references. ({0})

{0}: ファイルパス

説明

実行環境参照定義ファイルにアクセス権がありません。

対処

実行環境参照定義ファイルのアクセス権を見直してください。

KDEB02263-E

MSH 実行環境定義ファイルにアクセス権がありません。({0})

You do not have permission to access the definition file for the MSH environment. ({0})

{0}: ファイルパス

説明

MSH 実行環境定義ファイルにアクセス権がありません。

対処

MSH 実行環境定義ファイルのアクセス権を見直してください。

KDEB02264-E

送信結果 / 受信定義ファイルチェックで内部エラーが発生しました。({0})

An internal error occurred while checking the definition file for transmission results/received. ({0})

{0}: 詳細

説明

予期しない内部エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB02265-E

送信結果 / 受信定義ファイルが存在しません。({0})

The definition file for transmission results/received does not exist. ({0})

{0}: ファイルパス

説明

送信結果 / 受信定義ファイルがありません。

対処

送信結果 / 受信定義ファイルがあるかどうかを確認してください。

KDEB02266-E

送信結果 / 受信定義ファイルにアクセス権がありません。 ({0})

You do not have permission to access the definition file for transmission results/received. ({0})

{0}: ファイルパス

説明

送信結果 / 受信定義ファイルにアクセス権がありません。

対処

送信結果 / 受信定義ファイルのアクセス権を見直してください。

KDEB02267-E

送信結果 / 受信定義ファイルの内容が不正です。 ({0})

The contents of the definition file for transmission results/received is invalid. ({0})

{0}: 不正箇所

説明

送信結果 / 受信定義ファイルの内容が不正です。

対処

送信結果 / 受信定義ファイルの不正箇所として出力されている項目の内容を見直してください。

KDEB02268-I

Usage: MSHCheckRcvDef

Usage: MSHCheckRcvDef

説明

Usage として送信結果 / 受信定義チェックコマンドの記述形式を示します。

KDEB02269-I

送信結果 / 受信定義ファイルの定義内容のチェックに成功しました。

The defined contents of the definition file for transmission results/received were checked successfully.

説明

送信結果 / 受信定義ファイルの定義内容のチェックが正常に終了しました。

KDEB02270-E

送信結果 / 受信定義ファイルで指定されているディレクトリ名が不正です。({0})

The folder name specified in the definition file for transmission results/received is invalid. ({0})

{0}: 不正個所

説明

送信結果 / 受信定義ファイルで指定されているディレクトリ名が不正です。

対処

送信結果 / 受信定義ファイルの不正個所として出力されている項目で指定されているディレクトリ名を見直してください。

KDEB02271-E

タイマーと MSH のトレースファイル名は異なる必要があります。

The trace filename of timer and msh must be different.

説明

送信タイマー, AP 通知タイマー, または uCosminexus Message Service for ebXML のファイル名が重複しています。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (TRACE コンテナ, MSH_SEND_TIMER コンテナ, および MSH_NOTIFYAP_TIMER コンテナの TRACE_FILE_NAME キー) には異なるファイルパスをそれぞれ指定してください。

KDEB02272-E

トレースファイルパスは, 共通トレースのパスと異なる必要があります。({0})

The trace file path should be different from the one of common trace. ({0})

{0}: キー名

説明

該当キーのトレースファイルパスが共通トレースのファイルパスと重複しています。

対処

該当する TRACE_FILE_NAME キーには, 実行環境参照定義ファイル (COMMON_TRACE コンテナの TRACE_FILE_NAME キー) と異なるファイルパスを指定してください。

KDEB02301-I

Usage: MSHDeployMsgDef -c <CPA File Path>

[-i <CPA Extend File Path>]

-p <Party Id>

Usage: MSHDeployMsgDef -c <CPA File Path>
 [-i <CPA Extend File Path>]
 -p <Party Id>

説明

Usage としてメッセージ交換定義導入コマンドの記述形式を示します。

KDEB02302-I

引数情報 ({0})

Parameter information ({0})

{0}: 引数情報

説明

引数情報を示します。

KDEB02303-I

メッセージ交換定義ファイルの生成に成功しました。({0})

The definition file for messaging was created successfully. ({0})

{0}: ファイルパス

説明

メッセージ交換定義ファイルが生成されました。

KDEB02304-E

メッセージ交換定義ファイルの生成に失敗しました。

An attempt to generate the definition file for messaging has failed.

説明

メッセージ交換定義ファイルの生成に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB02305-E

指定したファイルが存在しませんでした。({0})

The specified file did not exist. ({0})

{0}: ファイルパス

説明

指定したファイルがありません。

対処

指定したファイルがあるかどうかを確認してください。

KDEB02306-E

指定したファイルにアクセス権がありません。({0})

You do not have permission to access the specified file. ({0})

{0}: ファイルパス

説明

指定したファイルにアクセス権がありません。

対処

指定したファイルのアクセス権を見直してください。

KDEB02307-E

指定した CPA ファイルが不正です。({0})

The specified CPA file is invalid. ({0})

{0}: 不正個所

説明

指定した CPA ファイルが不正です。

対処

CPA ファイルを見直してください。

KDEB02308-E

指定した CPA 拡張定義ファイルが不正です。({0})

The definition file for the specified CPA extension is invalid. ({0})

{0}: 不正個所

説明

指定した CPA 拡張定義ファイルが不正です。

対処

CPA 拡張定義ファイルを見直してください。

KDEB02309-E

指定した引数に対応するメッセージ交換定義ファイルはすでに生成されています。

The definition file for the messaging that corresponds to the specified parameter has already been created.

説明

指定した引数に対応するメッセージ交換定義ファイルはすでに生成されています。

対処

指定した引数に対応するメッセージ交換定義ファイルは生成済みです。CPA ファイルに新たな cpaidd を付与して再度メッセージ交換定義ファイルを生成してください。

KDEB02310-E

指定したパーティ ID が CPA ファイルに複数存在します。

There are multiple instances of the specified party ID in the CPA file.

説明

指定したパーティ識別子が CPA ファイルに複数あります。

対処

パーティ識別子は、CPA ファイル内で重複させないでください。

KDEB02312-E

メッセージ交換定義ファイルの格納ディレクトリの作成に失敗しました。({0})

An attempt to create the storage directory for the definition file for messaging has failed. ({0})

{0}: ディレクトリパス

説明

メッセージ交換定義ファイルの生成ディレクトリが作成できませんでした。

対処

MSH 実行環境ディレクトリがあるかどうかを確認してください。

KDEB02313-E

メッセージ交換定義ファイルの格納ディレクトリにアクセス権がありません。({0})

You do not have permission to access the storage directory for the definition file for messaging. ({0})

{0}: ディレクトリパス

説明

メッセージ交換定義ファイルの生成ディレクトリに書き込み権限がありません。

対処

MSH 実行環境ディレクトリ、および MSH 実行環境ディレクトリ下の msgdefs ディレクトリに対する書き込み権限があるかを確認してください。

KDEB02351-I

Usage: MSHTerminateMessage [-f] -m <Messaging Context Id>

Usage: MSHTerminateMessage [-f] -m <Messaging Context Id>

説明

Usage としてビジネスメッセージ強制終了コマンドの記述形式を示します。

KDEB02352-I

引数情報 ({0})

Parameter information ({0})

10. メッセージ

{0}: 引数情報

説明

引数情報を示します。

KDEB02353-I

メッセージ ({0}) を "強制終了" 状態に変更しました。

The ({0}) message was changed to a "forced termination" state.

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

該当ビジネスメッセージの状態を CLOSED 状態にしました。

KDEB02354-E

"強制終了" 状態への変更に失敗しました。

An attempt to change to the "forced termination" state has failed.

説明

状態の変更に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB02355-W

強制終了対象として指定したメッセージは、すでに CLOSED 状態であるか、存在しません。

The message specified to be forcibly terminated already has a CLOSED state or does not exist.

説明

強制終了対象のビジネスメッセージがデータベースにない、または、すでに CLOSED 状態です。

対処

指定したビジネスメッセージのメッセージングコンテキスト識別子が正しいかどうかを確認してください。

KDEB02357-I

関連するタイマー監視情報が "実行" 状態でないか、存在しません。 ({0})

The related timer monitoring information is not in the "activate" state or does not exist. ({0})

{0}: テーブル名

説明

関連するタイマー監視情報が実行状態でないか、または存在しないことを示すメッセージです。動作上特に問題ありません。

KDEB02401-I

Usage: MSHRemoveMessage [-m <Messaging Context Id>
 [-d <Messaging Definition Id>
 [-f <Start Time>] [-t <End Time>
 [-c <Commit Cycle>]

Usage: MSHRemoveMessage [-m <Messaging Context Id>
 [-d <Messaging Definition Id>
 [-f <Start Time>] [-t <End Time>
 [-c <Commit Cycle>]

説明

Usage として永続化メッセージ削除コマンドの記述形式を示します。

KDEB02402-I

引数情報 ({0})

Parameter information ({0})

{0}: 引数情報

説明

引数情報を示します。

KDEB02403-I

合計 {0} 件のメッセージの削除に成功しました。

A total of {0} messages were deleted successfully.

{0}: 削除メッセージ数

説明

永続化メッセージの削除に成功しました。

KDEB02404-E

メッセージ削除に失敗しました。

An attempt to delete the message has failed.

説明

永続化メッセージの削除に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB02405-W

削除対象のメッセージが存在しません。

The message to be deleted does not exist.

説明

削除対象の永続化メッセージがデータベースにありません。

対処

異なる条件を指定して再度実行してください。

KDEB02406-I

削除対象のメッセージは {0} 件です。

There are {0} messages to be deleted.

{0}: 削除対象となる永続化メッセージ数

説明

指定した条件で削除される永続化メッセージの件数を示します。

KDEB02407-W

指定したメッセージのうち、削除できなかったメッセージがあります。

There are messages that could not be deleted among the specified messages.

説明

永続化メッセージの削除中にエラーが発生したため、一部の永続化メッセージを削除できませんでした。

対処

削除できなかった永続化メッセージについては、再度削除を実行してください。

KDEB02451-I

Usage: MSHReleaseMessage -m <Messaging Context Id>

Usage: MSHReleaseMessage -m <Messaging Context Id>

説明

Usage として一時停止メッセージ解除コマンドの記述形式を示します。

KDEB02452-I

引数情報 ({0})

Parameter information ({0})

{0}: 引数情報

説明

引数情報を示します。

KDEB02453-I

"一時停止" 状態のメッセージ ({0}) の解除に成功しました。

The ({0}) message in the "suspend" state was released successfully.

{0}: メッセージングコンテキスト識別子

説明

一時停止状態だったビジネスメッセージの解除に成功しました。

KDEB02454-E

"一時停止" 状態のメッセージの解除に失敗しました。

An attempt to release the message in the "suspend" state has failed.

説明

一時停止状態のビジネスメッセージの解除に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB02455-W

指定したメッセージは "一時停止" 状態でないか、存在しません。

The specified message is not in the "suspend" state or does not exist.

説明

対象となるビジネスメッセージが一時停止状態でないか、またはありません。

対処

指定するメッセージングコンテキスト識別子が正しいかどうかを確認してください。

KDEB02456-I

関連するタイマー監視情報が "一時停止" 状態でないか存在しません。 ({0})

The related timer monitoring information is not in the "suspend" state or does not exist. ({0})

{0}: テーブル名

説明

関連するタイマー監視情報が一時停止状態でないか、存在しないことを示すメッセージです。動作上特に問題ありません。

KDEB02501-I

Usage: MSHRegisterUser -cf <Administrator Registration File Path>

Usage: MSHRegisterUser -cf <Administrator Registration File Path>

説明

Usage として管理者情報登録コマンドの記述形式を示します。

KDEB02502-I

引数情報 ({0})

Parameter information ({0})

{0}: 引数情報

説明

引数情報を示します。

KDEB02504-E

管理者情報登録ファイル ({0}) が存在しません。

The file ({0}) for registering administrator information does not exist.

{0}: ファイルパス

説明

管理者情報登録ファイルがありません。

対処

存在する管理者情報登録ファイルを指定してください。

KDEB02505-E

管理者情報登録ファイル ({0}) が読み込めません。

The file ({0}) for registering administrator information cannot be read.

{0}: ファイルパス

説明

管理者情報登録ファイルが読み込めません。

対処

管理者情報ファイルに読み込み権限がありません。権限を見直してください。

KDEB02506-E

管理者情報登録ファイル ({0}) が空です。

The file ({0}) for registering administrator information is empty.

{0}: ファイルパス

説明

管理者情報登録ファイルが空です。

対処

正しい内容の管理者情報登録ファイルを指定してください。

KDEB02507-E

管理者情報登録ファイル ({1}) のライン ({0}) が不正です。ユーザー ID とパスワードの正しいフォーマットで指定してください。

Line {0} in the file ({1}) for registering administrator information is invalid. Use the correct format when specifying the user ID and password.

{0}: ライン番号

{1}: ファイルパス

説明

管理者情報登録ファイルの該当ラインの指定方法が不正です。

対処

正しい形式で指定してください。

KDEB02508-E

管理者情報登録ファイル ({1}) のライン ({0}) でユーザー ID が不正です。20 バイト以下の半角英数文字列で指定してください。

The user ID on line {0} in the file ({1}) for registering administrator information is invalid. Use an alphanumeric string of 20 bytes or less to specify the user ID.

{0}: ライン番号

{1}: ファイルパス

説明

管理者情報登録ファイルの該当ラインでユーザー ID が不正です。

対処

20 バイト以下の英数文字列で指定してください。

KDEB02509-E

管理者情報登録ファイル ({1}) のライン ({0}) でパスワードが不正です。20 バイト以下の半角英数文字列で指定してください。

The password on line {0} in the file ({1}) for registering administrator information is invalid. Use an alphanumeric string of 20 bytes or less to specify the password.

{0}: ライン番号

{1}: ファイルパス

説明

管理者情報登録ファイルの該当ラインでパスワードが不正です。

対処

20 バイト以下の英数文字列で指定してください。

KDEB02510-E

管理者情報登録ファイル ({1}) に重複したユーザー ID({0}) が指定されています。

The user ID ({0}) has been specified multiple times in the file for registering administrator information ({1}).

{0}: 重複したユーザー ID

10. メッセージ

{1}: ファイルパス

説明

管理者情報登録ファイルに重複したユーザー ID が指定されています。

対処

重複したユーザー ID を排除してください。

KDEB02511-I

管理者情報の DB への登録に成功しました。

Administrator information was successfully registered to the database.

説明

管理者情報のデータベースへの登録に成功しました。

KDEB02512-E

管理者情報の DB への登録に失敗しました。

An attempt to register administrator information to the database has failed.

説明

管理者情報のデータベースへの登録に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

10.5 KDEB03001 ~ KDEB04000 のメッセージ

KDEB03001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB03002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB03003-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB03004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

10. メッセージ

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB03005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB03006-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB03021-E

メッセージ生成時に必須のパラメタが指定されていません。(パラメタ名={0})

A required parameter was not been specified when creating the message. (parameter = {0})

{0}: 指定されていないパラメタ名

説明

ebXML メッセージ生成時に必須のパラメタが指定されていません。

対処

CPA ファイルの内容を見直してください。

KDEB03022-E

メッセージ生成時のパラメタ指定に誤りがあります。(パラメタ名={0})

The parameter specified when creating the message is invalid. (parameter = {0})

{0}: 誤りが検知されたパラメタ名

説明

ebXML メッセージ生成時のパラメタ内容の誤りを検知しました。

対処

CPA ファイルの内容を見直してください。

KDEB03023-E

Acknowledgment メッセージ生成時に必須のパラメタが指定されていません。(パラメタ名={0})

A required parameter was not been specified when creating the Acknowledgment message.
(parameter = {0})

{0}: 指定されていないパラメタ名

説明

Acknowledgment メッセージ生成時の必須のパラメタが指定されていません。

対処

CPA ファイルの内容を見直してください。

KDEB03024-E

インストールディレクトリの取得に失敗しました。

An attempt to acquire the installation directory has failed.

説明

インストールディレクトリの取得に失敗しました。

対処

インストールディレクトリの設定が uCosminexus Application Server のユーザープロパティファイルで正しくされているかどうかを確認してください。ユーザープロパティファイルの設定の詳細については、「3.6.2(1) ユーザープロパティファイル」を参照してください。

KDEB03025-E

XML 解析処理中にエラーが発生しました。(詳細情報={0})

An error occurred during XML-parse processing. (details = {0})

{0}: エラー詳細

説明

XML パーサの処理中に障害が発生しました。

対処

詳細情報として出力されている情報を基に障害を取り除いてください。

KDEB03026-E

内部エラーが発生しました。(詳細情報={0})

An internal error occurred. (details = {0})

{0}: エラー詳細

説明

10. メッセージ

内部エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB03027-E

ホスト名の取得に失敗しました。

An attempt to acquire the host name has failed.

説明

ローカルホストの名称取得に失敗しました。

対処

ローカルマシンのネットワーク設定が正しく行われているかを確認してください。

KDEB03028-E

MSH 実行環境定義の情報に誤りがあります。(コンテナ = {0})(キー = {1})

The information for the MSH environment definition is invalid. (container = {0}) (key = {1})

{0}: コンテナ名

{1}: キー名

説明

MSH 実行環境定義ファイル内の情報の指定に誤りがあります。

対処

MSH 実行環境定義ファイル内の該当コンテナ名、キー名に対応する定義項目の内容を確認してください。

KDEB03101-E

要素中に必要な値が存在しません。(要素 = {0})

A required value does not exist in the element. (element = {0})

{0}: 指定されていない CPA ファイルの要素名

説明

受信メッセージの検証中に、ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03102-E

必須の要素が指定されていません。(要素 = {0})

A required element has not been specified. (element = {0})

{0}: 指定されていない CPA ファイルの要素名

説明

受信メッセージの検証中に、ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03103-E

必須の属性が指定されていません。(要素 = {0})(属性 = {1})

A required attribute has not been specified. (element = {0}) (attribute = {1})

{0}: 対象となる属性を持つ CPA ファイルの要素名

{1}: 指定されていない属性名

説明

受信メッセージの検証中に、ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03104-E

eb:Reference が参照するペイロードコンテナがありません。(content ID={0})

The Payload Container that eb:Reference references was not found. (content ID = {0})

{0}: 参照先となるペイロードコンテナを識別する CPA ファイルの ContentId

説明

受信メッセージの検証中に、ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03105-E

mustUnderstand 属性の指定が不正です。(要素 = {0})

The specification for the mustUnderstand attribute is invalid. (element = {0})

{0}: 不正な mustUnderstand 属性がある、CPA ファイルの要素名

説明

受信メッセージの検証中に、ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03106-E

version 属性にサポートされていないバージョン番号が指定されています。(要素 = {0})

A version number that does not support the version attribute has been specified. (element = {0})

{0}: 不正な version 属性がある, CPA ファイルの要素名

説明

受信メッセージの検証中に, ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して, 送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03107-E

属性に指定された値が不正です。(要素 = {0})(属性 = {1})

The value specified in the attribute is invalid. (element = {0}) (attribute = {1})

{0}: 対象となる属性を持つ CPA ファイルの要素名

{1}: 不正な値を持つ属性名

説明

受信メッセージの検証中に, ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して, 送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03108-E

AckRequested が指定されていないため, MessageOrder は指定できません。

MessageOrder cannot be specified because AckRequested has not been specified.

説明

受信メッセージの検証中に, ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して, 送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03109-E

DuplicateElimination が指定されていないため, MessageOrder は指定できません。

MessageOrder cannot be specified because DuplicateElimination has not been specified.

説明

受信メッセージの検証中に, ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03110-E

要素に指定された値が不正です。(要素={0})

The value specified in the element is invalid. (element = {0})

{0}: 不正な値を持つ CPA ファイルの要素名

説明

受信メッセージの検証中に、ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03111-E

SyncReply と MessageOrder が同時に指定されています。

SyncReply and MessageOrder have been specified simultaneously.

説明

受信メッセージの検証中に、ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03112-E

StatusRequest と StatusResponse が同時に指定されています。

StatusRequest and StatusResponse have been specified simultaneously.

説明

受信メッセージの検証中に、ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03113-E

Reference が参照するペイロードコンテナが見つかりません。(href={0})

The Payload Container that Reference references was not found. (href = {0})

{0}: 解決できないペイロードコンテナ

説明

受信メッセージの検証中に、ebXML メッセージの不正を検知しました。

10. メッセージ

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03114-W

XML スキーマ検証で Warning が発生しました。(詳細情報 ={0})

A warning occurred during XML schema validation. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

受信メッセージの検証中に、ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03115-E

XML スキーマ検証で Error が発生しました。(詳細情報 ={0})

An error occurred during XML schema validation. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

受信メッセージの検証中に、ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03116-E

XML スキーマ検証で FatalError が発生しました。(詳細情報 ={0})

A fatal error occurred during XML schema validation. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

受信メッセージの検証中に、ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB03117-E

指定された値が制限値を超えています。(詳細情報 ={0})

The specified value exceeds the limit. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

受信メッセージの検証中に、ebXML メッセージの不正を検知しました。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

10.6 KDEB04001 ~ KDEB05000 のメッセージ

KDEB04001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB04002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB04003-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB04004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。
 クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB04005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名
 {1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。
 クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB04006-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名
 {1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。
 パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB04021-E

受信メッセージの MIME 展開時にエラーが発生しました。 {0}

An error occurred while opening the MIME of the received message. {0}

{0}: エラー詳細

説明

受信メッセージの MIME 展開時にエラーが発生しました。

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB04022-E

受信メッセージの MIME 形式が不正です。 {0}

The MIME format of the received message is invalid. {0}

{0}: エラー詳細

説明

受信メッセージの MIME 形式が不正です。

10. メッセージ

対処

送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージが ebMS 仕様に準拠しているかを確認してください。

KDEB04023-E

メッセージのパッケージング時にエラーが発生しました。{0}

An error occurred while packaging the message. {0}

{0}: エラー詳細

説明

ebXML メッセージの MIME パッケージング処理中に不正を検知しました。
DABroker Library の動作環境設定で指定したデータ受取バッファサイズの値が、実際に受信したデータのサイズより小さいおそれがあります。

対処

データ受取バッファサイズが適切な値かどうかを見直してください。
適切な値が設定されている場合、ほかの要因が考えられます。トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB04024-E

コンテンツタイプの指定形式が不正です。{0}

The specified format for the ContentType is invalid. {0}

{0}: エラー詳細

説明

ebXML メッセージのコンテンツタイプのパラメタ指定に誤りがあります。

対処

ペイロードのコンテンツタイプの設定値を見直してください。受信時にこのメッセージが出力された場合は、送信パーティに連絡して、送信した ebXML メッセージの内容を確認してもらってください。

KDEB04025-W

MSH 実行環境定義に誤りがあります。(コンテナ名 ={0})(キー名 ={1})

The definition for the MSH environment is invalid. (container = {0}) (key = {1})

{0}: コンテナ名

{1}: キー名

説明

MSH 実行環境定義ファイルに指定された値に誤りがあります。

対処

MSH 実行環境定義ファイル内の該当コンテナ名、キー名に対応する定義項目の内容を確認してください。

10.7 KDEB05001 ~ KDEB06000 のメッセージ

KDEB05001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB05002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB05003-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB05004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

10. メッセージ

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB05005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB05006-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB05021-E

MSH 実行環境定義の情報に誤りがあります。(コンテナ = {0})(キー = {1})

Information about the definition for the MSH environment is invalid. (container = {0}) (key = {1})

{0}: コンテナ名

{1}: キー名

説明

MSH 実行環境定義ファイル内の情報の指定に誤りがあります。

対処

MSH 実行環境定義ファイル内の該当コンテナ名, キー名に対応する定義項目の内容を確認してください。

KDEB05022-E

HTTP 同期応答メッセージの内容に誤りがあります。

The contents of the HTTP sync response message are invalid.

説明

HTTP 同期応答メッセージを複数回設定しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB05023-E

HTTP 同期応答メッセージの送信中に予期しないエラーを検知しました。(詳細情報 ={0})

An unexpected error was detected while sending the HTTP sync response message. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

HTTP 同期応答メッセージの送信中に予期しないエラーが発生しました。

対処

詳細情報に出力されている情報を基に障害の要因を取り除いてください。

KDEB05024-E

プロトコル名の指定に誤りがあります。(URL={0})

The specification for the protocol name is invalid. (URL = {0})

{0}:URL

説明

メッセージ交換定義ファイルで指定されている値の不正を検知しました。

エンドポイントで指定されている URL のプロトコル名に HTTP または HTTPS 以外の名称が指定されています。

対処

CPA ファイルで指定されているエンドポイントの値を確認してください。

KDEB05025-E

SSL 通信に使用する情報が不足しています。

The information used for SSL communication is insufficient.

説明

メッセージ交換定義ファイルで指定されている値の不正を検知しました。SSL を使用して ebXML メッセージを送信するとエンドポイントの URL で指定されていますが、メッセージ交換定義ファイルに SSL で使用する情報 TransportServerSecurity 要素が記述されていません。

対処

CPA ファイルで指定されているエンドポイントのプロトコル名を、SSL を使用しないように変更するか、または、CPA ファイルに TransportServerSecurity 要素について記述してください。

KDEB05026-E

HTTP プロキシでエラーが発生しました。(プロキシホスト名={0})(接続先 URL={1})(エラー情報={2})

An error occurred with the HTTP proxy. (proxy host = {0}) (URL = {1}) (error info = {2})

{0}: プロキシホスト名

{1}: 接続先 URL

{2}: プロキシから返されたエラーメッセージ

説明

HTTP プロキシでエラーが発生しました。

対処

プロキシから返されたエラーメッセージを基に障害要因を取り除いてください。

KDEB05027-E

HTTP/S プロキシでエラーが発生しました。(プロキシホスト名={0})(接続先 URL={1})(エラー情報={2})

An error occurred with the HTTP/S proxy. (proxy host name = {0}) (URL = {1}) (error info = {2})

{0}: プロキシホスト名

{1}: 接続先 URL

{2}: プロキシから返されたエラーメッセージ

説明

HTTPS プロキシでエラーが発生しました。

対処

プロキシから返されたエラーメッセージを基に障害要因を取り除いてください。

KDEB05028-E

HTTP プロキシとして指定されたホスト名が解決できません。(ホスト名={0})

The host name specified for the HTTP proxy cannot be resolved. (host name = {0})

{0}: ホスト名

説明

ホスト名解決でエラーが発生しました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (TRANSPORT コンテナの PROXY_HOST キー) で指定した HTTP プロキシのホスト名を確認してください。

KDEB05029-E

HTTP/S プロキシとして指定されたホスト名が解決できません。(ホスト名={0})

The host name specified for the HTTP/S proxy cannot be resolved. (host name = {0})

{0}: ホスト名

説明

ホスト名解決でエラーが発生しました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (TRANSPORT コンテナの SSL_PROXY_HOST キー) で指定した HTTPS プロキシのホスト名を確認してください。

KDEB05030-E

URL で指定されたホスト名を解決できません。(URL={0})

The host name specified in the URL cannot be resolved. (URL = {0})

{0}: 接続先 URL

説明

接続先 URL で指定されたホスト名の解決ができませんでした。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (TRANSPORT コンテナ) のプロキシに関する設定を見直してください。

KDEB05031-E

HTTP プロキシへの接続に失敗しました。(ホスト名={0})(ポート番号={1})(詳細情報={2})

An attempt to connect to the HTTP proxy has failed. (host name = {0}) (port = {1}) (details = {2})

{0}: ホスト名

{1}: ポート番号

{2}: 詳細情報

説明

HTTP プロキシへの接続に失敗しました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (TRANSPORT コンテナ) で指定した HTTP プロキシのホスト名とポート番号を確認してください。または、HTTP プロキシサービスを提供するシステムが稼働していることを確認してください。

KDEB05032-E

HTTP/S プロキシへの接続に失敗しました。(ホスト名={0})(ポート番号={1})(詳細情報={2})

An attempt to connect to the HTTP/S proxy has failed. (host name = {0}) (port = {1}) (details = {2})

{0}: ホスト名

{1}: ポート番号

{2}: 詳細情報

説明

10. メッセージ

HTTPS プロキシへの接続に失敗しました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (TRANSPORT コンテナ) で指定した HTTPS プロキシのホスト名とポート番号を確認してください。または、HTTPS プロキシサービスを提供するシステムが稼働していることを確認してください。

KDEB05033-E

URL で指定された接続先への接続に失敗しました。(URL={0})(詳細情報 = {1})

An attempt to connect to the connection destination specified by the URL has failed. (URL = {0}) (details = {1})

{0}: 接続先 URL

{1}: 詳細情報

説明

URL で指定された接続先への接続に失敗しました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (TRANSPORT コンテナ) のプロキシに関する設定を見直してください。

KDEB05034-E

HTTP/S プロキシとの通信中にエラーが発生しました。(ホスト名 = {0})(詳細情報 = {1})

An error occurred while communicating with the HTTP/S proxy. (host name = {0}) (details = {1})

{0}: ホスト名

{1}: 詳細情報

説明

HTTPS プロキシとの通信中にエラーが発生しました。

対処

詳細情報に出力されている情報を基に障害の要因を取り除いてください。

KDEB05035-E

SSL セッション確立時にエラーが発生しました。(ホスト名 = {0})(詳細情報 = {1})

An error occurred while preparing the SSL session. (host name = {0}) (details = {1})

{0}: ホスト名

{1}: 詳細情報

説明

SSL セッションの確立処理中にエラーが発生しました。

対処

詳細情報に出力されている情報を基に障害の要因を取り除いてください。

KDEB05036-E

メッセージ送信中にエラーが発生しました。(URL={0})(詳細情報 = {1})

An error occurred while sending a message. (URL = {0}) (details = {1})

{0}: 接続先 URL

{1}: 詳細情報

説明

HTTP リクエスト送信中にエラーが発生しました。

対処

詳細情報に出力されている情報を基に障害の要因を取り除いてください。

KDEB05037-E

HTTP レスponseヘッダ受信中にエラーが発生しました。(URL={0})(詳細情報 = {1})

An error occurred while receiving an HTTP response header. (URL = {0}) (details = {1})

{0}: 接続先 URL

{1}: 詳細情報

説明

HTTP レスponseヘッダの受信中にエラーが発生しました。

対処

詳細情報に出力されている情報を基に障害の要因を取り除いてください。

KDEB05038-E

HTTP レスponseボディ受信中にエラーが発生しました。(URL={0})(詳細情報 = {1})

An error occurred while receiving an HTTP response body. (URL = {0}) (details = {1})

{0}: 接続先 URL

{1}: 詳細情報

説明

HTTP レスponseボディの受信中にエラーが発生しました。

対処

詳細情報に出力されている情報を基に障害の要因を取り除いてください。

KDEB05039-E

HTTP レスponseのコンテンツタイプの形式が不正です。(URL={0})(コンテントタイプ = {1})

The format for ContentType of the HTTP response is invalid. (URL = {0}) (ContentType = {1})

{0}: 接続先 URL

{1}: コンテントタイプ

説明

HTTP レスponseのコンテンツタイプの形式が不正です。

10. メッセージ

対処

相手パーティに連絡して、相手サーバが起動しているかを確認してください。

KDEB05040-E

同期応答での応答がありません。(URL={0})

There was no response from the sync response. (URL = {0})

{0}: 接続先 URL

説明

同期で応答メッセージが返されることを要求していますが、応答メッセージが返されませんでした。

対処

相手パーティに連絡して、相手サーバが起動しているかを確認してください。

KDEB05041-E

メッセージの送信に失敗しました。(URL={0})(応答コード ={1})(応答メッセージ ={2})

An attempt to send the message has failed. (URL = {0}) (response code = {1}) (response message = {2})

{0}: 接続先 URL

{1}: 応答コード

{2}: 応答メッセージ

説明

接続先からエラーを示す応答が返されました。

対処

応答コード、応答メッセージの内容を基にエラー要因を取り除いてください。必要であれば、相手パーティに連絡してください。

KDEB05042-E

SSL 初期化中にエラーが発生しました。(詳細情報 ={0})

An error occurred during SSL initialization. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

SSL 初期化処理中に継続できない障害が発生しました。

対処

詳細情報に出力されている内容を基に、エラー要因を取り除いてください。

KDEB05045-I

接続先ホスト名 (ホスト名 ={0})

The connected host name (host name = {0})

{0}: 接続先ホスト名

説明

接続先のホスト名を示します。

クライアント認証が行われていません。(URL={0})

Client authentication has not been performed. (URL = {0})

{0}: 接続先 URL

説明

メッセージ交換定義ファイルで、暗号化通信 (SSL クライアント認証) を行うように設定されていますが、接続先のサーバからクライアント証明書の要求が発行されませんでした。

対処

相手パーティに連絡して、相手サーバの SSL の設定が正しいかを確認してください。

KDEB05047-I

メッセージの受信 (実行環境識別子 = {0})

Message reception (environment ID = {0})

{0}: MSH 実行環境識別子

説明

ビジネスメッセージを受信しました。

KDEB05048-E

MSH 実行環境識別子に対応する実行環境が起動していません。(実行環境識別子 = {0})

The environment corresponding to the MSH environment ID is not running. (environment ID = {0})

{0}: MSH 実行環境識別子

説明

MSH 実行環境識別子に対応する実行環境が初期化されていません。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB05049-E

受信メッセージのコンテンツタイプが不正です。(コンテンツタイプ = {0})

The ContentType of the received message is invalid. (ContentType = {0})

{0}: 受信したコンテンツタイプ

説明

HTTP リクエストで受け付けた要求のコンテンツタイプが、uCosminexus Message

10. メッセージ

Service for ebXML で受信できる形式ではありません。

対処

送信パーティに連絡し、送信メッセージの内容を確認してもらってください。

KDEB05050-E

HTTP リクエストの取り込み中にエラーが発生しました。(詳細情報={0})

An error occurred while acquiring the HTTP request. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

HTTP リクエストの取り込み中にエラーが発生しました。

対処

詳細情報を基にエラー要因を取り除いてください。

KDEB05051-E

内部エラーが発生しました。(詳細情報={0})

An internal error occurred. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

uCosminexus Application Server から受け取った URL の形式が不正です。

対処

uCosminexus Application Server の環境設定を見直してください。

KDEB05052-E

URL の形式が不正です。(URL={0})

The URL format is invalid. (URL = {0})

{0}:URL

説明

URL の形式が不正です。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (END_POINT コンテナ) に関する定義を確認してください。

KDEB05055-E

HTTP プロキシ認証に失敗しました。(ホスト名={0})(ポート番号={1})

An attempt to authenticate the HTTP proxy has failed. (host name = {0}) (port = {1})

{0}: ホスト名

{1}: ポート番号

説明

HTTP プロキシを使用するための認証に失敗しました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (TRANSPORT コンテナ) の設定を確認してください。

KDEB05057-E

HTTP/S プロキシ認証に失敗しました。(ホスト名={0})(ポート番号={1})

An attempt to authenticate the HTTP/S proxy has failed. (host name = {0}) (port = {1})

{0}: ホスト名

{1}: ポート番号

説明

HTTP プロキシを使用するための認証に失敗しました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (TRANSPORT コンテナ) の設定を確認してください。

KDEB05058-E

セキュリティプロトコル名の指定が不正です。(プロトコル名={0})(バージョン={1})

The specification for the security protocol name is invalid. (protocol name = {0}) (version = {1})

{0}: 指定されているセキュリティプロトコル名

{1}: 指定されているプロトコルバージョン

説明

セキュリティプロトコルで使用するプロトコル名、バージョン番号が誤っています。

対処

CPA ファイルのセキュアプロトコルの定義を確認してください。

KDEB05059-E

符号化アルゴリズム名の指定が不正です。(詳細情報={0})

The specification for the encoding algorithm name is invalid. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

SSL で使用する符号化アルゴリズムの指定が誤っています。

対処

CPA ファイルのセキュアプロトコルの定義を確認してください。

KDEB05060-E

HTTP レスポンスの受信中に接続が切断されました。

The connection was cut while receiving the HTTP response.

10. メッセージ

説明

HTTP レスポンスの受信が完了する前に接続が切断されました。

対処

CPA 拡張定義ファイルの ConnectionTimeout 要素の値が短過ぎないかを確認してください。

KDEB05061-E

HTTP レスポンスステータスが不正です。(ステータス行={0})

The status of the HTTP response is invalid. (status line = {0})

{0}: ステータス行

説明

HTTP レスポンスステータス行の形式が不正です。

対処

相手パーティに連絡して、接続先のサーバが起動しているかを確認してください。

KDEB05062-E

MSH 実行環境識別子の取得に失敗しました。

An attempt to acquire the MSH environment ID has failed.

説明

サブレットのコンテキストパラメタから MSH 実行環境識別子の取得に失敗しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB05063-I

HTTP ベーシック認証で使用されたユーザー名 (ユーザ名={0})

User name using by HTTP basic authentication (user name = {0})

{0}: ユーザー名

説明

HTTP ベーシック認証が使用されていることを示します。

10.8 KDEB06001 ~ KDEB07000 のメッセージ

KDEB06001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB06002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB06003-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB06004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

10. メッセージ

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB06005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB06006-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB06021-E

インストールディレクトリの取得に失敗しました。

An attempt to acquire the installation directory has failed.

説明

インストールディレクトリの取得に失敗しました。

対処

uCosminexus Application Server のユーザープロパティファイルでインストールディレクトリが正しく設定されているかを確認してください。uCosminexus Application Server のユーザープロパティファイルの詳細については、「3.6.2(1) ユーザープロパティファイル」を参照してください。

KDEB06022-E

MSH 実行環境定義の情報に誤りがあります。(コンテナ = {0})(キー = {1})

The information for the MSH environment definition is invalid. (container = {0}) (key = {1})

{0}: コンテナ名

{1}: キー名

説明

MSH 実行環境定義ファイル内の情報の指定に誤りがあります。

対処

MSH 実行環境定義ファイル内の該当コンテナ名、キー名に対応する定義項目の内容を確認してください。

KDEB06023-E

SSL クライアント証明書のアクセスに失敗しました。(ファイル名={0})(詳細情報={1})

An attempt to access the SSL client certificate has failed. (file name = {0}) (details = {1})

{0}: クライアント証明書が格納されているファイル名

{1}: エラー詳細

説明

クライアント証明書がないか、またはクライアント証明書が格納されているファイルのアクセスパスワードの指定が誤っています。

対処

MSH 実行環境定義ファイル内のクライアント証明書に関する記述内容を確認してください。または、クライアント証明書を格納した KeyStore ファイルが存在するかを確認してください。

KDEB06024-E

XML 電子署名証明書のアクセスに失敗しました。(ファイル名={0})(詳細情報={1})

An attempt to access the XML signature certificate has failed. (file name = {0}) (details = {1})

{0}:XML 電子署名証明書が格納されているファイル名

{1}: エラー詳細

説明

XML 電子署名証明書が存在しないか、XML 電子署名証明書の格納されているファイルのアクセスパスワードの指定が誤っています。

対処

MSH 実行環境定義ファイル内の XML 電子署名証明書に関する記述内容を確認してください。または、XML 電子署名証明書を格納した KeyStore ファイルが存在するかを確認してください。

KDEB06025-E

SSL クライアント証明書の秘密鍵の読み込みに失敗しました。(ファイル名={0})(詳細情報={1})

An attempt to read the private key for the SSL client certificate has failed. (file name = {0}) (details = {1})

{0}: クライアント証明書が格納されているファイル名

{1}: エラー詳細

説明

クライアント証明書に対する秘密鍵がないか、またはクライアント証明書の秘密鍵のアクセスパスワードの指定が誤っています。

対処

MSH 実行環境定義ファイル内のクライアント証明書に関する記述内容を確認してください。または、クライアント証明書を格納した KeyStore ファイルの内容を確認してください。

KDEB06026-E

XML 電子署名証明書の秘密鍵の読み込みに失敗しました。(ファイル名={0})(詳細情報={1})

An attempt to read the private key for the XML signature certificate has failed. (file name = {0}) (details = {1})

{0}:XML 電子署名証明書が格納されているファイル名

{1}: エラー詳細

説明

XML 電子署名証明書に対する秘密鍵がないか、または XML 電子署名証明書の秘密鍵のアクセスパスワードの指定が誤っています。

対処

MSH 実行環境定義ファイル内の XML 電子署名証明書に関する記述内容を確認してください。または、XML 電子署名証明書を格納した KeyStore ファイルの内容を確認してください。

KDEB06027-I

SSL サーバ証明書 (サブジェクト名={0})

The SSL server certificate (subject name = {0})

{0}: 証明書のサブジェクト名

説明

SSL サーバから渡された証明書のサブジェクト名を表示します。

KDEB06029-E

SSL サーバ証明書がメッセージ交換定義で指定されたものと異なります。(サブジェクト名={0})

The SSL server certificate is different from the one specified in the messaging definition. (subject name = {0})

{0}: 証明書のサブジェクト名

説明

SSL サーバから渡された証明書が、メッセージ交換定義ファイルで設定した証明書

と一致しません。

対処

MSH 実行環境定義ファイル内のサーバ証明書に関する記述内容を確認してください。

KDEB06030-E

SSL サーバ証明書が不正です。(サブジェクト名={0})(詳細情報={1})

The SSL server certificate is invalid. (subject name = {0}) (details = {1})

{0}: 証明書のサブジェクト名

{1}: 詳細情報

説明

SSL サーバから渡された証明書の形式が不正です。

対処

送信パーティの環境が不正です。送信パーティに連絡してください。

KDEB06031-E

SSL クライアント認証が要求されています。

SSL client authentication has been requested.

説明

SSL サーバからクライアント証明書が要求されていますが、クライアント証明書が指定されていません。

対処

CPA ファイルで、暗号化通信 (SSL クライアント認証) をするように指定されているかを確認してください。または、送信パーティの環境が不正のおそれがあるため、送信パーティに確認してください。

KDEB06032-E

クライアント証明書の鍵種別と SSL サーバが要求している鍵種別が一致していません。(鍵種別={0})

The key type of the client certificate does not match the type requested by the SSL server. (key type = {0})

{0}: サーバが要求する鍵種別

説明

SSL サーバが要求する鍵種別が、クライアント証明書として MSH 実行環境に設定されている証明書・鍵種別と一致していません。

対処

送信パーティの環境が不正です。送信パーティに連絡してください。

KDEB06033-E

クライアント証明書の認証局と SSL サーバが要求している認証局が一致していません。(認証局={0})

The CA of the client certificate does not match the CA requested by the SSL server. (CA = {0})

{0}: サーバが要求する認証局

説明

SSL サーバが要求する認証局一覧に、クライアント証明書として MSH 実行環境に設定されている証明書の認証局が含まれていません。

対処

送信パーティの環境が不正です。送信パーティに連絡してください。

KDEB06034-E

証明書格納ファイルの参照に失敗しました。(詳細情報={0})

The reference of a key stored file has failed. (details = {0})

{0}: エラー詳細

説明

証明書格納ファイルの形式が不正です。

対処

KeyStore ファイルが不正でないか、または内容が正しいかを確認してください。

KDEB06035-E

SSL クライアント証明書の定義が行われていません。

The SSL client certificate has not been defined.

説明

クライアント証明書が定義されていないため、暗号化通信 (SSL クライアント認証) ができません。

対処

クライアント証明書の登録、および設定をしてください。

KDEB06036-E

XML 電子署名証明書の定義が行われていません。

The XML signature certificate has not been defined.

説明

XML 電子署名証明書が定義されていないため、XML 電子署名ができません。

対処

XML 電子署名証明書の登録、および設定をしてください。

KDEB06037-E

検証対象となる証明書が指定されていません。

The certificate to be verified has not been specified.

説明

メッセージ交換定義ファイルに証明書が定義されていません。

対処

CPA ファイルの内容を確認してください。

KDEB06038-E

検証対象となるトラストアンカーが指定されていません。

The trust anchor to be verified has not been specified.

説明

メッセージ交換定義ファイルにトラストアンカーが定義されていません。

対処

CPA ファイルの内容を確認してください。

KDEB06039-E

証明書チェーンの検証に失敗しました。(証明書={0})(詳細情報={1})

An attempt to verify the certificate chain has failed. (certificate = {0}) (details = {1})

{0}: 証明書のサブジェクト名

{1}: 詳細情報

説明

サブジェクト名で示されている証明書チェーンが不正です。

対処

証明書および認証局証明書が、環境に正しく適用されているかを確認してください。

KDEB06041-E

MSH 実行環境定義に誤りがあります。(詳細情報={0})

The MSH environment definition is invalid. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

MSH 実行環境定義ファイルで定義されている内容が不正です。

対処

詳細情報を基に、MSH 実行環境定義ファイルの設定内容を確認してください。

KDEB06042-E

SSL クライアント証明書の秘密鍵の取得に失敗しました。(証明書={0})(詳細情報={1})

An attempt to acquire the private key for the SSL client certificate has failed. (certificate = {0})
(details = {1})

{0}: 取得対象となる証明書のサブジェクト名

{1}: 詳細情報

説明

メッセージ交換定義ファイルで記述されているクライアント証明書に対応する秘密鍵を、MSH 実行環境定義で指定した KeyStore から取得できません。

対処

MSH 実行環境定義ファイルで指定されている SSL 用の KeyStore ファイルおよびアクセスパスワードを確認してください。または、CPA ファイルで指定されているクライアント証明書を確認してください。

KDEB06043-E

XML 電子署名証明書の秘密鍵の取得に失敗しました。(証明書={0})(詳細情報={1})

An attempt to acquire the private key for the XML signature certificate has failed. (certificate = {0})
(details = {1})

{0}: 取得対象となる証明書のサブジェクト名

{1}: 詳細情報

説明

メッセージ交換定義ファイルに記述されている XML 電子署名用の証明書に対応する秘密鍵を、MSH 実行環境定義ファイルで指定されている KeyStore から取得できません。

対処

CPA ファイルで指定した XML 電子署名用の KeyStore ファイル、およびアクセスパスワードを確認してください。または、メッセージ交換定義ファイルに記述されている XML 電子署名用の証明書を確認してください。

KDEB06044-E

証明書に対応するエントリが KeyStore 内にありません。(ファイル名={0})(証明書={1})

There is no entry corresponding to the certificate in KeyStore. (file name = {0}) (certificate = {1})

{0}: 証明書が格納されている KeyStore ファイル名

{1}: 証明書のサブジェクト名

説明

サブジェクト名で識別される証明書が KeyStore にありません。

対処

暗号化通信 (SSL クライアント認証), または XML 電子署名の KeyStore ファイル

に関する設定を見直してください。

KDEB06045-E

証明書に対応する秘密鍵が KeyStore 内にありません。(ファイル名={0})(証明書={1})

There is no private key corresponding to the certificate in KeyStore. (file name = {0}) (certificate = {1})

{0}: 証明書の格納されている KeyStore ファイル名

{1}: 証明書のサブジェクト名

説明

サブジェクト名で識別される証明書に対応する秘密鍵が KeyStore にありません。

対処

暗号化通信 (SSL クライアント認証) または XML 電子署名の KeyStore ファイルに関する設定を見直してください。

KDEB06046-E

サポートされていない機能を使用しようとしてしました。(詳細情報={0})

An attempt was made to use an unsupported function. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

サポートされていない機能を使用しようとしてしました。

対処

CPA ファイルでサポートされていない機能を使用するように定義されていないかを確認してください。

KDEB06047-E

XML 電子署名に使用するパラメタが指定されていません。(パラメタ名={0})

The parameter used for the XML signature has not been specified. (parameter name = {0})

{0}: パラメタ名

説明

XML 電子署名時に必要なパラメタが不足しています。

対処

CPA ファイルで XML 電子署名で使用する設定が不足していないかを確認してください。

KDEB06048-E

XML 電子署名に使用するパラメタが不正です。(パラメタ名={0})(値={1})

The parameter used for the XML signature is invalid. (parameter name = {0}) (value = {1})

10. メッセージ

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

XML 電子署名時に使用するパラメタの値が不正です。

対処

CPA ファイルで XML 電子署名で使用する設定が誤っていないかを確認してください。

KDEB06049-E

XML 電子署名の検証に失敗しました。(詳細情報 ={0})

An attempt to verify the XML signature has failed. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

XML 電子署名の検証に失敗しました。

対処

CPA ファイルの XML 電子署名を使用するための設定が誤っていないかを確認してください。

KDEB06050-I

電子署名検証情報 (uri={0})(結果 ={1})

The verification information for the XML signature (uri = {0}) (result = {1})

{0}:URI

{1}:URI 単位でのダイジェスト値検証結果

説明

XML 電子署名の検証情報を示します。

KDEB06051-I

SSL クライアント証明書 (サブジェクト名 ={0})

SSL client certificate (subject name = {0})

{0}: 証明書のサブジェクト名

説明

SSL クライアントから渡された証明書のサブジェクト名を表示します。

KDEB06052-E

XML 電子署名に失敗しました。(詳細情報 ={0})

XML signature has failed. (details = {0})

{0}: エラー詳細

説明

XML 電子署名実行中に継続できないエラーが発生しました。

対処

詳細情報を参考にし、XML 電子署名に対するエラーに対処してください。

10.9 KDEB07001 ~ KDEB08000 のメッセージ

KDEB07001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB07002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB07003-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB07004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。
 クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB07005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名
 {1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。
 クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB07006-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名
 {1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。
 パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB07013-E

環境不正です。

The environment is invalid.

説明

環境不正による致命的エラーが発生しました。

対処

保守員に連絡してください。

KDEB07014-E

内部不正です。({0}::{1})

An internal error occurred. ({0}::{1})

{0}: クラス名
 {1}: メソッド名

説明

内部エラーが発生しました。

対処

10. メッセージ

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB07015-E

内部不正です。予期しない例外が発生しました。(詳細情報={0})

An internal error occurred. An unexpected exception occurred. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

内部不正による致命的エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB07016-E

決着前通知 (beforeCompletion) で回復できない例外が発生しました。

An unrecoverable exception occurred during beforeCompletion notification.

説明

決着前通知 (beforeCompletion) で、回復できない例外が発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB07017-E

決着前通知 (beforeCompletion) で回復可能な例外が発生しました。ロールバックを発行します。

A recoverable exception occurred during beforeCompletion notification. A rollback will now be issued.

説明

決着前通知 (beforeCompletion) で、回復できる例外が発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB07018-E

タイマー監視情報の解析に失敗しました。不正なデータです。(タイマー識別子={0})

An attempt to parse the timer monitoring information has failed. The data is invalid. (timer ID = {0})

{0}: タイマー識別子

説明

データベース内に不正なデータがあります。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB07019-E

通知先が登録されていません。環境が初期化されていないおそれがあります。

The notification destination has not been registered. The environment might not have been initialized.

説明

通知先が登録されていません。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB07020-E

DBMS で例外が発生しました。

An exception occurred in DBMS.

説明

DBMS で例外が発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB07021-E

通知先で非致命的例外が発生しました。

A nonfatal exception occurred at the notification destination.

説明

通知先で致命的でない例外が発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB07022-E

通知先で致命的例外が発生しました。

A fatal exception occurred at the notification destination.

説明

通知先で致命的例外が発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB07023-E

タイマー連携コンポーネントは初期化されていません。

The timer linkage component has not been initialized.

10. メッセージ

説明

タイマー連携コンポーネントが、初期化されていない状態で通知を受けました。

対処

uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。再発する場合は、トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB07024-E

{0} がバインドされていません。

{0} has not been binded.

{0}:URL

説明

タイマーのバインド処理に失敗しました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (END_POINT コンテナ) の設定を見直し、uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB07025-E

RMI リモートの取得操作が許可されていません。

The acquisition operation of RMI remote is not permitted.

説明

RMI リモートの取得操作が許可されていません。

対処

uCosminexus Application Server のセキュリティポリシーファイルの設定を見直してください。uCosminexus Application Server のセキュリティポリシーファイルの詳細については、「3.6.2(3) セキュリティポリシーファイル」を参照してください。

KDEB07026-E

適切な形式の URL ではありません。(URL={0})

The URL is not in an appropriate format. (URL = {0})

{0}:URL

説明

タイマー監視の URL の形式が適切ではありません。

対処

表示される URL を見直して MSH 実行環境定義ファイル (END_POINT コンテナ) の値を正しく設定し直してください。

KDEB07027-E

レジストリに接続できません。

A connection with the registry cannot be established.

説明

Java の RMI レジストリに接続できません。

対処

Java の RMI レジストリが起動しているかを確認してください。また、MSH 実行環境定義ファイル (END_POINT コンテナ) の値が正しく設定されているかを確認してください。

KDEB07028-E

リモートメソッド呼び出しで通信障害が発生しました。(詳細情報 = {0})

A communication error occurred while calling the remote method. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

リモートメソッド呼び出しの通信処理中に例外が発生しました。

対処

Java の RMI レジストリまたはタイマーが起動しているかを確認してください。また、MSH 実行環境定義ファイル (END_POINT コンテナ) の値が正しく設定されているかを確認してください。

KDEB07029-E

DB から同一 ID で複数行が取得されました。

Multiple lines were acquired from the database with the same ID.

説明

データベースから同一 ID で複数行を取得しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB07030-E

DB 状態の不整合を検出しました。

A contradiction was detected with the database status.

説明

データベース状態の不整合を検出しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB07033-E

タイマー監視情報の生成時に入出力エラーが発生しました。(詳細情報={0})

An I/O error occurred while creating the timer monitoring information. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

タイマー監視情報の生成時に入出力エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB07034-E

タイマー監視情報の読み込み時に入出力エラーが発生しました。(詳細情報={0})

An I/O error occurred while reading the timer monitoring information. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

タイマー監視情報の読み込み時に入出力エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB07035-E

決着後通知 (afterCompletion) で例外が発生しました。

An exception occurred during afterCompletion notification.

説明

決着後通知 (afterCompletion) で、致命的でない例外が発生しました。

対処

このメッセージが頻繁に発生する場合は、保守員に連絡してください。それ以外の場合でこのメッセージとともにほかのエラーメッセージが出力されないときは、対処不要です。

KDEB07036-E

決着後通知 (afterCompletion) で致命的な例外が発生しました。

A fatal exception occurred during afterCompletion notification.

説明

決着後通知 (afterCompletion) で、致命的な例外が発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

10.10 KDEB08001 ~ KDEB09000 のメッセージ

KDEB08001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB08002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB08003-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB08004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

10. メッセージ

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB08005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB08006-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB08013-E

DB アクセスエラーが発生しました。(ErrorCode={0})(詳細情報 ={1})

A database access error occurred. (ErrorCode = {0}) (details = {1})

{0}: エラーコード

{1}: 詳細情報

説明

データベースアクセスエラーが発生しました。

対処

エラーコードおよび詳細情報を基に、該当する Cosminexus または HiRDB のメッセージの対処に従ってください。エラーコードと Cosminexus または HiRDB のメッセージ ID との関係については、「10.1.2(2) データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係」を参照してください。

KDEB08014-E

名前解決に失敗しました。(詳細情報 ={0})

An attempt to resolve the name has failed. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

名前解決でエラーが発生しました。

対処

詳細情報に出力されている情報を基に障害の要因を取り除いてください。

KDEB08015-E

不正または不適切なメソッド呼び出しです。

The method call is invalid or inappropriate.

説明

不正または不適切な順序でメソッドが呼び出されました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB08016-E

内部不正です。下位で予期しない例外が発生しました。(詳細情報={0})

An internal error occurred. An unexpected exception occurred in the lower level. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

下位コンポーネントで予期しない例外が発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB08017-E

トランザクションマネージャで回復できない例外が発生しました。(詳細情報={0})

An unrecoverable exception occurred in the transaction manager. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

トランザクションマネージャで予期しない例外が発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB08018-E

コミット時にロールバックしました。(詳細情報={0})

A rollback was performed during the commit. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

10. メッセージ

トランザクションがロールバック専用として処理されたか、またはコミットの代わりにロールバックされました。

対処

詳細情報に出力されている情報を基に障害の要因を取り除いてください。

KDEB08019-E

ロールバックに失敗しました。(詳細情報 ={0})

The rollback failed. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

ロールバックのときに、予期しない例外が発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB08020-E

決着前通知 (beforeCompletion) 処理でロールバックしました。

A rollback was performed during beforeCompletion notification processing.

説明

決着前通知 (beforeCompletion) のときに、例外が発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを基に、エラーの原因を取り除いてください。

KDEB08021-E

決着後通知 (afterCompletion) 処理で例外が発生しました。

An exception occurred during afterCompletion notification processing.

説明

決着後通知 (afterCompletion) のときに、例外が発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを基に、エラーの原因を取り除いてください。

KDEB08022-I

トランザクションを開始しました。

The transaction has started.

説明

トランザクションを開始したことを示します。

KDEB08023-I

トランザクションをコミットしました。

The transaction was committed.

説明

トランザクションをコミットしたことを示します。

KDEB08024-I

トランザクションをロールバックしました。

The transaction was rolled back.

説明

トランザクションをロールバックしたことを示します。

10.11 KDEB09001 ~ KDEB10000 のメッセージ

KDEB09001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB09002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB09003-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB09004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。
 クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB09005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。
 クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB09006-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。
 パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB09013-E

DB アクセスエラーが発生しました。(ErrorCode={0})(詳細情報 = {1})

A database access error occurred. (ErrorCode = {0}) (details = {1})

{0}: エラーコード

{1}: 詳細情報

説明

データベースアクセスエラーが発生しました。

対処

エラーコードおよび詳細情報を基に、該当する Cosminexus または HiRDB のメッセージの対処に従ってください。エラーコードと Cosminexus または HiRDB のメッセージ ID との関係については、「10.1.2(2) データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係」を参照してください。

10.12 KDEB10001 ~ KDEB11000 のメッセージ

KDEB10001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB10002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB10003-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB10004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。
 クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB10005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名
 {1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。
 クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB10006-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名
 {1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。
 パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB10023-I

MSH 実行環境定義ファイルを読み込みました。({0})

The file for the MSH environment definition was read. ({0})

{0}: ファイルパス

説明

MSH 実行環境定義ファイルを読み込みました。

KDEB10024-E

定義ファイルの読み込みに失敗しました。({0})

An attempt to read the definition file has failed. ({0})

{0}: ファイルパス

説明

定義ファイルの読み込みに失敗しました。

対処

補足情報に示すファイルがあるか、または権限が有効かどうかを確認してください。

KDEB10025-E

引数不正が発生しました。({0})({1})

A parameter error occurred. ({0}) ({1})

{0}: 発生個所 (クラス名: メソッド名)

{1}: 詳細情報

説明

引数不正が発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB10026-E

内部不正が発生しました。({0})({1})

An internal error occurred. ({0}) ({1})

{0}: 発生個所 (クラス名: メソッド名)

{1}: 詳細情報

説明

内部不正が発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB10027-E

スキーマ検証エラーが発生しました。({0})

A schema validation error occurred. ({0})

{0}: 詳細情報

説明

スキーマ検証エラーが発生しました。

対処

詳細情報からスキーマファイルが正しいかどうかを確認してください。

KDEB10028-E

スキーマ読み込みに失敗しました。({0})

An attempt to read the schema has failed. ({0})

{0}: 詳細情報

説明

スキーマ読み込みに失敗しました。

対処

詳細情報から該当するスキーマファイルがあるか、または権限が有効かどうかを確

認してください。

KDEB10029-E

インストールパスが設定されていません。

The installation path has not been set.

説明

uCosminexus Application Server に uCosminexus Message Service for ebXML のインストールディレクトリを設定していません。

対処

インストールディレクトリを uCosminexus Application Server のユーザープロパティファイルに設定してください。uCosminexus Application Server のユーザープロパティファイルの詳細については、「3.6.2(1) ユーザープロパティファイル」を参照してください。

10.13 KDEB11001 ~ KDEB12000 のメッセージ

KDEB11001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB11002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB11003-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB11004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。
 クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB11005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名
 {1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。
 クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB11006-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名
 {1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。
 パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB11013-E

環境不正です。

The environment is invalid.

説明

環境不正による致命的エラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを基に、エラーの原因を取り除き
 uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB11014-E

内部不正です。({0}::{1})

An internal error occurred. ({0}::{1})

{0}: クラス名
 {1}: メソッド名

説明

内部不正による致命的エラーが発生しました。

10. メッセージ

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB11015-E

内部不正です。予期しない例外が発生しました。(詳細情報={0})

An internal error occurred. An unexpected exception occurred. (details= {0})

{0}: 詳細情報

説明

内部不正による致命的エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB11016-E

DBMS で例外が発生しました。

An exception occurred in DBMS.

説明

DBMS で例外が発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB11017-E

タイマーアクセスで例外が発生しました。

An exception occurred in the timer access.

説明

タイマーアクセスで例外が発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを基に、エラーの原因を取り除き uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB11021-E

DB から同一 ID で複数行が取得されました。

Multiple lines were acquired from the database with the same ID.

説明

内部のデータベース検索処理で、予期しないエラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB11022-E

DB 状態の不整合を検出しました。

A contradiction was detected with the database status.

説明

データベース状態の不整合を検出しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB11023-E

DB から取得したメッセージのサイズが不正です。(メッセージ識別子={0})(メッセージサイズ={1})

The size of message acquired from the database is invalid.(message ID={0})(size={1})

{0} : メッセージ識別子

{1} : 取得したメッセージのサイズ

説明

データベースに保持しているメッセージのサイズと実際にデータベースから取得したメッセージのサイズが一致していません。

対処

DABroker Library の BLOB 型データ受取バッファサイズに指定した値が、MSH 実行環境定義ファイル (PERSIST コンテナの MESSAGE_ARCHIVE_DIVISION_SIZE キー) に指定した値と等しいか確認してください。

10.14 KDEB12001 ~ KDEB13000 のメッセージ

KDEB12001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB12002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB12003-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB12004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。
 クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB12005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名
 {1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。
 クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB12006-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名
 {1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。
 パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB12100-I

uCosminexus Message Service for ebXML を起動します。

The uCosminexus Message Service for ebXML will now start.

説明

uCosminexus Message Service for ebXML の起動を開始したことを示します。

KDEB12101-I

uCosminexus Message Service for ebXML を起動しました。

The uCosminexus Message Service for ebXML has started.

説明

uCosminexus Message Service for ebXML の起動に成功したことを示します。

KDEB12102-I

uCosminexus Message Service for ebXML を終了します。

The uCosminexus Message Service for ebXML will now finish.

説明

10. メッセージ

uCosminexus Message Service for ebXML の終了処理を開始したことを示します。

KDEB12103-I

uCosminexus Message Service for ebXML を終了しました。

The uCosminexus Message Service for ebXML has finished.

説明

uCosminexus Message Service for ebXML が終了したことを示します。

KDEB12104-I

MSH 実行環境を起動します。(実行環境識別子={0})

The MSH environment will now start. (environment ID = {0})

{0}:MSH 実行環境識別子

説明

MSH 実行環境の起動処理を開始しました。

KDEB12105-I

MSH 実行環境を起動しました。(実行環境識別子={0})

The MSH environment has started. (environment ID = {0})

{0}:MSH 実行環境識別子

説明

MSH 実行環境の起動に成功しました。

KDEB12106-I

MSH 実行環境を終了します。(実行環境識別子={0})

The MSH environment will now finish. (environment ID = {0})

{0}:MSH 実行環境識別子

説明

MSH 実行環境の終了処理を開始しました。

KDEB12107-I

MSH 実行環境を終了しました。(実行環境識別子={0})

The MSH environment has finished. (environment ID = {0})

{0}:MSH 実行環境識別子

説明

MSH 実行環境を終了しました。

KDEB12108-I

すべての MSH 実行環境が終了しました。

All MSH environments have finished.

説明

すべての MSH 実行環境が終了しました。

KDEB12300-W

MSH 実行環境はすでに初期化されています。(実行環境識別子 = {0})

The MSH environment has already been initialized. (environment ID = {0})

{0}:MSH 実行環境識別子

説明

すでに初期化されている MSH 実行環境を初期化しました。

KDEB12500-E

uCosminexus Message Service for ebXML の起動に失敗しました。

An attempt to start the uCosminexus Message Service for ebXML has failed.

説明

uCosminexus Message Service for ebXML の起動に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを基にエラーの原因を取り除き uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB12501-E

予期しないエラーが発生しました。({0})

An unexpected error occurred. ({0})

{0}: エラーの原因となった例外

説明

予期しない例外が発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB12503-E

MSH 実行環境トレースの初期化に失敗しました。(実行環境識別子 = {0})

An attempt to initialize the MSH environment trace has failed. (environment ID = {0})

{0}:MSH 実行環境識別子

説明

10. メッセージ

MSH 実行環境用のトレースの初期化に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを基に、エラーの原因を取り除き uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB12504-E

MSH 実行環境の起動に失敗しました。(実行環境識別子 = {0})

An attempt to start the MSH environment has failed. (environment ID = {0})

{0}:MSH 実行環境識別子

説明

MSH 実行環境の起動に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを基に、エラーの原因を取り除き uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB12505-E

MSH 実行環境はすでに起動に失敗しています。(実行環境識別子 = {0})

The MSH environment has already failed to start. (environment ID = {0})

{0}:MSH 実行環境識別子

説明

uCosminexus Message Service for ebXML が、すでに起動に失敗した MSH 実行環境を起動しようとした。

対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを基に、エラーの原因を取り除き uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB12506-E

MSH 実行環境はすでに終了しています。(実行環境識別子 = {0})

The MSH environment has already finished. (environment ID = {0})

{0}:MSH 実行環境識別子

説明

uCosminexus Message Service for ebXML が、すでに終了した MSH 実行環境を起動しようとした。

対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを基に、エラーの原因を取り除き uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB12508-E

内部エラーが発生しました。({0})

An internal error occurred. ({0})

{0}: 詳細情報

説明

内部不正が発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB12509-E

MSH 実行環境起動中に一時的エラーが発生しました。起動失敗とみなします。

A temporary error occurred while starting the MSH environment. It is considered to be a startup failure.

説明

MSH 実行環境起動中にエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを基に、エラーの原因を取り除き uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB12511-E

定義ファイルのチェックに失敗しました。(実行環境識別子={0})

An attempt to check the definition file has failed. (environment ID = {0})

{0}:MSH 実行環境識別子

説明

定義ファイルのチェックに失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを基に、エラーの原因を取り除き uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB12512-E

uCosminexus Message Service for ebXML は起動されていません。

The uCosminexus Message Service for ebXML is not running.

説明

uCosminexus Message Service for ebXML が起動していない状態で、コマンドを実行したか、ebXML メッセージを受信しました。

対処

タイマーが起動されていない場合は、タイマー起動コマンドで起動してください。

10. メッセージ

起動中の場合は、タイマー回復コマンドを実行してください。

10.15 KDEB13001 ~ KDEB14000 のメッセージ

KDEB13001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB13002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB13003-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB13004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

10. メッセージ

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB13005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB13006-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB13013-E

環境不正です。

The environment is invalid.

説明

環境不正による致命的エラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB13014-E

内部不正です。

An internal error occurred.

説明

内部不正による致命的エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB13015-E

リモートメソッド呼び出しで通信障害が発生しました。(詳細情報={0})

A communication error occurred while calling the remote method. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

リモートメソッド呼び出しの通信処理中に例外が発生しました。

対処

Java の RMI レジストリまたはタイマーが起動しているかを確認してください。また、MSH 実行環境定義ファイル (END_POINT コンテナ, MSH_SEND_TIMER コンテナ, および MSH_NOTIFYAP_TIMER コンテナの各 DESTINATION_NAME キー) の設定を見直してください。または、EJB スタブファイルが正しくダウンロードされていないおそれがあります。EJB スタブファイルのダウンロードの詳細については、「3.6.8 EJB スタブファイルのダウンロード」を参照してください。

KDEB13016-E

URL の書式が無効です。(詳細情報={0})

The URL format is invalid. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

指定文字列の中に有効なプロトコルが見つからないか、または文字列を解析できません。

対処

詳細情報に表示される URL を見直して MSH 実行環境定義ファイル (END_POINT コンテナ) の値を正しく設定し直してください。

KDEB13017-I

タイマー監視機能を開始しました。

The timer monitoring function has started.

説明

タイマー監視を開始したことを示します。

KDEB13018-I

タイマー監視機能を停止しました。

The timer monitoring function has stopped.

説明

タイマー監視が停止したことを示します。

KDEB13019-I

タイマー監視機能の回復処理を行いました。

Recovery processing was performed for the timer monitoring function.

説明

タイマー監視の回復処理をしたことを示します。

KDEB13020-E

内部エラーが発生しました。(詳細情報 ={0})

An internal error occurred. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

内部エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB13021-E

通知先で例外が発生しました。(詳細情報 ={0})

An exception occurred at the notification destination. (details = {0})

{0}: 詳細情報

説明

通知先で例外が発生しました。

対処

詳細情報を基にエラー要因を取り除いてください。

KDEB13022-E

通知先の名前解決に失敗しました。(通知先 ={0})

An attempt to resolve the name of the notification destination has failed. (destination = {0})

{0}: 通知先

説明

通知先の名前解決に失敗しました。

対処

J2EE サーバが起動しているか、および J2EE サーバ内のアプリケーションが正常にデプロイ・開始されているかどうかを確認してください。または、MSH 実行環境定義ファイル (MSH_SEND_TIMER コンテナおよび MSH_NOTIFYAP_TIMER コンテナの DESTINATION_NAME キー) の設定を見直してください。

KDEB13023-E

JDBC ドライバが見つかりません。

The JDBC driver was not found.

説明

JDBC ドライバが見つかりません。

対処

JDBC ドライバの設定が正しいか確認してください。

- DABroker Library を使用している場合
次のディレクトリに JdbcDbpsv.jar ファイルがあるかを確認してください。
<Cosminexus インストールディレクトリ>¥DABJ
- HiRDB Type 4 JDBC Driver を使用している場合
CLASSPATH 環境変数に pdjdbc2.jar が設定されているか確認してください。

KDEB13024-E

DB との接続に失敗しました。(ErrorCode={0})(詳細情報 ={1})

An attempt to connect to the database has failed. (ErrorCode = {0}) (details = {1})

{0}: エラーコード

{1}: 詳細情報

説明

データベースとの接続に失敗しました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (DB_INFO コンテナ) の設定を見直してください。また、詳細情報を基にエラー要因を取り除いてください。

KDEB13025-E

DB との再接続に失敗しました。(ErrorCode={0})(詳細情報 ={1})

An attempt to reconnect to the database has failed. (ErrorCode = {0}) (details = {1})

{0}: エラーコード

{1}: 詳細情報

説明

データベースとの接続に失敗しました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (DB_INFO コンテナ) の設定を見直してください。また、詳細情報を基にエラー要因を取り除いてください。

KDEB13026-E

DBMS で例外が発生しました。(ErrorCode={0})(詳細情報 ={1})

10. メッセージ

An exception occurred in DBMS. (ErrorCode = {0}) (details = {1})

{0}: エラーコード

{1}: 詳細情報

説明

DBMS で例外が発生しました。

対処

エラーコードおよび詳細情報を基に、該当する Cosminexus または HiRDB のメッセージの対処に従ってください。エラーコードと Cosminexus または HiRDB のメッセージ ID との関係については、「10.1.2(2) データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係」を参照してください。

KDEB13027-E

リトライできません。DB アクセス処理を中止します。

A retry cannot be performed. Processing to access the database will now stop.

説明

リトライできません。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB13028-E

リトライアウトが発生しました。DB アクセス処理を中止します。

A retry out occurred. Processing to access the database will now stop.

説明

リトライアウトしました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB13029-W

リトライできます。{0} 秒後にリトライします。

A retry can be performed. Retry after {0} seconds.

{0}: リトライまでの時間 (秒)

説明

リトライできる状態です。何秒後にリトライするかを示します。
リトライします。

KDEB13030-E

DB からのタイマー監視情報取得に失敗しました。

An attempt to acquire timer monitoring information from the database has failed.

説明

データベースからのタイマー監視情報取得に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB13031-E

通知日時の解析に失敗しました。不正なデータです。この監視情報を無視します。(タイマー識別子={0})(詳細情報={1})

An attempt to parse the notification time has failed. The data is invalid. This monitoring information will be ignored. (timer ID = {0}) (details = {1})

{0}: タイマー識別子

{1}: 詳細情報

説明

タイマー処理で通知日時の解析に失敗しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB13032-E

タイマー監視機能でエラーが発生しました。タイマー監視機能を停止します。

An error occurred with the timer monitoring function. The timer monitoring function will now stop.

説明

タイマー監視でエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB13033-I

{0} up!

{0} up!

{0}: タイマー監視リモートオブジェクトの登録 URL

説明

タイマー監視リモートオブジェクトを URL に登録したことを示します。

KDEB13034-E

通知処理でエラーが発生しました。リトライできません。通知処理を中止します。

An error occurred during notification processing. A retry cannot be performed. Notification processing will now end.

10. メッセージ

説明

タイマーの通知処理中にエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB13035-E

通知処理でエラーが発生しました。リトライアウトです。通知処理を中止します。

An error occurred during notification processing. A retry out occurred. Notification processing will now end.

説明

タイマーの通知処理中にエラーが発生しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB13036-W

通知処理でエラーが発生しました。リトライできます。{0} 秒後にリトライします。

An error occurred during notification processing. A retry can be performed. Retry after {0} seconds.

{0}: リトライまでの時間 (秒)

説明

通知処理中にエラーが発生しました。
リトライします。

対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを基に、エラーの原因を取り除いてください。

KDEB13037-W

タイマー監視機能はすでに開始しています。

The timer monitoring function is already running.

説明

タイマー監視はすでに開始していることを示します。

KDEB13038-W

タイマー監視機能はすでに停止しています。

The timer monitoring function has already stopped.

説明

タイマー監視はすでに停止していることを示します。

KDEB13039-W

タイマー監視機能は、開始されていないか、または停止中です。タイムアウト評価は行いません。

The timer monitoring function is not running or is stopping. A timeout evaluation will not be performed.

説明

タイマー監視は、開始されていないか、または停止中です。

KDEB13040-E

オブジェクトがバインドされていません。(URL={0})

The object has not been binded. (URL = {0})
{0}:URL

説明

プログラム内部のオブジェクト連携処理でエラーが発生しました。

対処

MSH 実行環境定義ファイル (END_POINT コンテナ) の設定を見直して、uCosminexus Message Service for ebXML を再起動してください。

KDEB13041-E

予期しないエラーが発生しました。(詳細情報={0})

An unexpected error has occurred. (details = {0})
{0}: 詳細情報

説明

内部エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB13042-I

処理を中止します。

Processing will now be stopped.

説明

タイマー監視処理を中止したことを示します。

対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを基に、エラーの原因を取り除いてください。

KDEB13044-I

タイマー監視機能を終了します。

The timer monitoring function has finished.

説明

タイマー監視を終了することを示します。

10.16 KDEB14001 ~ KDEB15000 のメッセージ

KDEB14001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB14002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB14003-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB14004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

10. メッセージ

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB14005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB14006-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB14021-E

{0} の値が不正です。 ({1})

The value for {0} is invalid. ({1})

{0}: 要素名

{1}: 詳細情報

説明

メッセージ交換定義ファイルの要素が不正です。

対処

CPA ファイルを見直し、再度メッセージ交換定義ファイルを生成してください。

KDEB14022-E

{0}@{1} の値が不正です。 ({2})

The value for {0}@{1} is invalid. ({2})

{0}: 要素名

{1}: 属性名

{2}: 詳細情報

説明

メッセージ交換定義ファイルの該当要素の属性が不正です。

対処

CPA ファイルを見直し、再度メッセージ交換定義ファイルを生成してください。

KDEB14023-E

{0} に対応する要素が不正です。({1})

The element corresponding to {0} is invalid. ({1})

{0}: 要素名

{1}: 詳細情報

説明

要素に対応する子要素が不正です。

対処

CPA ファイルを見直し、再度メッセージ交換定義ファイルを生成してください。

KDEB14024-E

{0} が二つ以上あります。

There are two or more instances of {0}.

{0}: 要素名

説明

要素が二つ以上あり、不正です。

対処

CPA ファイルを見直し、再度メッセージ交換定義ファイルを生成してください。

KDEB14025-E

{0} が定義されていません。

{0} has not been defined.

{0}: 要素名

説明

必須要素が定義されていません。

対処

CPA ファイルを見直し、再度メッセージ交換定義ファイルを生成してください。

KDEB14026-E

メッセージ交換定義関連で内部矛盾が発生しました。({0})

An internal contradiction occurred in relation to the messaging definition. ({0})

{0}: 詳細情報

10. メッセージ

説明

メッセージ交換定義ファイル関連で予期しないエラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB14027-E

{0} に対応する {1} がありません。

There is no {1} corresponding to {0}.

{0}: 要素名

{1}: 要素名または属性名

説明

要素に対応する属性がありません。

対処

CPA ファイルを見直し、再度メッセージ交換定義ファイルを生成してください。

KDEB14028-E

同一の {0} が存在しています。

The same {0} exists.

{0}: 要素名

説明

同一の要素があり、不正です。

対処

CPA ファイルを見直し、再度メッセージ交換定義ファイルを生成してください。

KDEB14029-E

{0} は二つ存在する必要があります。

{0} must appear twice.

{0}: 要素名

説明

要素が足りません。この要素は二つ必要です。

対処

CPA ファイルを見直し、再度メッセージ交換定義ファイルを生成してください。

KDEB14030-E

メッセージ交換定義ファイルのスキーマ定義が不正です。({0})

The schema definition for the messaging definition is invalid. ({0})

{0}: 詳細情報

説明

メッセージ交換定義ファイルのスキーマ定義が不正です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB14032-E

メッセージ交換定義ファイルが存在しません。({0})

The messaging definition file does not exist. ({0})

{0}: ファイルパス

説明

メッセージ交換定義ファイルが一つもありません。

対処

メッセージ交換定義ファイルをメッセージ交換定義導入コマンドで作成してください。

KDEB14033-E

同一のメッセージ交換定義識別子を持つメッセージ交換定義ファイルが存在します。({0})

There is a messaging definition that has the same messaging definition ID. ({0})

{0}: メッセージ交換定義識別子

説明

同一のメッセージ交換定義識別子のメッセージ交換定義ファイルがあります。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB14034-E

メッセージ交換定義ファイルのスキーマ検証に失敗しました。({0})({1})

An attempt to verify the schema validation for the messaging definition has failed. ({0}) ({1})

{0}: ファイルパス

{1}: 詳細情報

説明

メッセージ交換定義ファイルのスキーマ検証に失敗しました。

対処

CPA ファイルを見直し、再度メッセージ交換定義ファイルを生成してください。

KDEB14035-E

メッセージ交換定義ファイルのキャッシュ処理において内部エラーが発生しました。({0})

An internal error occurred during cache process of the messaging definition. ({0})

10. メッセージ

{0}: ファイルパス

説明

メッセージ交換定義ファイルのキャッシュ処理で内部エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB14037-E

パラメタが null か空文字です。({0})

The parameter is null or an empty string. ({0})

{0}: 詳細情報

説明

パラメタの内容が null または空文字です。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

10.17 KDEB15001 ~ KDEB16000 のメッセージ

KDEB15001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB15002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB15003-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB15004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

10. メッセージ

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB15005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB15006-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB15021-I

{0}

{0}

{0}: 例外のバックトレース情報

説明

例外のバックトレース情報 {0} を示します。

KDEB15022-E

HNTRLib の初期化に失敗しました。API={0}, Info={1}

An attempt to initialize HNTRLib has failed. API = {0}, info = {1}

{0}: エラー発生 API 名

{1}: エラー情報

説明

HNTRLib の初期化に失敗しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB15023-E

ホストの IP アドレスを取得できないため、GUID を生成できません。

The GUID cannot be created because the IP address of the host cannot be acquired.

説明

ホストの IP アドレスの取得に失敗しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB15024-E

内部エラーが発生しました。({0}::{1},{2})

An internal error occurred. ({0}::{1}, {2})

{0}: クラス

{1}: メソッド名

{2}: エラーの詳細

説明

内部エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB15025-I

{0}

{0}

{0}: 詳細情報に改行を含む場合の 2 行目以降のメッセージ

説明

詳細情報に改行を含むメッセージの出力要求がありました。
2 行目以降の詳細情報 {0} を示します。

10.18 KDEB17001 ~ KDEB18000 のメッセージ

KDEB17001-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。

クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB17002-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。

クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB17003-I

{0} = {1}

{0} = {1}

{0}: パラメタ名

{1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。

パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB17004-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名

{1}: メソッド名

説明

関数を開始します。
 クラス {0} のメソッド {1} が開始されたことを示します。

KDEB17005-I

{0}::{1}

{0}::{1}

{0}: クラス名
 {1}: メソッド名

説明

関数が終了しました。
 クラス {0} のメソッド {1} が終了したことを示します。

KDEB17006-I

{{0} = {1}}

{{0} = {1}}

{0}: パラメタ名
 {1}: パラメタ値

説明

パラメタ内容を通知します。
 パラメタ {0} の内容 {1} を示します。

KDEB17021-E

UOC でエラーが発生しました。({0}::{1},{2})

An error occurred in UOC. ({0}::{1}, {2})

{0}: クラス
 {1}: メソッド名
 {2}: エラーの詳細

説明

UOC でエラーが発生しました。

対処

作成した UOC の内容を見直してください。

KDEB17022-E

MSH への EJB 呼び出し処理でエラーが発生しました。({0}::{1},{2})

An error occurred while calling EJB of MSH. ({0}::{1}, {2})

{0}: クラス
 {1}: メソッド名

10. メッセージ

{2}: エラーの詳細

説明

MSH 内部の API でエラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB17023-E

コールバック処理中にエラーが発生しました。({0}::{1},{2})

An error occurred during callback processing. ({0}::{1}, {2})

{0}: クラス

{1}: メソッド名

{2}: エラーの詳細

説明

内部エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB17024-E

XML 定義エラーが発生しました。({0}::{1},{2})

An XML definition error occurred. ({0}::{1}, {2})

{0}: クラス

{1}: メソッド名

{2}: エラーの詳細

説明

内部エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB17025-I

トランザクションを開始しました。

The transaction has started.

説明

トランザクションを開始したことを示します。

KDEB17026-I

トランザクションをコミットしました。

The transaction was committed.

説明

トランザクションをコミットしたことを示します。

KDEB17027-I

トランザクションをロールバックしました。

The transaction was rolled back.

説明

トランザクションをロールバックしたことを示します。

KDEB17028-E

UOC の読み込みに失敗しました。(UOC:{0})

An attempt to load UOC has failed. (UOC:{0})

{0}:UOC 名

説明

定義ファイルで指定された UOC 名に対応するクラスがありません。

対処

送信結果 / 受信定義定義ファイル (SEND_NOTIFY コンテナの UOC_CLASS キー ,
または RECV_MESSAGE コンテナの UOC_CLASS キー) に指定した UOC 実装ク
ラス名が正しいかを見直してください。

KDEB17029-E

ファイル出力に失敗しました。(ファイル名:{0})(詳細情報:{1})

An attempt to write file has failed. (file:{0})(detail:{1})

{0}: ファイル名

{1}: 詳細情報

説明

ペイロードのファイル出力に失敗しました。

対処

詳細情報に出力されている情報を基に, 障害の要因を取り除いてください。

KDEB17030-I

ペイロードを出力しました。(ファイル名:{0})

An attempt to write file has succeed. (file:{0})

{0}: ファイル名

説明

ペイロードを出力しました。

KDEB17031-E

メッセージコンテキストの状態を一時停止に設定しました。(メッセージコンテキスト :{0})

message context suspend(message context id:{0})

{0}: メッセージコンテキスト識別子

説明

メッセージコンテキストが一時停止状態になりました。次の原因が考えられます。

- 送信結果 / 受信定義ファイルの内容が不正または存在しない。
- 受信メッセージ格納ディレクトリに対する書き込み権限がない。
- ファイル名の重複が原因で、ファイル出力に失敗した。

対処

原因に応じて次のとおり対処してください。

- 送信結果 / 受信定義ファイルの内容を見直してください。
- 受信メッセージ格納ディレクトリに対するアクセス権限を見直してください。
- 重複しないファイル名を設定するか、または受信メッセージ別格納ディレクトリの設定を検討してください。

KDEB17032-I

メッセージにペイロードが設定されていないため、ファイル出力を行いません。(メッセージコンテキスト :{0})

File does not output since payload does not exist in message. (message context id:{0})

{0}: メッセージコンテキスト識別子

説明

ビジネスメッセージにペイロードが設定されていません。ペイロードにファイルを出力しないで処理を続けます。

KDEB17050-E

コンフィグレーション情報 (コンテナ : {0}, キー : {1}) の取得に失敗しました。

An attempt to acquire the configuration information (container: {0}, key: {1}) has failed.

{0}: コンテナ名

{1}: キー名

説明

定義情報の取得に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージの対処に従ってください。

KDEB17051-E

JP1 イベント登録コマンドが 4096 バイトを超えました。コマンド文字列 = {0}

The JP1 event registration command exceeded 4096 bytes. command string = {0}

{0}: コマンド文字列

説明

JP1 イベント登録コマンドが 4,096 バイトを超えました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB17052-E

ペイロードファイル名一覧ファイルの作成に失敗しました。ファイル名={0}

An attempt to create the file for the payload file names list has failed. file name = {0}

{0}: ファイル名

説明

ペイロードファイル名一覧ファイルの作成に失敗しました。

対処

MSH 実行環境ディレクトリ下の PayloadInfo ディレクトリに対して書き込み権限があるかを確認してください。

KDEB17053-E

JP1 イベント登録コマンド (jevsend) に失敗しました。戻り値={0}

The JP1 event registration command (jevsend) failed. return value = {0}

{0}:jevsend コマンドの戻り値

説明

jevsend コマンドが正常終了しませんでした。

対処

JP1 のマニュアルでコマンドの戻り値に対する対処を確認してください。

KDEB17054-E

内部エラーが発生しました。({0}::{1},{2})

An internal error occurred. ({0}::{1}, {2})

{0}: クラス

{1}: メソッド名

{2}: エラーの詳細

説明

内部エラーが発生しました。

対処

トレースを採取し、保守員に連絡してください。

KDEB17055-E

"PayloadInfo" ディレクトリの生成に失敗しました。

An attempt to create the "PayloadInfo" directory has failed.

説明

MSH 実行環境ディレクトリ下に PayloadInfo ディレクトリを生成できませんでした。

対処

MSH 実行環境ディレクトリに対して書き込み権限があるかを確認してください。

KDEB17058-E

JP1 イベント登録コマンド (jevsend) が起動できませんでした。

The JP1 event registration command (jevsend) could not be started.

説明

JP1 の jevsend コマンドが起動できませんでした。

対処

jevsend コマンドが格納されているディレクトリに対して、システムの PATH 環境変数が設定されているかを確認してください。設定されている場合は、JP1 の環境が不正のおそれがあるため、JP1 の環境を見直してください。

10.19 KDEB18001 ~ KDEB19000 のメッセージ

KDEB18001-E

An attempt to kill java process has failed. (function={0} pid={1} errno={2})

{0}: 機能名

{1}: プロセス ID

{2}: エラー番号

説明

java プロセスの停止処理に失敗しました。

対処

このメッセージの直前に出力されたエラー情報、およびエラー番号を参照してエラー要因を取り除き、再度コマンドを実行してください。解決できない場合は、出力されたメッセージを採取してシステム管理者に連絡してください。

KDEB18002-E

An attempt to remove process information file has failed. (file={0} errno={1})

{0}: プロセス管理ファイル名

{1}: エラー番号

説明

プロセス管理ファイルの削除処理に失敗しました。

対処

このメッセージの直前に出力されたエラー情報、およびエラー番号を参照して、エラー要因を取り除いてください。また、削除できなかったプロセス管理ファイルを手動で削除してください。

KDEB18003-E

An attempt to start java process has failed. (function={0} errno={1})

{0}: 機能名

{1}: エラー番号

説明

java プロセスの起動処理に失敗しました。

対処

このメッセージの直前に出力されたエラー情報、およびエラー番号を参照してエラー要因を取り除き、再度コマンドを実行してください。解決できない場合は、出力されたメッセージを採取してシステム管理者に連絡してください。

KDEB18999-E

Memory is insufficient. (file={0} line={1} size={2})

{0}: 保守情報

{1}: 保守情報

{2}: 確保できなかったバイト数

説明

主記憶領域を確保できませんでした。

対処

システムのメモリ使用状況を調査して、不要なプロセス、およびデーモンを停止してください。解決できない場合は、物理メモリを増設してください。

付録

付録 A ebMS 仕様のサポート範囲

付録 B CPA ファイル作成時の制限事項

付録 C 定義ファイルのスキーマ

付録 D SQL サンプル

付録 E uCosminexus Message Service for ebXML が発行する JP1 イベント
一覧

付録 F 用語解説

付録 A ebMS 仕様のサポート範囲

ebMS 仕様で規定されている MSH の機能のうち、uCosminexus Message Service for ebXML のサポート範囲を次に示します。

表 A-1 uCosminexus Message Service for ebXML のサポート範囲

項番	分類	機能	ebMS 仕様での規定	サポート有無
1	高信頼配信	Best Effort (永続管理なし)	必須	
2		At least Once (再送処理, メッセージ永続管理)	オプション	
3		Once and Only Once (多重受信防止)	オプション	
4		Message Order (会話内での配信順序保証)	オプション	×
5	会話管理	AP 会話管理	どちらか必須	
6		MSH 会話管理		×
7	メッセージ交換方式	非同期	必須	
8		同期 (mshSignalsOnly)	オプション	
9		同期 (signalsOnly)	オプション	×
10		同期 (responseOnly)	オプション	×
11		同期 (signalsAndResponse)	オプション	×
12	伝送プロトコル	HTTP	問わない	
13		SMTP		×
14	セキュア通信プロトコル	TLS V1.0	オプション	
15		SSL V3.0	オプション	
16	SSL 認証	サーバ認証	オプション	
17		クライアント認証	オプション	
18	HTTP 認証方式	ベーシック認証	オプション	
19		ダイジェスト認証	オプション	×
20	セキュリティ (Message)	電子署名 (XML Signature)	オプション	
21		暗号化 (XML Encryption)	オプション	×
22	ペイロード搬送	SimplePart (MIME Multipart の個々のパート)	必須	
23		MIME Multipart でのネスト構造対応	オプション	×

項番	分類	機能	ebMS 仕様での規定	サポート有無
24		リモートリソース	オプション	×
25	文字コード	UTF-8	必須	
26		UTF-16	オプション	×
27	その他	マルチホップ	オプション	×
28		MSH 状態問合せ (MSH Ping Service)	オプション	×
29		メッセージ状態問合せ (Message Status Service)	オプション	×

(凡例) : サポートしている × : サポートしていない

付録 B CPA ファイル作成時の制限事項

uCosminexus Message Service for ebXML では、CPA ファイルに記述する内容について制限事項があります。CPA ファイルは制限事項を守って作成してください。

付録 B.1 CPA ファイルの各項目と uCosminexus Message Service for ebXML での規約

CPA ファイルの各項目に対して決められている、uCosminexus Message Service for ebXML での規約を次に示します。

表 B-1 CPA ファイルの各項目と uCosminexus Message Service for ebXML での規約

項番	CPA ファイルの項目 ¹	uCosminexus Message Service for ebXML での規約
1	@ cpaid	63 バイト以下の文字列で指定します。 ² 次の文字は、使用できません。 「¥」、「/」、「:」、「,」、「;」、「*」、「?」、「"」、「<」、 「>」、「 」、「&」、「^」 ハイフン (-) は使用できますが、異なる CPA ファイルに対してメッセージ交換定義導入コマンドを実行したときに重複エラー (KDEB02309-E) が発生するおそれがあります ³ 。
2	PartyInfo/ @ partyName	63 バイト以下の文字列で指定します。 ²
3	PartyInfo/PartyId	63 バイト以下の文字列で指定します。 ² 次の文字は、使用できません。 「¥」、「/」、「:」、「,」、「;」、「*」、「?」、「"」、「<」、 「>」、「 」、「&」、「^」 ハイフン (-) は使用できますが、異なる CPA ファイルに対してメッセージ交換定義導入コマンドを実行したときに重複エラー (KDEB02309-E) が発生するおそれがあります ³ 。
4	PartyInfo/PartyId/@type	指定する場合、255 バイト以下の文字列で指定します。 ²
5	PartyInfo/CollaborationRole/Role/ @name	255 バイト以下の文字列で指定します。 ²
6	PartyInfo/CollaborationRole/ ServiceBinding/Service	255 バイト以下の文字列で指定します。 ²
7	PartyInfo/CollaborationRole/ ServiceBinding/Service/@type	指定する場合、255 バイト以下の文字列で指定します。 ²
8	PartyInfo/CollaborationRole/ ServiceBinding/CanSend/ ThisPartyActionBinding/@action	255 バイト以下の文字列で指定します。 ²

項番	CPA ファイルの項目 ¹	uCosminexus Message Service for ebXML での規約
9	PartyInfo/CollaborationRole/ ServiceBinding/CanReceive/ ThisPartyActionBinding/@action	255 バイト以下の文字列で指定します。 ²
10	PartyInfo/DeliveryChannel/ MessagingCharacteristics/ @syncReplyMode	指定する場合, "none" または "mshSignalsOnly" のどちらかを指定します。指定を省略した場合, "none" が適用されます。
11	PartyInfo/DeliveryChannel/ MessagingCharacteristics/ @ackRequested	"never" または "always" のどちらかを指定してください。指定を省略した場合, "never" が適用されます。
12	PartyInfo/DeliveryChannel/ MessagingCharacteristics/ @ackSignatureRequested	"never" または "always" のどちらかを指定してください。指定を省略した場合, "never" が適用されます。
13	PartyInfo/DeliveryChannel/ MessagingCharacteristics/ @duplicateElimination	"never" または "always" のどちらかを指定してください。指定を省略した場合, "never" が適用されます。
14	PartyInfo/Transport/TransportSender/ TransportProtocol	"HTTP" を指定します。
15	PartyInfo/Transport/TransportSender/ TransportProtocol/@version	"1.0" または "1.1" を指定します。
16	PartyInfo/Transport/TransportSender/ AccessAuthentication	指定する場合, "basic" を指定します。指定しない場合, HTTP の認証は行われません。なお, HTTP 認証を実施する場合は, この項目だけでなく, CPA 拡張定義ファイルの AccessAuthenticationInfo も指定する必要があります。
17	PartyInfo/Transport/TransportSender/ TransportClientSecurity/ TransportSecurityProtocol	暗号化通信をする場合, "SSL" または "TLS" を指定します。指定しない場合, どちらのセキュリティプロトコルも使用されません。
18	PartyInfo/Transport/TransportSender/ TransportClientSecurity/ TransportSecurityProtocol/@version	項番 17 が "SSL" の場合は "3.0" を指定します。項番 17 が "TLS" の場合は "1.0" を指定します。項番 17 を指定し, この項目を指定しない場合, 項番 17 が "SSL" であれば "3.0" と解釈され, "TLS" であれば "1.0" と解釈されます。
19	PartyInfo/Transport/ TransportReceiver/TransportProtocol	"HTTP" を指定します。
20	PartyInfo/Transport/ TransportReceiver/TransportProtocol/ @version	"1.0" または "1.1" を指定します。
21	PartyInfo/Transport/ TransportReceiver/ AccessAuthentication	指定する場合, "basic" を指定します。指定しない場合, HTTP の認証は行われません。なお, HTTP 認証を実施する場合は, この項目だけでなく, CPA 拡張定義ファイルの AccessAuthenticationInfo も指定する必要があります。

項番	CPA ファイルの項目 ¹	uCosminexus Message Service for ebXML での規約
22	PartyInfo/Transport/ TransportReceiver/Endpoint/@url	次の形式で指定します。 http://<ホスト名>:<ポート番号>/ebxml/msh/ recv/handler <ul style="list-style-type: none"> • セキュリティプロトコルを使用する場合は、HTTP ではなく、HTTPS を指定します。 • <ホスト名> には、ebXML サーバのホスト名を指定します。 • <ポート番号> には、Hitachi Web Server のポート番号を指定します。
23	PartyInfo/Transport/ TransportReceiver/ TransportServerSecurity/ TransportSecurityProtocol	暗号化通信をする場合、"SSL" または "TLS" を指定します。指定しない場合、どちらのセキュリティプロトコルも使用されません。
24	PartyInfo/Transport/ TransportReceiver/ TransportServerSecurity/ TransportSecurityProtocol/@version	項番 23 が "SSL" の場合は "3.0" を指定します。項番 23 が "TLS" の場合は "1.0" を指定します。項番 23 を指定し、この項目を指定しない場合、項番 23 が "SSL" であれば "3.0" と解釈され、"TLS" であれば "1.0" と解釈されます。
25	PartyInfo/DocExchange/ ebXMLSenderBinding/ ReliableMessaging/ MessageOrderSemantics	指定する場合、"NotGuaranteed" を指定します。
26	PartyInfo/DocExchange/ ebXMLReceiverBinding/ ReliableMessaging/ MessageOrderSemantics	指定する場合、"NotGuaranteed" を指定します。
27	PartyInfo/DocExchange/*/ PersistDuration	指定する場合、送信パーティの "(Retries + 1) * RetryInterval" の計算値よりも長い期間を指定します。

注 1 ここで示す CPA ファイルの項目のルート要素は "CollaborationProtocolAgreement" です。

注 2 各キーのバイト長は、MSH 実行環境定義ファイルの SYSTEM_INFO/ENCODING に指定した文字コードでのバイト長を意味します。MSH 実行環境定義ファイルの詳細については、「7.4 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)」を参照してください。

注 3 CPA ファイル A と B に対して、それぞれメッセージ交換定義導入コマンドを実行した場合に重複エラーが発生する指定例を、次に示します。

- CPA ファイル A での指定値
@cpaid : aa-bb
PartyInfo/PartyId : cc
- CPA ファイル B での指定値
@cpaid : aa
PartyInfo/PartyId : bb-cc

この場合、メッセージ交換定義導入コマンドを実行してメッセージ交換定義ファイルを生成すると、両方のメッセージ交換定義識別子が "aa-bb-cc" となり、重複エラーが発生します。

付録 B.2 uCosminexus Message Service for ebXML が使用しない CPA ファイルの項目

CPA ファイルとして指定が必要な項目のうち、uCosminexus Message Service for ebXML が実際のビジネスメッセージ配送処理で参照（使用）しない項目があります。uCosminexus Message Service for ebXML が使用しない CPA ファイルの項目を次に示します。

表 B-2 uCosminexus Message Service for ebXML が使用しない CPA ファイルの項目

項番	uCosminexus Message Service for ebXML が使用しない CPA ファイルの項目
1	Status 以下
2	Start
3	End
4	CoversationConstraints 以下
5	PartyInfo/@defaultMshPackageId
6	PartyInfo/PartyRef 以下
7	PartyInfo/CollaborationRole/ProcessSpecification 以下
8	PartyInfo/CollaborationRole/Role/@xlink:type
9	PartyInfo/CollaborationRole/Role/@xlink:href
10	PartyInfo/CollaborationRole/ApplicationCertificateRef 以下
11	PartyInfo/CollaborationRole/ApplicationSecurityDetailsRef 以下
12	PartyInfo/CollaborationRole/ServiceBinding/CanSend/ThisPartyActionBinding/@packageId
13	PartyInfo/CollaborationRole/ServiceBinding/CanSend/ThisPartyActionBinding/@xlink:href
14	PartyInfo/CollaborationRole/ServiceBinding/CanSend/ThisPartyActionBinding/@xlink:type
15	PartyInfo/CollaborationRole/ServiceBinding/CanSend/ThisPartyActionBinding/BusinessTransactionCharacteristics 以下
16	PartyInfo/CollaborationRole/ServiceBinding/CanSend/ThisPartyActionBinding/ActionContext 以下
17	PartyInfo/CollaborationRole/ServiceBinding/CanSend/CanReceive
18	PartyInfo/CollaborationRole/ServiceBinding/CanReceive/ThisPartyActionBinding/@packageId
19	PartyInfo/CollaborationRole/ServiceBinding/CanReceive/ThisPartyActionBinding/@xlink:href
20	PartyInfo/CollaborationRole/ServiceBinding/CanReceive/ThisPartyActionBinding/@xlink:type
21	PartyInfo/CollaborationRole/ServiceBinding/CanReceive/ThisPartyActionBinding/BusinessTransactionCharacteristics 以下

項番	uCosminexus Message Service for ebXML が使用しない CPA ファイルの項目
22	PartyInfo/CollaborationRole/ServiceBinding/CanReceive/ThisPartyActionBinding/ActionContext 以下
23	PartyInfo/CollaborationRole/ServiceBinding/CanReceive/CanSend
24	PartyInfo/SecurityDetails/SecurityPolicy
25	PartyInfo/DeliveryChannel/MessagingCharacteristics/@actor
26	PartyInfo/Transport/TransportSender/TransportClientSecurity/EncryptionAlgorithm/@minimumStrength
27	PartyInfo/Transport/TransportSender/TransportClientSecurity/EncryptionAlgorithm/@oid
28	PartyInfo/Transport/TransportSender/TransportClientSecurity/EncryptionAlgorithm/@w3c
29	PartyInfo/Transport/TransportSender/TransportClientSecurity/EncryptionAlgorithm/@enumerateType
30	PartyInfo/Transport/TransportReceiver/Endpoint/@type
31	PartyInfo/Transport/TransportReceiver/TransportServerSecurity/EncryptionAlgorithm/@minimumStrength
32	PartyInfo/Transport/TransportReceiver/TransportServerSecurity/EncryptionAlgorithm/@oid
33	PartyInfo/Transport/TransportReceiver/TransportServerSecurity/EncryptionAlgorithm/@w3c
34	PartyInfo/Transport/TransportReceiver/TransportServerSecurity/EncryptionAlgorithm/@enumerateType
35	PartyInfo/DocExchange/ebXMLSenderBinding/SenderNonRepudiation/NonRepudiationProtocol/@version
36	PartyInfo/DocExchange/ebXMLSenderBinding/SenderNonRepudiation/SignatureAlgorithm/@oid
37	PartyInfo/DocExchange/ebXMLSenderBinding/SenderNonRepudiation/SignatureAlgorithm/@w3c
38	PartyInfo/DocExchange/ebXMLSenderBinding/SenderNonRepudiation/SignatureAlgorithm/@enumerateType
39	PartyInfo/DocExchange/ebXMLSenderBinding/SenderDigitalEnvelope 以下
40	PartyInfo/DocExchange/ebXMLSenderBinding/NamespaceSupported 以下
41	PartyInfo/DocExchange/ebXMLReceiverBinding/ReceiverNonRepudiation/NonRepudiationProtocol/@version
42	PartyInfo/DocExchange/ebXMLReceiverBinding/ReceiverNonRepudiation/SignatureAlgorithm/@oid
43	PartyInfo/DocExchange/ebXMLReceiverBinding/ReceiverNonRepudiation/SignatureAlgorithm/@w3c
44	PartyInfo/DocExchange/ebXMLReceiverBinding/ReceiverNonRepudiation/SignatureAlgorithm/@enumerateType
45	PartyInfo/DocExchange/ebXMLReceiverBinding/ReceiverDigitalEnvelope 以下

項番	uCosminexus Message Service for ebXML が使用しない CPA ファイルの項目
46	PartyInfo/DocExchange/ebXMLReceiverBinding/NamespacesSupported 以下
47	SimplePart 以下
48	Packaging 以下
49	Signature 以下

注 ここで示す CPA ファイルの項目のルート要素は "CollaborationProtocolAgreement" です。

付録 C 定義ファイルのスキーマ

uCosminexus Message Service for ebXML の環境設定に必要なファイルの、XML スキーマについて説明します。

定義ファイルのスキーマは、次のディレクトリに格納されています。

- Windows の場合
 <uCosminexus Message Service for ebXMLのインストールディレクトリ>¥schemas
- UNIX の場合
 /opt/ebxml/msh/schemas

付録 C.1 実行環境参照定義ファイル，および MSH 実行環境定義ファイルで使用する XML スキーマ

実行環境参照定義ファイル，および MSH 実行環境定義ファイルで使用する XML スキーマを次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>

<xsd:schema xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  targetNamespace="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/common/
  configuration/config/config.xsd"
  xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/common/configuration/
  config/config.xsd">

<xsd:element name="Key">
  <xsd:complexType>
    <xsd:simpleContent>
      <xsd:extension base="xsd:string">
        <xsd:attribute name="id" use="required" type="non-empty-string" />
      </xsd:extension>
    </xsd:simpleContent>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

<xsd:element name="Key">
  <xsd:complexType>
    <xsd:simpleContent>
      <xsd:extension base="xsd:string">
        <xsd:attribute name="id" use="required" type="non-empty-string" />
      </xsd:extension>
    </xsd:simpleContent>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>
```

```

<xsd:element name="Container">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element ref="Key" maxOccurs="255" />
    </xsd:sequence>
    <xsd:attribute name="id" use="required" type="non-empty-string" />
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

<xsd:element name="Configuration">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element ref="Container" maxOccurs="255" />
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

<xsd:simpleType name="non-empty-string">
  <xsd:restriction base="xsd:string">
    <xsd:minLength value="1"/>
  </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>

</xsd:schema>

```

付録 C.2 送信結果 / 受信定義ファイル，および送信情報ファイルで使用する XML スキーマ

送信結果 / 受信定義ファイル，および送信情報ファイルで使用する XML スキーマを次に示します。

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>

<xsd:schema xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  targetNamespace="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/common/
  configuration/config/rcvdef.xsd"
  xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/common/configuration/
  config/rcvdef.xsd">

  <xsd:simpleType name="non-empty-string">
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:minLength value="1"/>
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>

  <xsd:element name="Service">
    <xsd:complexType>
      <xsd:simpleContent>
        <xsd:extension base="non-empty-string">
          <xsd:attribute name="name" use="required" type="non-empty-string"
        />
          <xsd:attribute name="type" use="optional" type="non-empty-string"
        />
        </xsd:extension>
      </xsd:simpleContent>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>

```

```
<xsd:element name="Action">
  <xsd:complexType>
    <xsd:simpleContent>
      <xsd:extension base="non-empty-string">
        <xsd:attribute name="name" use="required" type="non-empty-string"
      />
    </xsd:extension>
  </xsd:simpleContent>
</xsd:complexType>
</xsd:element>

<xsd:element name="Key">
  <xsd:complexType mixed="true">
    <xsd:choice maxOccurs="1" minOccurs="0">
      <xsd:element ref="Service" maxOccurs="unbounded" minOccurs="1"/>
      <xsd:element ref="Action" maxOccurs="unbounded" minOccurs="1"/>
    </xsd:choice>
    <xsd:attribute name="id" use="required" type="non-empty-string" />
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

<xsd:element name="Container">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element ref="Key" maxOccurs="255" />
    </xsd:sequence>
    <xsd:attribute name="id" use="required" type="non-empty-string" />
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

<xsd:element name="Configuration">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element ref="Container" maxOccurs="255" />
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

</xsd:schema>
```

付録 C.3 CPA 拡張定義ファイルで使用する XML スキーマ

CPA 拡張定義ファイルで使用する XML スキーマを次に示します。

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<xsd:schema xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  targetNamespace="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/schema/
cpa-entinfo.xsd"
  xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/msh/schema/
cpa-entinfo.xsd">

  <xsd:element name="CPAExtendInfo">
    <xsd:complexType>
      <xsd:sequence>
        <xsd:element ref="SignatureRequired" minOccurs="0"/>
        <xsd:element ref="SignPayload" minOccurs="0"/>
        <xsd:element ref="DurationTime" minOccurs="0"/>
        <xsd:element ref="AccessAuthenticationInfo" minOccurs="0"/>
        <xsd:element ref="ConnectionTimeout" minOccurs="0"/>
      </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>

  <xsd:element name="SignatureRequired" type="xsd:string"/>
  <xsd:element name="SignPayload" type="xsd:string"/>
  <xsd:element name="DurationTime" type="xsd:duration"/>
  <xsd:element name="AccessAuthenticationInfo">
    <xsd:complexType>
      <xsd:sequence>
        <xsd:element ref="Basic" minOccurs="1"/>
      </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>
  <xsd:element name="ConnectionTimeout" type="xsd:string" />
  <xsd:element name="Basic">
    <xsd:complexType>
      <xsd:sequence>
        <xsd:element ref="UserId"/>
        <xsd:element ref="Password"/>
      </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>
  <xsd:element name="UserId" type="non-empty-string" />
  <xsd:element name="Password" type="xsd:string" />

  <xsd:simpleType name="non-empty-string">
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:minLength value="1"/>
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:schema>

```

付録 D SQL サンプル

uCosminexus Message Service for ebXML は、ビジネスメッセージを保持するために DB を使用します。ここでは、DB のテーブルを作成する SQL のサンプルを示します。テーブル作成時には、これらのサンプルファイルを編集して使用してください。DB の環境設定方法については、「3.3 HiRDB の環境設定」を参照してください。

SQL のサンプルファイルは、次のディレクトリに格納されています。

- Windows の場合

```
<uCosminexus Message Service for ebXMLのインストールディレクトリ
>%sample%db%sql
```

- UNIX の場合

```
/opt/ebxml/msh/sample/db/sql
```

作成するテーブルと SQL サンプルファイル名の対応を次に示します。

表 D-1 作成するテーブルと SQL サンプルファイル名の対応

項番	テーブル名	SQL サンプルファイル名	用途
1	MshMessaging	MshMessaging.sql	ビジネスメッセージの情報を格納
2	MshMsgArchive	MshMsgArchive.sql	ビジネスメッセージの実体を格納
3	MshSendTimer	MshSendTimer.sql	送信タイマーの情報を格納
4	MshNotifyApTimer	MshNotifyApTimer.sql	AP 通知タイマーの情報を格納
5	MshAdmin	MshAdmin.sql	システム管理者の情報を格納

付録 D.1 MshMessaging.sql (ビジネスメッセージの情報格納テーブル)

ビジネスメッセージの情報を格納するためのテーブル作成用 SQL サンプルを次に示します。

```

CREATE TABLE MshMessaging (
  MsCtxId      CHAR (63) PRIMARY KEY IN RDMSGIDX,
  MsDefId      MVARCHAR (127) NOT NULL,
  CpaId        MVARCHAR (63) NOT NULL,
  Service      MVARCHAR (255) NOT NULL,
  SType        MVARCHAR (255),
  MsAct        MVARCHAR (255) NOT NULL,
  MsRole       MVARCHAR (255),
  MsType       INTEGER NOT NULL,
  Sender       MVARCHAR (63),
  Receiver     MVARCHAR (63),
  ConvId       MVARCHAR (255) NOT NULL,
  MsgId        MVARCHAR (255) NOT NULL,
  StateC       INTEGER NOT NULL,
  Suspended    CHAR (1) NOT NULL,
  CreationD    CHAR (24) NOT NULL,
  TimeToLive   CHAR (24),
  CompD        CHAR (24),
  ClosedD      CHAR (24),
  PersistD     CHAR (24),
  Security     INTEGER,
  QoS          INTEGER,
  ErrC         INTEGER,
  ErrDesc      MVARCHAR (1023),
  ErrDescLang  MVARCHAR (31),
  RetryCnt     INTEGER,
  SeqNum       INTEGER,
  RefTo        MVARCHAR (255),
  ApTimerRef   CHAR (63),
  SendTimerRef CHAR (63),
  MsgSize      INTEGER,
  MsgNum       INTEGER,
  CntType      CHAR (255),
  PlName       MVARCHAR (4096),
  SigRef       MVARCHAR (255),
  SigSize      INTEGER,
  SigNum       INTEGER,
  SigCntType   CHAR (255),
  SlotNum      INTEGER,
  OdrState     INTEGER,
  IsReset      CHAR (1)
) IN RDMSGTBL;

CREATE UNIQUE INDEX MshStatusIdx ON MshMessaging (
  MsDefId, MsgId
) IN RDMSGIDX2;

CREATE INDEX MshReferenceIdx ON MshMessaging (
  CompD, StateC, Service, MsAct
) IN RDMSGIDX3;

```

付録 D.2 MshMsgArchive.sql (ビジネスメッセージの実体格納テーブル)

ビジネスメッセージの実体を格納するためのテーブル作成用 SQL サンプルを次に示します。

```

CREATE TABLE MshMsgArchive (
  MsDefId      MVARCHAR (127) NOT NULL,
  MsgId        MVARCHAR (255) NOT NULL,
  SerialNum    INTEGER NOT NULL,
  Archive      BLOB(<分割サイズを指定してください>) IN RDACVLOB NOT NULL
) IN RDACVTBL;

CREATE UNIQUE INDEX MshArchiveIdx ON MshMsgArchive (
  MsDefId, MsgId, SerialNum
) IN RDACVIDX;

```

このサンプル内の<分割サイズを指定してください>という部分は、ユーザーが運用に応じて決める必要があります。指定方法の詳細については、「3.3.3 テーブルの作成」を参照してください。

付録 D.3 MshSendTimer.sql (送信タイマーの情報格納テーブル)

送信タイマーの情報を格納するためのテーブル作成用 SQL サンプルを次に示します。

```

CREATE TABLE MshSendTimer (
  Id           CHAR (63) PRIMARY KEY IN RDSTMIDX,
  Notify       CHAR (24) NOT NULL,
  Counter      INTEGER,
  State        INTEGER,
  ServerId     VARCHAR(8),
  Param1       BLOB (2047) IN RDSTMLOB
) IN RDSTM_TBL;

CREATE INDEX MshSendTimerIdx ON MshSendTimer (
  Notify DESC
) IN RDSTMIDX2;

```

付録 D.4 MshNotifyApTimer.sql (AP 通知タイマーの情報格納テーブル)

AP 通知タイマーの情報を格納するためのテーブル作成用 SQL サンプルを次に示します。

```
CREATE TABLE MshNotifyApTimer (  
  Id          CHAR (63) PRIMARY KEY IN RDNTMIDX,  
  Notify      CHAR (24) NOT NULL,  
  Counter     INTEGER,  
  State       INTEGER,  
  ServerId    VARCHAR(8),  
  Param1      BLOB (2047) IN RDNTMLOB  
) IN RDNTMTBL;  
  
CREATE INDEX MshNotifyApTimerIdx ON MshNotifyApTimer (  
  Notify DESC  
) IN RDNTMIDX2;
```

付録 D.5 MshAdmin.sql (システム管理者の情報格納テーブル)

システム管理者の情報を格納するためのテーブル作成用 SQL サンプルを次に示します。

```
CREATE TABLE MshAdmin (  
  Admin      VARCHAR (20) PRIMARY KEY IN RDAADMIDX,  
  Passwd     VARCHAR (20) NOT NULL  
) IN RDAADMTBL;
```

付録 E uCosminexus Message Service for ebXML が発行する JP1 イベント一覧

uCosminexus Message Service for ebXML は、次の JP1 イベントを発行します。

- 送信結果（成功）イベント
ビジネスメッセージの送信が成功したことを示すイベントです。
- 送信結果（失敗）イベント
ビジネスメッセージの送信が失敗したことを示すイベントです。
- 受信イベント
ビジネスメッセージを受信したことを示すイベントです。

高信頼配信の QoS レベルが Best Effort の場合、送信結果の成功・失敗は判断されないため、すべて送信結果（成功）イベントとして送信されます。

JP1 イベントを発行するには、送信結果 / 受信定義ファイルの設定が必要です。設定方法の詳細については、「7.5 送信結果 / 受信定義ファイル (rcvdef.xml)」を参照してください。

付録 E.1 送信結果（成功）イベントの詳細

uCosminexus Message Service for ebXML が発行する送信結果（成功）イベントの詳細を次に示します。

表 E-1 送信結果（成功）イベントの詳細（イベント ID : 00001EF1）

項番	属性の種類	項目	属性名	通知内容
1	基本属性	メッセージ	-	送信に成功しました。
2	拡張属性 (共通情報)	重大度	SEVERITY	Information
3		ユーザ名	USER_NAME	MSH 実行環境定義ファイル (SYSTEM_INFO コンテナの DOMAIN_NAME キー) の値
4		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/COSMINEXUS/MSH
5		オブジェクト タイプ	OBJECT_TYPE	JOB
6		オブジェクト 名	OBJECT_NAME	メッセージングコンテキスト識別子
7		登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TY PE	JOB
8		登録名	ROOT_OBJECT_NA ME	MSHSEND

項番	属性の種別	項目	属性名	通知内容
9		オブジェクト ID	OBJECT_ID	MSHSEND
10		事象種別	OCCURRENCE	SEND-SUCCESS
11		開始時刻	START_TIME	通知の時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数)
12		終了時刻	END_TIME	-
13		バージョン情報	RESULT_CODE	-
14		拡張属性 (固有情報)	メッセージングコンテキスト識別子	IF0
15	メッセージ交換定義識別子		IF1	メッセージ交換定義ファイルを識別するためのメッセージ交換定義識別子
16	送信パーティ名		IF2	ビジネスメッセージを送信したパーティ名
17	受信パーティ名		IF3	ビジネスメッセージを受信したパーティ名
18	CPA 識別子		IF4	ビジネスメッセージの送信で使用される CPA 識別子
19	会話識別子		IF5	送信したビジネスメッセージが属する会話を識別するための会話識別子
20	サービス名		IF6	送信したビジネスメッセージが属するサービス名
21	サービス名表記種別		IF7	サービス名の表記種別
22	アクション名		IF8	送信したビジネスメッセージが属するアクション名
23	メッセージ識別子		IF9	ビジネスメッセージを識別するために、ユーザーが指定できるメッセージ識別子。ユーザーが指定しない場合は、uCosminexus Message Service for ebXML が付加します。
24	メッセージ生成日時		IF10	uCosminexus Message Service for ebXML がビジネスメッセージを生成した日時
25	参照メッセージ識別子		IF11	送信したビジネスメッセージと関連する、別のビジネスメッセージのメッセージ識別子。ユーザーが指定しない場合は、表示されません。
26	ペイロード 1 のファイル名	PL1	ペイロード (1 番目) のファイル名	

項番	属性の種類別	項目	属性名	通知内容
27		ペイロード 2 のファイル名	PL2	ペイロード (2 番目) のファイル名
28		ペイロード 3 のファイル名	PL3	ペイロード (3 番目) のファイル名
29		ペイロード 4 のファイル名	PL4	ペイロード (4 番目) のファイル名
30		ペイロード 5 のファイル名	PL5	ペイロード (5 番目) のファイル名
31		ペイロード 6 のファイル名	PL6	ペイロード (6 番目) のファイル名
32		ペイロード 7 のファイル名	PL7	ペイロード (7 番目) のファイル名
33		ペイロード 8 のファイル名	PL8	ペイロード (8 番目) のファイル名
34		ペイロード 9 のファイル名	PL9	ペイロード (9 番目) のファイル名
35		ペイロード 10 のファイル名	PL10	ペイロード (10 番目) のファイル名

(凡例) - : なし

注

- ビジネスメッセージ送信時にペイロードを送信していない場合は、ペイロードのファイル名 (PL1 ~ PL10) は通知されません。
- ペイロードのファイル数が 10 よりも大きい場合、または、イベント情報の総バイト数が 4,096 バイトを超える場合は、PL1 に "ペイロードファイル名一覧ファイルのパス" が通知され、PL2 ~ 10 は通知されません。ペイロードファイル名一覧ファイルの出力場所は、次のとおりです。

Windows の場合

<MSH 実行環境ディレクトリ >¥PayloadInfo¥メッセージングコンテキスト識別子.txt

UNIX の場合

<MSH 実行環境ディレクトリ >/PayloadInfo/メッセージングコンテキスト識別子.txt

MSH 実行環境ディレクトリは、実行環境参照定義ファイル (EXEC_ENV_REF_DEF コンテナの EXEC_ENV_IO_DIR_PATH キー) で、ユーザーが指定した値になります。

付録 E.2 送信結果 (失敗) イベントの詳細

uCosminexus Message Service for ebXML が発行する送信結果 (失敗) イベントの詳細を次に示します。

表 E-2 送信結果 (失敗) イベントの詳細 (イベント ID : 00001EF2)

項番	属性の種類別	項目	属性名	通知内容
1	基本属性	メッセージ	-	送信に失敗しました。

項番	属性の種別	項目	属性名	通知内容
2	拡張属性（共通情報）	重大度	SEVERITY	Error
3		ユーザ名	USER_NAME	MSH 実行環境定義ファイルの (SYSTEM_INFO コンテナの DOMAIN_NAME キー) の値
4		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/COSMINEXUS/MSH
5		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	JOB
6		オブジェクト名	OBJECT_NAME	メッセージングコンテキスト識別子
7		登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	JOB
8		登録名	ROOT_OBJECT_NAME	MSHSEND
9		オブジェクト ID	OBJECT_ID	MSHSEND
10		事象種別	OCCURRENCE	SEND-FAIL
11		開始時刻	START_TIME	通知の時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数)
12		終了時刻	END_TIME	-
13		バージョン情報	RESULT_CODE	-
14		拡張属性（固有情報）	メッセージングコンテキスト識別子	IF0
15	メッセージ交換定義識別子		IF1	メッセージ交換定義ファイルを識別するためのメッセージ交換定義識別子
16	送信パーティ名		IF2	ビジネスメッセージを送信したパーティ名
17	受信パーティ名		IF3	ビジネスメッセージを受信したパーティ名
18	CPA 識別子		IF4	ビジネスメッセージの送信で使用される CPA 識別子
19	会話識別子		IF5	送信したビジネスメッセージが属する会話を識別するための会話識別子
20	サービス名		IF6	送信したビジネスメッセージが属するサービス名
21	サービス名表記種別		IF7	サービス名の表記種別

項番	属性の種別	項目	属性名	通知内容
22		アクション名	IF8	送信したビジネスメッセージが属するアクション名
23		メッセージ識別子	IF9	ビジネスメッセージを識別するために、ユーザーが指定できるメッセージ識別子。ユーザーが指定しない場合は、uCosminexus Message Service for ebXML が付加します。
24		メッセージ生成日時	IF10	uCosminexus Message Service for ebXML がビジネスメッセージを生成した日時
25		参照メッセージ識別子	IF11	送信したビジネスメッセージと関連する、別のビジネスメッセージのメッセージ識別子。ユーザーが指定しない場合は、表示されません。
26		エラー種別	RN0	次のどちらかを通知します。 <ul style="list-style-type: none"> • RETRIED_OUT (リトライに失敗した) • ERROR_SIGNAL_RECEIVED (エラーメッセージを受信した)
27		エラー詳細	RN1	ビジネスメッセージの送信に失敗した原因
28		ペイロード 1 のファイル名	PL1	ペイロード (1 番目) のファイル名
29		ペイロード 2 のファイル名	PL2	ペイロード (2 番目) のファイル名
30		ペイロード 3 のファイル名	PL3	ペイロード (3 番目) のファイル名
31		ペイロード 4 のファイル名	PL4	ペイロード (4 番目) のファイル名
32		ペイロード 5 のファイル名	PL5	ペイロード (5 番目) のファイル名
33		ペイロード 6 のファイル名	PL6	ペイロード (6 番目) のファイル名
34		ペイロード 7 のファイル名	PL7	ペイロード (7 番目) のファイル名
35		ペイロード 8 のファイル名	PL8	ペイロード (8 番目) のファイル名
36		ペイロード 9 のファイル名	PL9	ペイロード (9 番目) のファイル名
37		ペイロード 10 のファイル名	PL10	ペイロード (10 番目) のファイル名

(凡例) - : なし

注

- ビジネスメッセージ送信時にペイロードを送信していない場合は、ペイロードのファイル名 (PL1 ~ PL10) は通知されません。
- ペイロードのファイル数が 10 よりも大きい場合、または、イベント情報の総バイト数が 4,096 バイトを超える場合は、PL1 に "ペイロードファイル名一覧ファイルのパス" が通知され、PL2 ~ 10 は通知されません。ペイロードファイル名一覧ファイルの出力場所は、次のとおりです。

Windows の場合

<MSH 実行環境ディレクトリ>\¥PayloadInfo¥ メッセージングコンテキスト識別子 .txt

UNIX の場合

<MSH 実行環境ディレクトリ>/PayloadInfo/ メッセージングコンテキスト識別子 .txt

MSH 実行環境ディレクトリは、実行環境参照定義ファイル (EXEC_ENV_REF_DEF コンテナの EXEC_ENV_IO_DIR_PATH キー) で、ユーザーが指定した値になります。

付録 E.3 受信イベントの詳細

uCosminexus Message Service for ebXML が発行する受信イベントの詳細を次に示します。

表 E-3 受信イベントの詳細 (イベント ID : 00001EF3)

項番	属性の種類別	項目	属性名	通知内容
1	基本属性	メッセージ	-	受信に成功しました。
2	拡張属性 (共通情報)	重大度	SEVERITY	Information
3		ユーザ名	USER_NAME	MSH 実行環境定義ファイルの (SYSTEM_INFO コンテナの DOMAIN_NAME キー) の値
4		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/COSMINEXUS/MSH
5		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	JOB
6		オブジェクト名	OBJECT_NAME	メッセージングコンテキスト識別子
7		登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	JOB
8		登録名	ROOT_OBJECT_NAME	MSHRECEIVE
9		オブジェクト ID	OBJECT_ID	MSHRECEIVE
10		事象種別	OCCURRENCE	RECEIVE
11		開始時刻	START_TIME	通知の時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数)
12		終了時刻	END_TIME	-
13		バージョン情報	RESULT_CODE	-

項番	属性の種類別	項目	属性名	通知内容
14	拡張属性 (固有情報)	メッセージング コンテキスト識別 子	IF0	ビジネスメッセージを識別するた めに uCosminexus Message Service for ebXML が付加する メッセージングコンテキスト識別 子
15		メッセージ交換 定義識別子	IF1	メッセージ交換定義ファイルを識 別するためのメッセージ交換定義 識別子
16		送信パーティ名	IF2	ビジネスメッセージを送信した パーティ名
17		受信パーティ名	IF3	ビジネスメッセージを受信した パーティ名
18		CPA 識別子	IF4	ビジネスメッセージの送信で使用 される CPA 識別子
19		会話識別子	IF5	受信したビジネスメッセージが属 する会話を識別するための会話識 別子
20		サービス名	IF6	受信したビジネスメッセージが属 するサービス名
21		サービス名表記 種別	IF7	サービス名の表記種別
22		アクション名	IF8	受信したビジネスメッセージが属 するアクション名
23		メッセージ識別 子	IF9	ビジネスメッセージを識別するた めに、ユーザーが指定できるメッ セージ識別子。ユーザーが指定し ない場合は、uCosminexus Message Service for ebXML が付 加します。
24	メッセージ生成 日時	IF10	uCosminexus Message Service for ebXML がビジネスメッセージ を生成した日時	
25	参照メッセージ 識別子	IF11	受信したビジネスメッセージと関 連する、別のビジネスメッセージ のメッセージ識別子。ユーザーが 指定しない場合は、表示されませ ん。	
26	ペイロードの格 納ディレクトリ	ペイロードの格 納ディレクトリ	PL0	受信メッセージのペイロードが格 納されるディレクトリのフルパス
27		ペイロード 1 の ファイル名	PL1	ペイロード (1 番目) のファイル 名
28		ペイロード 2 の ファイル名	PL2	ペイロード (2 番目) のファイル 名
29		ペイロード 3 の ファイル名	PL3	ペイロード (3 番目) のファイル 名

項番	属性の種別	項目	属性名	通知内容
30		ペイロード 4 の ファイル名	PL4	ペイロード (4 番目) のファイル 名
31		ペイロード 5 の ファイル名	PL5	ペイロード (5 番目) のファイル 名
32		ペイロード 6 の ファイル名	PL6	ペイロード (6 番目) のファイル 名
33		ペイロード 7 の ファイル名	PL7	ペイロード (7 番目) のファイル 名
34		ペイロード 8 の ファイル名	PL8	ペイロード (8 番目) のファイル 名
35		ペイロード 9 の ファイル名	PL9	ペイロード (9 番目) のファイル 名
36		ペイロード 10 のファイル名	PL10	ペイロード (10 番目) のファイ ル名

(凡例) - : なし

注

- ビジネスメッセージ送信時にペイロードを送信していない場合は、ペイロードのファイル名 (PL0 ~ PL10) は通知されません。
- ペイロードのファイル数が 10 よりも大きい場合、または、イベント情報の総バイト数が 4,096 バイトを超える場合は、PL1 に "ペイロードファイル名一覧ファイルのパス" が通知され、PL2 ~ 10 は通知されません。ペイロードファイル名一覧ファイルの出力場所は、次のとおりです。

Windows の場合

<受信メッセージ格納ディレクトリ>¥メッセージングコンテキスト識別子.txt

UNIX の場合

<受信メッセージ格納ディレクトリ>/メッセージングコンテキスト識別子.txt

受信メッセージ格納ディレクトリは、送信結果 / 受信定義ファイル (RECV_MESSAGE コンテナの RECV_MESSAGE_FOLDER キー) で、ユーザーが指定した値になります。

付録 F 用語解説

(英字)

Acknowledgment メッセージ

受信側の MSH が送信側の MSH に対して、ビジネスメッセージを受信したことを通知する、送達確認の MSH シグナルです。

At Least Once

ebMS 仕様で定められている、QoS レベルのうちの一つです。ビジネスメッセージの正確な配信を保証します。

Once and Only Once がビジネスメッセージの再送および重複除去を保証するレベルなのに対して、At Least Once では、再送だけを保証します。uCosminexus Message Service for ebXML では、QoS レベルが At Least Once の場合もビジネスメッセージの重複除去をしますが、完全に重複除去できるという保証はしていません。

Best Effort

ebMS 仕様で定められている、QoS レベルのうちの一つです。ビジネスメッセージの高信頼配信をしません。

ビジネスメッセージ受信時に MSH シグナルを送らないため、送信側の MSH は、送信したビジネスメッセージが正確に相手に配信できたかどうかを判断できません。

CLOSED 状態

ビジネスメッセージの送受信処理が終了した状態を示します。運用支援 GUI から参照できるビジネスメッセージの送受信状態のうち、次の状態が CLOSED 状態です。

- 送信処理完了 (成功)
- 送信処理完了 (B)
- 送信処理完了 (失敗)
- 受信処理完了
- 受信失敗
- 強制終了

CPA ファイル

ebXML の CPPA 仕様で決められている定義ファイルです。ビジネスメッセージを交換するときに使用する技術について取引企業間で合意した内容を、XML 文書で記述します。

ebMS (ebXML Message Service)

ebXML のうち、取引企業間でビジネスメッセージを交換するための標準仕様です。実際にビジネスメッセージを交換するときに使用できる技術、交換するビジネスメッセージの形式、ビジネスメッセージの交換手順などについて定義しています。

uCosminexus Message Service for ebXML は、ebMS Version 2.0 に準拠しています。

ebXML (Electronic Business using eXtensible Markup Language)

米国の業界団体 OASIS と国連機関の UN/CEFACT とが母体となって策定した、XML を用いた企業

間電子商取引のための標準仕様です。BPSS, CC, R&R, CPPA, および MS の五つの仕様が定められています。

ebXML メッセージ

ビジネスメッセージと、ビジネスメッセージを高信頼配信する場合に送受信される MSH シグナルとを合わせた呼び方です。

Error メッセージ

ビジネスメッセージの受信に失敗した場合に、受信側の MSH が送信側の MSH に対して、ビジネスメッセージの受信に失敗したことを通知する MSH シグナルです。

HTTP ベーシック認証

ユーザー ID およびパスワードを平文で送信して認証させる、HTTP プロトコルでの最も簡易な認証方式です。

MSH (Message Service Handler)

ebMS 仕様に準じてビジネスメッセージを交換するプログラムです。uCosminexus Message Service for ebXML は、MSH です。

MSH シグナル

ビジネスメッセージの高信頼配信をする場合に、受信側の MSH が送信側の MSH に送る、MSH レベルのシグナルです。送信側の MSH は、ビジネスメッセージの再送要否を MSH シグナルによって決定します。MSH シグナルには次の種類があります。

- Acknowledgment メッセージ
- Error メッセージ

MSH 実行環境

ebXML サーバ内で、uCosminexus Message Service for ebXML が稼働する環境のことです。

Once and Only Once

ebMS 仕様で定められている、QoS レベルの一つです。ビジネスメッセージを正確にかつ重複しないで配信することを保証するレベルです。

ビジネスメッセージの受信失敗時は、送信側の MSH が送信メッセージを再送します。ビジネスメッセージの重複受信時は、受信側の MSH が重複したビジネスメッセージを除去します。

OPEN 状態

ビジネスメッセージの送受信処理が終了していない状態を示します。運用支援 GUI から参照できるビジネスメッセージの送受信状態のうち、次の状態が OPEN 状態です。

- 送信中
- 送信済み
- 送信済み (B)
- 送信失敗
- 受信中
- 受信済み
- 一時停止

QoS レベル

ebMS 仕様で規定する高信頼配信のレベルのことです。全部で四つのレベルがあり、このうち uCosminexus Message Service for ebXML でサポートしているのは三つです。

UOC (User Own Coding)

業務 AP のうち、業務内容に応じてユーザーが作成する部分のことです。

UTF-8

Unicode の文字を表現する文字エンコーディングの一つです。8bit 単位の情報の組み合わせで文字を表記します。ebMS 仕様では、UTF-8 が一般的に使用されます。

XML 電子署名

ビジネスメッセージに XML 形式の署名を添付することでビジネスメッセージ作成者の身元を証明し、また、そのビジネスメッセージの改ざんを検出するための技術です。

(ア行)

暗号化通信

証明書および公開鍵暗号技術に基づいて、通信を暗号化してデータを送信する技術です。暗号化通信の認証方法には、サーバ認証とクライアント認証があります。

永続化メッセージ

ビジネスメッセージの高信頼配信を実現するために、uCosminexus Message Service for ebXML がデータベースに保存したビジネスメッセージのことです。高信頼配信では、永続化メッセージは配信エラー時に自動で再送されます。また、ユーザーは永続化メッセージの情報を運用支援 GUI から参照できます。

永続期限

重複受信を監視して高信頼配信を実現するために、永続化メッセージをデータベースサーバ内で保持する期限です。

(カ行)

高信頼配信

ebMS 仕様で規定されている、信頼性の高いメッセージ交換をするための仕様です。QoS レベルによって、四つのレベルに分けられます。

(タ行)

タイマー監視

ビジネスメッセージを確実に送受信して高信頼配信を実現し、送信結果をユーザーに通知するための、uCosminexus Message Service for ebXML のシステム内部を監視する機能です。タイマー監視には次の種類があります。

- 送信タイマー
ビジネスメッセージの再送タイミングを監視します。
- AP 通知タイマー
ビジネスメッセージの重複受信がないかを監視します。また、送信したビジネスメッセージの送信結果をユーザーに通知します。

同期型メッセージ交換

ビジネスメッセージ受信側の MSH が HTTP レスポンスを返すときに、MSH シグナルやビジネスメッセージなどの応答メッセージを同時に返すメッセージ交換方式です。同時に返す応答メッセージの種類によって四つの交換方式に分かれていて、ebMS 仕様で定義されています。

uCosminexus Message Service for ebXML では、四つの交換方式のうち `mshSignalsOnly` をサポートしています。

(八行)

ビジネスメッセージ

ebMS 仕様を適用した電子商取引をする場合に、企業間で送受信される XML 形式のメッセージをビジネスメッセージと呼びます。実際の取引データは、ビジネスメッセージにペイロードとして添付され、送受信されます。

非同期型メッセージ交換

ビジネスメッセージ受信側の MSH が、HTTP レスポンスとは別コネクションで MSH シグナルやビジネスメッセージを返すメッセージ交換方式です。1 コネクション内では、MSH は HTTP リクエストに対する HTTP レスポンスだけを返します。

ペイロード

ビジネスメッセージに添付される、取引データそのものを指します。ペイロードとして添付する取引データの形式は任意なので、ユーザーは添付したいデータ形式を選択できます。

(マ行)

メッセージングコンテキスト識別子

uCosminexus Message Service for ebXML が永続化メッセージを一意に特定するために生成する識別子です。

索引

A

Acknowledgment メッセージ 9
Acknowledgment メッセージ〔用語解説〕
462
ACTION〔キー〕〔MAP_DEFINE コンテナ〕 172
ACTION〔キー〕
〔SEND_MESSAGE_DEFINITION コンテナ〕 176
ACTION_DEFAULT〔キー〕 173
AP 通知タイマーの情報格納テーブル 452
At Least Once 9
At Least Once〔用語解説〕 462
AUTH_PASSWORD〔キー〕 163
AUTH_USER〔キー〕 163

B

Best Effort 9
Best Effort〔用語解説〕 462
BPSS 4

C

CACHE_NUM〔キー〕 167
CallBackInterface インターフェース 196
CC 4
CERTIFICATE_ACCESS_PASSWORD
〔キー〕 162
CERTIFICATE_FILE_NAME〔キー〕 162
CLOSED 状態 120
CLOSED 状態〔用語解説〕 462
COMMON_TRACE〔コンテナ〕 155
Connector の属性ファイル 47, 49
CONVERSATION_ID〔キー〕 176
CPA 拡張定義ファイル 178
CPA 拡張定義ファイルで使用する XML ス
キーマ 448
CPA 拡張定義ファイルの作成 65
CPA 拡張定義ファイルの作成〔HTTP ベー
シック認証〕 70

CPA 拡張定義ファイルの作成〔XML 電子署
名〕 97
CPA ファイル 4
CPA ファイル〔用語解説〕 462
CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイ
ルの生成〔HTTP ベーシック認証〕 70
CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイ
ルの生成〔XML 電子署名〕 97
CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイ
ルの生成〔暗号化通信 (SSL クライアント認
証)〕 87
CPA ファイル・メッセージ交換定義ファイ
ルの生成〔暗号化通信 (SSL サーバ認証)〕
77
CPA ファイル作成時の制限事項 440
CPA ファイル作成の準備 23
CPA ファイルの各項目と uCosminexus
Message Service for ebXML での規約 440
CPA ファイルへの定義項目〔HTTP ベー
シック認証〕 71
CPA ファイルへの定義項目〔XML 電子署
名〕 97
CPA ファイルへの定義項目〔暗号化通信
(SSL クライアント通信)〕 88
CPA ファイルへの定義項目〔暗号化通信
(SSL サーバ認証)〕 77
CPPA 4
CPP ファイル 4

D

DABroker Library の環境設定 (Windows の
場合) 36
DABroker Library の動作環境の設定
〔Windows の場合) 36
DB_CONNECT_URL〔キー〕 164
DB_INFO〔コンテナ〕 158
DB_PASSWORD〔キー〕 164
DB_USER〔キー〕 164
DB Connector の J2EE サーバへのデプロイ
49, 51

DB Connector のインポート 47, 49
 DB Connector の環境設定 (UNIX の場合)
 49
 DB Connector の環境設定 (Windows の場
 合) 47
 DB Connector のプロパティ定義 47, 49
 DESTINATION_NAME [キー] 165
 DOMAIN_NAME [キー] 159

E

ebMS [用語解説] 462
 ebMS 仕様のサポート範囲 438
 ebXML [用語解説] 462
 ebXML サーバ 19
 ebXML メッセージ 8
 ebXML メッセージ [用語解説] 463
 EJB スタブダウンロード [コマンド] 237
 EJB スタブファイルのダウンロード 55
 ENABLE_PORT_FOR_HOST_HEADER
 [キー] 162
 ENABLE_SWA_ALWAYS [キー] 162
 ENCODELANG [キー] 166
 ENCODING [キー] 159
 END_POINT [コンテナ] 158
 ERR_MESSAGE_FOLDER [キー] 171
 Error メッセージ 9
 Error メッセージ [用語解説] 463
 EXEC_ENV_IO_DIR_PATH [キー] 155
 EXEC_ENV_REF_DEF [コンテナ] 155

F

FILE_OUT [キー] 171
 FILE_OUT_FORCE [キー] 171
 FILE_SIZE_MAX_VALUE [キー]
 [COMMON_TRACE コンテナ] 156
 FILE_SIZE_MAX_VALUE [キー]
 [MSH_SEND_TIMER コンテナ・
 MSH_NOTIFYAP_TIMER コンテナ] 166
 FILE_SIZE_MAX_VALUE [キー]
 [TRACE コンテナ] 166

G

getAction 203
 getContent 207
 getConversationId 202
 getCPAId 202
 getErrDescription 198
 getFilename 206
 getFilepath 206
 getInputStream 208
 getMessageContextId 200
 getMessageDate 204
 getMessageDefinitionId 200
 getMessageId 204
 getPayloads 205
 getReceivePartyName 201
 getRefToMessageId 204
 getSendPartyName 201
 getSendResult 198
 getService 202
 getServiceType 203

H

hebxlmshapp.ear 52
 hebxlmshgui.ear 53
 HiRDB Type4 JDBC Driver の環境設定
 (UNIX の場合) 37
 HiRDB クライアント環境変数登録ツール 44
 HiRDB の環境設定 31
 HiRDB のクライアント環境変数の設定 44
 HiRDB のログ 144
 Hitachi Web Server の環境設定 38
 Hitachi Web Server の定義ファイル
 (httpsd.conf) の設定 38
 Hitachi Web Server の定義ファイル
 (httpsd.conf) の設定 [HTTP ベーシック認
 証] 69
 Hitachi Web Server の定義ファイル
 (httpsd.conf) の設定 [暗号化通信 (SSL ク
 ライアント認証)] 85
 Hitachi Web Server の定義ファイル
 (httpsd.conf) の設定 [暗号化通信 (SSL
 サーバ認証)] 75

Hitachi Web Server への認証局証明書の取り込み〔暗号化通信(SSLクライアント認証)〕 85
 Hitachi Web Server 用リダイレクタ動作定義ファイル 43
 httpsd.conf 38
 httpsd.conf〔HTTPベーシック認証〕 69
 httpsd.conf〔暗号化通信(SSLクライアント認証)〕 85
 httpsd.conf〔暗号化通信(SSLサーバ認証)〕 75
 HTTPベーシック認証 13
 HTTPベーシック認証〔用語解説〕 463

I

INVALIDMESSAGE_KEEP_FLAG〔キー〕 167

J

J2EEアプリケーションのデプロイ 51
 J2EEサーバ&MSHアプリケーション起動〔コマンド〕 218
 J2EEサーバ&MSHアプリケーション停止〔コマンド〕 219
 J2EEサーバの起動 46
 J2EEサーバのセットアップ 40
 J2EEサーバの停止 55
 J2EEサーバ用オプション定義ファイル 42
 JDBCドライバの環境設定 36
 JP1_EVENT〔コンテナ〕 169
 JP1_EVENT_NOTIFY〔キー〕 170
 JP1_EVENT_TYPE〔キー〕 170
 JP1イベント通知 12

L

length 208

M

MAP_DEFINE〔コンテナ〕 169
 MESSAGE_ARCHIVE_DIVISION_SIZE〔キー〕 161

MESSAGE_ID〔キー〕 176
 MESSAGE_SERVICE〔キー〕 161
 MessageProperty インターフェース 200
 MESSAGING〔コンテナ〕 159
 MESSAGING_DEFINITION_ID〔キー〕 175
 MessagingStatus インターフェース 198
 mime.types 152
 MIMEコンテンツタイプマッピングファイル(mime.types) 183
 MIMEコンテンツタイプマッピングファイルの作成 64
 MS 4
 MSGDEF〔コンテナ〕 159
 MSH 4
 MSH〔用語解説〕 463
 MSH_ENV_CLOSE_FLAG〔キー〕 167
 MSH_NOTIFYAP_TIMER〔コンテナ〕 159
 MSH_SEND_TIMER〔コンテナ〕 159
 MSHAddUoc 217
 MshAdmin.sql 453
 MSHAppStart 218
 MSHAppStop 219
 MSHCheckConfig 220
 MSHCheckRcvDef 221
 MSHConvertCert 238
 MSHConvertCertFile 239
 MSHCreateCert 241
 MSHCreateCertReq 243
 MSHDeleteCert 244
 MSHDeployMsgDef 222
 mshenv.xml 152
 mshenvrefs.xml 152
 MSHImportCACert 246
 MSHImportCert 247
 MSHListCert 249
 MshMessaging.sql 450
 MshMsgArchive.sql 451
 MshNotifyApTimer.sql 452
 MSHRegisterUser 224
 MSHReleaseMessage 225
 MSHRemoveMessage 226
 MSHSendMessage 229

MshSendTimer.sql 452
 MSHTerminateMessage 233
 MSHTimerKill 234
 MSHTimerRecovery 235
 MSHTimerStart 235
 MSH シグナル 8
 MSH シグナル〔用語解説〕 463
 MSH 実行環境 21
 MSH 実行環境〔用語解説〕 463
 MSH 実行環境定義チェック〔コマンド〕
 220
 MSH 実行環境定義チェックコマンドの実行
 58
 MSH 実行環境定義ファイル (mshenv.xml)
 158
 MSH 実行環境定義ファイルの作成 58
 MSH 実行環境定義ファイルの設定〔XML 電
 子署名〕 96
 MSH 実行環境定義ファイルの設定〔暗号化
 通信 (SSL クライアント認証)〕 85
 MSH 実行環境トレース 143

N

NOTIFICATION_VALUE〔キー〕 164

O

Once and Only Once 8
 Once and Only Once〔用語解説〕 463
 OPEN 状態 120
 OPEN 状態〔用語解説〕 463
 OUTPUT_FILE_MAX_VALUE〔キー〕
 〔COMMON_TRACE コンテナ〕 156
 OUTPUT_FILE_MAX_VALUE〔キー〕
 〔MSH_SEND_TIMER コンテナ・
 MSH_NOTIFYAP_TIMER コンテナ〕 165
 OUTPUT_FILE_MAX_VALUE〔キー〕
 〔TRACE コンテナ〕 166

P

PATH 環境変数の設定〔Windows の場合〕
 36
 PAYLOAD_MAX_NUM〔キー〕 161

PAYLOAD_MAX_SIZE〔キー〕 161
 Payload インターフェース 206
 PER_MESSAGE_FOLDER〔キー〕 172
 PERSIST〔コンテナ〕 158
 PROXY_HOST〔キー〕 162
 PROXY_PORT〔キー〕 163

Q

QoS レベル 8
 QoS レベル〔用語解説〕 464
 QoS レベルの設定方法 23

R

R&R 4
 rcvdef.xml 152
 RECV_MESSAGE〔コンテナ〕 169
 RECV_MESSAGE_FOLDER〔キー〕 171
 recvMessage 196
 REF_TO_MESSAGE_ID〔キー〕 176
 RMIRegistryStart 236
 RMI レジストリ起動〔コマンド〕 236

S

SECURITY〔コンテナ〕 158
 SEND_MESSAGE_DEFINITION〔コンテ
 ナ〕 175
 SEND_NOTIFY〔コンテナ〕 169
 sendMessageNotify 196
 SERVER_ID〔キー〕 159
 SERVICE〔キー〕〔MAP_DEFINE コンテ
 ナ〕 172
 SERVICE〔キー〕
 〔SEND_MESSAGE_DEFINITION コンテ
 ナ〕 175
 SERVICE_DEFAULT〔キー〕 172
 SERVICE_TYPE〔キー〕 176
 Session Bean 属性ファイル 53
 SQL サンプル 450
 SSL_AUTH_PASSWORD〔キー〕 163
 SSL_AUTH_USER〔キー〕 163
 SSL_CERTIFICATE_ACCESS_PASSWOR
 D〔キー〕 161

SSL_CERTIFICATE_FILE_NAME { キー }
161
SSL_PROXY_HOST { キー } 163
SSL_PROXY_PORT { キー } 163
SSL に関する設定 39
StubDownload 237
SYSTEM_INFO { コンテナ } 158

T

TIMER_NOTIFY_AP { キー } 160
TIMER_SEND { キー } 160
TRACE { コンテナ } 159
TRACE_FILE_NAME { キー }
{ COMMON_TRACE コンテナ } 156
TRACE_FILE_NAME { キー }
{ MSH_SEND_TIMER コンテナ・
MSH_NOTIFYAP_TIMER コンテナ } 165
TRACE_FILE_NAME { キー } { TRACE コ
ンテナ } 166
TRACE_OUTPUT_LEVEL { キー }
{ COMMON_TRACE コンテナ } 156
TRACE_OUTPUT_LEVEL { キー }
{ MSH_SEND_TIMER コンテナ・
MSH_NOTIFYAP_TIMER コンテナ } 166
TRACE_OUTPUT_LEVEL { キー }
{ TRACE コンテナ } 167
TRANSPORT { コンテナ } 158

U

uCosminexus Application Server の環境設
定 40
uCosminexus Application Server の定義
ファイルの編集 40
uCosminexus Application Server のログ
144
uCosminexus Message Service for ebXML
が UOC に渡すビジネスメッセージの情報
188
uCosminexus Message Service for ebXML
が使用しない CPA ファイルの項目 443
uCosminexus Message Service for ebXML
が発行する JP1 イベント一覧 454

uCosminexus Message Service for ebXML
システムの起動 106
uCosminexus Message Service for ebXML
システムの停止 108
uCosminexus Message Service for ebXML
での電子商取引の概要 2
uCosminexus Message Service for ebXML
の ebXML 仕様での位置づけ 4
uCosminexus Message Service for ebXML
の概要 1
uCosminexus Message Service for ebXML
の環境設定 56
uCosminexus Message Service for ebXML
の機能 7
uCosminexus Message Service for ebXML
の再起動 110
uCosminexus Message Service for ebXML
のシステム 19
uCosminexus Message Service for ebXML
のシステムに必要なサーバ 19
uCosminexus Message Service for ebXML
の特長 6
uCosminexus Message Service for ebXML
のログ・トレース 143
UOC 13
UOC { 用語解説 } 464
UOC_CLASS { キー } { RECV_MESSAGE
コンテナ } 170
UOC_CLASS { キー } { SEND_NOTIFY コ
ンテナ } 170
UOC 実装クラスの例 193
UOC 追加 { コマンド } 217
UOC の実装 191
UOC の実装手順 191
UOC リファレンス 187
UTF-8 { 用語解説 } 464

W

WAR 属性ファイル 53

X

XML 電子署名 15

XML 電子署名〔用語解説〕 464
XML 電子署名用証明書・秘密鍵の生成 95
XML 電子署名用証明書・秘密鍵の生成の準備 94

あ

アプリケーションとリソースアダプタの関連づけ 53
アプリケーションのインポート 52
アプリケーションのデプロイと開始 55
暗号化通信〔SSL クライアント認証〕 14
暗号化通信〔SSL サーバ認証〕 14
暗号化通信〔用語解説〕 464
暗号化通信 (SSL サーバ認証) の環境構築 82

い

一時停止状態 148
一時停止メッセージ解除〔コマンド〕 225
イベントログ 143
インストールディレクトリ 26
インターフェース一覧 195

う

運用支援 GUI 121
運用支援 GUI でのビジネスメッセージの照会 121
運用支援 GUI に表示されるビジネスメッセージの状態 123
運用支援 GUI の画面遷移 121
運用支援 GUI の起動 123
運用支援 GUI の起動, ログイン, およびログアウト 123

え

永続化メッセージ 10
永続化メッセージ〔用語解説〕 464
永続化メッセージ削除〔コマンド〕 226
永続化メッセージの格納 10
永続化メッセージの削除 120
永続化メッセージの照会 11

永続期限〔用語解説〕 464

お

主な障害とその対策 147

か

階層ディレクトリ構成 61
階層ディレクトリ構成で格納 11
管理者情報登録〔コマンド〕 224
管理者情報登録コマンドの実行 64
管理者情報登録ファイル 185
管理者情報登録ファイルの作成 64
関連ソフトウェア 18

き

起動 106
起動と停止 105
共通トレース 143

く

クライアント証明書・秘密鍵の生成 84
クライアント証明書・秘密鍵の生成の準備 82

け

形式〔CPA 拡張定義ファイル〕 178
形式〔MIME コンテントタイプマッピングファイル〕 183
形式〔MSH 実行環境定義ファイル〕 158
形式〔管理者情報登録ファイル〕 185
形式〔実行環境参照定義ファイル〕 155
形式〔送信結果 / 受信定義ファイル〕 169
形式〔送信情報ファイル〕 175

こ

高信頼配信〔用語解説〕 464
コマンド一覧 214
コマンドの記述形式 212
コマンドの記述形式に関する注意事項 213
コマンドの説明で使用する見出し 212

コマンドリファレンス 211

さ

サーバ証明書・秘密鍵の生成の準備 73
 サーバ証明書の生成 74
 サーバのマシン構成 20
 再起動 110

し

システム運用の流れ 114
 システム管理者の情報格納テーブル 453
 システム構成の検討 19
 システム構成例 20
 システム構築・運用コマンド 217
 システム構築の準備 17
 システム構築の手順 27
 システムの運用 113
 システムの構築 25
 システムログ 143
 実行環境参照定義ファイル
 (mshenvrefs.xml) 155
 実行環境参照定義ファイル、および MSH 実
 行環境定義ファイルで使用する XML スキー
 マ 446
 実行環境参照定義ファイルの作成 58
 受信イベントの詳細 459
 受信エラー 148
 受信したペイロードの格納に必要なディレク
 トリ 59
 受信したペイロードの処理 11
 受信メッセージ格納ディレクトリ 59
 受信メッセージ格納ディレクトリに格納する
 場合 11
 受信メッセージ格納ディレクトリの構成 60
 受信メッセージの一覧表示画面 135
 受信メッセージの検索画面 134
 受信メッセージの照会 134
 受信メッセージの詳細表示画面 137
 受信メッセージの状態 125
 受信メッセージのリクエストボディに関する
 制限設定 38
 障害が発生したときの手順 142

障害対策 141

証明書一覧表示〔コマンド〕 249
 証明書形式変換 (KeyStore)〔コマンド〕
 238
 証明書形式変換 (X.509 証明書)〔コマンド〕
 239
 証明書削除〔コマンド〕 244
 証明書登録〔コマンド〕 247
 証明書発行〔コマンド〕 241
 証明書要求作成〔コマンド〕 243

せ

セキュリティ環境構築・運用コマンド 238
 セキュリティ環境の構築 65
 セキュリティ環境の構築〔HTTP ベーシック
 認証〕 68
 セキュリティ環境の構築〔XML 電子署名〕
 93
 セキュリティ環境の構築〔暗号化通信 (SSL
 クライアント認証)〕 81
 セキュリティ環境の構築〔暗号化通信 (SSL
 サーバ認証)〕 72
 セキュリティ通信 13
 セキュリティポリシーファイル 42
 前提ソフトウェア 18
 前提プログラムのログ 144

そ

送信結果 (失敗) イベントの詳細 456
 送信結果 (成功) イベントの詳細 454
 送信結果 / 受信定義チェック〔コマンド〕
 221
 送信結果 / 受信定義チェックコマンドの実行
 63
 送信結果 / 受信定義ファイル (revdef.xml)
 169
 送信結果 / 受信定義ファイル、および送信情
 報ファイルで使用する XML スキーマ 447
 送信結果 / 受信定義ファイルの作成 59
 送信失敗 147
 送信情報ファイル 175
 送信情報ファイルの作成 65

送信情報ファイルを作成しておく方法 115
 送信タイマーの情報格納テーブル 452
 送信メッセージの一覧表示画面 128
 送信メッセージの検索画面 127
 送信メッセージの照会 126
 送信メッセージの詳細表示画面 130
 送信メッセージの状態 124
 ソフトウェアのインストール 18

た

タイマー回復〔コマンド〕 235
 タイマー監視 10
 タイマー監視〔用語解説〕 464
 タイマー起動〔コマンド〕 235
 タイマー停止〔コマンド〕 234
 タイマートレース 143
 単一ディレクトリ構成 60
 単一ディレクトリ構成で格納 11

て

定義できるキー〔MSH 実行環境定義ファイル〕 159
 定義できるキー〔実行環境参照定義ファイル〕 155
 定義できるキー〔送信結果 / 受信定義ファイル〕 170
 定義できるキー〔送信情報ファイル〕 175
 定義できるコンテナ〔MSH 実行環境定義ファイル〕 158
 定義できるコンテナ〔実行環境参照定義ファイル〕 155
 定義できるコンテナ〔送信結果 / 受信定義ファイル〕 169
 定義できるコンテナ〔送信情報ファイル〕 175
 定義ファイル 151
 定義ファイル一覧 152
 定義ファイルに使用できない文字 154
 定義ファイルに置換して記述する必要がある文字 154
 定義ファイルの記述形式 154
 定義ファイルの基本構成 153

定義ファイルの形式 153
 定義ファイルのスキーマ 446
 定義例〔CPA 拡張定義ファイル〕 182
 定義例〔MIME コンテントタイプマッピングファイル〕 183
 定義例〔MSH 実行環境定義ファイル〕 167
 定義例〔管理者情報登録ファイル〕 185
 定義例〔実行環境参照定義ファイル〕 156
 定義例〔送信結果 / 受信定義ファイル〕 173
 定義例〔送信情報ファイル〕 176
 停止 108
 ディレクトリ構成 26
 データベースサーバ 19
 データベース接続数 31
 データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係 256
 テーブルの作成 34

と

同期型 9
 同期型メッセージ交換〔用語解説〕 465
 動作確認 39
 トレースの出力形式 145

に

認証局証明書登録〔コマンド〕 246

は

パスワードファイルの作成〔HTTP ベーシック認証〕 69
 パスワードファイルの作成〔暗号化通信 (SSL サーバ認証)〕 75

ひ

ビジネスメッセージ〔用語解説〕 465
 ビジネスメッセージが一時停止状態になった場合の対処 148
 ビジネスメッセージ強制終了〔コマンド〕 233
 ビジネスメッセージ情報の通知 12
 ビジネスメッセージ送信〔コマンド〕 229

ビジネスメッセージ送信コマンドの実行 116
 ビジネスメッセージ送信コマンドの引数に指定する方法 115
 ビジネスメッセージ送信情報の設定 115
 ビジネスメッセージの永続化管理 10
 ビジネスメッセージの高信頼配信 8
 ビジネスメッセージの実体格納テーブル 451
 ビジネスメッセージの受信 118
 ビジネスメッセージの情報格納テーブル 450
 ビジネスメッセージの送信 115
 ビジネスメッセージ別ディレクトリの名称 63
 非同期型 9
 非同期型メッセージ交換〔用語解説〕 465
 秘密鍵の生成〔暗号化通信（SSL サーバ認証）〕 74

ふ

ファイル出力エラーディレクトリ 59
 ファイルの格納先〔CPA 拡張定義ファイル〕 181
 ファイルの格納先〔MIME コンテントタイプマッピングファイル〕 183
 ファイルの格納先〔MSH 実行環境定義ファイル〕 158
 ファイルの格納先〔管理者情報登録ファイル〕 185
 ファイルの格納先〔実行環境参照定義ファイル〕 155
 ファイルの格納先〔送信結果 / 受信定義ファイル〕 169
 ファイルの格納先〔送信情報ファイル〕 175

へ

閉塞 147
 ペイロード〔用語解説〕 465
 ペイロードのファイル名 63

ほ

保護区リストファイル 43

め

メッセージ 253
 メッセージ ID の記述形式 255
 メッセージ交換定義導入〔コマンド〕 222
 メッセージ交換定義ファイル 67
 メッセージ交換定義ファイルの生成 66
 メッセージ交換定義ファイルの生成〔HTTP ベーシック認証〕 71
 メッセージ交換定義ファイルの生成〔XML 電子署名〕 104
 メッセージ交換定義ファイルの生成〔暗号化通信（SSL クライアント認証）〕 92
 メッセージ交換定義ファイルの生成〔暗号化通信（SSL サーバ認証）〕 80
 メッセージの概要 255
 メッセージの記述形式 255
 メッセージの出力先 255
 メッセージングコンテキスト識別子〔用語解説〕 465
 メモリに展開する場合 11

ゆ

ユーザープロパティファイル 41
 ユーザー用 RD エリアの生成 32
 ユーザー用 RD エリアのセグメント数 33

よ

容量の見積もり 31

り

リダイレクタの設定 38

れ

レコード件数 31

ろ

ログ・トレース情報の取得方法 143
 ログアウト 123
 ログイン 123

ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

1. マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しています。

URL <http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/>

ホームページのメニューは次のとおりです。

マニュアル一覧	日立コンピュータ製品マニュアルを製品カテゴリ、マニュアル名称、資料番号のいずれかから検索できます。
CD-ROMマニュアル	日立ソフトウェアマニュアルと製品群別CD-ROMマニュアルの仕様について記載しています。
マニュアルのご購入	マニュアルご購入時のお申し込み方法を記載しています。
オンラインマニュアル	一部製品のマニュアルをインターネットで公開しています。
サポートサービス	ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開サービスを記載しています。
ご意見・お問い合わせ	マニュアルに関するご意見、ご要望をお寄せください。

2. インターネットでのマニュアル公開

2種類のマニュアル公開サービスを実施しています。

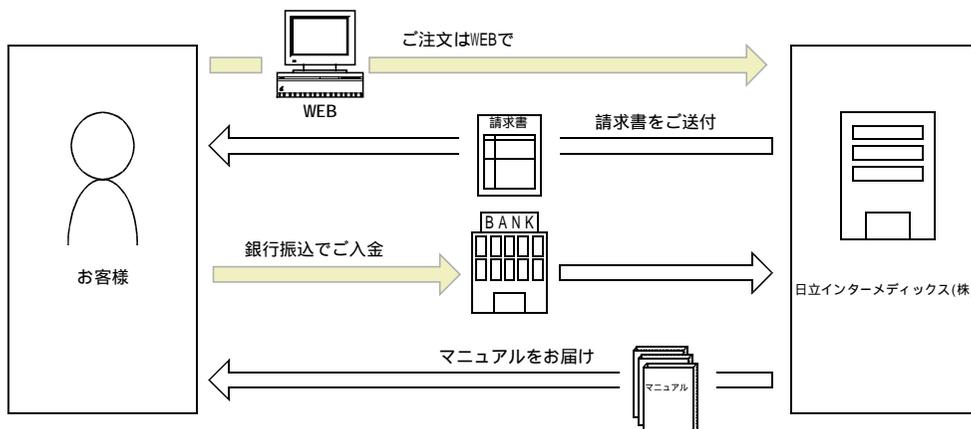
(1) マニュアル情報ホームページ「オンラインマニュアル」での公開

製品をよりご理解いただくためのご参考として、一部製品のマニュアルを公開しています。

(2) ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開

ソフトウェアサポートサービスご契約のお客様向けにマニュアルを公開しています。公開しているマニュアルの一覧、本サービスの対象となる契約の種別などはマニュアル情報ホームページの「サポートサービス」をご参照ください。

3. マニュアルのご注文



マニュアル情報ホームページの「マニュアルのご購入」にアクセスし、お申し込み方法をご確認のうえWEBからご注文ください。ご注文先は日立インターメディアックス(株)となります。

ご注文いただいたマニュアルについて請求書をお送りします。

請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。

入金確認後7日以内にお届けします。在庫切れの場合は、納期を別途ご案内いたします。